

旭川医科大学
研究年報

Annual Report of Research Activities

Asahikawa Medical University

2024

2025年12月



目 次

■旭川医科大学研究年報 2024 発刊にあたり	3
■旭川医科大学学術研究表彰	4
■業績集計表	6
科学研究費助成事業（科研費）推移	7
令和6年度 科学研究費助成事業 申請・採択状況	8
受託研究・共同研究の受入金額・件数	9
その他競争的資金	9
令和5年度 基盤的科学研究の自立化支援助成 採択一覧	10
■医学科 [基礎医学]	
解剖学講座 (機能形態学分野)	11
解剖学講座 (顕微解剖学分野)	15
生理学講座 (自律機能分野)	18
生理学講座 (神経機能分野)	21
生化学講座	25
薬理学講座	28
病理学講座 (腫瘍病理分野)	31
病理学講座 (免疫病理分野)	35
感染症学講座 (微生物学分野)	38
感染症学講座 (寄生虫学分野)	40
社会医学講座	44
法医学講座	48
先端医科学講座	51
■医学科 [臨床医学]	
内科学講座 (循環器・腎臓内科学分野)	54
内科学講座 (呼吸器・脳神経内科学分野)	63
内科学講座 (内分泌・代謝・膠原病内科学分野)	68
内科学講座 (消化器内科学分野)	74
内科学講座 (血液内科学分野)	88
精神医学講座	92
小児科学講座	94
外科学講座 (血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	103
外科学講座 (心臓大血管外科学分野)	114
外科学講座 (肝胆脾・移植外科学分野)	122
外科学講座 (消化管外科学分野)	128
整形外科学講座	134
皮膚科学講座	142
腎泌尿器外科学講座	148
眼科学講座	154

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	159
産婦人科学講座	167
放射線医学講座	173
放射線部	173
麻醉・蘇生学講座	177
脳神経外科学講座	184
歯科口腔外科学講座	190
救急医学講座	194
地域医療教育学講座	198
形成・再建外科学講座	201
■看護学科	
看護学講座	204
■一般教育	
心理学・社会学・数学・数理情報科学・物理学・化学・生物学・生命科学・英語	210
■診療科等	
リハビリテーション科	215
腫瘍センター	219
緩和ケア診療部	222
乳腺疾患センター	226
■中央診療施設等	
臨床検査・輸血部	230
手術部	234
病理部	238
集中治療部	242
周産母子センター	244
経営企画部	247
臨床研究支援センター	249
遺伝子診療カウンセリング室	251
透析センター	254
医療安全管理部	257
薬剤部	260
■学内施設等	
国際交流推進センター	264
地域共生医育センター	266
インスティテューションナル・リサーチ室	268
研究技術支援センター	270
先進医工学研究センター	272

旭川医科大学研究年報 2024 発刊にあたり

2025年12月10日

旭川医科大学

学長 西川 祐司

2024年度の本学研究年報の発刊にあたり、ご尽力いただいた教職員の皆様に感謝申し上げます。また、物価高の中、本学の緊縮財政により研究者の皆様にご負担をおかけして、大変申し訳なく思っております。ただそのような状況においても、この年報に記録されている通り、本学で活発な研究活動が行われていることに勇気付けられています。

皆様にはたびたび紹介させていただいていることですが、本学建設時の基本構想の中に、「大学においては教育と研究が同等の重さで行われ、両者が一体でなければならぬ。大学における専門教育は所謂『生きた教育』でなければならないが、『生きた教育』は優れた活発な研究者によってのみ達成される。」と述べられています。この基本構想は開学して52年経過した本学においても大切にしていきたいと思います。

今年は本学の今後の研究活動にとり、意義深い出来事がありました。1つ目は大阪市の国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所（医薬健栄研）と連携大学院協定を結んだことです。協定を締結した4月15日には同研究所理事長の中村祐輔先生に特別講演を行っていただきました。12月12日、13日に本学研究者も参加して第1回がんプロ／医薬基盤研連携大学院シンポジウムが行われます。また、来年度には本学に医薬健栄研サテライトラボが設置される予定です。2つ目は8月1日に山口大学、秋田大学、香川大学、鳥取大学と研究に関する包括連携協定を結んだことです。この「アライアンス・ファイブ」は症例数が少なく、単独での研究が難しい希少疾患、難治性疾患に焦点を当て、各大学の強みを持ち寄り、全国規模の研究基盤を構築することを目的としていますが、5大学の研究者交流や研究資源の共同利用を広く進めていく予定です。今後、学内研究者の交流を深めるとともに、学外研究者との連携を強化し、本学の研究力を高めていくことができればと願っています。

本学は、地域医療を支えるという使命を果たすとともに、国立医科大学として研究力を高め、世界に伍する研究成果を発信し、医療レベルを最大限に高めていかなければなりません。皆様のますますのご活躍を期待しております。

旭川医科大学学術研究表彰

学術賞受賞者

内科学講座（消化器内科学分野）

講師 高橋 賢治

研究テーマ

マルチレイヤー核酸解析による肺癌リキッドバイオプシー体系の構築

対象論文(著者名・タイトル)

Takahashi K (Correspondence), Inuzuka T, Shimizu Y, Sawamoto K, Taniue K, Ono Y, Asai F, Koyama K, Sato H, Kawabata H, Iwamoto H, Yamakita K, Kitano Y, Teramoto T, Fujiya M, Fujii S, Mizukami Y, Okumura T. Liquid biopsy for pancreatic cancer by serum extracellular vesicle-encapsulated long non-coding RNA HEVEPA. *Pancreas*. 53(5):e395-e404, 2024

Takahashi K (Correspondence), Takeda Y, Ono Y, Isomoto H, Mizukami Y. Current status of molecular diagnostic approaches using liquid biopsy. *J Gastroenterol*. 58(9):834-847, 2023

Takahashi K (Correspondence), Taniue K, Ono Y, Fujiya M, Mizukami Y, Okumura T. Long Non-Coding RNAs in Epithelial-Mesenchymal Transition of Pancreatic Cancer. *Front Mol Biosci*. 8(8):717890, 2021

Ota Y, Takahashi K (Correspondence), Otake S, Tamaki Y, Okada M, Yan I, Aso K, Fujii S, Patel T, Haneda M. Extracellular RNA transfer from non-malignant human cholangiocytes can promote cholangiocarcinoma growth. *FEBS Open Bio*. 11(12):3276-3292, 2021



学術賞受賞者

法医学講座

准教授 浅利 優

研究テーマ

大規模 DNA 多型情報を活用した微量 DNA からの個人識別法の確立

対象論文(著者名・タイトル)

Asari M, Takahashi Y, Namba R, Hoshina C, Mori K, Okuda K, Shimizu K. "Second- and third-degree kinship analysis by NGS-based SNP genotyping and evaluation of 2045-SNP performance on limited or degraded DNA"



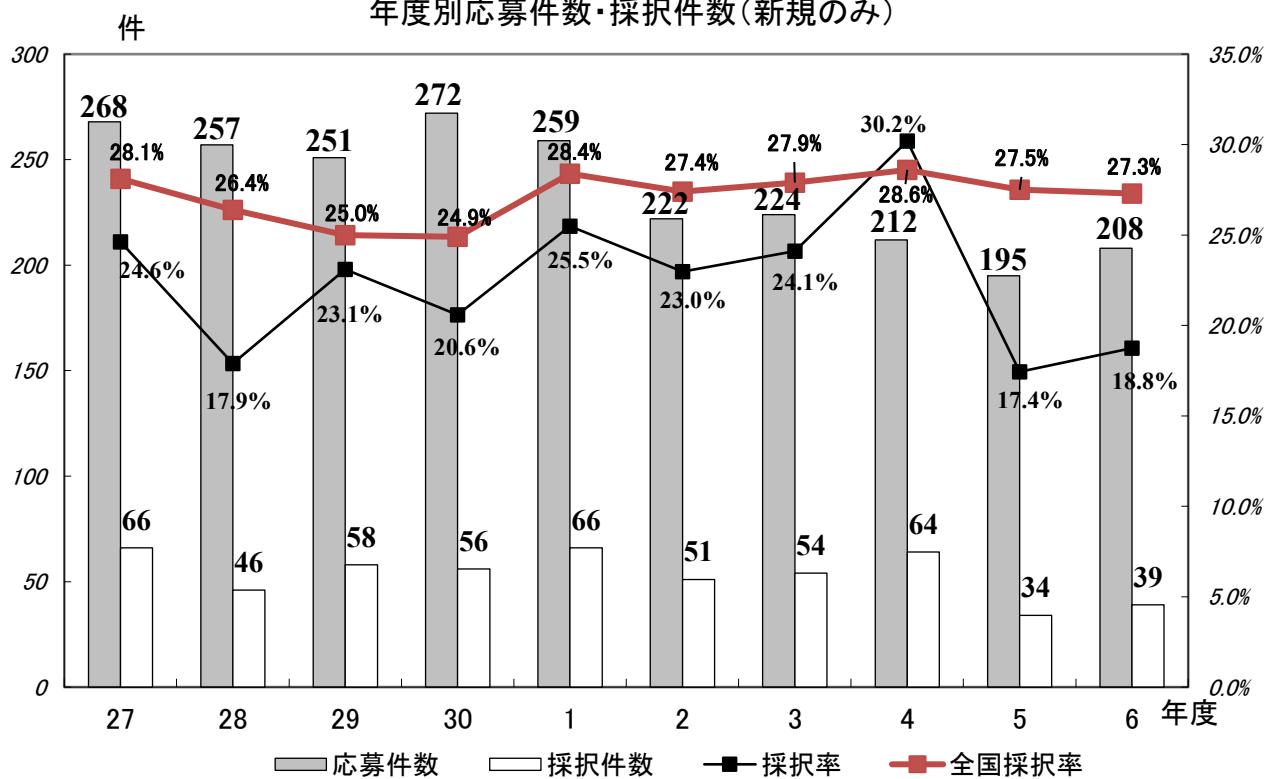
※学術研究表彰は、優れた研究成果をあげた旭川医科大学の研究者を表彰することにより「個々の研究者の研究意欲向上」を目的とともに、その研究成果とその研究内容を学内外に広め、本学の更なる研究の活性化を図るものとして、令和5年度から導入されました。

業績集計表

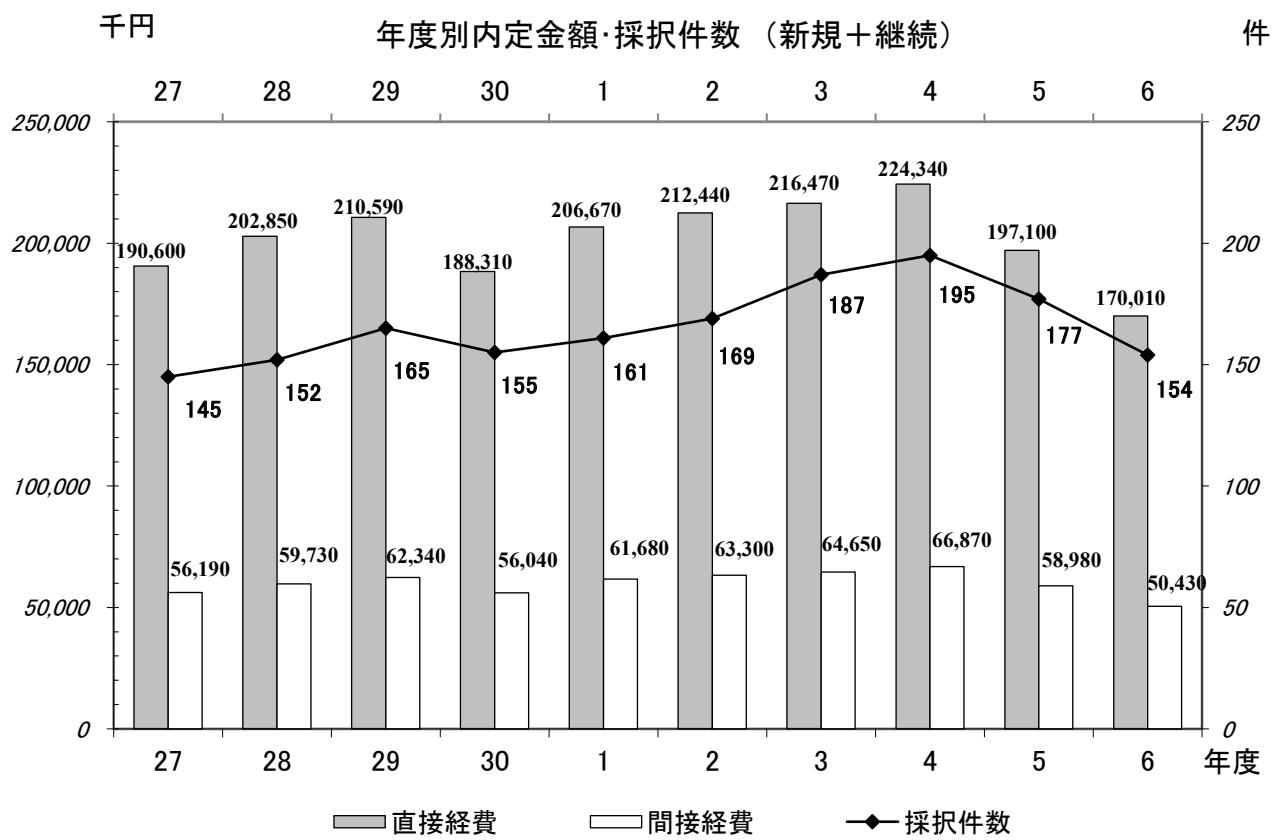
科学研究費助成事業(科研費)推移

令和7年3月31日現在

年度別応募件数・採択件数(新規のみ)



年度別内定金額・採択件数(新規+継続)

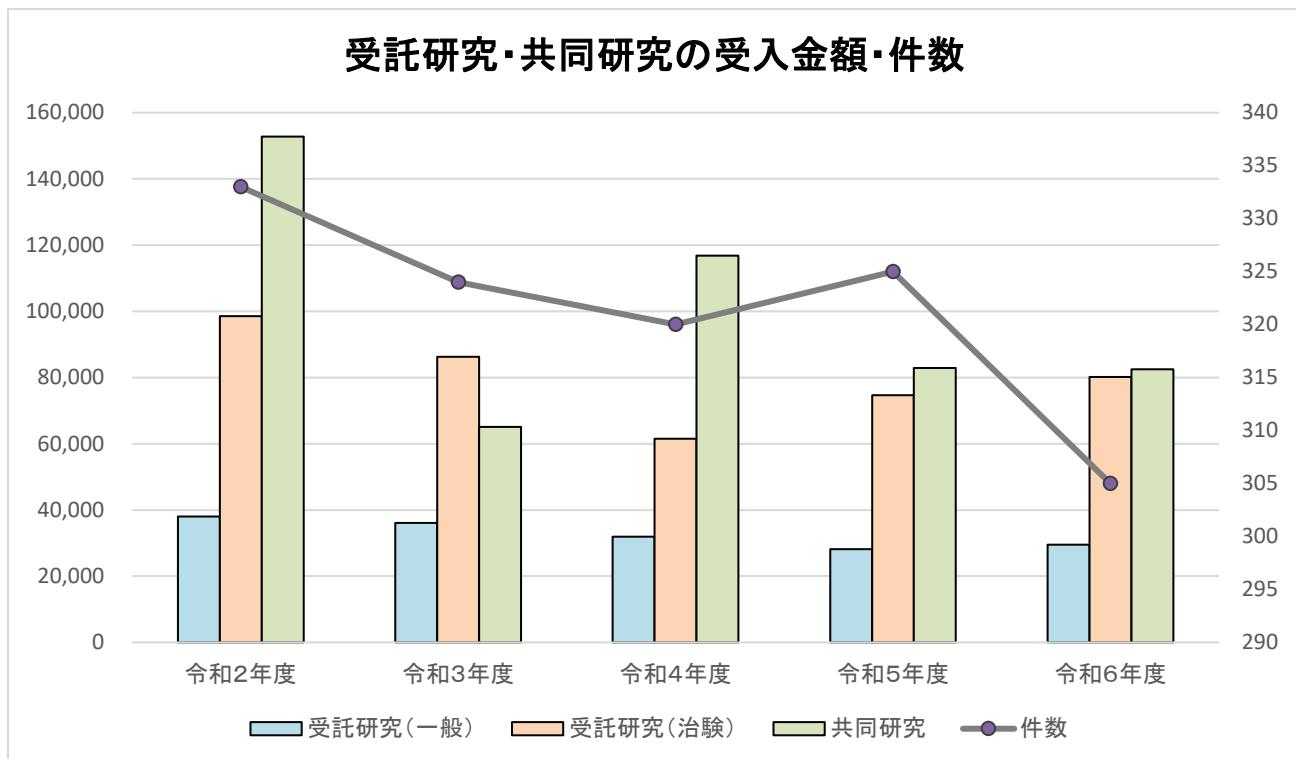


令和6年度 科学研究費助成事業 申請・採択状況

令和7年3月31日現在

(単位:千円)

研究種目	新規応募件数		採択件数		配分額(新規+継続)	
	(前 5 年 度)	R 6 年 度	(前 5 年 度)	R 6 年 度	(前 5 年 度)	R 6 年 度
新学術領域研究	0	0	1	0	26,130	0
学術変革領域研究(A)	2	4	0	0	0	0
基盤研究(A)	1	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	8	10	10	11	46,540	59,280
基盤研究(C)	123	115	113	89	117,130	98,020
挑戦的研究(開拓)	0	1	0	0	0	0
挑戦的研究(萌芽)	11	15	2	3	3,380	5,720
若手研究	16	24	43	38	49,790	40,430
研究活動スタート支援	9	19	2	4	1,430	4,030
国際共同研究加速基金(海外連携研究) (旧:国際共同研究強化(A))	3	6	2	2	11,180	11,050
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化) (旧:国際共同研究強化(B))	1	1	3	3	0	0
研究成果公開促進費 (ひらめき☆ときめきサイエンス)	1	1	1	1	500	500
奨励研究	20	12	0	3	0	1,410
合 計	195	208	177	154	256,080	220,440



その他競争的資金

(単位:千円)

事業名等	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数	経費合計	件数	経費合計	件数	経費合計
AMED 橋渡し研究戦略的推進プログラム	2	4,878				
AMED 橋渡し研究プログラム	1	22,810	1	12,813		
AMED 官民による若手研究者発掘支援事業(補助事業)			1	18,174	1	177,748
AMED 医療研究開発推進事業費補助金			1	12,350		
AMED 保健衛生医療調査等推進事業費補助金	1	6,500	2	19,500		
AMED 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業・e-ASIA	1	3,428				
AMED 医療分野国際科学技術共同研究推進事業			1	9,422	1	2,278
AMED 次世代がん医療加速化研究事業			1	5,200	1	5,850
AMED 認知症研究開発事業					1	10,400
AMED 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業					1	1,950
厚生労働省科学研費補助金	2	8,464	1	6,000	1	2,400
科学技術振興機構 CREST	1	59,020	1	2,600	1	2,730
科学技術振興機構 プログラムマネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム			1	3,900	1	1,300
科学技術振興機構 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)			1	2,600	1	2,600
科学技術振興機構 大学発新産業創出基金事業(基金)					1	10,335
科学技術振興機構 研究成果展開事業					1	975
日本学術振興会 二国間交流事業	1	0	1	2,000	1	2,000
経済産業省 成長型中小企業等研究開発支援事業			1	3,120	1	3,250
計	9	105,100	13	97,679	13	223,816

令和5年度 基盤的科学研究の自立化支援助成 採択一覧

通番	氏名	所属	研究課題名
1	小山 一也	内科学講座(消化器内科学分野)	微量組織検体における迅速デジタル変異検出による検体不適正の回避
2	日野 敏昭	生物学	加齢による染色体分配異常の解明にむけたマウス卵母細胞の全染色体同時識別の開発応用
3	出村 唯	看護学講座	死産を経験した母親の悲嘆作業と看護援助へのニーズ
4	谷内 秀輔	薬理学講座	低酸素下の小胞体ストレスセンサーATF6 β の分解が乳がんを悪性化する分子機構
5	神田 浩路	社会医学講座	タンザニアにおける交通由来大気汚染と路上販売員の健康:個人曝露評価と症状調査
6	田中 佑典	解剖学講座(機能形態学分野)	血液脳関門の機能障害にグリア細胞関連プロテアーゼはどのように関与するか
7	佐藤 遼介	耳鼻咽喉科	Pentraxin-3特異的ペプチドワクチンとEED阻害薬による新規複合免疫療法の開発
8	二井 光磨	周産母子センター	早産児における機能性鉄欠乏の病態解明
9	寺澤 武	先進医工学研究センター	自己組織心臓弁グラフトの流体解析と人工知能による最適設計法確立
10	石羽澤 映美	小児科	腸管出血性大腸菌感染に伴うHUSの重症化機序と新規治療法開発に向けたNETsの研究
11	澤田 康司	内科(消化器)	腸-肝-筋軸相関からみたSarcopenic NAFLDに対する新規薬物療法の開発
12	後藤 正憲	病理学講座(腫瘍病理分野)	マウス肝腫瘍におけるプロリン代謝の意義:腫瘍分化度と腫瘍血管に及ぼす影響の解明
13	竹口 謙	小児科学講座	CDKL5欠損症のバイオマーカー同定の試み:脳MRIと視覚誘発電位所見の特徴から
14	松本 尚也	小児科学講座	日本人小児における髄液中葉酸濃度の基準値および血清葉酸値との関連の解明
15	石川 千恵	看護学講座	看護学生を対象とした発達障害特性から“個性を活かす”心理教育構築
16	佐久間 寛史	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	腎障害進展におけるmiR-146bの役割解明と新規治療標的の探索
17	南 竜之介	先端医科学講座	TDO2遺伝子ミスセンス変異に起因する家族性高Trp血症発症メカニズムの解析
18	栗山 直也	外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	病変動脈及び健常動脈由来細胞外小胞機能解明
19	佐藤 雅之	小児科	早産児における腎機能障害ハイリスク例の早期検出に向けた尿バイオマーカー解析
20	綱元 亜依	看護学講座	視覚情報から繋がる臨床判断の「気づき」—新人看護師と熟練看護師の比較—
21	神成 陽子	看護学講座	DX活用による看護実践能力修得の効果の検証-マイクロスリップの観点から
22	村岡 法彦	リハビリテーション部	進行肺がん患者の活動量が治療の継続に与える影響

助成期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日 助成金額計10,500千円

解剖学講座
(機能形態学分野)

Department of Anatomy
(Functional Anatomy and Neuroscience)

所属教員等

解剖学講座（機能形態学分野）

教 授 吉田 成孝
講 師 扇谷 昌宏
助 教 古部 瑛莉子
助 教 田中 佑典

研究業績紹介

解剖学講座機能形態学分野は主に中枢神経のグリア細胞の機能について研究を行っている。ミクログリアは免疫のはたらきがあるグリア細胞であるが、中枢神経疾患に多様に関連していることが知られている。扇谷昌宏は独自開発したヒト単球からミクログリアに分化（iMG）させる技術を用いて、共同研究者と共にこのiMGの機能解析を行っている。この細胞は、単球を採取した時の患者の脳のミクログリアの状態を再現できる可能性があることに着目して様々な疾患におけるiMGの解析を行っている。

古部瑛莉子は共同研究者と共に、マウス成獣における神経幹細胞の機能解析を行ってきている。マウス最後野と延髄中心管周囲の神経幹細胞が高脂肪食投与に反応し、神経細胞やアストロサイトに分化していることを見出した。さらに、オリゴデンドロサイトに発現するプロテアーゼと脳虚血の関連についても研究している。

田中佑典は前の所属先で動物病理に関する研究発表をまとめると共に、当研究室においても、中枢神経でのプロテアーゼに関する研究を細胞レベルと個体レベルにおいて進めている。新たにミクログリアなどにおけるこれらのプロテアーゼ発現を見出し、現在論文投稿中である。

総説・解説

1. Kyuragi S., Inamine S., Ohgidani M., Kato T. (Nov 2024)
Human monocyte-derived microglia-like (iMG) cells: A tool to explore microglial dynamics.
Clinical and Experimental Neuroimmunology 15, 222-227
2. Kyuragi S., Inamine S., Ohgidani M., Kato T. (Sep 2024)
Engineering of Human Blood-Induced Microglia-like Cells for Reverse-Translational Brain Research.
Journal of visualized experiments 211, (doi: 10.3791/66819.)

論文

1. Matsuo K., Watanabe M., Inamine S., Matsushima T., Kyuragi S., Maeda Y., Katsuki R., Ohgidani M., Yamasaki R., Isobe N., Nakao T., Kato T. (Jan 2025)
The flow cytometric analysis of depression focusing on modern-type depression and hikikomori: Exploring the link between subtypes of depression and immunological imbalances.
Dialogues Clin Neurosci 27, 13-25
2. Furube E., Ohgidani M., Tanaka Y., Miyata S., Yoshida S. (Aug 2024)
A high-fat diet influences neural stem and progenitor cell environment in the medulla of adult mice.
Neuroscience 559, 64-76
3. Fujii R., Nambu Y., Nitin Sawant Shirikant, Furube E., Morita M., Yoshimura R., Miyata S. (Nov 2024)
Neuronal regeneration in the area postrema of adult mouse medulla oblongata following glutamate-induced neuronal elimination.
Neuroscience 563, 188-201

4. Yamazaki A., Tanaka Y., Watanabe K., Sato M., Kawazu S., Kita K., Inoue N., Helena D. Janse van Rensburg, David D. N'Da, Saganuma K. (Jun 2024) Prophylactic activity of orally administered dry-heat-sterilized Acremonium egyptiacum against Trypanosoma congolense-induced animal African trypanosomosis. *Acta Tropica* 254: 107185
5. Maezawa M., Takezawa S., Sakaguchi-Maezawa K., Tanaka Y., Watanabe K., Kobayashi Y., Inokuma H. (Jun 2024) Monoclonal proliferation of B-cells with two integration sites of bovine leukemia virus proviral DNA in cattle with enzootic bovine leukosis. *Journal of Veterinary Medical Science* 86(6): 653-655

研究発表

1. 田中 佑典, 扇谷 昌宏, 古部 瑛莉子, 吉田 成孝 (2025 年 3 月)
The effects of KLK8 on glial cell functions in murine LPS-induced depression-like model. APPW 2025
2. 田中 佑典, 扇谷 昌宏, 古部 瑛莉子, 吉田 成孝 (2025 年 3 月)
マウスうつ病モデルにおける KLK8 の機能解析
第 12 回 日本獣医病理学専門家協会 学術集会
3. 浅田 優子, 田中 佑典, 渡邊 謙一, 山田 学, 吉林 与志安 (2024 年 9 月)
犬の乳腺腫瘍の組織型とオキシトシンレセプターの発現に関する検討
第 167 回 日本獣医学会 学術集会
4. 古部 瑛莉子 (2024 年 7 月)
延髄に存在する内在性神経幹細胞および前駆細胞に対する高脂肪食の影響
NEURO 2024
5. 古部 瑛莉子 (2024 年 9 月)
カリクレイン型セリンプロテアーゼ 6 は脳梗塞巣の拡大に寄与する
日本解剖学会 第 70 回 東北・北海道連合支部学術集会
6. 古部 瑛莉子 (2024 年 12 月)
Kallikrein 6 serine protease contributes to the expansion of cerebral ischemia in the mouse tMCAO model.
第 28 回 グリア研究会
7. 古部 瑛莉子 (2025 年 3 月)
Kallikrein-type serine protease 6 contributes to the expansion of ischaemic lesions.
第 130 回 日本解剖学会 / 第 102 回 日本生理学会 / 第 98 回 日本薬理学会 合同大会
8. 扇谷 昌宏 (2024 年 5 月)
Direct induction of microglia-like cells from human monocytes: A novel cellular tool for translational research of neuropsychiatric disorders.
35th World Congress Collegium Internationale
9. 扇谷 昌宏 (2024 年 7 月)
Expression of kallikrein (KLK) in glial cells and its functional significance.
第 67 回 日本神経化学会 大会
10. 扇谷 昌宏 (2024 年 7 月)
グリア細胞からアプローチする精神神経疾患研究
第 46 回 日本生物学的精神医学会 年会
11. 扇谷 昌宏 (2024 年 7 月)
グリア細胞からアプローチする生物学的精神医学研究
第 21 回 日本うつ病学会 総会
12. 扇谷 昌宏 (2024 年 9 月)
カリクレイン(KLK)のグリア細胞での発現とその機能的意義
日本解剖学会 第 70 回 東北・北海道連合支部学術集会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
扇谷 昌宏	継続	基盤研究(B)	精神神経疾患におけるミクログリア活性化とは何か？ヒト細胞を用いた疾患横断的研究
古部 瑛莉子	継続	若手研究	成体延髄神経幹細胞ニッチに着目した摂食抑制メカニズムの解明
扇谷 昌宏	新規	挑戦的研究（萌芽）	ヒトの末梢及び中枢免疫系から明らかにする加齢の正体と加齢性疾患治療への応用

解剖学講座
(顕微解剖学分野)

Department of Anatomy
(Microscopic Anatomy and Cell Biology)

所属教員等

解剖学講座（顕微解剖学分野）

教 授 渡部 剛
准 教 授 甲賀 大輔
助 教 春見 達郎
助 教 森永 涼介

研究業績紹介

解剖学講座顕微解剖学分野は、生命現象の礎となる生体の「構造」に焦点を絞り、様々な器官、組織、細胞の微細構造・分子構築の特徴やその生理的意義について、主に顕微鏡を使った解析方法で検討しています。特にこの10年間は、甲賀大輔准教授を中心として複合的な組織中の特定の細胞を同定した上で標的細胞内における分子局在と微細構造を正確に対応付ける技術の開発に取り組んでおります。なかでも、走査型電子顕微鏡観察と免疫組織化学染色を有機的に連携させた新しい解析技法 (CLEM 法；光-電子相関顕微鏡法) や半自動化された連続超薄切片の観察・撮像・立体再構築技法 (array tomography) に対する評価は高く、開発者の甲賀准教授は日本解剖学会や日本顕微鏡学会を中心に様々な学会でシンポジストをつとめております。

総説・解説

1. Koga D., Kusumi S., Yagi H., Kato K. (Jun 2024)
Three-dimensional analysis of the intracellular architecture by scanning electron microscopy.
Microscopy (Oxf) 73(3): 215-225

論文

1. Kamemura K., Kozono R., Tando M., Okumura M., Koga D., Kusumi S., Tamai K., Okumura A., Sekine S., Kamiyama D., Chihara T. (Oct 2024)
Secretion of endoplasmic reticulum protein VAPB/ALS8 requires topological inversion.
Nat Commun. 15 8777

研究発表

1. 甲賀 大輔 (2024年6月)
走査電子顕微鏡による海綿体の立体構造解析
第24回日本抗加齢医学会総会 シンポジウム
2. 甲賀 大輔 (2024年8月)
走査電子顕微鏡による下垂体前葉オルガネラの3Dイメージングに関する研究
第39回日本下垂体研究会 学術集会「吉村賞」受賞講演
3. 甲賀 大輔 (2024年11月)
徳安凍結切片法とオスミウム浸軟法を組み合わせた免疫蛍光・走査電子顕微鏡相関法
第67回顕微鏡学会 シンポジウム
4. 甲賀 大輔 (2024年11月)
オスミウム浸軟法によるオルガネラの3D構造解析
第47回日本分子生物学会年会 シンポジウム
5. 甲賀 大輔, 久住 智, 森永 涼介, 渡部 剛 (2024年9月)
新規3D電顕技法によるゴルジ装置の形態基盤構築
第70回日本解剖学会東北・北海道連合支部学術集会
6. 森永 涼介, 三好 美佑, 甲賀 大輔, 渡部 剛 (2025年3月)
Observation of three-dimensional ultrastructure of subcellular organelles in dorsal root ganglion neurons by a novel correlative light and scanning electron microscopy (CLSEM) combining the Tokuyasu and osmium maceration method.
APPW2025 (第130回日本解剖学会/第102回日本生理学会/第98回日本薬理学会合同大会)

7. 森永 涼介, 甲賀 大輔, 渡部 剛 (2024 年 9 月)
走査電子顕微鏡の反射電子像を利用した下垂体後葉の広範囲微細構造解析
日本解剖学会 第 70 回 東北・北海道連合支部学術集会
8. 森永 涼介, 甲賀 大輔, 久住 聰, 渡部 剛 (2024 年 9 月)
徳安法により切削した凍結準超薄切片を利用した新規 CLEM 法による視床下部神経分泌細胞のオルガネラ微細構造の解析
第 167 回 日本獣医学会 学術集会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
甲賀 大輔	再々延長	基盤研究(C)	先端的 3D イメージング技術で解き明かす下垂体前葉細胞に特異な一次線毛の存在意義
甲賀 大輔	新規	基盤研究(C)	独創的 3D 電顕イメージングで探る神経細胞ゴルジ体の集合化と分散化のメカニズム
森永 涼介	延長	若手研究	視床下部-下垂体後葉系の神経分泌細胞で発現するグラニン蛋白の機能的意義の解明

生理学講座
(自律機能分野)

Department of Physiology
(Autonomous Function)

所属教員等

生理学講座（自律機能分野）

教 授 入部 玄太郎
助 教 金子 智之
助 教 千葉 弓子
助 教 山本 幸司

研究業績紹介

生理学講座自律機能分野では現在は主に心臓の機械刺激に対する反応の生理的・病態生理的意義を解明する研究に取り組んでいる。現在の教員数は教授1名、助教3名である。

2024年度は前年度から継続している科研費研究課題に加え、基盤研究(C)（「課題名：隣接細胞における心筋死細胞認識シグナルの解明」2024～2026、研究代表 金子智之助教）および基盤研究(C)（「課題名：肝臓マクロファージの異常化を引き起こす新規代謝物を標的としたNASH抑制効果の検討」2024～2026、研究代表 山本幸司助教）が採択された。

学会発表としては、他学との共同研究によるヒト心筋細胞を用いた心筋細胞伸展感受性研究、ミトコンドリアATP代謝の機械感受性研究、新しい興奮収縮連関数理モデルの開発研究など、多施設研究ならではの独自の標本・手法を用いた独創的研究を進めている。また最近の教室のメインテーマである糖尿病性心筋症と伸展誘発性酸化ストレスに関する研究結果について多くの学会で発表することができた。また、異分野融合・医工連携の試みとしての第15回マイクロ・ナノ工学シンポジウム参加では多くのフィードバックを得ることができた。

研究発表

1. 千葉弓子, 貝原恵子, 入部玄太郎 (2024年5月)
心筋の伸展刺激誘発性ROS産生のメカノトランスダクション
第63回日本生体医工学会
2. 入部玄太郎 (2024年6月)
心筋機械感受性から考える糖尿病と心不全
第45回日本循環制御医学会大会
3. 山本幸司, 千葉弓子, 金子智之, 入部玄太郎 (2024年9月)
非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の発症に直接的に関連するマクロファージの同定
第104回日本生理学会北海道地方会
4. 千葉弓子, 入部玄太郎 (2024年9月)
臓器間ネットワークを介した糖尿病性心筋症発症メカニズム
第104回日本生理学会北海道地方会
5. 入部玄太郎, 千葉弓子 (2024年9月)
心筋伸展誘発性活性酸素産生のメカノトランスダクション
第104回日本生理学会北海道地方会
6. Iribe G., Chiba Y. (Oct 2024)
Empagliflozin reduces stretch-induced reactive oxygen species production in mice cardiomyocytes by inhibiting sodium-myoinositol cotransporter 1, SMIT1.
The 52nd NAITO conference
7. 入部玄太郎 (2024年11月)
心筋細胞機械負荷操作技術を用いた新しい心臓力学研究
第15回マイクロ・ナノ工学シンポジウム

8. Yamamoto K., Chiba Y., Kaneko T., Iribe G. (Mar 2025)
Identification of Macrophage Directly Associated with the Onset of Non-Alcoholic Steatohepatitis (NASH).
APPW2025 (第 130 回 日本解剖学会 / 第 102 回 日本生理学会 / 第 98 回 日本薬理学会 合同大会)
9. Kaneko T., Yamamoto K., Iribe G. (Mar 2025)
Effects of Trimethylamine N-oxide on Cardiomyocytes in Heart Failure Formation.
APPW2025 (第 130 回 日本解剖学会 / 第 102 回 日本生理学会 / 第 98 回 日本薬理学会 合同大会)
10. Chiba Y., Furube E., Tanaka H., Yamamoto K., Iribe G. (Mar 2025)
Myocardial stretch-induced ROS production was increased via inter-organ network.
APPW2025 (第 130 回 日本解剖学会 / 第 102 回 日本生理学会 / 第 98 回 日本薬理学会 合同大会)

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
金子 智之	新規	基盤研究(C)	隣接細胞における心筋死細胞認識シグナルの解明
千葉 弓子	継続	若手研究	心臓の生理的 ROS シグナリングと心不全の過剰酸化ストレスの関係

生理学講座
(神経機能分野)

Department of Physiology
(Neuroscience)

所属教員等

生理学講座（神経機能分野）

教 授 高草木 薫
准 教 授 野口 智弘

研究業績紹介

昨年度の研究業績は、①本講座における独自の研究、②他の講座との共同研究、③他研究機関との共同研究、の3つがあります。これらの研究成果である英文原著論文、著書、研究発表を以下、報告させて頂いています。

① 本講座における独自の研究

本講座では動物やヒトの運動機能（主に、姿勢制御と歩行運動）に関する研究を展開しております。本内容に関しては同講座では、これ迄80編を超える英文原著・総説論文と70編を超える邦文解説論文を報告して参りました。2024年度は、我々ヒトの直立二足歩行を可能にしている神経メカニズムに関する総説が *Ageing and Neurodegenerative Diseases* 誌に掲載されました。その他、特筆すべき業績として、動物の随意運動に先行する姿勢制御が運動の難易度に応じて戦略を変えることを *Neuroscience research* 誌に原著論文として報告しました。

② 他講座との共同研究

内科学講座（旧第三内科）ならびに地域医療教育学講座との共同研究において、脳と消化管機能の連関に関する共同研究を約20年に渡って実施しております。2024年度は、脳神経系の様々な異常が消化器の機能障害を誘発することを証明する原著論文を3篇報告しております。

③ 他研究機関との共同研究

東京大学大学院（工学系研究科）と「姿勢と歩行の調節に関する脳-身体連関」の共同研究を20年間に渡り実施しております。また、富山大学との共同研究で神経機構の進化に関する総説を4篇発表しております。また、高草木は、国際運動障害学会のExecutive memberも務めており、パーキンソン病等における歩行障害に関する国際共同研究論文の執筆にも貢献しております。

2024年度末で本講座教授高草木薫は定年を迎えたが、最終年度も最後まで研究成果を上げ、研究業績を残しております。

総説・解説

1. Takakusaki K., Takahashi M., Kaminishi K., Fukuyama S., Noguchi T., Chiba R., Ota J. (Aug 2024)
Neural mechanisms underlying upright bipedal gait: role of cortico-brainstem-spinal pathways involved in posture-gait control.
Ageing and Neurodegenerative Diseases doi: 10.20517/and.2023.45
2. Shibata T., Takakusaki K. (Jan 2025)
Editorial: EEG rhythms: decoding the evolutionary enigma of alpha rhythms in vertebrates.
Front Hum Neurosci. doi: 10.3389/fnhum.2025.1560294.
3. Shibata T., Hattori N., Nishijo H., Takahashi T., Higuchi Y., Kuroda S., Takakusaki K. (Jan 2025)
Evolutionary origins of synchronization for integrating information in neurons.
Front Cell Neurosci. doi: 10.3389/fncel.2024.1525816.
4. Shibata T., Hattori N., Nishijo H., Kuroda S., Takakusaki K. (Nov 2024)
The origins of light-independent magnetoreception in humans.
Front Hum Neurosci. doi: 10.3389/fnhum.2024.1482872.

- Shibata T., Hattori N., Nishijo H., Kuroda S., Takakusaki K. (Apr 2024) Evolutionary origin of alpha rhythms in vertebrates. *Front Behav Neurosci.* doi: 10.3389/fnbeh.2024.1384340.

論文

- Nozu T., Miyagishi S., Ishioh M., Takakusaki K., Okumura T. (Sep 2024) The neuropeptide receptor 1 agonist PD149163 alleviates visceral hypersensitivity and colonic hyperpermeability in rat irritable bowel syndrome model. *Neurogastroenterol Motil.* doi: 10.1111/nmo.14925.
- Nozu T., Arie H., Miyagishi S., Ishioh M., Takakusaki K., Okumura T. (Apr 2024) Tranilast alleviates visceral hypersensitivity and colonic hyperpermeability by suppressing NLRP3 inflammasome activation in irritable bowel syndrome rat models. *Int Immunopharmacol.* doi: 10.1016/j.intimp.2024.112099.
- Nozu T., Miyagishi S., Ishioh M., Takakusaki K., Okumura T. (Mar 2025) Irisin prevents visceral hypersensitivity and colonic hyperpermeability in a rat model of irritable bowel syndrome. *Peptides* doi: 10.1016/j.peptides.2025.171394.
- Nakajima T., Takahashi M., Takakusaki K. (Mar 2025) Early postural adjustments in cats during a reaching task reflect strategies to predict the forthcoming target location. *Neurosci Res* doi: 10.1016/j.neures.2025.03.003.

研究発表

- 野口 智弘, 笹島 仁, 宮園 貞治, 佐藤 元, 志賀 英明, 高草木 薫 (2024年9月)
匂い刺激によって切り替わる随意性呼吸の波形パターン
第104回 北海道医学大会 生理系分科会
- 野口 智弘, 笹島 仁, 宮園 貞治, 佐藤 元, 志賀 英明, 高草木 薫 (2024年9月)
覚醒マウスの随意性呼吸における波形パターンの分類
日本味と匂学会 第58回 大会
- 野口 智弘, 笹島 仁, 宮園 貞治, 佐藤 元, 志賀 英明, 高草木 薫 (2025年3月)
匂い刺激によるマウス呼吸プロファイルの変化
第102回 日本生理学会
- 高草木 薫 (2024年4月)
姿勢と歩行の神経科学
日本ボバース講師会 講演会
- 高草木 薫 (2024年6月)
姿勢制御から診た Parkinson 病の理解
第38回 関東パーキンソン病の勉強会 (特別講演)
- 高草木 薫 (2024年7月)
姿勢と歩行の脳科学
近畿大学医学部 生理学セミナー
- 高草木 薫 (2024年7月)
ヒトの歩行における神経システムの特徴
第13回 日本ボバース研究会 学術大会 (特別講演)
- 高草木 薫 (2024年10月)
脳幹のモノアミン系とアセチルコリン系による運動の制御
多感覚運動統合システム研究会
- Takakusaki K. (Oct 2024)
Posture and gait control.
38th Annual general meeting in Osaka Japan (Special Lecture)

10. 高草木 薫 (2024 年 11 月)
教育講演 6 臨床神経学の理解に必要な運動制御機構 =姿勢と歩行=
第 42 回 日本神経治療学会 学術集会
11. 高草木 薫 (2024 年 11 月)
二足歩行の進化とその科学的背景
第 9 回 State of Art Neuroscience Club (特別講演)
12. 高草木 薫 (2024 年 12 月)
姿勢制御から診た Parkinson 病の理解と薬物療法へのヒント
県北神経疾患リハビリテーション web セミナー
13. 高草木 薫 (2024 年 12 月)
私の卒後 41 年は何だったのか?
北海道地方会 総会 (退任記念講演)
14. Takakusaki K. (Dec 2024)
Forebrain Control of Posture and Locomotion.
ASHBi/HBRC Joint Seminar at Kyoto Univ.
15. 高草木 薫 (2025 年 1 月)
姿勢制御と歩行の制御
第 11 回 クオラリハビリテーション講習会
16. 高草木 薫 (2025 年 2 月)
歩行障害の神経学
第 26 回 日本水頭症学会 (特別講演)
17. 高草木 薫 (2025 年 2 月)
姿勢と歩行の制御 (皮質下構造の役割)
第 10 回 State of Art Neuroscience Club (特別講演)
18. 高草木 薫 (2025 年 3 月)
神経科学と私
高草木薰研究会 (特別講演)

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
野口 智弘	再延長	基盤研究(C)	中枢性嗅覚障害の機能回復期における嗅球ドパミン 神経更新とシナプス形成の時空間制御
野口 智弘	継続	基盤研究(C)	中枢性嗅覚障害における嗅球ドパミン神経細胞死と 匂い嗅ぎ呼吸調節の因果関係

生化学講座

Department of Biochemistry

所属教員等

生化学講座

教 授	川辺 淳一
准 教 授	矢澤 隆志
講 師	山崎 和生
講 師	中島 恵一
助 教	安田 哲
助 教	渡辺 裕伍

研究業績紹介

従来の生化学講座の教官である大保先生や山崎先生の「Ca ポンプ蛋白機能解析研究」や、矢澤先生の「ステロイド産生機構研究」に加え、川辺らを中心とした「毛細血管研究」が、これまでの心血管再生先端医療講座の総合研究棟 5 F から生化学講座の 8 F に移ってきた形になる。

毛細血管の形成を制御する分子や新規の毛細血管幹細胞の発見といった研究成果を基軸に、虚血、糖代謝異常、炎症、さらに組織再生や老化と多岐にわたるプロジェクトを展開し、Translational Research も見据えた専門分野や講座の枠をこえた学内外の連携研究活動を進めている。

これまで、さまざまな臨床講座から集ってくれた 20 名の大学院生が巣立ち、海外留学も含め各フィールドで活躍している。現在も 5 名の大学院生が忙しい臨床業務の傍ら研究を進めている。

(「脈管研究クラスター」ホームページ参照 <https://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/biochem2/>)

総説・解説

1. Yazawa T., Watanabe Y., Yokohama Y., Imamichi Y., Hasegawa K., Nakajima K., Kitano T., Ida T., Sato T., Islam MS., Umezawa A., Takahashi S., Kato Y., Jahan S., Kawabe J. (Oct 2024)
Evaluation of 3 β -hydroxysteroid dehydrogenase activity using progesterone and androgen receptors-mediated transactivation.
Front Endocrinol 2:15: 1480722
2. Watanabe Y., Fisher, L., Campbell, R.E. and Jasoni, C.L. (Jan 2025)
Developmental expression patterns of gonadal hormone receptors in arcuate kisspeptin and GABA neurons of the postnatal female mouse.
Journal of neuroendocrinology 37(1), p.e13477
3. Kim S., Yazawa T., Koide A., Yoneda E., Aoki R., Okazaki T., Tomita K., Watanabe H., Muroi Y., Testuka M., Muranishi Y. (Apr 2024)
Potential Role of Pig UCP3 in Modulating Adipocyte Browning via the Beta-Adrenergic Receptor Signaling Pathway.
Biology 13, 284
4. Ida T., Tominaga H., Iwamoto E., Kurogi A., Okura A., Shimada K., Kato J., Kuwano A., Ode H., Nagata S., Kitamura K., Yazawa T., Sato-Hashimoto M., Yasuda M., Miyazato M., Shiimura Y., Sato T., Kojima M. (May 2024)
Acyl modifications in bovine, porcine, and equine ghrelin.
Front Endocrinol 15, 1411483
5. Miyazaki Y., Orisaka M., Fujita Y., Mizutani T., Yazawa T., Yoshida Y. (Sep 2024)
Steroidogenic differentiation of human amniotic membrane-derived mesenchymal stem cells into a progesterone-/androgen-producing cell lineage by SF-1 and an estrogen-producing cell lineage by WT1-KTS.
Front Endocrinol 15, 1410433,

6. Uwada J., Nakazawa H., Kiyo T., Yazawa T., Muramatsu I., Masuoka T. (Jan 2025) PIKFYVE inhibition induces endosome- and lysosome-derived vacuole enlargement via ammonium accumulation.
J Cell Sci 138, jcs262236
7. Tsugami Y., Iwata T., Sugiyama A., Onishi M., Nakajima K., Osaki M., Nagasawa Y. (Oct 2024) Involvement of adhesins (EcpD, FdeC, FimH) expressed in mammary pathogenic *Escherichia coli* on adhesion to bovine mammary epithelial cells.
Antonie van Leeuwenhoek 118(1): 14

研究発表

1. 山崎 和生, 安田 哲, 川辺 淳一 (2024年12月)
温度依存性からひも解く筋小胞体カルシウムポンプの脱共役機構
日本生体エネルギー研究会 第50回 討論会
2. 若松 謙, 渡辺 裕伍, 田中 彰人, 谷口 創介, 藤井 大樹, 中島 恵一, 佐藤 栄晃, 田中 宏樹, 高澤 哲, 川辺 淳一 (2024年12月)
NG2陽性周細胞の欠損は遅発性腸管障害を引き起こす - 腸管幹細胞として働く周細胞の新しい役割の解明
第32回日本血管生物医学会 学術総会
3. 藤井 大樹, 渡邊 佳孝, 大軒 悟, 渡辺 裕伍, 中島 恵一, 矢澤 隆志, 川辺 淳一 (2024年7月)
筋芽細胞におけるNinjurin1の発現制御機構の解析
第61回日本生化学会 北海道支部例会
4. 矢澤 隆志, 今道 力敬 (2024年9月)
脊椎動物におけるアンドロゲン～アンドロゲン受容体系の変遷について、シンポジウム リガンド活性依存型転写因子の比較動物学
第95回日本動物学会 大会
5. 矢澤 隆志, Sharmin Jahan (2025年3月)
新たな酵素活性測定系を用いたバングラデシュで同定されたHSD3B2変異の検討
第32回日本ステロイドホルモン学会
6. 矢澤 隆志, 関口 俊男 (2025年3月)
レポーターアッセイ系を用いた 3β -HSDタンパク質の機能解析
日本動物学会 北海道支部 第69回大会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
川辺 淳一	継続	基盤研究(C)	毛細血管周細胞化する組織内の真の間葉系幹細胞の同定と組織再生における役割の解明
山崎 和生	延長	基盤研究(C)	筋小胞体カルシウムポンプの脱共役モードの解析
中島 恵一	継続	基盤研究(C)	新たな遅筋特異的幹細胞の発見と骨格筋維持における役割の解明
中島 恵一	延長	研究活動スタート支援	毛細血管幹細胞による骨格筋分化の証明と分子メカニズムの解明
平井 理子	延長	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(A))	肺癌タンパク多量体化阻害ペプチドの実用化を目指した安定性と細胞内デリバリーの探究
渡辺 裕伍	新規	研究活動スタート支援	毛細血管幹細胞の分化運命を決定するプライミング現象の解明

藥理学講座

Department of Pharmacology

所属教員等

薬理学講座

教 授	中山 恒
准 教 授	結城 幸一
助 教	谷内 秀輔
助 教	小林 之乃

研究業績紹介

私たちの研究室では「低酸素」に焦点を当てた研究を進めています。空気中の酸素濃度(21%)と比べて、体内は一般に低酸素状態にあります。さらに、心筋梗塞・脳梗塞・がんなどの疾患では、時に無酸素に近い厳しい低酸素環境にさらされます。

私たちは特にがんに着目した研究を展開しています。がんはそれ自身が高い増殖能を保持しているのみならず、がんを取り巻く体内微小環境に適応し、それを巧みに利用しながら、自身の生存・増殖に利用しています。がんが低酸素環境に応答する時には、さまざまな遺伝子の発現が上昇します。この時に、中心的な働きをするのが転写因子 Hypoxia-Inducible Factor (HIF)です。さらに遺伝子発現が変化する時には、クロマチンの構造が変化することも知られています。そこで私たちは、低酸素応答時の遺伝子発現にもクロマチン構造変化が関与するのかを検証し、低酸素に応答して多数の遺伝子領域でクロマチン構造変化が起こることを明らかにしました。現在はこの解析を低酸素の異なるタイミングで行い、クロマチン構造変化がどのタイミングで起こり、どのような遺伝子の発現を制御しているのか、その全体像を明らかにすることをめざしています。

さらに、長期的な低酸素環境が、がんの性質やがん幹細胞性に与える影響を、分子レベルで解析しています(小林助教)。この研究は、島根大学医学部のグループとの共同研究で進めています。腫瘍内のがん微小環境では、低酸素に加えてさまざまなストレスが生じますが、これらのストレス応答のシグナル伝達の解析も行っています(谷内助教)。また、がんに加えて精巣捻転時の個体での低酸素応答の役割の研究を進めており(結城准教授)、分子、細胞からマウス個体を用いた幅広いアプローチで、低酸素応答の全容を明らかにすることを目指しています。

さらに、社会貢献活動の一環として、夏休み期間に中学生向けの実験講座を学内で開催し(科研費:研究成果公開発表B)、次代を担う若者たちに研究の楽しさを伝える取り組みを実施しました。

総説・解説

1. 中山 恒, 富田 修平 (2024年5月)
低酸素応答を標的とした治療薬・創薬の最前線
日本薬理学雑誌 159(3): 156

論文

1. Wakisaka R., Yamaki H., Kono M., Inoue T., Sato R., Komatsuda H., Ohara K., Kosaka A., Ohkuri T., Nagato T., Kishibe K., Nakayama K., Kobayashi H., Kumai T., Takahara M. (Aug 2024)
Hypoxia-Targeted Immunotherapy with PD-1 Blockade in Head and Neck Cancer.
Cancers 16: 3013
2. Sueoka S., Kai A., Kobayashi Y., Ito M., Sasada S., Emi A., Gotoh N., Arihiro K., Nakayama K., Okada M., Kadoya T. (Mar 2025)
Diversity of ER-positive and HER2-negative breast cancer stem cells attained using selective culture techniques.
Sci. Rep. 15: 8257

研究発表

1. 中山 恒 (2024 年 8 月)
生体内の低酸素の謎に迫る - 低酸素応答を標的とした創薬をめざして -
第 37 回 北海道薬物作用談話会
2. 水野 愛子, 谷内 秀輔, 中山 恒 (2024 年 8 月)
ヒト乳がん細胞 MDA-MB-231 において ATF6 β は低酸素環境での GDF15 の発現誘導を制御する
第 37 回 北海道薬物作用談話会
3. 市川 優花, 結城 幸一, 中山 恒 (2024 年 8 月)
肝星細胞活性化における HIF-1a と HIF-2a の役割
第 37 回 北海道薬物作用談話会
4. 谷内 秀輔, 中山 恒 (2024 年 9 月)
低酸素下における小胞体ストレスセンサーATF6 経路の解析
がんとハイポキシア研究会 低酸素研究会 合同学術集会
5. 結城 幸一, 中山 恒 (2024 年 9 月)
低酸素応答における ETS 経路の役割
第 75 回 日本薬理学会 北部会
6. 中山 恒 (Oct 2024)
Nuclear repositioning of hypoxia-responsive genes is actively induced under hypoxic conditions.
The 52nd Naito Conference
7. 中山 恒 (2024 年 11 月)
2-OG-dependent dioxygenases in hypoxic response: functional analysis of histone demethylase
KDM2A.
第 97 回 日本生化学会 大会
8. 水野 愛子, 谷内 秀輔, 中山 恒 (2024 年 11 月)
低酸素微小環境で炎症応答性サイトカイン GDF15 の発現を制御する ストレス応答シグナルの解析
第 47 回 日本分子生物学会 年会
9. 小林 之乃, 谷内 秀輔, 末岡 智志, 甲斐 あづさ, 角舎 学行, 中山 恒 (2025 年 1 月)
慢性低酸素培養スフェロイドを用いた乳がん幹細胞性制御における CREB の役割の解析
第 6 回 がん三次元培養研究会
10. 中山 恒 (2025 年 3 月)
慢性的な低酸素環境への適応機構: 遺伝子発現制御と創薬展望
APPW2025 (解剖・生理・薬理合同年会)

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
小林 之乃	継続	若手研究	低酸素急性期から慢性期でスイッチングする乳がん幹細胞維持機構の解明
中山 恒	新規	ひらめき☆ときめき サイエンス	挑戦しよう！身近な「酸素」をもーっとよく知る実験講座

病理学講座
(腫瘍病理分野)

Department of Pathology
(Tumor Pathology)

所属教員等

病理学講座（腫瘍病理分野）

教 授	高澤 啓
講 師	田中 宏樹
助 教	後藤 正憲
客員講師	村田 雅樹
客員講師	北村 哲也
客員助教	高澤 久美

研究業績紹介

腫瘍病理分野では、病理学的視点からさまざまな疾患のメカニズム解明やバイオマークの探索を目的とした研究を行っています。研究の主たるキーワードは、「細胞間接着分子」および「病理検体（FFPE 組織）」です。異常発現が認められる細胞間接着分子に着目し、各種疾患の FFPE 検体を用いた免疫組織化学染色などによりその発現動態を明らかにしています。さらに、標的分子に対する遺伝子編集を施したがん細胞株を樹立し、その表現型や性質の変化を解析することで、治療標的としての可能性を探求しています。今年度は、本学に設置された GC-MS 装置を活用し、ノンターゲットメタボローム解析技術を導入することで、研究の幅をさらに拡大しています。

また、我々は FFPE 組織を対象とした、従来は困難とされていた解析技術の確立にも注力しています。具体的には、各種疾患における FFPE 組織を用いた比較プロテオーム解析や、走査型電子顕微鏡を用いた超微細構造解析技術を確立し、病態解明、治療標的候補の解析を行っています。これらの技術基盤を活かし、感染症などの非腫瘍性疾患に関する研究も積極的に進めています。

2024 年度の研究成果として、原著論文 7 報、症例報告 1 報、著書 1 報を発表しました。学会活動としては、日本病理学会総会、日本癌学会学術総会、日本臨床分子形態学会総会、北海道病理談話会において、口頭またはポスターによる発表を行いました。

我々は、研究活動を通じた学生教育にも力を入れています。現在、4 名の学生が授業や実習の合間を縫って、積極的に実験や論文執筆に取り組んでいます。そのうち 1 名は日本病理学会総会にて学生ポスター発表を行い、優秀演題賞を受賞しました。現在、その成果を英文学術誌に投稿中です。また、別の 1 名は、症例報告を *Medical Molecular Morphology* 誌に発表するなど、成果を上げています。

論文

1. Nakamori Y., Takasawa A., Takasawa K., Kyuno D., Ono Y., Magara K., Nakahashi N., Sekiguchi S., Tsuchihashi K., Miyazaki A., Osanai M. (May 2024)
Vitamin D-metabolizing enzyme CYP24A1 affects oncogenic behaviors of oral squamous cell carcinoma and its prognostic implication.
Medical molecular morphology 57(3): 185-199
2. Magara K., Takasawa A., Takasawa K., Aoyama T., Ota M., Kyuno D., Ono Y., Murakami T., Yamamoto S., Nakamori Y., Nakahashi N., Kutomi G., Takemasa I., Hasegawa T., Osanai M. (Jun 2024)
Multilayered proteomics reveals that JAM-A promotes breast cancer progression via regulation of amino acid transporter LAT1.
Cancer science 115(9): 3153-3168

3. Yamamoto S., Ogasawara N., Sudo-Yokoyama Y., Sato S., Takata N., Yokota N., Nakano T., Hayashi K., Takasawa A., Endo M., Hinatsu M., Yoshida K., Sato T., Takahashi S., Takano K., Kojima T., Hiraki J., Yokota S. (Jul 2024)
Bacillaceae serine proteases and Streptomyces epsilon-poly-l-lysine synergistically inactivate Caliciviridae by inhibiting RNA genome release.
Scientific Reports 14(1)
4. Nakahashi N., Emori M., Takada K., Murahashi Y., Shimizu J., Murase K., Tsukahara T., Sugita S., Takasawa A., Iba K., Teramoto A., Osanai M. (Dec 2024)
Establishment and characterization of the novel myxofibrosarcoma cell line, SMU-MFS.
Human Cell 38(1)
5. Nakamura J., Yamamoto T., Takabatake Y., Namba-Hamano T., Takahashi A., Matsuda J., Minami S., Sakai S., Yonishi H., Maeda S., Matsui S., Kawai H., Matsui I., Yamamuro T., Edahiro R., Takashima S., Takasawa A., Okada Y., Yoshimori T., Ballabio A., Isaka Y. (Dec 2024)
Age-related TFEB downregulation in proximal tubules causes systemic metabolic disorders and occasional apolipoprotein A4-related amyloidosis.
JCI Insight 10(3): e184451.
6. Sugiyama Y., Konishi H., Dokoshi T., Tanaka H., Kobayashi Y., Sasaki T., Yamamoto K., Sakatani A., Takahashi K., Ando K., Ueno N., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Okumura T., Fujiya M. (Jan 2025)
hsa_circ_0015388 Reduces Macrophage Derived Reactive Oxygen Species in Crohn's Disease.
Inflammatory bowel diseases izae317
7. Uemura K., Sato T., Yamamoto S., Ogasawara N., Jirachaya Toyting, Aoki K., Takasawa A., Koyama M., Saito A., Wada T., Okada K., Yoshida Y., Kuronuma K., Nakajima C., Suzuki Y., Horiuchi M., Takano K., Takahashi S., Chiba H., Yokota S. (Mar 2025)
Rapid and Integrated Bacterial Evolution Analysis unveils gene mutations and clinical risk of Klebsiella pneumoniae.
Nature Communications 25;16(1): 2917

症例報告

1. Matsumoto K., Goto M., Kamikokura Y., Takasawa K., Kobayashi N., Aoyama T., Murakami T., Kamikokura M., Ikechi Y., Kawahata T., Tanaka K., Takatori S., Fujishiro D., Okamoto K., Makino Y., Nishikawa Y., Takasawa A. (Aug 2024)
Molecular and ultrastructural morphological analyses of highly metamorphosed Aspergillus fumigatus on human formalin-fixed paraffin-embedded tissue.
Medical molecular morphology 57(4): 326-332

著書

1. 田中 宏樹 (2024 年 6 月)
群衆がもたらす偉大な風 - クラウドファンディングによる研究の加速 -
病理と臨床 42(6): 608-611

研究発表

1. 多田 聰法, 廣橋 良彦, 高澤 久美, 真柄 和史, 及能 大輔, 長谷川 匡, 小山内 誠, 高澤 啓 (2024 年 9 月)
肺多形癌における癌免疫微小環境の組織学的解析
第 83 回 日本癌学会 学術総会
2. 高澤 啓, 高澤 久美, 真柄 和史, 及能 大輔, 後藤 正憲, 田中 宏樹, 藤井 裕美子, 小山内 誠 (2024 年 9 月)
膵臓がんで高発現する解糖系酵素 ALDOA はがん悪性化に関与する
第 83 回 日本癌学会 学術総会
3. 小林 延行, 後藤 正憲, 青山 智志, 上小倉 佑機, 高澤 久美, 高澤 啓 (2024 年 9 月)
深在性真菌症において菌体の高度な変性を認めた剖検症例で行われた遺伝子検査と超微細構造観察の統合解析
第 56 回 日本臨床分子形態学会 総会

4. 高田 美咲, 高澤 啓, 高澤 久美, 染谷 真行, 石岡 伸一, 真柄 和史, 小野 佑輔, 及能 大輔, 真理谷 獎, 杉田 真太郎, 長谷川 匠, 小山内 誠, 斎藤 豪 (2024 年 9 月)
胎盤 FFPE 組織を用いた比較プロテオーム解析による妊娠高血圧症候群のバイオマーカー検索
第 56 回 日本臨床分子形態学会 総会
5. 後藤 正憲, 田中 宏樹, 藤井 裕美子, 高澤 久美, 上小倉 昌代, 小林 延行, 高澤 啓 (2024 年 9 月)
肝腫瘍における Myc と Mycn の機能的特徴の比較: マウス混合型肝癌の胆管癌成分誘導メカニズムの解明
第 56 回 日本臨床分子形態学会 総会
6. 田中 宏樹, 後藤 正憲, 藤井 裕美子, 高澤 久美, 上小倉 昌代, 高澤 啓 (2024 年 9 月)
Tumor-educated platelets の蛋白質合成能の増強による肝発がん促進
第 104 回 北海道医学大会 腫瘍系分科会
7. 後藤 正憲, 山本 雅大, 田中 宏樹, 藤井 裕美子, 上小倉 佑機, 岡田 陽子, 高澤 久美, 西川 祐司, 高澤 啓 (2024 年 9 月)
マウス肝腫瘍における Myc と Notch の活性化は転写因子 Grhl1 の発現抑制を介して転移能に影響を及ぼす
第 83 回 日本癌学会 学術総会
8. 堀岡 希衣, 田中 宏樹, 早川 輝, 高橋 遥一郎, PORVARI Katja (2024 年 11 月)
腎尿細管細胞における低温誘導性脂肪蓄積による生体防御作用
第 47 回 日本分子生物学会 年会
9. 堀岡 希衣, 田中 宏樹, 早川 輝, 高橋 遥一郎, PORVARI Katja (2024 年 10 月)
転写因子 Hnf1b は成熟肝細胞由来の胆管癌を誘導するうえで重要な因子のひとつである
第 104 回 北海道医学大会 病理系分科会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
高澤 久美	継続	基盤研究(C)	高深度プロテオーム解析を用いたがんにおけるタイ ト結合タンパク質局在制御因子の探索
田中 宏樹	新規	基盤研究(C)	肝がん関連血小板の獲得形質に介入した新たな治療 法の開発

病理学講座

(免疫病理分野)

Department of Pathology

(Immunology and experimental medicine)

所属教員等

病理学講座（免疫病理分野）

教 授 小林 博也
准 教 授 大栗 敬幸
講 師 長門 利純
講 師 小坂 朱

論文

1. Murai A., Kubo T., Ohkuri T., Yanagawa J., Yajima Y., Kosaka A., Li D., Nagato T., Murata K., Kanaseki T., Tsukahara T., Nagasaki T., Hirohashi Y., Kobayashi H., Torigoe T. (Jun 2024) NF9 peptide specific cytotoxic T lymphocyte clone cross react to Y453F mutation of SARS-CoV-2 virus spike protein.
Immunol Med. 47(2): 93-99
2. Nagato T., Komatsuda H., Hayashi R., Takahara M., Ujiie N., Kosaka A., Ohkuri T., Oikawa K., Sato R., Wakisaka R., Kono M., Yamaki H., Ohara K., Kumai T., Kishibe K., Katada A., Hayashi T., Kobayashi H. (Apr 2024) Soluble CD27 as a predictive biomarker for intra-tumoral CD70/CD27 interaction in nasopharyngeal carcinoma.
Cancer Sci. 115(4): 1073-1084.
3. Kono M., Wakisaka R., Komatsuda H., Hayashi R., Kumai T., Yamaki H., Sato R., Nagato T., Ohkuri T., Kosaka A., Ohara K., Kishibe K., Kobayashi H., Hayashi T., Takahara M. (Aug 2024) Immunotherapy targeting tumor-associated antigen in a mouse model of head and neck cancer.
Head Neck. 46(8): 2056-2067.
4. Wakisaka R., Yamaki H., Kono M., Inoue T., Sato R., Komatsuda H., Ohara K., Kosaka A., Ohkuri T., Nagato T., Kishibe K., Nakayama K., Kobayashi H., Kumai T., Takahara M. (Aug 2024) Hypoxia-Targeted Immunotherapy with PD-1 Blockade in Head and Neck Cancer.
Cancers (Basel) 29;16(17): 3013.

研究発表

1. 大栗 敬幸, 小坂 朱, 氏家 菜々美, 長門 利純, 小林 博也 (2024年7月)
細胞質内のパターン認識受容体を標的とした複合的がん免疫療法の検討
第28回日本がん免疫学会 総会
2. 大栗 敬幸, 小坂 朱, 氏家 菜々美, 長門 利純, 小林 博也 (2024年9月)
細胞内パターン認識受容体 STING と NOD を標的とした複合がん免疫療法の開発研究
第129回北海道癌談話会
3. 大栗 敬幸, 小坂 朱, 氏家 菜々美, 長門 利純, 小林 博也 (2024年9月)
mmunotherapy using ligands for NLR and STING inhibits tumor growth via promoting antigen-specific CTL proliferation.
第83回日本癌学会 学術総会
4. 大栗 敬幸, 小坂 朱, 氏家 菜々美, 長門 利純, 小林 博也 (2024年10月)
NOD 刺激は NF-kB の活性化を介して STING 刺激を増強する
第57回北海道病理談話会
5. 長門 利純, 小松田 浩樹, 氏家 菜々美, 小坂 朱, 大栗 敬幸, 高原 幹, 小林 博也 (2024年7月)
上咽頭癌における CD70/CD27 の発現と可溶性 CD27 のバイオマーカーとしての可能性
第28回日本がん免疫学会 総会
6. 長門 利純, 小松田 浩樹, 林 隆介, 氏家 菜々美, 小坂 朱, 大栗 敬幸, 井上 貴博, 佐藤 遼介, 脇坂 理紗, 河野 通久, 山木 英聖, 大原 賢三, 熊井 琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 小林 博也 (2024年9月)
Expression of soluble CD27 in nasopharyngeal carcinoma: potential as a biomarker for intra-tumoral CD70/CD27 interaction.
第83回日本癌学会 学術総会

7. Kosaka A., Ohkuri T., Ujiie N., Nagato T., Kobayashi H. (Sep 2024)
Effects of tumor-derived IL-6 on the tumor microenvironment and anti-tumor immune responses.
第 83 回 日本癌学会 学術総会
8. 氏家 菜々美, 大栗 敬幸, 小坂 朱, 長門 利純, 北田 正博, 小林 博也 (2024 年 9 月)
The involvement of type I IFN-responding molecules in lung metastasis of a triple-negative breast cancer mouse model.
第 83 回 日本癌学会 学術総会
9. 氏家 菜々美, 大栗 敬幸, 小坂 朱, 長門 利純, 北田 正博, 小林 博也 (2024 年 10 月)
高肺転移性トリプルネガティブ乳癌マウスモデルにおける I 型 IFN 応答分子の検討
第 57 回 北海道病理談話会
10. 矢島 優己, 小林 博也, 佐藤 栄晃, 小神 順也, 吉田 将亜, 竹川 政範 (2024 年 11 月)
FXYD3 が口腔扁平上皮癌の新たなバイオマーカーとなり得るかの検証
第 69 回 日本口腔外科学会 総会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
小林 博也	継続	基盤研究(B)	cGAS/STING/I 型 IFN 経路を基軸とした癌免疫微小環境のホット化治療戦略
大栗 敬幸	継続	基盤研究(B)	がん免疫治療の奏効率向上を目指した腫瘍微小環境内の良質な炎症状態の誘導戦略
小坂 朱	継続	基盤研究(C)	STING アゴニストを用いた TNBC に対する効果的ながん免疫療法の開発
長門 利純	新規	基盤研究(C)	頭頸部癌における CD24 分子を標的とした新規複合免疫療法の開発

感染症学講座

(微生物学分野)

Department of Infectious Diseases

(Microbiology and Immunochemistry)

所属教員等

感染症学講座（微生物学分野）

教 授 原 英樹
助 教 松田 泰幸
助 教 山内 肇

研究業績紹介

主な研究業績は以下の通りであり、雑誌社からの返答待ちの投稿中論文もあるので間に合えば随時アップデートする。

原 英樹. 自然炎症を介した病原細菌感染症の重症化機構の解明. 「モダンメディア」 栄研科学, Vol.71, No.2, 4-10, 2025 年

Sumida K, Doi T, Obayashi K, Chiba Y, Nagasaka S, Ogino N, Miyagawa K, Baba R, Morimoto H, Hara H, Terabayashi T, Ishizaki T, Harada M, Endo M. Caspase-4 has a role in cell division in epithelial cells through actin depolymerization. *Biochemical and Biophysical Research Communications*, 695, 149394, 2024.

総説・解説

1. 原 英樹 (2025 年 2 月)
自然炎症を介した病原細菌感染症の重症化機構の解明
モダンメディア 71(2) 4-10

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
原 英樹	継続	基盤研究(B)	グラム陽性病原菌の脂質結合分子による特異的炎症応答を介した感染重症化機構の解明
松田 泰幸	継続	基盤研究(C)	薬剤耐性アシネットバクターの LPS 依存的および非依存的な特異的炎症誘導機構の解明
原 英樹	継続	挑戦的研究（萌芽）	中心体による炎症制御機構と病理機能の解明
山内 肇	新規	基盤研究(C)	リストリア主要病原因子によるキナーゼ経路を介した重症化機構の解明

感染症学講座

(寄生虫学分野)

Department of Infectious Diseases
(Parasitology)

所属教員等

感染症学講座（寄生虫学分野）

教 授 迫 康仁

准 教 授 伴戸 寛徳

研究業績紹介

迫 康仁

1. ヒトの寄生虫症（条虫症：裂頭条虫症およびテニア症）の鑑別診断を臨床現場あるいは流行現場で行うために、複数の寄生虫を網羅的に鑑別診断できるDNA検出に基づいた検出方法の基盤を構築している。（科研費基盤C研究課題「寄生虫症の迅速で高精度な網羅的種鑑別診断法の開発研究」）

2. 住血吸虫の撲滅戦略策定のために必要な環境中の病原体汚染度の監視システムの構築を目的として、環境検体（水や土壌など）から住血吸虫ならびにその中間宿主である巻貝のDNAを検出する方法を開発し、その評価をフィリピンのレイテ島、ラオス・カンボジアで実施している。（e-ASIA共同研究プログラム「アジアの住血吸虫症撲滅を目指した革新的ポイント・オブ・ケア検査法ならびに環境汚染監視ツールの開発」、e-ASIA共同研究プログラム「メコン住血吸虫の撲滅に向けた多面的な融合対策プログラム作成と数理モデルによる感染リスク分析による「最後の一押し！」」）

伴戸 寛徳

令和6年度には、2報の論文の作成に携わった。フィリピンのコウモリに寄生する寄生虫に関する研究は、Food and Waterborne Parasitologyに掲載された。また、ヒトの脳内に潜伏感染するトキソプラズマの寄生メカニズムに関する研究は、Frontiers in Cellular and Infection Microbiologyに掲載された。これらの成果を、学会等で報告することに加え、専門家に向けた講演会や、一般の方や高校生に向けた講演会を行うことで社会に広く発信した。また、令和6年度 旭川医科大学学術研究賞を受賞した。フィールド研究では、タイとフィリピンに訪れ、蚊やコウモリがどのような寄生虫を保有しているかを調査した。

総説・解説

1. Emmanuel John Tabilin, Darren J Gray, Mario A. Jiz, Mary Lorraine Mationg, Marianette Inobaya, Eleonor Avenido-Cervantes, Sato M., Marcello Otake Sato, Sako Y., Yi Mu, Hong You, Matthew Kelly, Pengfei Cai, Catherine A. Gordon (Jan 2025)
Schistosomiasis in the Philippines: A Comprehensive Review of Epidemiology and Current Control.
Tropical medicine and infectious disease 10
2. 迫 康仁 (2024年11月)
近年問題となっている新興・再興感染症・One Healthとしての感染症: エキノコックス症
北海道医報 1268: 24: 00

論文

1. Mark June Revolteado, Marcello Otake Sato, Joseph Valencia, Mario Jiz, Eleonor Cervantes, Ralph Aniceto, Marianette Inobaya, Darren Gray, Catherine A. Gordon, Pengfei Cai, Sako Y., Sato M. (Mar 2025)
Seasonality and dynamics of schistosomiasis in the environment: usefulness of environmental DNA (eDNA) surveillance system at a community level for risk mapping schistosomiasis in Ekiran Village, Leyte, Philippines.
mSphere e0106124

2. Emmanuel John Tabilin, Catherine A. Gordon, Yi Mu, Mario Jiz, Marianette Inobaya, Eleonor Avenido-Cervantes, Darren Gray, Mary Lorraine Mationg, Donald P. McManus, Thomas G. Egwang, Moses Adriko, Sako Y., Marcello Otake Sato, Sato M., Hong You, Matthew Kelly, Pengfei Cai (Dec 2024)
Development of a latex microsphere-based lateral flow immunoassay for the diagnosis of schistosomiasis japonica.
PLoS neglected tropical diseases 18
3. Yamasaki H., Sugiyama H., Morishima Y., Sako Y. (Apr 2024)
Molecular identification of Spirometra infections in companion animals and wildlife in Japan.
The Journal of veterinary medical science 86
4. Bando H., Murata Y., Han Y., Sugi T., Fukuda Y., David J. Bzik, Barbara A. Fox, Kato K. (May 2024)
Toxoplasma gondii chitinase-like protein TgCLP1 regulates the parasite cyst burden.
Frontiers in Cellular and Infection Microbiology 14:1359888
5. Lin Xu, Fukuda Y., Murakoshi F., Phillip Alviola, Joseph Masangkay, Frances Cagayat Recuenco, Ayman Shehata, Omatsu T., Bando H., Fujii H., Une Y., Kato K. (Dec 2024)
Molecular characterization and zoonotic risk assessment of Cryptosporidium spp. in Philippine bats.
Food and Waterborne Parasitology 38: e00249

研究発表

1. Mark June Valiente Revolteado, Marcello Otake Sato, Joseph Evangelista Valencia, Mario Jiz, Eleonor Cervantes, Ralph Aniceto, Sako Y., Sato M. (Mar 2025)
Community Level Application of eDNA Surveillance System: Assessing & Mapping the Temporality of Schistosomiasis in Ekiran, Leyte, Philippines.
第94回 寄生虫学会 大会
2. Joseph Evangelista Valencia, Marcello Otake Sato, Mark June Revolteado, Phoyphaylinh Prasayasith, Eleonor A. Cervantes, Ralph N. Aniceto, Mario L. Jiz, Sako Y., Lydia R. Leonardo, Chigusa Y., Sato M. (Mar 2025)
Soil eDNA opening new insights in O.h.quadrasi distribution and S. japonicum environmental presence in a community level.
第94回 寄生虫学会 大会
3. 入江 隆夫, 伊東 拓也, 後藤 明子, 中尾 亮, 迫 康仁, 水村 匡伸, 長野 礼太郎, 吉田 彩子, 山野 公明 (2025年3月)
多包虫症の新規検査法の標的としての宿主血中循環セルフリーDNAの評価
第94回 寄生虫学会 大会
4. Marcello Otake Sato, Sato M., Joseph Valencia, Phoyphaylinh Prasayasith, Mark June Revolteado, Mario Jiz, Sako Y. (Sep 2024)
Seasonality of schistosomiasis infection risk and the dynamics of environmental DNA detection.
21st International Congress for Tropical Medicine and Malaria
5. 伴戸 寛徳, 村田 優穂, Han Yongmei, 福田 康弘, 加藤 健太 (2024年9月)
トキソプラズマの潜伏感染虫体が分泌する CLP1 の機能解析
第167回 日本獣医学会 学術集会
6. 伴戸 寛徳, 村田 優穂, Han Yongmei, 福田 康弘, 加藤 健太 (2024年11月)
トキソプラズマが再活性化の際に分泌するタンパク質 CLP1 の機能解明
第47回 日本分子生物学会 年会
7. 伴戸 寛徳, 村田 優穂, Han Yongmei, 福田 康弘, 加藤 健太 (2025年3月)
トキソプラズマ分泌タンパク質 CLP1 が再活性化に及ぼす影響の解明
第94回 日本寄生虫学会 大会
8. 伴戸 寛徳 (2025年2月)
食品媒介寄生虫症の制御に向けた取り組み
第2回 AWBC 交流セミナー
9. 伴戸 寛徳 (2024年12月)
寄生虫トキソプラズマはヒトの脳にどうやって寄生するのか? ~潜伏感染と再活性化機構の解明~
令和6年度 旭川医科大学 学術研究表彰講演会

10. 伴戸 寛徳 (2024年10月)
寄生虫は敵か味方か?
全国キャラバン 3QUESTIONS 北海道地区編

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
伴戸 寛徳	新規	基盤研究(B)	3Dヒト神経スフェロイドを利用したトキソプラズマの脳内寄生戦略の解明
迫 康仁	新規	基盤研究(C)	寄生虫症の迅速で高精度な網羅的種鑑別診断法の開発研究

社会医学講座

Department of Social Medicine

所属教員等

社会医学講座

教 授	西條 泰明
准 教 授	吉岡 英治
講 師	神田 浩路
講 師	佐藤 遊洋
助 教	金谷 智子
助 教	汐月 博之

研究業績紹介

本講座の研究は疫学手法を用いる研究を中心としており、公衆衛生、産業医学、環境医学、国際保健、臨床疫学が該当する。全国規模の出生コホートである環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」では北海道ユニット内の旭川サブユニットセンターの運営を行い、全国データを用いた研究成果発表を行っている。その他、職域での循環器疾患の疫学研究、職業ストレスやメンタルヘルス、自殺予防のための研究、小児の環境曝露に関する疫学調査、地域医療、国際保健などの研究を実施している。

論文

1. Sato Y., Yoshioka E., Saijo Y. (Apr 2024)
Association of rotating night shift work with tooth loss and severe periodontitis among permanent employees in Japan: a cross-sectional study.
PeerJ 12: e17253
2. Sato Y., Kawachi I., Saijo Y., Yoshioka E., Osaka K., Tabuchi T. (Dec 2024)
Correlates of COVID-19 conspiracy theory beliefs in Japan: A cross-sectional study of 28,175 residents.
PLOS ONE 19(12): e0310673
3. 神田 浩路, 伊藤 俊弘, 吉田 貴彦 (2025年3月)
短時間曝露実験研究によるローズマリー揮発成分の健康増進効果の検証
北海道公衆衛生雑誌 38(2): 31-38
4. 藤井 智子, 水口 和香子, 塩川 幸子, 伊藤 俊弘, 神田 浩路, 吉田 貴彦 (2025年3月)
アフリカ諸国出身の研修員から学ぶ公衆衛生 -JICA 研修が看護初学者にもたらす成果-
北海道公衆衛生雑誌 38(2): 61-66
5. Yoshioka E., Sharon J. B. Hanley, Sato Y., Saijo Y. (Jul 2024)
Temporal evolution of suicide by levels of rurality and deprivation among Japanese adults aged 20 years or over between 2009 and 2022.
Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology 59(11): 1909–1918
6. Kobayashi S., Saijo Y., Iwata H., Yamaguchi T., Tamura N., Itoh M., Tojo M., Ito Y., Kishi R.; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group (Mar 2025)
Association Between the Occupation of Pregnant Women's Partners and Risks of Infant Low Birth Weight and Preterm Birth in a Prospective Birth Cohort: The Japan Environment and Children's Study.
J Occup Environ Med 67(3): 161-170
7. Iwata H., Ikeda A., Itoh M., Ketema RM., Tamura N., Yamaguchi T., Yamazaki K., Yamamoto R., Tojo M., Ait Bamai Y., Saijo Y., Ito Y., Kishi R.; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group (Feb 2025)
Association between prenatal exposure to maternal metal and trace elements and Streptococcus infection: A prospective birth cohort in the Japan Environment and Children's Study.
PLoS One. 20(2): e0319356.

8. Kobayashi S., Saijo Y., Itoh M., Tamura N., Tojo M., Iwata H., Yamaguchi T., Ito Y., Kishi R.; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group (Feb 2025) Effects of the Maternal Work Environment on Psychological Distress During Pregnancy: A Cross-sectional Research-The Japan Environment and Children's Study. **J Occup Environ Med.** 67(2): 89-99.
9. Ikeda A., Marsela M., Miyashita C., Yamaguchi T., Saijo Y., Ito Y., Iwata H., Itoh S., Itoh M., Yamazaki K., Tamura N., Kobayashi S., Kishi R.; Japan Environment and Children's Study Group (Dec 2024) Heavy metals and trace elements in maternal blood and prevalence of congenital limb abnormalities among newborns: the Japan Environment and Children's Study. **Environ Health Prev Med.** 29: 36
10. Nakamura Y., Kobayashi S., Cho K., Itoh S., Miyashita C., Yamaguchi T., Iwata H., Tamura N., Saijo Y., Ito Y., Seto Y., Honjo R., Ando A., Furuse Y., Manabe A., Kishi R.; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group (Jun 2024) Prenatal metal concentrations and physical abnormalities in the Japan Environment and Children's Study. **Pediatr Res.** 95(7): 1875-1882.
11. Ait Bamai Y., Miyashita C., Ikeda A., Yamazaki K., Kobayashi S., Itoh S., Saijo Y., Ito Y., Yoshioka E., Sato Y., Kishi R., Kamijima M., Yamazaki S., Ohya Y., Yaegashi N., Hashimoto K., Mori C., Ito S., Yamagata Z., Inadera H., Nakayama T., Sobue T., Shima M., Nakamura H., Suganuma N., Kusuhara K., Katoh T. (May 2024) Prenatal risk factors of indoor environment and incidence of childhood eczema in the Japan Environment and Children's Study. **Environ Res.** 252(Pt 2): 118871.
12. Saijo Y., Yoshioka E., Sato Y., Kunori Y., Kanaya T., Nakanishi K., Kato Y., Nagaya K., Takahashi S., Ito Y., Iwata H., Yamaguchi T., Miyashita C., Itoh S., Kishi R.; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group (Jun 2024) Maternal pre-pregnancy body mass index and related factors: A cross-sectional analysis from the Japan Environment and Children's Study. **PLoS One.** 19(6): e0304844.
13. 西條 泰明, 吉岡 英治, 佐藤 遊洋 (2024 年 5 月) 調査報告 北海道・東北地方の病院における産業保健活動状況 - 医師の働き方改革への対応状況も含めて **産衛誌** 2024 66(3): 117-127

研究発表

1. 佐藤 遊洋 (2024 年 10 月) エコチル調査から見た、口唇口蓋裂を例とした先天異常における環境疫学の役割とその将来 第 35 回 日本成長学会 学術集会
2. 佐藤 遊洋, 吉岡 英治, 西條 泰明 (2024 年 10 月) 日本の正規雇用労働者における交代制夜間勤務年数と現在歯数および歯周病の関連 第 83 回 日本公衆衛生学会 総会
3. 神田 浩路, 伊藤 俊弘, 吉田 貴彦 (2024 年 5 月) 前向き観察研究によるローズマリー揮発成分の健康増進効果の検証 第 97 回 日本産業衛生学会
4. 神田 浩路 (2024 年 8 月) 国境を越えて考える多分野協働と健康 第 23 回 日本健康行動科学会シンポジウム 1 「他分野の協働で創り出す健康」
5. 神田 浩路 (2024 年 10 月) 環境破壊により健康を害することができない社会を創りたい 全国キャラバン 3Questions 北海道地区編

6. 神田 浩路 (2024 年 10 月)
人間の創造性を高める、もしくは引き出すためには?
全国キャラバン 3Questions 北海道地区編 グループセッション A
7. 神田 浩路, 伊藤 俊弘, 藤井 智子, 塩川 幸子, 吉田 貴彦 (2024 年 10 月)
本邦における複数言語を用いたアフリカ地域保健人材育成研修
第 83 回 日本公衆衛生学会
8. 藤井 智子, 水口 和香子, 塩川 幸子, 伊藤 俊弘, 神田 浩路 (2024 年 10 月)
アフリカ諸国から公衆衛生を学ぶ -JICA 研修が看護初学者にもたらす成果-
第 83 回 日本公衆衛生学会
9. 吉岡 英治, シャロン・ハンリー, 佐藤 遊洋, 西條 泰明 (2025 年 2 月)
2009 から 2022 年の日本における地域別の自殺率推移の検討
第 35 回 日本疫学会 学術総会
10. 吉岡英治, シャロン・ハンリー, 佐藤遊洋, 西條泰明 (2025 年 3 月)
2009 から 2022 年の日本における地域別の自殺率推移の検討
第 95 回 日本衛生学会 学術総会
11. 西條 泰明, 吉岡 英治, 佐藤 遊洋, 九里 優輝, 金谷 智子, 中西 研太郎, 加藤 育民, 長屋 健, 高橋 悟, 伊藤 善也, 岩田 啓芳, 山口 健史, 宮下 ちひろ, 伊藤 佐智子, 岸 玲子 (2025 年 3 月)
妊婦における社会経済要因・喫煙と妊娠前の低体重・肥満との関連 (エコチル調査)
第 95 回 日本衛生学会 学術総会
12. 西條 泰明, 佐藤 遊洋, 吉岡 英治 (2024 年 5 月)
北海道・東北の病院における産業保健活動 - 医師の働き方改革法対応状況も含めて
第 97 回 日本産業衛生学会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
西條 泰明	新規	基盤研究(C)	地域医療における医師確保と医療職の負担軽減に関する総合的研究
西條 泰明	延長	基盤研究(C)	地域医療における医師確保と医療職の負担軽減に関する総合的研究
吉岡 英治	延長	基盤研究(C)	市町村別自殺のパネルデータ解析：経済的不況に特に脆弱であるのはどのような地域か？
吉岡 英治	新規	基盤研究(C)	COVID-19 パンデミックが自殺率の推移に及ぼした影響の解明
佐藤 遊洋	延長	若手研究	日本の全労働者の約 20%が行っている夜間勤務と歯科疾患の関連を明らかにする研究

法医学講座

Department of Legal Medicine

所属教員等

法医学講座

教 授	清水 恵子
准 教 授	浅利 優
講師(学内)	奥田 勝博
助 教	高橋 悠太

研究業績紹介

薬物鑑定やDNA鑑定など法医実務に関する事例の検討や実務への応用を目指した中毒学的・遺伝学的な研究を進めており、学会発表および論文発表を行っている。まず、事例報告として、観光船沈没事故の際の現地検案について、および解剖・DNA鑑定によって個人が特定されたご遺体に対する死体検案書の死因診断等について、今後全国の法医学講座が直面する可能性のある中～大規模災害対応の参考となるよう報告した。また、山菜の誤食による食中毒死の事例を報告し、再発防止のための啓発を行った。

中毒学的な研究では危険ドラッグの毒性発現メカニズムについて検討し、細胞内取り込みおよび血液脳関門の通過に関するトランスポーターを明らかにした。誘導体の構造によって異なるトランスポーターが関与することで、発現毒性の強弱が説明できる可能性が示唆された。その他、プラスチック可塑剤と核内受容体について、分子間相互作用における複合体の安定構造をシミュレーションし、実測値と比較することで理論的裏付けを行った。

遺伝学的研究では、DNAのメチル化と年齢推定に関する検討を継続して行っており、精度の高い年齢推定法の構築を目指した新たな検出技術の開発を行った。また、次世代シーケンサーを活用した大規模なDNA解析に基づいた検討を進めており、情報量の多さを生かした第二度および第三度血縁者識別への応用を行った。さらに、法医学領域で扱うことの多い微量なDNAに対する解析も行っており、最終的には単離した細胞からの鑑定技術の構築を目指して取り組みを進めている。

論文

1. 奥田 勝博, 横野 陽介, 森 香苗, 難波 亮, 高橋 悠太, 浅利 優, 清水 恵子 (2024年11月)
観光船沈没事故における検案・解剖・DNA鑑定
法医学の実際と研究 67: 149-153
2. Yasuda A, Murase W, Kubota A, Uramaru N, Okuda K, Hakota R, Ikeda A, Kojima H. (Dec 2024)
Effects of di(2-ethylhexyl) phthalate and its metabolites on transcriptional activity via human nuclear receptors and gene expression in HepaRG cells.
Toxicology in Vitro 101: 105943
3. Asari M, Takahashi Y, Namba R, Hoshina C, Mori K, Okuda K, Shimizu K. (Feb 2025)
Second- and third-degree kinship analysis by NGS-based SNP genotyping and evaluation of 2045-SNP performance on limited or degraded DNA.
Forensic Science International 367: 112346

研究発表

1. 清水 恵子 (2024年6月)
法医実務志向型研究と多職種連携
第108次日本法医学会 学術全国集会
2. 浅利 優, 難波 亮, 高橋 悠太, 山田 ひろみ, 森 香苗, 奥田 勝博, 清水 恵子 (2024年6月)
24座位のDNA型に基づいた確率計算と追加のSNP解析による身元確認への協力
第108次日本法医学会 学術全国集会

3. 高橋 悠太, 浅利 優, 奥田 勝博, 森 香苗, 難波 亮, 保科 千里, 山田 ひろみ, 吉田 あやか, 清水 恵子 (2024年6月)
DNAメチル化解析を用いた年齢推定における增幅サイズの影響
第108次日本法医学会 学術全国集会
4. 奥田 勝博, 横野 陽介, 森 香苗, 難波 亮, 高橋 悠太, 浅利 優, 清水 恵子 (2024年6月)
観光船沈没事故について - 検案・解剖・DNA鑑定 -
第108次日本法医学会 学術全国集会
5. 森 香苗, 奥田 勝博, 保科 千里, 浅利 優, 高橋 悠太, 難波 亮, 清水 恵子 (2024年6月)
Cytotoxicity of Diphenidine and Its Derivatives.
第108次日本法医学会 学術全国集会
6. 難波 亮, 浅利 優, 高橋 悠太, 森 香苗, 保科 千里, 奥田 勝博, 清水 恵子 (2024年6月)
NGS-based SNP genotyping for kinship analysis using small amounts of DNA.
第108次日本法医学会 学術全国集会
7. 斎藤 久子, 山本 伊左夫, 奥田 勝博, 山田 良広, 櫻田 宏一, 岩瀬 博太郎, 清水 恵子 (2024年6月)
遺体の歯科所見採取における口腔内スキャナーの活用の検討
第108次日本法医学会 学術全国集会
8. 森 香苗, 奥田 勝博, 難波 亮, 柏木 陸, 保科 千里, 高橋 悠太, 浅利 優, 清水 恵子 (2024年7月)
症状出現時間からコルヒチン中毒死を疑えるか
第46回日本中毒学会総会・学術集会
9. 清水 恵子 (2024年10月)
社会の中の法医学 - 実務志向型研究とその応用 -
第104回北海道医学大会 総会
10. 清水 恵子, 奥田 勝博, 浅利 優, 森 香苗, 難波 亮 (2024年11月)
医薬品の不正使用による人権侵害への捜査協力
第61回日本犯罪学会 学術総会
11. 高橋 悠太, 落合 和, 奥田 勝博, 浅利 優, 森 香苗, 難波 亮, 清水 恵子 (2024年11月)
妊娠マウスにおけるジアゼパムとその代謝物の統合的薬物動態解析
第25回日本法医学会 学術北日本地方集会
12. 保科 千里, 奥田 勝博, 森 香苗, 高橋 悠太, 難波 亮, 浅利 優, 清水 恵子 (2024年11月)
パラコート低濃度長期曝露による酸化ストレス経路の検討
第25回日本法医学会 学術北日本地方集会
13. 森 香苗, 奥田 勝博, 保科 千里, 浅利 優, 高橋 悠太, 難波 亮, 清水 恵子 (2024年11月)
ジフェニジン及びその誘導体の神経細胞内取り込みに関与するトランスポーターの検討
第25回日本法医学会 学術北日本地方集会
14. 難波 亮, 浅利 優, 高橋 悠太, 森 香苗, 山田 ひろみ, 保科 千里, 奥田 勝博, 清水 恵子 (2024年11月)
身元特定において性染色体がXX型を呈した男性の1例
第25回日本法医学会 学術北日本地方集会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
浅利 優	継続	基盤研究(C)	タッチサンプルからの単一細胞やヒト常在微生物叢を標的とした個人識別法の開発
清水 恵子	新規	基盤研究(C)	新規向精神薬の毒性形成機構の神経科学的解明

先端医科学講座

Department of Advanced Medical Science

所属教員等

先端医科学講座

教 授	船越 洋
准 教 授	上田 潤
講師(学内)	橋本 理尋
助 教	南 竜之介
客員助教	島田 若菜
客員助教	金井 将昭

研究業績紹介

本講座の研究目標は、治療が困難な疾患に対して、基礎研究に根ざした新たな治療法を開発し、臨床応用へと橋渡しすることにあります。現在、以下の4つの主要研究テーマを柱として、先進的な橋渡し研究（translational research）を推進しています。

1つ目は、船越・島田らが中心となって進めてきた肝細胞増殖因子（HGF）による神経再生治療研究です。再生因子として知られるHGFを用い、脊髄損傷、ALSや多発性硬化症（MS）などの難治性神経疾患に対する治療応用研究を進めています。脊髄損傷への国際特許が成立したことを基盤に、米国においてヒトHGFタンパク質が脊髄損傷急性期に対する希少疾病用医薬品に指定されるなど、実臨床への国際的応用が期待されています。

2つ目は、エピゲノム編集技術を活用した疾患関連遺伝子に対する研究です。すなわち、原因遺伝子特異的なエピゲノム修飾による神経難病治療法の開発研究です。本研究は船越、上田らが中心となり北里大学との共同研究として進めており、動物モデルを用いた概念実証（proof of concept）に向けて、現在解析を進行中です。

3つ目は、トリプトファン代謝異常を伴う遺伝性疾患の病態解析研究です。患者由来ゲノム情報に基づき、船越、金井らが原因遺伝子のミスセンス変異を特定し、船越らはそのアミノ酸変異を導入したノックインマウス（TDO-KI）の作出に成功しました。現在、このマウスを新規疾患モデルとして位置づけ、藤田医科大との共同研究による病態の解明研究を進めています。また、金井、船越らはTDOのノックアウトマウス（TDO-KO）の作出にも成功しており、TDO-KOマウスと他のKOマウスとを組み合わせたダブル変異マウスの作出と解析も進めています。

4つ目として、自己免疫疾患モデルマウスを用いた疼痛機序の解析と治療法の開発にも取り組んでおり、大学院生の川田らが慢性炎症に伴う疼痛メカニズムの解明とNGFファミリーを活用した新規治療介入研究を進めています。

今後も本講座では、基礎研究の成果を社会実装につなげることを目指し、難治疾患に対する新たな治療戦略の確立に貢献してまいります。

総説・解説

1. 上田 潤, 船越 洋 (2024年10月)
エピゲノム編集による新しい遺伝性疾患の治療法の開発に向けて
BIO Clinica 39(12): 47-51

論文

1. Takano T., Takano C., Funakoshi H., Bando Y. (Oct 2024)
Impact of Neuron-Derived HGF on c-Met and KAI-1 in CNS Glial Cells: Implications for Multiple Sclerosis Pathology.
International Journal of Molecular Sciences 25(20): 11261
2. Kawaguchi T., Hashimoto M., Nakagawa R., Minami R., Ikawa M., Nakayama J., Ueda J. (Sep 2024)
Comprehensive posttranslational modifications in the testis-specific histone variant H3t protein validated in tagged knock-in mice.
Scientific Reports 14(1): 21305
3. Sato Y., Takenoshita M., Ueoka M., Ueda J., Yamagata K., Kimura H. (May 2024)
Visualizing histone H4K20me1 in knock-in mice expressing the mCherry-tagged modification-specific intracellular antibody.
Histochemistry and Cell Biology 162: 41–52

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
上田 潤	継続	基盤研究(C)	クロマチン制御による遺伝性神経変性疾患の治療法の開発
橋本 理尋	継続	基盤研究(C)	ヒト型CDKN2Aエクソン導入マウスを用いたヒトとマウスの老化制御機構の差異の解明

内科学講座

(循環器・腎臓内科学分野)

Department of Internal Medicine

(Division of Cardiology and Nephrology)

所属教員等

内科学講座（循環・腎臓内科学内科学分野）

教 授 中川 直樹
講 師 田邊 康子
助 教 木谷 祐也
助 教 松元 慈
特任助教 佐久間 寛史
特任助教 渡辺 莉

内科（循環器・腎臓）
講 師 萩島 曜帆
助 教 青沼 達也
講 師 松木 孝樹
助 教 河端 奈穂子
診療助教 徳野 翔太

教育センター
教 授 佐藤 伸之

リハビリテーション科
助 教 伊達 歩

研究業績紹介

2023年10月の内科再編に伴い、循環器・腎臓内科学分野と呼吸器・脳神経内科学分野に再編されたが、2024年7月に中川直樹教授就任後も、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、脳神経内科の各グループが精力的に学会発表および論文発表を行っている。

<循環器内科>

循環器内科では、竹内利治講師を中心に若手医師による学会発表を精力的に行い、竹内講師が高速前狭心症のない急性心筋梗塞患者における虚血後処理の潜在的効果と熱ショックタンパク質72の変化を学位論文として発表した (Int Heart J. 65:395-403, 2024)。青沼達也助教が、僧帽弁前方運動によって引き起こされる、肥大型心筋症ではない心筋症における重度の僧帽弁逆流 (J Med Ultrason. 51:667-669, 2024)、また徳野翔太助教が、食道がん手術後の発作性心房細動患者に対するクライオバルーンアブレーションの成功例 (Int Heart J. 66:183-186, 2024) について報告した。

<腎臓内科>

中川直樹教授を中心に、ファブリー病やネフローゼ症候、慢性腎臓病データベース研究に関する研究報告を行っている (Clin Exp Nephrol. 28:404-408, 2024; Sci Rep. 14:11481, 2024; Diabetes Obes Metab. 26:2905-2914, 2024)。また佐久間寛史特任助教が、腎臓の間質細胞におけるマイクロRNA活性の誘導性欠失は腎線維化を悪化させることを学位論文として発表した (Sci Rep. 14:10963, 2024)。

総説・解説

1. 松木 孝樹, 田邊 康子, 中川 直樹 (2024年5月)
特集: 透析患者の心不全パンデミックに立ち向かう, 7 心房細動に対する薬物療法
臨床透析 40(5) 505-511

2. 中川 直樹 (2024 年 7 月)
特集: CKD 対策における健診受診と受診勧奨の重要性
日本医師会雑誌 153(4) 413-416
3. 中川 直樹 (2025 年 2 月)
指定難病最前線 Volume159 一次性ネフローゼ症候群
新薬と臨床 74(2) 75-79

論文

1. Suetsugu R., Sakuma H., Maruyama K., Matsuki M., Ogawa Y., Nakagawa N. (Apr 2024)
Successful treatment of coexisting membranous nephropathy and immune thrombocytopenia by eradicating gastric Helicobacter pylori infection: a case report.
CEN Case Rep 13(2)98-103
2. Yusei O., Nagasu H., Nakagawa N., Terawaki S., Moriwaki T., Itano S., Kishi S., Sasaki T., Kashihara N., Otomo T. (May 2024)
A case series of Fabry diseases with CKD in Japan.
Clin Exp Nephrol 28(5) 404-408
3. Sakuma H., Maruyama K., Aonuma T., Kobayashi Y., Hayasaka T., Kano K., Kawaguchi S., Nakajima K., Kawabe J., Hasebe N., Nakagawa N. (May 2024)
Inducible deletion of microRNA activity in kidney mesenchymal cells exacerbates renal fibrosis.
Sci Rep 14(1) 10963
4. Nyma Z., Kitaoka K., Yano Y., Kanegae H., Bayaraa N., Kishi S., Nagasu H., Nakano T., Wada J., Maruyama S., Nakagawa N., Tamura K., Yokoo T., Yanagita M., Narita I., Yamagata K., Wada T., Tsuruya K., Nakashima N., Isaka Y., Nangaku M., Kashihara N., Okada H. (May 2024)
Evaluating the associations between compliance with CKD guideline component metrics and renal outcomes.
Sci Rep 14(1) 11481
5. Takeuchi T., Kitani Y., Minoshima A., Ota H., Nakagawa N., Sumitomo K., Ishii Y., Hasebe N. (May 2024)
Potential Effects of Ischemic Postconditioning and Changes in Heat Shock Protein 72 in Patients with Acute Myocardial Infarction without Prodromal Angina.
Int Heart J 65(3) 395-403
6. Sawada J., Katayama T., Kikuchi-Takeguchi S., Kano K., Saito M., Mitsui N., Hiroshima S., Kinoshita M., Nakagawa N. (Jun 2024)
Clinical features and prognostic factors of patients with cancer-associated stroke.
Neurol Sci 45(6) 2747-2757
7. Kanaoka T., Wakui H., Yano Y., Nagasu H., Kanegae H., Nangaku M., Hirakawa Y., Nakagawa N., Wada J., Tsuruya K., Nakano T., Maruyama S., Wada T., Konishi M., Nagahiro T., Yamagata K., Narita I., Yanagita M., Terada Y., Araki S., Emoto M., Okada H., Isaka Y., Suzuki Y., Yokoo T., Kataoka H., Kanda E., Kashihara N., Tamura K. (Jul 2024)
Factors affecting the sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors-related initial decline in glomerular filtration rate and its possible effect on kidney outcome in chronic kidney disease with type 2 diabetes: The Japan Chronic Kidney Disease Database.
Diabetes Obes Metab 26(7) 2905-2914
8. Kuroshima T., Wachi S., Kitani Y., Kokita N., Sato N. (Jul 2024)
A case of early repolarization syndrome in which hyponatremia and coronary vasospasms induced ventricular fibrillation.
J Electrocardiol 85 25-30
9. Hayasaka T., Ono T., Takeuchi T., Sato A., Kikuchi Y., Kinebuchi T., Tanino M., Okada M., Nakagawa N. (Aug 2024)
Fulminant Streptococcus suis Infection Causing Myocardial Damage and Toxic Shock-Like Syndrome: A Case Report.
Cureus 16(8) e66625

10. Aonuma T., Kawabata N., Date A., Saito E., Akasaka K., Kamiya H., Nakagawa N. (Oct 2024)
Severe mitral regurgitation in non-hypertrophic cardiomyopathy caused by systolic anterior motion of the mitral valve.
J Med Ultrason (2001) 51(4) 667-669
11. Sato R., Wakisaka R., Komatsuda H., Yamaki H., Ohara K., Kumai T., Kishibe K., Nakagawa N., Hayashi T., Takahara M. (Dec 2024)
A comparison of the clinical efficacy of tonsillectomy with steroid pulse therapy and tonsillectomy therapy alone for patients with immunoglobulin A nephropathy: a retrospective observational study.
Clin Exp Nephrol 28(12) 1254-1260
12. Miyoshi Y., Tokuno S., Tanabe Y., Kawamura Y., Nakagawa N. (Jan 2025)
Successful Cryoballoon Ablation in Paroxysmal Atrial Fibrillation Patient Post-Esophageal Cancer Surgery.
Int Heart J 66(1) 183-186
13. Nakagawa N. (Feb 2025)
Impact of wrist-measured nocturnal hypertension on cardiovascular prognosis: study design and baseline characteristics of the WISDOM-Night study.
Hypertens Res 48(2) 824-826
14. Nakagawa N. (Feb 2025)
Peak nighttime home blood pressure as a novel predictor of stroke risk: insights from the J-HOP study.
Hypertens Res 48(2) 827-829

著書

1. 中川 直樹 (2024年11月)
循環器疾患/高血圧▶▶▶ARB, 4. ARB が積極的に使用されるのはどのような場合?
健康寿命を考えた日常頻用薬の選び方・使い方 pp19-23
2. 中川 直樹 (2025年2月)
I 症候編, 着色尿
今日の治療指針 第9版 pp404-408

研究発表

1. 畑山 緑一, 坂本 央, 木谷 祐也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 萩島 曜帆, 田邊 康子, 竹内 利治, 中川 直樹 (2024年4月)
Fabry病に伴う重症心不全に経皮的僧帽弁接合不全修復術が奏功した一例
医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024
2. 菅原 悠, 中尾 汐里, 池田 みのり, 内田 紗瑛子, 林 望美, 石沢 令奈, 佐久間 寛史, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年4月)
若年発症の抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎に対してアバコパンが有効であった一例
医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024
3. 青沼 達也, 塩泡 優大, 木谷 祐也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 齊藤 江里香, 萩島 曜帆, 竹内 利治, 中川 直樹 (2024年5月)
好酸球性心筋炎に合併した重症僧帽弁逆流に経皮的僧帽弁接合不全修復術が奏功した一例
日本超音波医学会 第97回 学術集会
4. Sawada J., Souma J., Ando R., Uemura T., Kikuchi S., Nakagawa N. (May 2024)
Clinical Features and Prognostic Factors of Patients with Cancer-associated Stroke.
第65回日本神経学会 学術大会
5. 植村 友裕, 相馬 純, 安藤 玲, 菊地 史織, 澤田 潤, 坂本 央, 中川 直樹 (2024年5月)
心筋生検で診断された野生型トランスサイレチニアミロイドーシス9例の臨床的検討
第65回日本神経学会 学術大会
6. 菊地 史織, 相馬 純, 安藤 玲, 植村 友裕, 澤田 潤, 中川 直樹, 西野 一三 (2024年5月)
抗ミトコンドリアM2抗体陽性筋炎と臓器合併症に関する臨床的検討
第65回日本神経学会 学術大会

7. 安藤 玲, 相馬 純, 植村 友裕, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2024 年 5 月)
当院で経験したてんかん重積状態を呈した患者 8 例の臨床的検討
第 65 回 日本神経学会 学術大会
8. 中川 直樹 (2024 年 6 月)
移行医療(保存期～透析期)の問題点 Transition 時の就労支援
第 69 回 日本透析医学会 学術集会・総会
9. 中川 直樹 (2024 年 6 月)
私の透析管理(老若男女) 私の透析管理
第 69 回 日本透析医学会 学術集会・総会
10. 中川 直樹, 佐久間 寛史, 石沢 令奈, 松木 孝樹, 和田 篤志 (2024 年 6 月)
北海道における新規透析導入患者数と原疾患の経年変化
第 69 回 日本透析医学会 学術集会・総会
11. 中川 直樹 (2024 年 6 月)
高血圧症治療の再評価
第 69 回 日本透析医学会 学術集会・総会
12. 成田 孝行, 中川 直樹, 松木 孝樹 (2024 年 6 月)
個人用透析装置リソースポート部汚染によるカビ発生の経験
第 69 回 日本透析医学会 学術集会・総会
13. 松元 慶, 佐久間 寛史, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024 年 6 月)
地域別・原疾患別にみた新規透析導入者数の推移
第 69 回 日本透析医学会 学術集会・総会
14. 山田 一紀, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024 年 6 月)
Mycobacterium chelonae による出口部感染症に対して局所温熱療法が有効であった一例
第 69 回 日本透析医学会 学術集会・総会
15. 中川 直樹, 神田 学, Kroes Michel, 江口 駿介, 辻 敏永, Libby Susanna, Sidhu Raisa, Smeets Serge, 家串 和真 (2024 年 6 月)
日本人成人 C3 腎症患者の診断と治療の実態調査
第 67 回 日本腎臓学会 学術総会
16. 松木 孝樹, 石沢 令奈, 佐久間 寛史, 中川 直樹 (2024 年 6 月)
都道府県別・原疾患別にみた新規透析導入者数の動向
第 67 回 日本腎臓学会 学術総会
17. 佐久間 寛史, 石沢 令奈, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024 年 6 月)
北海道における新規透析導入患者の経年変化に関する検討
第 67 回 日本腎臓学会 学術総会
18. 石沢 令奈, 池田 みのり, 中尾 汐里, 佐久間 寛史, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024 年 6 月)
慢性腎臓病患者に対するスマートフォンアプリを活用した自己管理支援の有用性
第 67 回 日本腎臓学会 学術総会
19. 酒井 謙, 祖父江 理, 濱崎 祐子, 中井 真一, 中川 直樹 (2024 年 6 月)
ライフスタイルに着目した慢性腎臓病(腎移植患者)対策に資する研究
第 67 回 日本腎臓学会 学術総会
20. 塩泡 優大, 徳野 翔太, 木谷 祐也, 青沼 達也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 斎藤 江里香, 裴島 晓帆, 坂本 央, 田邊 康子, 竹内 利治 (2024 年 6 月)
好酸球性心筋炎の経過中に生じた僧帽弁閉鎖不全症の一例
第 131 回 日本循環器学会 北海道地方会
21. 西中 麻里奈, 坂本 央, 笹木 理恵, 小林 朝香, 二階堂 麻悠子, 伊藤 栄祐, 河端 奈穂子, 斎藤 江里香, 中川 直樹, 佐藤 伸之 (2024 年 7 月)
緊急対応を可能とする技師による心電図診断の重要性
第 70 回 日本不整脈心電学会 学術大会
22. 塩泡 優大, 徳野 翔太, 木谷 祐也, 青沼 達也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 斎藤 江里香, 裴島 晓帆, 坂本 央, 田邊 康子, 竹内 利治, 伊佐 秀貴, 國岡 信吾, 紙谷 寛之 (2024 年 7 月)
心原性ショック合併急性心筋梗塞における Impella の初期成績と短期予後予測因子の検討
第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会 学術集会

23. 徳野 翔太, 竹内 利治, 三好 優史, 久保 勇進, 橋口 隼太朗, 塩泡 優大, 木谷 祐也, 萩島 曜帆 (2024年7月)
大伏在静脈-人工血管吻合部狭窄を伴う心室細動蘇生後に対し血行再建が奏功したマルファン症候群の一例
第32回日本心血管インターベンション治療学会 学術集会
24. Watanabe S., Shinada S., Tokuno S., Kitani K., Aonuma T., Shimooka Y., Hirayama Y., Minoshima A., Tanabe T., Takeuchi T., Nakagawa N. (Jul 2024)
A case of very late stent thrombosis developed after everolimus-eluting stent implantation.
第32回日本心血管インターベンション治療学会 学術集会
25. 田村 駿, 青沼 達也, 木谷 祐也, 河端 奈穂子, 齊藤 江里香, 萩島 曜帆, 竹内 利治, 石沢 令奈, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年7月)
経皮的心房中隔欠損閉鎖術後に腎機能が改善した悪性腎硬化症の1例
第301回日本内科学会 北海道地方会
26. 相馬 純, 南部 桃子, 安藤 玲, 植村 友裕, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2024年9月)
腎移植後に悪性高血圧症による全脊髄病変を伴う可逆性後頭葉白質脳症を呈した1例
第114回日本神経学会 北海道地方会
27. Sakuma H., Kanno Y., Miura S., Ishizawa R., Hayashi N., Matsumoto M., Matsuki M., Nakagawa N. (Sep 2024)
Demographic and time-trend analysis of Japanese octogenarians undergoing dialysis using a web-based database.
The Kidney Health In Aging and Aged Societies: JSN/ERA Symposium Collaboration with JSDT
28. Sakuma H., Kanno Y., Miura S., Ishizawa R., Hayashi N., Matsumoto M., Matsuki M., Nakagawa N. (Sep 2024)
Trends in the underlying diseases of new dialysis patients in Hokkaido.
The Kidney Health In Aging and Aged Societies: JSN/ERA Symposium Collaboration with JSDT
29. Nakagawa N. (Sep 2024)
Impact of dietary protein intake by nutritional supplementation on renal function in stroke patients undergoing rehabilitation.
The Kidney Health In Aging and Aged Societies: JSN/ERA Symposium Collaboration with JSDT
30. 島田 慎吾, 中川 直樹, 和田 直樹, 橘田 岳也, 佐野 麻衣, 高橋 裕之, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024年9月)
生体腎ドナーにおける長期的腎機能の推移およびアウトカム
第60回日本移植学会 総会
31. 酒井 謙, 祖父江 理, 中川 直樹, 中井 伸一 (2024年9月)
レシピエントの社会参加の現状も踏まえた移植後長期成績 全国腎移植者(待機者)の医療・福祉ニーズに関する調査
第60回日本移植学会 総会
32. 内田 紗瑛子, 菅野 有佑, 林 望美, 石沢 令奈, 松元 慈, 佐久間 寛史, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年9月)
難治性ネフローゼ症候群を呈した膜性腎症を伴う IgG4 関連腎臓病の一例
第54回日本腎臓学会 東部学術大会
33. 山田 一紀, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年9月)
顕微鏡的多発血管炎を生じた生体腎移植ドナーの一例
第54回日本腎臓学会 東部学術大会
34. 武田 紗季, 中尾 汐里, 鈴木 彩菜, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年9月)
レボフロキサシン(LVFX)によるアキレス腱炎・断裂が疑われた透析患者の2例
第54回日本腎臓学会 東部学術大会
35. 中尾 汐里, 武田 紗季, 鈴木 彩菜, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年9月)
門脈大循環シャントによる意識障害を呈した維持透析患者の2例
第54回日本腎臓学会 東部学術大会
36. 石沢 令奈, 菅野 有佑, 内田 紗瑛子, 林 望美, 松元 慈, 佐久間 寛史, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年9月)
旭川医科大学病院における腹膜透析診療開始のための取り組み
第101回北海道透析療法学会

37. 中尾 汐里, 武田 紗季, 鈴木 彩菜, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年9月)
Roseomonas mucosa による腹膜透析関連腹膜炎の一例
 第 101 回 北海道透析療法学会
38. 下斗米 史恵, 土田 裕樹, 平野 瑞歩, 成田 孝行, 宗万 孝次, 工藤 紘子, 田中 理佳, 太田 一美, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年9月)
 急性期病院における透析室での避難訓練と災害対策マニュアルの見直し
 第 101 回 北海道透析療法学会
39. 成田 孝行, 松本 紗季, 高橋 理乃, 宗万 孝次, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年9月)
 個人用透析装置 リンスポート部汚染によるカビ発生の経験と対策
 第 101 回 北海道透析療法学会
40. 河端 奈穂子, 坂本 央, 佐藤 望有, 阿部 剛大, 鵜野 正和, 伊藤 栄祐, 小林 雅弘, 青沼 達也, 畑山 真弓, 齋藤 江里香, 中川 直樹 (2024年9月)
 重症心不全に D-BCD 療法が奏功し GLS の改善を認めた AL 心アミロイドーシスの 1 例
 日本超音波医学会 第 54 回 北海道地方会学術集会
41. 河端 奈穂子, 坂本 央, 青沼 達也, 齋藤 江里香, 竹内 利治, 佐藤 伸之, 中川 直樹 (2024年9月)
 潜因性脳梗塞の卵円孔開存診断における心電図 Crochetage Pattern の有用性
 第 58 回 日本臨床検査医学会 北海道支部総会
42. Sakuma H., Nakagawa N. (Oct 2024)
 Inducible Deletion of MicroRNA Activity in Kidney Mesenchymal Cells Exacerbates Kidney Fibrosis.
 ASN Kidney Week 2024
43. 渡辺 桂, 品田 咲季, 徳野 翔太, 下岡 良典, 平山 康高, 田邊 康子, 川村 祐一郎, 中川 直樹 (2024年10月)
 CARTO SOUND® と VIZIGO® を用いて左房内索状構造物の損傷を防いで両側肺静脈隔離術を行った心房細動の 1 例
 カテーテルアブレーション関連秋季大会 2024
44. 徳野 翔太, 田邊 康子, 川村 祐一郎 (2024年10月)
 VIZIGO® short シースを用いた当院の Low-Fluoro 心房細動アブレーションの有効性
 カテーテルアブレーション関連秋季大会 2024
45. 篠原 由紀子, 池崎 美智子, 高田 耕平, 大屋 祐輔, 谷田部 淳一, 門上 俊明, 井上 卓, 富永 光裕, 中川 直樹, 河村 彰, 金谷 英樹, 福田 佑介, 小川 正浩, 三浦 伸一郎, 有馬 久富 (2024年10月)
 心房細動合併高血圧症の降圧目標に関する意識調査: CRAFT 試験のアンケートより (Current opinion on target BP levels for hypertensive patients with atrial fibrillation: survey of CRAFT trial investigators.)
 第 46 回 日本高血圧学会 総会
46. 池崎 美智子, 篠原 由紀子, 阿部 真紀子, 川添 美紀, 高田 耕平, 小川 正浩, 門上 俊明, 富永 光裕, 三浦 伸一郎, 河村 彰, 中川 直樹, 谷田部 淳一, 金谷 英樹, 井上 卓, 有馬 久富 (2024年10月)
 無作為化比較試験 CRAFT の進捗 2024update (Progress of a multicenter randomized controlled trial: CRAFT trial in 2024 update.)
 第 46 回 日本高血圧学会 総会
47. 菅野 有佑, 内田 紗瑛子, 石沢 令奈, 林 望美, 松元 慈, 佐久間 寛史, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年10月)
 腹膜透析患者における血圧管理の実態調査 (Investigation of Blood Pressure Management in Patients Undergoing Peritoneal Dialysis.)
 第 46 回 日本高血圧学会 総会
48. 中尾 汐里, 武田 紗季, 鈴木 彩菜, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年11月)
Kocuria marina による腹膜透析関連腹膜炎の一例
 第 30 回 日本腹膜透析医学会 学術集会・総会
49. 武田 紗季, 中尾 汐里, 鈴木 彩菜, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年11月)
Achromobacter xylosoxidans による PD 関連腹膜炎の 1 例
 第 30 回 日本腹膜透析医学会 学術集会・総会
50. 松元 慈, 神 英里, 五十嵐 謙人, 入宇田 智子 (2024年11月)
 肝硬変合併の末期腎不全に対して腹膜透析を導入した一例
 第 30 回 日本腹膜透析医学会 学術集会・総会

51. 河端 奈穂子, 坂本 央, 青沼 達也, 齊藤 江里香, 竹内 利治, 佐藤 伸之, 中川 直樹 (2024年11月)
潜因性脳梗塞の卵円孔開存診断における心電図 Crochetage Pattern の有用性
第71回日本臨床検査医学会 学術集会
52. 今 了資, 佐藤 孔亮, 鈴木 伸穂, 谷口 治, 松木 孝樹 (2024年11月)
体育祭のリレー走後に急性腎不全を発症し診断に苦慮した17歳男児の1例
第302回日本内科学会 北海道地方会
53. 南部 桃子, 善積 春奈, 相馬 純, 安藤 玲, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2024年11月)
免疫能低下のない成人に発症したヒトヘルペスウイルス6型(HHV-6)髄膜脳炎の例
第302回日本内科学会 北海道地方会
54. 安藤 玲, 南部 桃子, 相馬 純, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2024年11月)
雷鳴頭痛を伴わなかった可逆性脳血管攣縮症候群(RCVS)の1例
第302回日本内科学会 北海道地方会
55. 宮崎 晴, 筒井 真博, 清水 要, 丸岡 純, 白倉 健太朗, 濑戸川 友紀, 宮本 寛之, 大久保 謙, 潮田 亮平, 高橋 昌吾, 竹吉 大輔, 國岡 信吾, 田村 駿, 橋口 隼太朗, 伊達 歩, 竹内 利治, 紙谷 寛之 (2024年11月)
長年のAFによる三尖弁輪拡大によって引き起こされた内科治療困難なTRに対して単独のTVRを施行した1例
第132回日本循環器学会 北海道地方会
56. 佐藤 有沙, 木谷 祐也, 田村 駿, 小尾 基記, 佐藤 朱夏, 橋口 隼太朗, 渡辺 葉, 徳野 翔太, 伊達 歩, 萩島 晓帆, 田邊 康子, 竹内 利治, 國岡 信吾, 筒井 真博, 紙谷 寛之, 中川 直樹 (2024年11月)
冠動脈狭窄及び大動脈弁狭窄を伴うペーシング誘発性心筋症に対し内科・外科的ハイブリッド治療を行った1例
第132回日本循環器学会 北海道地方会
57. 畑山 緑一, 池田 晃, 鈴木 勇太, 柴山 佳一郎, 平井 俊浩, 浅野目 晃, 鈴木 孝英, 貴田岡 享, 中川 直樹 (2024年11月)
ACS非責任病変に対するPCI前にエボロクマブを導入しPLAQUEの安定化を認めた1例
第132回日本循環器学会 北海道地方会
58. 田村 駿, 小尾 基記, 佐藤 朱夏, 橋口 隼太朗, 渡辺 葉, 徳野 翔太, 青沼 達也, 木谷 祐也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 齊藤 江里香, 萩島 晓帆, 田邊 康子, 竹内 利治, 國岡 信吾, 紙谷 寛之, 中川 直樹 (2024年11月)
重症僧帽弁閉鎖不全症を合併した大動脈弁狭窄症に対するTAVIの有効性についての検討
第132回日本循環器学会 北海道地方会
59. 渡辺 葉, 小尾 基記, 田村 駿, 佐藤 朱夏, 橋口 隼太朗, 徳野 翔太, 青沼 達也, 木谷 祐也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 萩島 晓帆, 田邊 康子, 竹内 利治, 中川 直樹 (2024年11月)
房室結節性リエントリー頻拍(AVNRT)との鑑別診断に苦慮した心房頻拍(AT)の1例
第132回日本循環器学会 北海道地方会
60. 三上 珠丹, 上北 和実, 小野 太祐, 丁子 清, 中川 直樹 (2024年11月)
深大腿動脈仮性瘤から出血遷延で大腿軟部組織への広範血腫形成に対し経皮的フィブリン糊局注が奏功した1例
第132回日本循環器学会 北海道地方会
61. 小尾 基記, 田村 駿, 佐藤 朱夏, 橋口 隼太朗, 渡辺 葉, 徳野 翔太, 青沼 達也, 木谷 祐也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 萩島 晓帆, 田邊 康子, 竹内 利治, 中川 直樹 (2024年11月)
嚥下失神に対してペースメーカ植え込み術を施行した1例
第132回日本循環器学会 北海道地方会
62. 橋口 隼太朗, 田村 駿, 小尾 基記, 佐藤 朱夏, 渡辺 葉, 徳野 翔太, 青沼 達也, 木谷 祐也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 萩島 晓帆, 田邊 康子, 竹内 利治, 中川 直樹 (2024年11月)
二度にわたる心房リード脱落を生じ、スクリューへの腱索付着が一因と考えられた1症例
第132回日本循環器学会 北海道地方会
63. 田邊 康子 (2024年11月)
ファロー四徴症心内修復術後に心室性不整脈を合併した症例
第132回日本循環器学会 北海道地方会

64. Kawabata N., Sakamoto N., Kubo Y., Tokuno S., Aonuma T., Kitani Y., Date A., Saito E., Minoshima A., Tanabe Y., Takeuchi T., Sato N., Nakagawa N. (Mar 2025)
A Case of Stage IIIb AL Amyloidosis in which Biventricular Global Longitudinal Strain was Significantly Improved by Dara-VCD Therapy.
第 89 回 日本循環器学会 学術集会
65. Kawaguchi S., Okada M., Minoshima A., Takeuchi T., Nakagawa N. (Mar 2025)
Short-term Prognosis of Patients with Ventricular Fibrillation-complicating Acute Coronary Syndrome: A Retrospective Study.
第 89 回 日本循環器学会 学術集会
66. 堀内 至, 石井 良直, 丸山 康介, 久木田 新, 鈴木 伸穂, 井川 貴行, 菅野 貴康, 中川 直樹 (2025 年 3 月)
Denopamine Improves Long-term Prognosis in Refractory Coronary Spastic Angina.
第 89 回 日本循環器学会 学術集会
67. 佐藤 有沙, 木谷 祐也, 田村 駿, 小尾 基記, 佐藤 朱夏, 橋口 隼太朗, 渡辺 桂, 徳野 翔太, 青沼 達也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 齊藤 江里香, 萩島 曜帆, 坂本 央, 田邊 康子, 竹内 利治, 中川 直樹, 國岡 信吾, 筒井 真博, 紙谷 寛之 (2025 年 3 月)
Hybrid Medical and Surgical Approach for Severe Heart Failure with Multiple Heart Diseases: a Case Report.
第 89 回 日本循環器学会 学術集会
68. Hatayama R., Sakamoto N., Kitani Y., Kawabata N., Minoshima A., Tanabe N., Takeuchi T., Sato N. (Mar 2025)
A Case of Severe Heart Failure Associated with Fabry Disease Successfully Treated with a Transcatheter Edge-to-Edge Mitral Valve Repair.
第 89 回 日本循環器学会 学術集会
69. 二階堂 麻悠子, 坂本 央, 笹木 理恵, 西中 麻里奈, 小林 朝香, 伊藤 栄祐, 河端 奈穂子, 齊藤 江里香, 中川 直樹, 佐藤 伸之 (2025 年 3 月)
緊急対応を可能とする技師による心電図診断と院内連絡体制構築の重要性
第 89 回 日本循環器学会 学術集会
70. 高橋 文彦, 小泉 雄人, 国兼 祐樹, 紙谷 寛之, 西條 泰明, 中川 直樹 (2025 年 3 月)
Epidemiology of Acute Aortic Dissection in a General Population of Rural Area of Hokkaido, Japan.
第 89 回 日本循環器学会 学術集会
71. 塩泡 優大, 竹内 健汰, 宮田 雅大, 木島 基, 松田 夏菜子, 塩越 隆広, 中川 直樹 (2025 年 3 月)
Pulmonary Artery Periadventitial Hematoma with Acute Aortic Dissection: A Case Report.
第 89 回 日本循環器学会 学術集会
72. 清水 未来, 南部 桃子, 相馬 純, 安藤 玲, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2025 年 3 月)
頭蓋内の腫瘍性病変を契機に神経梅毒と診断された 1 例
第 115 回 日本神経学会 北海道地方会
73. 安藤 玲, 南部 桃子, 相馬 純, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹, 内田 大貴 (2025 年 3 月)
Steal 症候群による低還流後に脳過還流症候群(CHS)を生じた診断に苦慮した 1 例
第 115 回 日本神経学会 北海道地方会
74. 相馬 純, 南部 桃子, 安藤 玲, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2025 年 3 月)
抗 AMPA 受容体抗体脳炎を合併した胸腺腫合併全身型重症筋無力症の 1 例
第 115 回 日本神経学会 北海道地方会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
中川 直樹	継続	基盤研究(C)	急性腎障害から慢性腎臓病進展における Dicer の役割解明と新規治療標的の探索
青沼 達也	継続	若手研究	乳癌患者におけるトラスツズマブ関連心毒性の新規バイオマーカー lncRNA の探索
蓑島 曜帆	継続	若手研究	冠動脈プラーク内血管の三次元解析によるプラーク不安定化に関わる血管形成因子の同定

内科学講座

(呼吸器・脳神経内科学分野)

Department of Internal Medicine

(Division of Respiratory Medicine and Neurology)

所属教員等

内科学講座（呼吸器・脳神経内科学分野）

准教授 佐々木 高明
特任教授 長内 忍
特任助教 志垣 涼太
客員助教 吉田 遼平
客員助教 鹿野 耕平

内科（呼吸器・脳神経）

講師 澤田 潤
講師(学内) 南 幸範
診療助教 菊地 史織
特命助教 安藤 玲

感染制御部

助教 梅影 泰寛

研究業績紹介

<呼吸器内科>

先進的かつ多角的な教育・研究活動を展開しており、臨床の現場で得られたクリニカルクエスチョンにこたえるための研究成果を、学会発表から学術論文へとつなげる「基礎と臨床の一貫した研究指導」を大きな特色としています。

2024年度においても、肺癌をはじめとした呼吸器疾患に関する多施設共同研究や観察研究、医師主導治験、企業治験など、多岐にわたる研究活動が展開されました。中でも、がんゲノム解析やデジタルPCRを用いた遺伝子解析、薬物血中動態の解析と副作用との関連研究は、個別化医療の推進に向けて大きな成果を上げています。

また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関しては、実臨床から得られたデータをもとに、治療薬の有効性やワクチン接種率と予後との関連性について解析を行い、複数の学会・学術誌で発表を行いました。

さらに、吉田遼平客員助教を中心として、AMED若手研究費を獲得し、「免疫チェックポイント阻害薬の抵抗性に関する研究」を推進しています。本研究では、基礎的な病態解明から多施設共同臨床研究へと展開しており、今後の肺癌治療の新たな方向性を示すものとして注目されています。

これらの活動を通じて、より効果的かつ安全な個別化治療の確立を目指すとともに、次世代の呼吸器専門医および研究者の育成にも大きく貢献しています。

<神経内科>

臨床の中で得られた経験や知見をもとに、日常診療に還元できるような臨床研究を中心に学術活動に取り込んでいる。澤田潤講師を中心に、悪性腫瘍に合併した脳梗塞における臨床的特徴に関して、学会や学術誌で報告した。また炎症性筋疾患の臨床的特徴、てんかんや電気生理学的検査に関する検討、重症筋無力症などの神経自己免疫性疾患に関する検討を、それぞれ学会で報告した。

総説・解説

1. Dai A., Sasaki T. (Mar 2025)
Optimizing Long-Term Treatment with ALK Inhibitors: Balancing Efficacy and Safety.
Transl Lung Cancer Res. 14(3): 657-661

2. 福泉 彩, 赤松 弘朗, 朝倉 啓介, 小暮 啓人, 植原 里江, 新納 英樹, 山田 忠明, 佐々木 高明, 竹中 朋祐, 田中 謙太郎, 田中 雄悟, 野津田 泰嗣, 秦 明登, 福井 麻里子, 古本 秀行, 土田 正則 (2024年6月)
2023年度日本肺癌学会会員におけるアーリーキャリアに関するアンケート調査結果
肺癌 64: 151-157
3. 八木田 あかり, 南 幸範 (2024年9月)
【希少肺疾患はどこまで解明されたか】Hermansky-Pudlak 症候群について(解説)
呼吸器内科 (1884-2887)45巻4号 Page398-401(2024.04)

論文

1. Ohsaki Y., Sasaki T., Umekage Y., Yanada H., Ishikawa M., Yoshida R. (Feb 2025)
Real-World Treatment Outcomes in the First and Subsequent Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Hospital Clusters.
Cureus 14;17(2): e78981
2. Kida R., Nitanai K., Yagita A., Naraoka T., Yanada H., Shigaki R., Tenma T., Mori C., Umekage Y., Mitsumoto M., Tanino M., Minami Y., Sasaki T. (Nov 2024)
Viability and Diagnostic Potential of Tissues Obtained Through Cryobiopsy.
Respir Investig. 62(6): 1220-1226
3. Lu S., Guo A., Hu H., Ying X., Li Y., Huang Z., Xu W., Tao S., Hu X., Yan N., Zhang X., Shen D., Sasaki T., Arulananda S., Onodera K., He Z. (Jun 2024)
Correlation analysis between driver gene mutation and clinicopathological features in lung adenocarcinoma based on real-world cumulative clinical data.
Transl Lung Cancer Res 30;13(6): 1296-1306
4. Yoshida, R., Sasaki T., Ohsaki, Y. (May 2024)
Real-world efficacy of ensitrelvir in hospitalized patients with covid-19 in Japan: a retrospective observational study.
Cureus 16(5): e61048
5. Morimoto K., Yamada T., Hirai S., Katayama Y., Fukui S., Sawada R., Tachibana Y., Matsui Y., Nakamura R., Ishida M., Kawachi H., Kunimasa K., Sasaki T., Nishida M., Furuya N., Watanabe S., Shiotsu S., Nishioka N., Horinaka M., Sakai T., Uehara H., Yano S., Son BK., Tokuda S., Takayama K. (Apr 2024)
AXL signal mediates adaptive resistance to KRAS G12C inhibitors in KRAS G12C-mutant tumor cells.
Cancer Lett. 10;587: 216692
6. Morinaga D., Hashimoto K., Asahina H., Tanaka H., Honjo O., Harada T., Yokouchi H., Kikuchi H., Shigaki R., Takashina T., Nakamura K., Kawai Y., Takahashi M., Kida R., Sukoh N., Ito K., Takahashi A., Hommura H., Ohhara Y., Furuta M., Konno S., Hosomi Y., Oizumi S. (Mar 2025)
Prognostic impact of oligometastasis in older patients with extensive-stage small cell lung cancer.
Respir Investig. 63(3): 373-382.
7. Hashimoto K., Morinaga D., Asahina H., Ishidoya M., Kikuchi H., Yokouchi H., Harada T., Honjo O., Shigaki R., Takashina T., Fujita Y., Takahashi M., Kawai Y., Kida R., Ito K., Sukoh N., Takahashi A., Hommura F., Ohhara Y., Furuta M., Konno S., Hosomi Y., Oizumi S. (Sep 2024)
Synchronous Oligometastasis and Oligoprogression as a Prognostic Marker in Patients With Extensive-Stage SCLC Treated With a Combination of Immune-Checkpoint Inhibitor and Chemotherapy (HOT2301).
JTO Clin Res Rep. 7;5(11): 100715.
8. Sawada J., Katayama T., Kikuchi-Takeguchi S., Kano K., Saito M., Mitsui N., Hiroshima S., Kinoshita M., Nakagawa N. (Jun 2024)
Clinical features and prognostic factors of patients with cancer-associated stroke.
Neurol Sci 45(6) 2747-2757

9. Tarisawa M., Matsushima M., Kudo A., Sakushima K., Kanatani Y., Nishimoto N., Sawada J., Matsuoka T., Hisahara S., Uesugi H., Minami N., Sako K., Takei A., Tamakoshi A., Sato N., Sasaki H., Yabe I. (Nov 2024)
The Movement Disorder Society Criteria: Its Clinical Usefulness in Multiple System Atrophy.
Intern Med 63(21) 2903-2912
10. Katayama T., Takahashi K., Yahara O., Matuura I., Fukuda Y., Kawasaki S., Kuroda K., Kimura T., Sawada J. (Nov 2024)
Relationship between the Tortuosity of the Extracranial Internal Carotid and Vertebral Arteries on Magnetic Resonance Imaging/Angiography and Vascular Risk Factors in a Japanese Population.
Intern Med 63(21): 2895-2901

症例報告

1. Nagasue K., Kida R., Yishida R., Sasaki T., et al. (Oct 2024)
A Case of Chronic Myeloid Leukaemia During Treatment for Lung Adenocarcinoma Contributing to Cancer Treatment.
Oncology Letters. 25;29(1): 31

著書

1. 長内 忍 (2025 年 2 月)
XI 全身性疾患による肺病変. 腎不全, 透析患者の肺合併症
呼吸器疾患最新の治療 pp351-355

研究発表

1. 八木田 あかり, 志垣 涼太, 梅影 泰寛, 南 幸範, 長内 忍, 佐々木 高明 (2024 年 6 月)
胸水貯留症例に対する局所麻酔下胸腔鏡下クリオ生検の有用性と安全性の臨床的検討
第 46 回 日本呼吸器内視鏡学会 学術集会
2. 木田 涼太郎, 志垣 涼太, 梅影 泰寛, 南 幸範, 長内 忍, 佐々木 高明 (2024 年 6 月)
クリオ生検検体でフローサイトメトリーは可能か?
第 46 回 日本呼吸器内視鏡学会 学術集会
3. 梁田 啓, 志垣 涼太, 梅影 泰寛, 南 幸範, 長内 忍, 佐々木 高明 (2024 年 6 月)
当院における経気管支クリオバイオプシーの有用性と安全性の検討
第 46 回 日本呼吸器内視鏡学会 学術集会
4. 天満 紀之, 南 幸範, 佐々木 高明 (2024 年 4 月)
ICIs 抵抗性 KRAS 肺がんの新規免疫療法の開発
第 64 回 日本呼吸器学会 学術講演会
5. 南 幸範, 志垣 涼太, 梅影 泰寛, 長内 忍, 佐々木 高明 (2024 年 4 月)
2022 年と 2017 年の喘息患者における治療ステップとコントロール状況の評価
第 64 回 日本呼吸器学会 学術講演会
6. 吉田 遼平 (2024 年 4 月)
肺癌の薬剤耐性に関するトランスレーショナルリサーチ AMED への挑戦と成果
第 64 回 日本呼吸器学会 学術講演会
7. 梁田 啓, 志垣 涼太, 梅影 泰寛, 南 幸範, 長内 忍, 佐々木 高明 (2024 年 12 月)
すりガラス陰影や蜂巣肺を呈し,間質性肺疾患との鑑別に苦慮した浸潤性粘液産生性肺腺癌の 1 例
第 64 回 日本肺癌学会 学術集会
8. Sawada J., Souma J., Ando R., Uemura T., Kikuchi S., Nakagawa N. (May 2024)
Clinical Features and Prognostic Factors of Patients with Cancer-associated Stroke.
第 65 回 日本神経学会 学術大会
9. 相馬 純, 安藤 玲, 植村 友裕, 菊地 史織, 澤田 潤 (2024 年 5 月)
難治性重症筋無力症患者 6 症例の臨床的特徴の検討
第 65 回 日本神経学会 学術大会

10. 植村 友裕, 相馬 純, 安藤 玲, 菊地 史織, 澤田 潤, 坂本 央, 中川 直樹 (2024年5月)
心筋生検で診断された野生型トランスサイレチンアミロイドーシス9例の臨床的検討
第65回日本神経学会 学術大会
11. 菊地 史織, 相馬 純, 安藤 玲, 植村 友裕, 澤田 潤, 中川 直樹, 西野 一三 (2024年5月)
抗ミトコンドリアM2抗体陽性筋炎と臓器合併症に関する臨床的検討
第65回日本神経学会 学術大会
12. 安藤 玲, 相馬 純, 植村 友裕, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2024年5月)
当院で経験したてんかん重積状態を呈した患者8例の臨床的検討
第65回日本神経学会 学術大会
13. 相馬 純, 南部 桃子, 安藤 玲, 植村 友裕, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2024年9月)
腎移植後に悪性高血圧症による全脊髄病変を伴う可逆性後頭葉白質脳症を呈した1例
第114回日本神経学会 北海道地方会
14. 南部 桃子, 善積 春奈, 相馬 純, 安藤 玲, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2024年11月)
免疫能低下のない成人に発症したヒトヘルペスウイルス6型(HHV-6)髄膜脳炎の例
第302回日本内科学会 北海道地方会
15. 安藤 玲, 南部 桃子, 相馬 純, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2024年11月)
雷鳴頭痛を伴わなかった可逆性脳血管攣縮症候群(RCVS)の1例
第302回日本内科学会 北海道地方会
16. 清水 未来, 南部 桃子, 相馬 純, 安藤 玲, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹 (2025年3月)
頭蓋内の腫瘍性病変を契機に神経梅毒と診断された1例
第115回日本神経学会 北海道地方会
17. 安藤 玲, 南部 桃子, 相馬 純, 菊地 史織, 澤田 潤, 中川 直樹, 内田 大貴 (2025年3月)
Steal症候群による低還流後に脳過還流症候群(CHS)を生じた診断に苦慮した1例
第115回日本神経学会 北海道地方会
18. 相馬 純、南部桃子、安藤玲、菊地史織、澤田潤、中川直樹
抗AMPA受容体抗体脳炎を合併した胸腺腫合併全身型重症筋無力症の1例
第115回日本神経学会 北海道地方会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
佐々木 高明	延長	基盤研究(C)	がんゲノム構造異常による、がん遺伝子の活性化メカニズムに関する研究
鹿野 耕平	継続	若手研究	骨格筋組織維持における毛細血管幹細胞の多分化能を規定するNinjurin1の役割
吉田 遼平	新規	基盤研究(C)	EGFR肺がんの新規免疫標的分子の発見と機能解明

内科学講座
(内分泌・代謝・膠原病内科学分野)

Department of Internal Medicine
(Division of Endocrinology, Metabolism, and Rheumatology)

所属教員等

内科学講座（内分泌・代謝・膠原病内科学分野）

教 授 野本 博司
准 教 授 滝山 由美
助 教 橘内 博哉

内科（内分泌・代謝・膠原病）

講 師 岡本 健作
助 教 川幡 智樹
診療助教 滝山 貴央

地域共生医育統合センター

教 授 牧野 雄一

救 急 科

助 教 藤代 大介

研究業績紹介

各教員・大学院生はそれぞれの研究内容を国内外に広く発信し、さらに各グループ員は各種学会において、症例検討を中心に日々の診療からの知見を積極的に発表している。内分泌・代謝疾患ならびに膠原病のいずれの領域においても、日常診療で看過されうる病態を適切に診断し、しっかりと精査を行い発表していくことは肝要である。希少な病態については論文化を目指し、一方で日々の診療から生まれた課題や疑問を、今後の臨床研究やトランスレーショナルリサーチの基盤とすべく、鋭意尽力していきたい。

総説・解説

1. 野本 博司 (2025年3月)
2型糖尿病に合併した高中性脂肪血症のマネジメント～PARM-T2D研究より～
北海道内科医会会誌 24 44-46
2. 野本 博司 (2025年1月)
脂肪肝が併存する糖尿病患者への治療薬のチョイス
medicina 62(1) 118-121

論文

1. Kawahata T., Tanaka K., Oyama K., Ueda J., Okamoto K., Makino Y. (May 2024)
HIF3A gene disruption causes abnormal alveoli structure and early neonatal death.
PLoS One 19(5) e0300751
2. Furusawa S., Nomoto H., Oba-Yamamoto C., Takeuchi J., Ito M., Kurihara H., Aoki S., Miya A., Kameda H., Nakamura A., Atsumi T. (Jun 2024)
Real-world clinical evidence of oral semaglutide on metabolic abnormalities in subjects with type 2 diabetes: a multicenter retrospective observational study (the Sapporo-Oral SEMA study).
Endocr J 71(6) 603-616
3. Miyamoto M., Nakamura A., Miya A., Nomoto H., Kameda H., Cho KY., Iwahara N., Hotta K., Shinohara N., Atsumi T. (Aug 2024)
Normalization of impaired glucose tolerance after kidney transplantation is associated with improved beta-cell function.
Am J Physiol Endocrinol Metab 327(2) E194-E202

4. Oe Y., Nomoto H., Cho KY., Yokozeki K., Ono T., Miya A., Kameda H., Nakamura A., Arimura Y., Atsumi T. (Jul 2024)
Efficacy and safety of oral semaglutide in older patients with type 2 diabetes: a retrospective observational study (the OTARU-SEMA study).
BMC Endocr Disord 24(1) 124
5. Shigesawa I., Nakamura A., Yamauchi Y., Kawata S., Miyazaki A., Nomoto H., Kameda H., Terauchi Y., Atsumi T. (Sep 2024)
Effects of glucokinase haploinsufficiency on the pancreatic β -cell mass and function of long-term high-fat, high-sucrose diet-fed mice.
J Diabetes Investig 15(12) 1732-1742
6. Matsumoto K., Goto M., Kamikokura Y., Takasawa K., Kobayashi N., Aoyama T., Murakami T., Kamikokura M., Ikechi Y., Kawahata T., Tanaka K., Takatori S., Fujishiro D., Okamoto K., Makino Y., Nishikawa Y., Takasawa A. (Aug 2024)
Molecular and ultrastructural morphological analyses of highly metamorphosed *Aspergillus fumigatus* on human formalin-fixed paraffin-embedded tissue.
Medical Molecular Morphology 57(4) 326-332
7. Takahashi A., Nomoto H., Yokoyama H., Yokozeki K., Furusawa S., Oe Y., Kameda R., Kawata S., Miyoshi A., Nagai S., Miya A., Kameda H., Nakamura A., Atsumi T. (Dec 2024)
Efficacy of imeglimin treatment versus metformin dose escalation on glycemic control in subjects with type 2 diabetes treated with a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor plus low-dose metformin: A multicenter, prospective, randomized, open-label, parallel-group comparison study (MEGMI study).
Diabetes Obes Metab 27(3) 1466-1476
8. Kitsunai H., Shinozaki Y., Furusawa S., Kitao N., Ito M., Kurihara H., Oba-Yamamoto C., Takeuchi J., Nakamura A., Takiyama Y., Nomoto H. (Jan 2025)
The Effect of Oral Semaglutide on Hepatic Fibrosis in Subjects with Type 2 Diabetes in Real-World Clinical Practice: Post-Hoc Analysis of the Sapporo-Oral SEMA Study.
Pharmaceuticals (Basel) 18(1) 129
9. Nomoto H., Furusawa S., Yokoyama H., Suzuki Y., Izumihara R., Oe Y., Takahashi K., Miya A., Kameda H., Cho KY., Takeuchi J., Kurihara Y., Nakamura A., Atsumi T. (Feb 2025)
Improvement of β -Cell Function After Switching From DPP-4 Inhibitors to Oral Semaglutide: SWITCH-SEMA2 Post-Hoc Analysis.
J Clin Endocr Metab 110(3) e583-e591

研究発表

1. 川幡 智樹, 萩野 久美子, 池知 佑太, 田中 来, 藤代 大介, 岡本 健作, 牧野 雄一 (2024年4月)
全身性エリテマトーデス(SLE)の加療中に *Helicobacter equorum*(*H.equorum*) - like Bacterium による菌血症を来した一例
第68回日本リウマチ学会 総会・学術集会
2. 片山 耕, 田中 来, 川幡 智樹, 池知 佑太, 牧野 雄一 (2024年4月)
関節破壊進行リスクが高い関節リウマチに対するオゾラリズマブの短期成績
第68回日本リウマチ学会 総会・学術集会
3. 片山 耕, 田中 来, 川幡 智樹, 池知 佑太, 牧野 雄一 (2024年4月)
アダリムマブ BS 皮下注製剤の短期成績
第68回日本リウマチ学会 総会・学術集会
4. 片山 耕, 田中 来, 川幡 智樹, 池知 佑太, 牧野 雄一 (2024年4月)
MTX 減量時フレアの予測因子はベースライン mTSS であり減量継続例より1年後の関節破壊が進行しやすい
第68回日本リウマチ学会 総会・学術集会
5. 片山 耕, 田中 来, 川幡 智樹, 池知 佑太, 牧野 雄一 (2024年4月)
関節リウマチにおけるMTX皮下注射治療は新しいフェーズ1治療となりうる
第68回日本リウマチ学会 総会・学術集会
6. 片山 耕, 田中 来, 川幡 智樹, 池知 佑太, 牧野 雄一 (2024年4月)
サリルマブによる手指および中大関節破壊抑制効果の検討
第68回日本リウマチ学会 総会・学術集会

7. 片山 耕, 田中 来, 川幡 智樹, 池知 佑太, 牧野 雄一 (2024 年 4 月)
手部に骨髓浮腫をともなう関節破壊型 RA にたいする JAK 阻害剤の関節破壊抑制効果
第 68 回 日本リウマチ学会 総会・学術集会
8. 高井 千夏, 藤岡 泉, 後藤 美賀子, 矢嶋 宣幸, 磯島 咲子, 渥美 達也, 佐川 昭, 古崎 章, 安田 泉, 近祐次郎, 大西 勝憲, 種市 幸二, 吉村 大, 勝俣 一晃, 藤枝 雄一郎, 岡本 健作, 田中 来, 竹田 剛, 笠原 英樹, 柴田 悠平, 村島 温子 (2024 年 4 月)
若年世代を対象とした関節リウマチ患者レジストリ(PRAISE-H)の設立
第 68 回 日本リウマチ学会 総会・学術集会
9. 片山 耕, 田中 来, 川幡 智樹, 池知 佑太, 牧野 雄一 (2024 年 4 月)
CSDMARD 治療関節リウマチにおける手部 MRI 骨髓浮腫は Rapid Radiographic Progression の危険因子となりうる
第 68 回 日本リウマチ学会 総会・学術集会
10. 片山 耕, 田中 来, 川幡 智樹, 池知 佑太, 牧野 雄一 (2024 年 4 月)
ゴリムマブにおける長期投与継続例の検討
第 68 回 日本リウマチ学会 総会・学術集会
11. 池知 佑太, 藤代 大介, 荻野 久美子, 田中 来, 川幡 智樹, 岡本 健作, 牧野 雄一 (2024 年 4 月)
腹腔内出血を契機に分節性動脈中膜融解症(SAM)が疑われた顕微鏡的多発血管炎(MPA)の一例
第 68 回 日本リウマチ学会 総会・学術集会
12. 野本 博司, 泉原 里美, 千葉 幸輝, 中村 昭伸, 水上 浩哉, 渥美 達也 (2024 年 5 月)
糖尿病臍 β 細胞の細胞内代謝リモデリング～種族間・個体間の差異の観点から～
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
13. 古澤 翔, 野本 博司, 横山 宏樹, 鈴木 柚香, 横関 恵, 安井 彩乃, 泉原 里実, 大江 悠希, 高橋 清彦, 宮 愛香, 亀田 啓, 曹 圭龍, 中村 昭伸, 渥美 達也 (2024 年 5 月)
DPP-4 阻害薬から経口セマグルチドへの切替えによる肝脂肪化・線維化指標の改善効果: SWITCH-SEMA2 study post-hoc 解析
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
14. 重沢 郁美, 中村 昭伸, 宮崎 あすか, 山内 裕貴, 川田 晋一朗, 野本 博司, 亀田 啓, 寺内 康夫, 渥美 達也 (2024 年 5 月)
グルコキナーゼヘテロ欠損が食餌誘導性肥満・糖尿病モデルマウスにおける臍 β 細胞機能・量の経時的变化に与える影響
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
15. 千葉 幸輝, 野本 博司, 泉原 里美, 亀田 啓, 中村 昭伸, 渥美 達也 (2024 年 5 月)
糖尿病病態下の臍 β 細胞における解糖系酵素 PFKFB3 の抑制はインスリン分泌および耐糖能を増悪させる
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
16. 泉原 里美, 野本 博司, 千葉 幸輝, 亀田 啓, 中村 昭伸, 水上 浩哉, 渥美 達也 (2024 年 5 月)
糖尿病臍 β 細胞内のエネルギー代謝変化と臍の線維化所見との関連の検討
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
17. 鈴木 柚香, 宮 愛香, 中村 昭伸, 山田 慎一, 半田 喬久, 大江 悠希, 川田 晋一朗, 馬場 菜月, 関崎 知紀, 高瀬 崇宏, 野本 博司, 亀田 啓, 永井 聰, 渥美 達也 (2024 年 5 月)
2 型糖尿病における内因性インスリン分泌と血糖変動指標の推移との関係
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
18. 滝山 侑里, 平間 凜, 佐々木 大河, 宿田 夕季, 滝山 貴央, 土井田 貴美子, 栗垣 彩華, 橋内 博哉, 滝山 由美, 野本 博司 (2024 年 5 月)
糖尿病腎症における Metallothionein3/Klotho/FGFRs Pathway
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
19. 宿田 夕季, 平間 凜, 滝山 侑里, 佐々木 大河, 滝山 貴央, 土井田 貴美子, 栗垣 彩華, 橋内 博哉, 滝山 由美 (2024 年 5 月)
妊娠糖尿病における Small for Gestational Age 児出生関連母体因子の検討
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会

20. 野本 博司, 古澤 翔, 横山 宏樹, 鈴木 柚香, 横関 恵, 安井 彩乃, 泉原 里実, 大江 悠希, 高橋 清彦, 宮 愛香, 亀田 啓, 曹 圭龍, 中村 昭伸, 渥美 達也 (2024年5月)
DPP-4 阻害薬から経口セマグルチドへの切替えは膵β細胞機能を改善させる: SWITCH-SEMA2 post-hoc 解析
第67回日本糖尿病学会 年次学術集会
21. 宮 愛香, 中村 昭伸, 鈴木 柚香, 山田 慎一, 半田 喬久, 大江 悠希, 川田 晋一朗, 馬場 菜月, 関崎 知紀, 高瀬 崇宏, 野本 博司, 亀田 啓, 永井 聰, 渥美 達也 (2024年5月)
2型糖尿病における内因性インスリン分泌と内臓脂肪, 骨格筋量が血糖変動に及ぼす影響とこれらの相互関係
第67回日本糖尿病学会 年次学術集会
22. 高橋 明広, 野本 博司, 大西 錦之介, 鈴木 柚香, 古澤 翔, 宮本 麻唯子, 萬田 悟, 宮 愛香, 亀田 啓, 中村 昭伸, 渥美 達也 (2024年5月)
メトホルミン治療下の2型糖尿病患者へのイメグリミン追加投与はメトホルミン增量に比し血糖変動が改善する: 前向き観察研究
第67回日本糖尿病学会 年次学術集会
23. 野本 博司 (2024年7月)
糖尿病早期薬物治療「是」の立場から
第11回JADEC 年次学術集会
24. 宿田 夕季, 南部 孝, 佐藤 翼, 滝山 侑里, 佐々木 大河, 滝山 貴央, 栗垣 彩華, 橋内 博哉, 滝山 由美, 野本 博司 (2024年10月)
当院におけるSGLT2阻害薬継続患者に対する術後血中ケトン体モニタリングの取組み
第58回日本糖尿病学会 北海道地方会
25. 南部 孝, 橋内 博哉, 佐藤 翼, 滝山 侑里, 佐々木 大河, 宿田 夕季, 滝山 貴央, 栗垣 彩華, 滝山 由美, 野本 博司 (2024年10月)
慢性硬膜下血腫によりセルフケアが困難となり血糖が増悪した高齢2型糖尿病の一例
第58回日本糖尿病学会 北海道地方会
26. 佐々木 大河, 南部 孝, 佐藤 翼, 滝山 侑里, 宿田 夕季, 滝山 貴央, 栗垣 彩華, 橋内 博哉, 滝山 由美, 野本 博司 (2024年10月)
選択的副甲状腺静脈サンプリングにて局在診断を行った高カルシウム血症の3例
第24回日本内分泌学会 北海道支部学術集会
27. 滝山 侑里, 鶴見 千紘, 南部 孝, 佐藤 翼, 佐々木 大河, 宿田 夕季, 滝山 貴央, 栗垣 彩華, 橋内 博哉, 高橋 秀一郎, 滝山 由美, 野本 博司 (2024年10月)
潰瘍性大腸炎に副腎悪性リンパ腫を併発し、副腎皮質機能低下症へ至った2例
第24回日本内分泌学会 北海道支部学術集会
28. 番場 洸一, 藤代 大介, 大野 翼, 池知 佑太, 川幡 智樹, 田中 来, 岡本 健作, 牧野 雄一 (2024年10月)
筋痛・筋力低下を初発症状とした好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例
第34回日本リウマチ学会 北海道・東北支部学術集会
29. 大野 翼, 池知 佑太, 田中 来, 番場 洸一, 安藤 玲, 川幡 智樹, 藤代 大介, 岡本 健作, 牧野 雄一, 野本 博司 (2024年11月)
脳波検査が診断に有用であった、クリプトコッカス髄膜炎の治療中に発症したセフェピム脳症の1例
日本内科学会 第302回 北海道地方会
30. 佐藤 翼, 南部 孝, 滝山 侑里, 佐々木 大河, 宿田 夕季, 滝山 貴央, 栗垣 彩華, 橋内 博哉, 滝山 由美, 野本 博司 (2024年11月)
低K血性ミオパチーを契機に診断した原発性アルドステロン症の1例
第34回臨床内分泌代謝 Update
31. 野本 博司 (2025年1月)
糖尿病診療に必要な知識「血糖上昇をきたしうる薬剤とその対応」
第59回 糖尿病学の進歩
32. 長谷川 尚吾, 橋内 博哉, 南部 孝, 丸山 二美可, 佐藤 翼, 滝山 侑里, 宿田 夕季, 滝山 貴央, 滝山 由美, 野本 博司 (2025年2月)
副腎結節の精査の結果診断されたACTH依存性クッシング症候群(クッシング病)の1例
日本内科学会 第303回 北海道地方会

33. 千葉 幸輝, 野本 博司, 泉原 里美, 亀田 啓, 中村 昭伸, 渥美 達也 (2025年3月)
糖尿病病態下の膵 β 細胞における解糖系酵素 PFKFB3 活性化の生理学的意義の解明
第38回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会
34. 滝山 侑里, 滝山 由美, 南部 孝, 丸山 二美可, 佐藤 翼, 宿田 夕季, 滝山 貴央, 栗垣 彩華, 橘内 博哉, 野本 博司 (2025年3月)
糖尿病腎症における Metallothionein 3 の役割
第38回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会
35. 滝山 貴央, 滝山 由美, 南部 孝, 丸山 二美可, 佐藤 翼, 滝山 侑里, 宿田 夕季, 橘内 博哉, 野本 博司 (2025年3月)
胎生期発生脂肪肝炎/肝癌モデルマウスにおける SGLT2 阻害薬の治療効果: 低酸素応答と metabolic rewiring の是正
第38回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会
36. 泉原 里美, 野本 博司, 千葉 幸輝, 亀田 啓, 中村 昭伸, 渥美 達也 (2025年3月)
膵 β 細胞における TGF- β シグナルを介した PFKFB3 発現亢進は膵線維化に関連する
第38回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
野本 博司	継続	基盤研究(C)	細胞内代謝変化から探る糖尿病膵 β 細胞の病態解明と膵神経内分泌腫瘍への治療応用
滝山 由美	継続	基盤研究(C)	糖尿病循環障害: 血流动態的変動指標の確立
橘内 博哉	再々延長	若手研究	MRI 拡散強調画像法を用いた糖尿病腎症診断法の開発

内科学講座
(消化器内科学分野)

Department of Internal Medicine
(Division of Gastroenterology)

所属教員等

内科学講座（消化器内科学分野）

教 授	藤谷	幹浩
教 授	水上	裕輔
准 教 授	盛一	健太郎
講 師	高橋	賢治
助 教	河端	秀賢
助 教	高橋	慶太郎

内科（消化器）

准 教 授	麻生	和信
講 師	澤田	康司
講師(学内)	嘉島	伸
助 教	安藤	勝祥
助 教	長谷部	拓夢
助 教	太田	雄

腫瘍センター

教授(病院) 田邊 裕貴

保健管理センター

講 師 北野 陽平

総合診療部

講師(学内) 上野 伸展

救急科

助 教 岩本 英孝

寄附講座（消化器疾患病態学講座）

特任助教 坂谷 慧

共同研究講座（消化器先端医学講座）

特任助教 小西 弘晃

研究業績紹介

消化器内科は、消化管・胆膵・肝臓の各グループにおいて日常診療を精力的に行い、数多くの臨床研究を進めている。また基礎研究を幅広く行っており、そこから得られた知見を臨床の現場に役立たせることができるように日夜研究を進めている。得られたデータは国際学会や全国学会を中心に幅広く行っており、また早急に論文化し公表している。2024年度は講座全体で英語論文は40編であり、十分に研究成果を公表することができた。また若手医師の指導を精力的に行い、国内外の学会で発表ができる体制を整えている。今後も臨床・基礎研究を継続して行っていく。

総説・解説

1. Sato H., Kawabata H., Iwamoto H., Okada T., Fujibayashi S., Takahashi K., Kitano Y., Goto T., Mizukami Y., Okumura T., Fujiya M. (Apr 2024) A New Gel Immersion Endoscopic Ultrasonography Technique for Accurate Periampullary Evaluation. *Surg Endosc* 38(4): 2297-2304

2. Naganuma M., Nakamura N., Kunisaki R., Matsuoka K., Yamamoto S., Kawamoto A., Saito D., Kobayashi T., Nanki K., Narimatsu K., Shiga H., Esaki M., Yoshioka S., Kato S., Saruta M., Tanaka S., Yasutomi E., Yokoyama K., Moriya K., Tsuzuki Y., Ooi M., Fujiya M., Nakazawa A., Takagi T., Omori T., Tahara T., Hisamatsu T.; Japanese UC Study Group (Apr 2024)
Medical treatment selection and outcomes for hospitalized patients with severe ulcerative colitis as defined by the Japanese criteria.
J Gastroenterol 59(4): 302-314
3. Kojima K., Konishi H., Momosaki K., Komatani Y., Katsuyama A., Nakagawa K., Kanamitsu K., Yakushiji F., Fujiya M., Ichikawa S. (Apr 2024)
Synthesis and Biological Evaluation of Echinomycin Analogues as Potential Colon Cancer Agent.
Sci Rep 14(1): 7628
4. Ando K., Fujiya M., Ueno N., Ito T., Maemoto A., Nasuno M., Tanaka H., Sakurai K., Katsurada T., Orii F., Ashida T., Motoya S., Kazama T., Yokoyama Y., Hirayama D., Nakase H. (Apr 2024)
Effectiveness and Persistency of Ustekinumab Treatment for Ulcerative Colitis: A Phoenix retrospective Cohort Study.
Crohn's & Colitis 360 6(2): otae024
5. Takahashi K., Iwama T., Tanaka K., Miyazawa Y., Kuroda S., Horiuchi M., Saito S., Muto M., Sakatani A., Ando K., Ueno N., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Okumura T., Fujiya M. (May 2024)
Risk factors for post-colorectal endoscopic submucosal dissection bleeding and efficacy of carbazochrome sodium sulfonate: A multicenter retrospective cohort study.
Digestion 22: 1-10
6. Takahashi K., Inuzuka T., Shimizu Y., Sawamoto K., Taniue K., Ono Y., Asai F., Koyama K., Sato H., Kawabata H., Iwamoto H., Yamakita K., Kitano Y., Teramoto T., Fujiya M., Fujii S., Mizukami Y., Okumura T. (May 2024)
Liquid biopsy for pancreatic cancer by serum extracellular vesicle-encapsulated long non-coding RNA HEVEPA.
Pancreas 53(5): e395-e404
7. Ueno N., Saito S., Sato M., Sugiyama Y., Kobayashi Y., Murakami Y., Sugimura K., Sasaki T., Sakatani A., Takahashi K., Tanaka K., Serikawa S., Ando K., Kashima S., Muto M., Inaba Y., Moriichi K., Tanabe H., Okumura T., Fujiya M. (Jun 2024)
The clinical efficacy and safety of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in patients with Crohn's disease: A multicenter retrospective pilot study.
Therapeutic Apheresis and Dialysis 28(3): 442-452
8. Takahashi K., Sasaki T., Ueno N., Maguchi H., Tachibana S., Hayashi R., Kobayashi Y., Sugiyama Y., Sakatani A., Ando K., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Harada K., Yuzawa S., Ichihara S., Okumura T., Fujiya M. (Jun 2024)
White ring sign is useful for differentiating between fundic gland polyp and gastric adenocarcinoma of fundic gland type.
Endosc Int Open 6;12(6): E723-E731
9. Sugiyama Y., Takahashi K., Sasaki T., Ueno N., Watanabe H., Iribe K., Sekiguchi S., Tachibana S., Kobayashi Y., Ando K., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Yuzawa S., Fujiya M. (Aug 2024)
Comparison of diagnostic accuracy between linked color imaging and autofluorescence imaging in patients with ulcerative colitis: a prospective observational study.
J Gastroenterol Hepatol 39(8): 1606-1612
10. Rubin DT., Allegretti JR., Panés J., Shipitofsky N., Yarandi SS., Huang KG., Germinaro M., Wilson R., Zhang H., Johanns J., Feagan BG., Hisamatsu T., Lichtenstein GR., Bressler B., Peyrin-Biroulet L., Sands BE., Dignass A.; QUASAR Study Group. (Jan 2025)
Guselkumab in patients with moderately to severely active ulcerative colitis (QUASAR): phase 3 double-blind, randomised, placebo-controlled induction and maintenance studies.
Lancet 405(10472): 33-49, 2025.

11. Sugiyama Y., Konishi H., Dokoshi T., Tanaka H., Kobayashi Y., Sasaki T., Yamamoto K., Sakatani A., Takahashi K., Ando K., Ueno N., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Okumura T., Fujiya M. (Jan 2025) hsa_circ_0015388 reduces macrophage derived reactive oxygen species in Crohn's disease. **Inflammatory Bowel Diseases** Online ahead of print.
12. Akiyama S., Hayashi R., Takasago T., Kusunoki K., Ikeuchi H., Takenaka K., Watanabe K., Koganei K., Ueno N., Fujiya M., Hosoe N., Koyama F., Sakata Y., Esaki M., Takeuchi K., Naganuma M., Tsuchiya K. (Mar 2025) Prevalence and Predictability of the Chicago Classification of Pouchitis in Ulcerative Colitis: A Multicenter Study in Japan. **J Gastroenterol** Online ahead of print.
13. Takahashi K., Iwama T., Tanaka K., Miyazawa Y., Kuroda S., Horiuchi M., Saito S., Muto M., Ando K., Ueno N., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Fujiya M. (Mar 2025) Comparison of traction vs. snare as rescue methods for challenging colorectal endoscopic submucosal dissection: A propensity score-matched study. **Endosc Int Open** 13: a25443279
14. 河端 秀賢, 湯澤 明夏, 高橋 賢治, 谷野 美智枝, 水上 裕輔 (2024年7月) EUS-FNA/B 検体を用いた分子・ゲノム診断の現状 **膵臓** 39(5): 316-324
15. 小山 一也, 高橋 賢治, 小野 裕介, 河端 秀賢, 水上 裕輔 (2024年7月) 膵腫瘍の分子多様性～病態の不均一性を紐解く～リキッドバイオプシー解析から見た膵癌の分子多様性 **胆と膵** 45(7): 681-688
16. 高橋 賢治, 水上 裕輔, 藤谷 幹浩 (2025年3月) 特集: 先進的手法を用いた消化器がん検診の可能性 マルチレイヤー核酸解析による膵癌早期診断の可能性 **日本消化器がん検診学会雑誌** 63(2): 70-82, 2025
17. Makuuchi M., Kakuta Y., Umeno J., Fujii T., Takagawa T., Ibuka T., Miura M., Sasaki Y., Takahashi S., Nakase H., Kiyohara H., Tominaga K., Shimodaira Y., Hiraoka S., Ueno N., Yanai S., Yoshihara T., Kakimoto K., Matsuoka K., Hayashi R., Nanjo S., Iwama I., Ishiguro Y., Chiba H., Endo K., Kagaya T., Fukuda T., Sakata Y., Kudo T., Takagi T., Takahashi K., Naganuma M., Shinozaki M., Ogata N., Tanaka H., Narimatsu K., Miyazaki H., Ishige T., Onodera M., Hashimoto Y., Nagai H., Shimoyama Y., Naito T., Moroi R., Shiga H.; Post-MENDEL study group; Kinouchi Y., Andoh A., Hisamatsu T., Masamune A. (Jun 2024) Real-world NUDT15 genotyping and thiopurine treatment optimization in inflammatory bowel disease: a multicenter study. **J Gastroenterol** 59(6): 468-482
18. Nakase H., Wagatsuma K., Kobayashi T., Matsumoto T., Esaki M., Watanabe K., Kunisaki R., Takeda T., Arai K., Ibuka T., Ishikawa D., Matsuno Y., Sakuraba H., Ueno N., Yokoyama K., Saruta M., Hokari R., Yokoyama J., Tamano S., Nojima M., Hisamatsu T.; MEFV-IBDU Group (Dec 2024) Involvement of Mediterranean fever gene mutations in colchicine-responsive enterocolitis: a retrospective cohort study. **EBioMedicine**. 110: 105454

論文

1. 川中 美和, 藤井 英樹, 岩城 慶大, 林 秀樹, 豊田 秀徳, 大枝 敏, 兵庫 秀幸, 森下 朝洋, 宗景 玄祐, 川田 一仁, 堤 翼, 澤田 康司, 前城 達次, 飛田 博史, 吉田 雄一, 内藤 雅文, 荒木 亜寿香, 新垣 伸吾, 川口 巧, 則武 秀尚, 小野 正文, 正木 勉, 安田 哲, 富田 栄一, 米田 正人, 徳重 明央, 鎌田 佳宏, 高橋 宏和, 植田 真一郎, 相島 慎一, 角田 圭雄, 岡上 武, 中島 淳, Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD) (2024年7月) 奈良宣言(ALT over 30)のMASLD (metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease)における臨床的意義の検証 **肝臓** 65.185-191

2. Nouso K., Kawanaka M., Fujii H., Kariyama K., Toyoda H., Iwaki M., Hayashi H., Oeda S., Hyogo H., Morishita A., Munekage K., Kawata K., Tsutsumi T., Sawada K., Maeshiro T., Tobita H., Yoshida Y., Naito M., Araki A., Arakaki S., Kawaguchi T., Noritake H., Ono M., Masaki T., Yasuda S., Tomita E., Yoneda M., Tokushige A., Kamada Y., Takahashi H., Ueda S., Aishima S., Sumida Y., Nakajima A., Kumada T., Okanoue T., On behalf of the Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD) (Apr 2024)
Validation Study of Age-independent Fibrosis Score (Fibrosis-3 Index) in Patients with Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease.
Hepatol Res 54: 912-920
3. Tsusumi T., Kawaguchi T., Fujii H., Kamada Y., Takahashi H., Kawanaka M., Sumida Y., Iwaki M., Hayashi H., Toyoda H., Oeda S., Hyogo H., Morishita A., Munekage K., Kawata K., Sawada K., Maeshiro T., Tobita H., Yoshida Y., Naito M., Araki A., Arakaki S., Noritake H., Ono M., Masaki T., Yasuda S., Tomita E., Yoneda M., Tokushige A., Ueda S., Aishima S., Nakajima A., Okanoue T. (Jun 2024)
Hepatic Inflammation and Fibrosis are Profiles Related to Mid-Term Mortality in Biopsy-Proven MASLD: A Multicenter Study in Japan.
Aliment Pharmacol Ther. 59: 1559-1570
4. Kamada Y., Fujii H., Suzuki Y., Sawada K., Tatsuta M., Maeshiro T., Tobita H., Tsutsumi T., Akahane T., Hasebe C., Kawanaka M., Kessoku T., Eguchi Y., Syokita H., Nakajima A., Kamada T., Yoshiji H., Kawaguchi T., Sakugawa H., Morishita A., Masaki T., Ohmura T., Watanabe T., Yoda Y., Enomoto N., Ono M., Fuyama K., Okada K., Nishimoto N., Ito M. Y., Takahashi H., Sumida Y., Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD) (Aug 2024)
Clinical characteristics of steatotic liver disease categories in a large cohort of Japanese health checkup participants.
Gastro Hep Advances 2024: 1148-1156
5. 大竹晋, 麻生和信, 岡田充巧, 太田雄, 林秀美, 中嶋駿介, 長谷部拓夢, 澤田康司, 藤谷幹浩 (2024年7月)
造影USによる肝癌の流出血流評価
RadFan 22巻8号 38-40
6. 大竹晋, 麻生和信, 太田雄, 林秀美, 中嶋駿介, 長谷部拓夢, 澤田康司, 藤谷幹浩 (2025年1月)
進行肝細胞癌の薬物療法における造影3D超音波の有用性
RadFan 23巻2号 16-18
7. Okabe M., Yamamoto S., Shiokawa M., Hisamatsu T., Yamazaki H., Nakanishi R., Hamada K., Kitamoto H., Kuwada T., Uza N., Sakatani A., Fujii T., Ohno M., Matsuura M., Shibuya T., Ohmiya N., Ooi M., Hoshi N., Moriya K., Tsuchiya K., Yamaguchi Y., Kunisaki R., Takahara M., Takagi T., Takehara T., Hirai F., Kakimoto K., Esaki M., Nakase H., Kinjo F., Torisu T., Kanmura S., Narimatsu K., Matsuoka K., Hiraga H., Yokoyama K., Honzawa Y., Naganuma M., Saruta M., Kodama Y., Chiba T., Seno H. (Jan 2025)
Anti-integrin $\alpha v \beta 6$ antibody as a biomarker for diagnosing ulcerative colitis: a nationwide multicenter validation study.
J Gastroenterol. 60(1): 86-95
8. Mitsunaga S., Ikeda M., Ueno M., Kobayashi S., Tsuda M., Miki I., Kuwahara T., Hara K., Takayama Y., Matsunaga Y., Hanada K., Shimizu A., Yoshida H., Nomoto T., Takahashi K., Iwamoto H., Iwama H., Hatano E., Nakata K., Nakamura M., Sudo H., Takizawa S., Ochiai A. (Feb 2025)
Robust circulating microRNA signature for the diagnosis and early detection of pancreaticobiliary cancer.
BMC Medicine, in Press. Online ahead of print

9. Suzuki S., Omori Y., Ono Y., Hirose K., Itoh T., Karasaki H., Shimoda M., Nagakawa Y., Higuchi R., Endo I., Rikiyama T., Unno M., Fujii T., Sunagawa Y., Eguchi H., Sasanuma H., Akahori T., Okano K., Tani M., Hirano S., Shimizu Y., Kitago M., Mizuno S., Yamamoto T., Furukawa M., Ohtsuka M., Sugimoto M., Matsushita A., Hakamada K., Igarashi H., Kuroki T., Tanno S., Tsuji Y., Masamune A., Mizumoto K., Hirooka Y., Yamaue H., Okazaki K., Satoi S., Takeyama Y., Mizukami Y., Furukawa T. (Jul 2024)
Three Molecular Developmental Pathways of Remnant Pancreatic Cancer after Resection : A Nationwide Project Study of Japan Pancreas Society.
Annals of Surgery Online ahead of print
10. Tanaka J., Nakagawa T., Ono Y., Kamura Y., Ishida T., Kawabata H., Takahashi K., Sato H., Andrew S. Liss, Mizukami Y., Yokoi T. (Mar 2025)
Highly multiplexed digital PCR assay for simultaneous quantification of variant allele frequencies and copy number alterations of KRAS and GNAS in pancreatic cancer precursors.
Molecular Oncology Online ahead of print
11. Sugiura R., Kuwatani M., Kin T., Matsumoto R., Ikeda Y., Sano I., Hirata K., Yoshida M., Masaki Y., Ono M., Hirata H., Yamato H., Onodera M., Nakamura H., Taya Y., Ehira N., Nakajima M., Kawabata H., Ihara H., Kudo T., Kato S., Katanuma A., on behalf of Hokkaido Interventional EUS/ERCP study (HONEST) group (Apr 2024)
Risk factors for recurrent biliary obstruction following endoscopic biliary stenting in patients with unresectable ampullary cancer: A multicenter retrospective study.
Journal of digestive diseases 25(5): 310-317
12. Imaoka H., Ikeda M., Kobayashi S., Ohta A., Ueno M., Suzuki Y., Tsumura H., Kimura N., Kawaguchi S., Kawamoto Y., Nakachi K., Tsuji K., Kobayashi N., Ashida R., Okano N., Umemoto K., Murohisa G., Hosokawa A., Asagi A., Nebiki H., Suzuki R., Terashima T., Shibata R., Kawata K., Doi T., Ohyama H., Kitano Y., Shioji K., Okuyama H., Naganuma A., Negoro Y., Sakamoto Y., Shimizu S., Morizane C., Ueno M., Furuse J., Nagano H., the Japan Oncology Network in Hepatobiliary and Pancreas (Mar 2025)
Efficacy of liposomal irinotecan+5-FU/LV vs. S-1 in gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer: a real-world study using inverse probability of treatment weighting.
Journal of Gastroenterology 60(3): 356-367, 2025
13. 盛一 健太郎, 田中 一之, 野村 好紀, 小林 裕, 杉山 雄哉, 佐々木 貴弘, 坂谷 慧, 高橋 慶太郎, 安藤 勝祥, 上野 伸展, 嘉島 伸, 藤谷 幹浩 (2024年5月)
全大腸内視鏡検査における適切な検査間隔—内視鏡後大腸癌の検討から
日本消化器がん検診学会雑誌 62(3): 240-249

症例報告

1. Otake S., Ota Y., Aso K., Okada M., Hayashi H., Hasebe T., Nakajima S., Sawada K., Fujiya M., Okumura T. (Apr 2024)
Contrast-enhanced Ultrasonography Features for Diagnosing Pseudoprogression of Hepatocellular Carcinoma with Immunotherapy: A Case Report of the Response after Pseudoprogression.
Internal Medicine 63(8): 1093-1097
2. Sato H., Fujii S., Okada T., Kawabata H., Kamikokura Y., Fujiya M. (Nov 2024)
Small Insulinoma Followed-up as an Indolent Pancreatic Tumor: A Case Report.
Internal Medicine 63(21): 2929-2937
3. Tanabe H., Koshizuka Y., Tanaka K., Takahashi K., Ijiri M., Takahashi K., Ando K., Ueno N., Kashima S., Sarashina T., Moriichi K., Mitsube K., Mizukami Y., Fujiya M., Makita Y. (Dec 2024)
High-resolution genetic analysis of whole APC gene deletions: a report of two cases and patient characteristics.
Hum Genome Var 11(1): 46, 2024.
4. Sato H., Kawabata H., Fujiya M. (Jan 2025)
Gel immersion in endoscopy: Exploring potential applications.
World J Gastroenterol 31(4): 101288, 2025.

5. Koyama K., Iwamoto H., Takahashi K., Okada T., Kawabata H., Kitano Y., Tanabe H., Fujiya M., Okumura T., Mizukami Y. (Feb 2025)
Cognitive and ataxic adverse events following entrectinib treatment in NTRK1 fusion gene-positive intrahepatic cholangiocarcinoma: a case report.
Clin J Gastroenterol 18(1): 183-187, 2025.
6. Hayashi R., Ueno N., Watanabe H., Kobayashi Y., Sakatani A., Takahashi K., Yuzawa S., Ando K., Tani C., Kashima S., Shonaka T., Moriichi K., Tanabe H., Tanino M., Fujiya M. (Oct 2024)
Unresectable ulcerative colitis associated colon cancer in a young Japanese patient: A case report.
Internal Medicine Online ahead of print.
7. Kusumi Y., Hasebe T., Hayashi M., Kamikokura Y., Otake S., Hayashi H., Ota Yu., Nakajima S., Aso K., Sawada K., Tanino M., Fujiya M. (Mar 2025)
Hepatocellular carcinoma arising adjacent to antiphospholipid syndrome-associated hepatic infarction in a non-cirrhotic liver.
Internal Medicine Online ahead of print.
8. Kashima S., Kamikokura Y., Moriichi K. (Jan 2025)
Persistent Severe Abdominal Pain in a 40-Year-Old Male Patient.
Gastroenterology 168(1): e5-e8
9. 田村 ゆき穂, 澤田 康司, 室 和希, 大竹 晋, 林 秀美, 太田 雄, 中嶋 駿介, 長谷部 拓夢, 麻生 和信, 藤谷 幹浩 (2024年7月)
肝細胞癌に対する Atezolizumab + Bevacizumab 併用療法中の COVID-19 肺炎後に発症した irAE 肺障害の 1 例
肝臓 66. 39-46
10. Mizukami S., Imai K., Takahata H., Takahashi H., Shimada S., Kamikokura Y., Kawabata H., Tanino M., Mizukami Y., Yokoo H. (Sep 2024)
Serum IgG4-Negative Focal Autoimmune Pancreatitis Type 1 That Was Difficult to Diagnose Preoperatively Even with Frequent Endoscopic Ultrasound-Guided Fine-Needle Aspiration and Fine-Needle Biopsy: A Surgical Case Report.
Case Reports in Gastroenterology 18(1): 422-430.

研究発表

1. 武田 智宏, 庄中 達也, 牧野 開, 高畠 宏規, 島崎 龍太郎, 大原 みずほ, 谷 誓良, 北 健吾, 長谷川 公治, 小野 裕介, 水上 裕輔, 谷野 美智枝, 横尾 英樹, 角 泰雄 (2024年4月)
局所進行直腸癌における TP53, KRAS, SMAD4, その他の変異プロファイルと術前治療効果および予後との関連性
日本外科学会 定期学術集会
2. 大竹 晋, 麻生 和信, 太田 雄, 林 秀美, 中嶋 駿介, 長谷部 拓夢, 澤田 康司, 藤谷 幹浩, 湯澤 明夏, 市原 真 (2024年4月)
造影 3D 超音波が診断に有用であった炎症性肝細胞腺腫の 1 例
第 37 回 日本腹部造影エコー・ドプラ診断研究会
3. 安藤 勝祥, 上野 伸展, 藤谷 幹浩 (2024年5月)
骨格筋筋肉量や脂肪量から考えるクローネン病術後の経過と治療戦略
第 110 回 日本消化器病学会 総会
4. 伊藤 貴博, 前本 篤男, 横山 佳浩, 桂田 武彦, 安藤 勝祥, 藤谷 幹浩, 蘆田 知史, 那須野 正尚, 田中 浩紀, 仲瀬 裕志 (2024年5月)
潰瘍性大腸炎におけるトファシチニブの長期治療成績とその位置付け
第 110 回 日本消化器病学会 総会
5. 盛一 健太郎, 小林 裕, 藤谷 幹浩 (2024年5月)
大腸鋸歯状病変における分子基盤-遺伝子異常および尿中 microRNA の変化
第 110 回 日本消化器病学会 総会

6. Takahashi K., Mizukami Y. (May 2024)
 The 13th International Forum of The Japanese Society of Gastroenterology
 Main Theme: Precancerous lesions and conditions, and cancer prevention in Gastroenterology
 1.Pancreatobiliary cancer
 IF1-2; Crucial knowledge for early detection and prevention of pancreatic cancer: Genomic alterations and subtypes in precancerous lesions.
 第 110 回 日本消化器病学会 総会
7. 岡田 哲弘, 高橋 裕之, 小山 一也, 河端 秀賢, 岩本 英孝, 高橋 賢治, 今井 浩二, 横尾 英樹, 水上 裕輔 (2024 年 5 月)
 WS12-6 胆管癌の進展度診断における遺伝子変異解析の意義
 第 110 回 日本消化器病学会 総会
8. 唐崎 秀則, 水上 裕輔, 小野 裕介, 大森 優子, 古川 徹, 岩田 浩義, 大谷 将秀, 浅井 慶子, 稲葉 聰, 横尾 英樹 (2024 年 5 月)
 O-075 膵腫瘍の背景にある正常形態・低異型度膵管の多数箇所変異解析からわかること
 第 110 回 日本消化器病学会 総会
9. 大森 優子, 伊藤 泰斗, 小野 裕介, 高橋 賢治, 水上 裕輔, 古川 徹 (2024 年 5 月)
 WS11-1 [基調講演] 早期膵癌の病理学的知見
 第 110 回 日本消化器病学会 総会
10. 伊藤 泰斗, 大森 優子, 高橋 賢治, 國米 崇, 正宗 淳, 海野 倫明, 水上 裕輔, 古川 徹 (2024 年 5 月)
 WS11-8 高異型度 PanIN/膵上皮内癌・小径膵癌の分子進化モデル
 第 110 回 日本消化器病学会 総会
11. Moriichi K., Fujiya M., Kobayashi Y., Sugiyama Y., Sasaki T., Takahashi K., Sakatani A., Tanaka K., Ando K., Ueno N., Kashima S., Tanabe H. (May 2024)
 The combination of clinical biomarkers and microRNAs in the blood is useful for colorectal cancer surveillance.
 DDW2024
12. Sato H., Mori M., Oyama K., Tanaka H., Ono Y., Andrew Scott Liss, Mizukami Y. (May 2024)
 IL-6 IS A CRUCIAL MEDIATOR IN THE DEVELOPMENT OF PANCREATIC CANCER-INDUCED SARCOPENIA.
 DDW2024
13. 嘉島 伸, 小林 裕, 杉山 雄哉, 坂谷 慧, 高橋 慶太郎, 安藤 勝祥, 上野 伸展, 盛一 健太郎, 田邊 裕貴, 藤谷 幹浩 (2024 年 5 月)
 B 細胞性悪性リンパ腫診療における内視鏡検査の有用性と患者予後の関連の検討
 第 107 回 日本消化器内視鏡学会 総会
14. 高橋 慶太郎, 藤谷 幹浩 (2024 年 5 月)
 大腸 ESD 後出血のリスク因子とカルバゾクロムスルホン酸ナトリウムの止血効果の検討
 第 107 回 日本消化器内視鏡学会 総会
15. Sugiyama Y., Takahashi K., Fujiya M. (May 2024)
 Comparison of diagnostic accuracy between linked color imaging and autofluorescence imaging in patients with ulcerative colitis: a prospective observational study.
 第 107 回 日本消化器内視鏡学会 総会
16. Okada T., Takahashi K., Mizukami Y. (May 2024)
 Examination of the usefulness of gene mutation analysis in pancreatic juice for early diagnosis of pancreatic cancer through multicenter joint research.
 第 107 回 日本消化器内視鏡学会 総会
17. Kawabata H., Sato H., Mizukami Y. (Jun 2024)
 A successful case with a combination of EUS-PDD, EUS-PFD and EUS-CD for disconnected pancreatic duct syndrome.
 第 107 回 日本消化器内視鏡学会 総会

18. 田邊 裕貴, 笹川 穂の花, 湯澤 明夏, 小林 裕, 高橋 慶太郎, 坂谷 慧, 安藤 勝祥, 上野 伸展, 庄中 達也, 谷 誓良, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 谷野 美智枝, 水上 裕輔, 藤谷 幹浩, 若月 智和, 赤木 究, 蒔田 芳男, 奥村 利勝 (2024 年 5 月)
当院の大腸癌症例におけるリンチ症候群の発見契機の検討
日本遺伝性腫瘍学会 学術集会
19. 大竹 晋, 麻生 和信, 太田 雄, 林 秀美, 中嶋 駿介, 長谷部 拓夢, 澤田 康司, 水上 祐輔, 藤谷 幹浩 (2024 年 5 月)
肝癌薬物療法における造影 3DSMI による有効性評価について
日本超音波医学会 第 97 回 学術集会
20. 高橋 賢治, 水上 裕輔, 藤谷 幹浩 (2024 年 6 月)
核酸解析によるリキッドバイオプシーの膵癌診断臨床応用への可能性
第 63 回 日本消化器がん検診学会 総会
21. 坂谷 慧, 上野 伸展, 小林 裕, 高橋 慶太郎, 安藤 勝祥, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 藤谷 幹浩 (2024 年 6 月)
便潜血反応陽性を契機に発見された成人 Peutz-Jeghers 症候群の一例
第 63 回 日本消化器がん検診学会 総会
22. 高橋 賢治 (2024 年 6 月)
ノンコーディング RNA による膵胆道癌進展制御機構とリキッドバイオプシーへの臨床応用
北海道大学 消化器内科セミナー
23. 澤田 康司, 林 秀美, 藤谷 幹浩 (2024 年 6 月)
肝癌合併肝硬変症例に対する L-カルニチンの骨格筋低下抑制作用と IL-6 の関係
第 60 回 日本肝臓学会 総会
24. 田村 ゆき穂, 澤田 康司, 室 和希, 大竹 晋, 林 秀美, 太田 雄, 長谷部 拓夢, 中嶋 駿介, 麻生 和信, 藤谷 幹浩 (2024 年 6 月)
視神経脊髄炎に対するステロイドパルス療法により再活性化をきたした C 型慢性肝炎の 1 例
第 60 回 日本肝臓学会 総会
25. 水上 裕輔 (2024 年 6 月)
膵癌治療の強化を目指した札幌東徳洲会病院医学研究所の活動報告
第 12 回 ENDO CLUB (徳洲会部内発表)
26. 太田 雄, 麻生 和信, 大竹 晋, 林 秀美, 中嶋 駿介, 長谷部 拓夢, 澤田 康司, 横尾 英樹, 藤谷 幹浩 (2024 年 7 月)
レンバチニブ投与後に切除した肝細胞癌の 1 例: 造影 SMI を用いた腫瘍血管の非侵襲的可視化について
第 34 回 北海道肝がん研究会
27. 太田 雄, 麻生 和信, 大竹 晋, 林 秀美, 長谷部 拓夢, 中嶋 駿介, 澤田 康司, 岡田 充巧, 横尾 英樹, 藤谷 幹浩 (2024 年 7 月)
レンバチニブ投与後に切除した肝細胞癌の 1 例: 造影 Superb Microvascular Imaging による腫瘍血管の可視化
第 60 回 日本肝癌研究会
28. 久住 悠梨子, 河端 秀賢, 佐藤 裕基, 岡田 哲弘, 橘内 博哉, 今井 浩二, 上小倉 佑機, 湯澤 明夏, 藤谷 幹浩, 水上 裕輔 (2024 年 7 月)
経過中に異所性 ACTH 症候群・1 型糖尿病・甲状腺機能低下を来たした胆道神経内分泌癌の一例
第 301 回 日本内科学会 北海道支部例会
29. 佐藤 允洋, 上野 伸展, 藤谷 幹浩 (2024 年 7 月)
シンポジウム 3 「高齢発症潰瘍性大腸炎マネージメントの現状と課題」 高齢発症 UC 患者の診療における通院距離の妥当性に関する検討
第 26 回 日本高齢消化器病学会 総会
30. 伊藤 泰斗, 大森 優子, 小野 裕介, 高橋 賢治, 國米 崇, 政宗 淳, 海野 倫明, 水上 裕輔, 古川 徹 (2024 年 7 月)
高異型度 PanIN/膵上皮内癌・小径膵癌の分子進化モデル
第 55 回 日本膵臓学会 大会

31. 鈴木 修司, 大森 優子, 廣瀬 勝也, 小野 裕介, 唐崎 秀則, 下田 貢, 永川 裕一, 水上 裕輔, 古川 徹 (2024年7月)
残脾癌における先行脾癌との分子病理学的および臨床病理学的検討
第55回日本脾臓学会大会
32. 高橋 賢治, 小山 一也, 梶浦 麻未, 岡田 哲弘, 河端 秀賢, 岩本 英孝, 北野 陽平, 藤谷 幹浩, 奥村 利勝, 水上 裕輔 (2024年7月)
パネルディスカッション7 脾疾患のトランスレーショナル・リサーチ, マルチレイヤー核酸解析による脾癌リキッドバイオプシー体系の構築
第55回日本脾臓学会大会
33. 小山 一也, 岩本 英孝, 石黒 達也, 佐藤 裕基, 岡田 哲弘, 河端 秀賢, 高橋 賢治, 北野 陽平, 藤谷 幹浩, 水上 裕輔 (2024年8月)
当院における切除不能胆道癌に対する gemcitabine + cisplatin + durvalumab 療法の治療成績
第135回日本消化器病学会 北海道支部例会 / 第129回日本消化器内視鏡学会 北海道支部例会
34. 河端 秀賢, 佐藤 裕基, 岡田 哲弘, 高橋 賢治, 水上 裕輔 (2024年9月)
EUS-BDにおけるステント穿刺によるトラブルシューティング
第135回日本消化器病学会 北海道支部例会 / 第129回日本消化器内視鏡学会 北海道支部例会
35. 小山 一也, 岩本 英孝, 石黒 達也, 佐藤 裕基, 岡田 哲弘, 河端 秀賢, 高橋 賢治, 北野 陽平, 藤谷 幹浩, 水上 裕輔 (2024年9月)
当院における切除不能胆道癌に対する gemcitabine + cisplatin + durvalumab 療法の治療成績
第135回日本消化器病学会 北海道支部例会
36. 菅井 博達, 高橋 慶太郎, 久住 悠梨子, 泉 恭三, 久保田 寛之, 林 龍之介, 茅 一樹, 佐藤 允洋, 小林 裕, 坂谷 慧, 安藤 勝祥, 上野 伸展, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 田邊 裕貴, 藤谷 幹浩 (2024年9月)
横隔膜上憩室を合併した食道アカラシアに対して POEM を施行した2例
第127回日本消化器内視鏡学会 北海道支部例会
37. 石黒 達也, 河端 秀賢, 小山 一也, 大滝 有, 佐藤 裕基, 岡田 哲弘, 岩本 英孝, 高橋 賢治, 北野 陽平, 藤谷 幹浩, 水上 裕輔 (2024年9月)
慢性脾炎に伴う脾管破綻・脾液瘻に対し EUS-PD と EUS-CD の併用治療が有用であった一例
第135回日本消化器病学会 北海道支部例会
38. 林 龍之介 高橋 慶太郎, 藤谷 幹浩 (2024年9月)
大腸 ESD 治療困難例に対する救済治療の検討
第127回日本消化器内視鏡学会 北海道支部例会
39. 久住 悠梨子, 茅 一樹, 安藤 勝祥, 久保田 寛之, 林 龍之介, 佐藤 允洋, 小林 裕, 高橋 慶太郎, 坂谷 慧, 安藤 勝祥, 上野 伸展, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 田邊 裕貴, 藤谷 幹浩, 湯澤 明夏 (2024年9月)
慢性持続型潰瘍性大腸炎に合併した superficially serrated adenoma(SuSA)の1例
第127回日本消化器内視鏡学会 北海道支部例会
40. 大竹 晋, 麻生 和信, 太田 雄, 林 秀美, 中嶋 駿介, 長谷部 拓夢, 澤田 康司, 藤谷 幹浩 (2024年9月)
造影3D超音波による肝癌薬物療法の短期的評価
第53回超音波ドプラ・新技術研究会
41. 大竹 晋, 麻生 和信, 太田 雄, 林 秀美, 中嶋 駿介, 長谷部 拓夢, 澤田 康司, 藤谷 幹浩, 湯澤 明夏, 市原 真 (2024年9月)
造影3DSMIが診断に有用であった炎症性肝細胞腺腫の1例
日本超音波医学会 第54回北海道地方会学術集会
42. Konishi H., Murakami Y., Satake N., Fujiya M. (Sep 2024)
Probiotic-derived heptelidic acid demonstrates therapeutic efficacy against pediatric B-cell acute lymphoblastic leukemia.
第83回日本癌学会 学術総会
43. 前田 知歩, 小野 裕介, 高橋 賢治, 岩本 英孝, 河端 秀賢, 小山 一也, 水上 裕輔 (2024年9月)
Six-colored fluorescent multiplex digital PCR assay to detect driver mutations associated with pancreatic carcinogenesis.
第83回日本癌学会 学術総会
44. 水上 裕輔 (2024年9月)
Diagnostic and therapeutic framework based on risk factors for pancreatic cancer.
第83回日本癌学会 学術総会

45. Takeda Y., Sawada K., Otake S., Hayashi H., Ota Y., Hasebe T., Nakajima S., Aso K., Fujiya M. (Sep 2024)
Long-term L-carnitine supplementation suppresses skeletal muscle mass loss by decreasing the expression of interleukin-6 in patients with hepatocellular carcinoma.
APASL Oncology
46. 河端 秀賢, 佐藤 裕基, 水上 裕輔 (2024 年 10 月)
胆管癌の合併を念頭に置いた PSC に対する新しい内視鏡戦略
第 60 回 日本胆道学会 学術集会
47. 岡田 哲弘, 高橋 賢治, 水上 裕輔 (2024 年 10 月)
胆管癌診断時の生検検体における遺伝子変異解析の意義
第 60 回 日本胆道学会 学術集会
48. 山本昌代, 進藤基博, 佐々木 礼奈, 向井 頌之, 船山 拓也, 鷺見 千紘, 斎藤 豪志, 畑山 真弓, 佐藤 一也, 小野 裕介, 水上 裕輔, 高橋 秀一郎 (2024 年 10 月)
RAS/BRAF 遺伝子変異が初発多発性骨髄腫の予後に及ぼす影響に関する検討
第 86 回 日本血液学会 学術集会
49. 麻生 和信 (2024 年 10 月)
造影エコーによるコロナサインの描出法
日本肝臓学会 School of Hepatology in Matsuyama
50. 茅一樹, 上野 伸展, 坂谷 慧, 安藤 勝祥, 盛一 健太郎, 藤谷 幹浩 (2024 年 10 月)
無症候期クローリー病におけるカルプロテクチンを用いた小腸粘膜治癒診断と再燃予測
第 62 回 日本小腸学会 学術集会
51. 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 藤谷 幹浩 (2024 年 10 月)
悪性リンパ腫消化管病変における PET-CT の診断能の解析
第 45 回 日本大腸肛門病学会 北海道支部例会
52. 水上 裕輔 (2024 年 10 月)
『ミニレクチャー』「リスクファクターに基づく膵癌サーベイラス」
第 32 回 若手膵臓研究会
53. 小山 一也, 高橋 賢治, 岡田 哲弘, 河端 秀賢, 岩本 英孝, 北野 陽平, 藤谷 幹浩, 水上 裕輔 (2024 年 10 月)
膵液由来遊離核酸を用いた膵癌リキッドバイオプシーシステムの構築
第 32 回 若手膵臓研究会
54. 岡田 哲弘, 高橋 賢治, 小山 一也, 河端 秀賢, 岩本 英孝, 北野 陽平, 藤谷 幹浩, 水上 裕輔 (2024 年 10 月)
胆管癌診断時の生検検体を用いた遺伝子変異解析の意義と有用性の検証
第 32 回 若手膵臓研究会
55. 澤田 康司, 大村 卓味, 藤谷 幹浩 (2024 年 10 月)
特別企画 1-6 「奈良宣言から 1 年半が経って」健診における MASLD 拾い上げ～FIB-4 index と奈良宣言の組み合わせ～
JDDW2024
56. 上野 伸展, 坂谷 慧, 安藤 勝祥, 藤谷 幹浩 (2024 年 10 月)
医療者における炎症性腸疾患患者に向けた両立支援制度の認知度調査
JDDW2024
57. 安藤 勝祥, 嘉島 伸, 坂谷 慧, 小西 弘晃, 浜上 堅一, 石黒 佳織, 藤谷 幹浩 (2024 年 10 月)
大腸組織におけるリンパ球の免疫表現型と vedolizumab の有効性との関連
JDDW2024
58. 高橋 慶太郎, 藤谷 幹浩 (2024 年 10 月)
樹枝状血管拡張を伴う隆起性病変に対する白色環状構造の有用性
JDDW2024
59. 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 藤谷 幹浩 (2024 年 10 月)
検診上部消化管検査にて発見された胃粘膜下腫瘍における診断治療の検討
JDDW2024

60. 高橋 賢治, 磯本 一, 水上 裕輔 (2024 年 11 月)
ワークショップ 16 未来の膵胆道癌診療に向けた基礎研究と臨床研究の融合, 膵液由来遊離核酸を用いたマルチレイヤー膵癌体液診断法の開発 (第一報)
第 32 回 日本消化器関連学会週間 (JDDW)
61. 臺一樹, 上野 伸展, 久保田 寛之, 林 龍之介, 佐藤 允洋, 小林 裕, 高橋 慶太郎, 坂谷 慧, 安藤 勝祥, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 田邊 裕貴, 藤谷 幹浩 (2024 年 11 月)
IBD 患者に発生した大腸癌の臨床的検討
第 15 回 日本炎症性腸疾患学会 学術集会
62. 安藤 勝祥, 嘉島 伸, 坂谷 慧, 小西 弘晃, 浜上 堅一, 石黒 佳織, 藤谷 幹浩 (2024 年 11 月)
大腸組織の遺伝子発現解析による vedolizumab 効果予想モデルの構築
第 15 回 日本炎症性腸疾患学会 学術集会
63. 伊藤 貴博, 前本 篤男, 上野 伸展, 藤谷 幹浩, 蘆田 知史, 平山 大輔, 横山 佳浩, 本谷 聰, 那須野 正尚, 田中 浩紀, 桂田 武彦, 仲瀬 裕志 (2024 年 11 月)
クローン病治療におけるウステキヌマブの長期治療成績
第 15 回 日本炎症性腸疾患学会 学術集会
64. 岩山 訓典, 橋浦 一哉, 大滝 康一, 上野 伸展, 藤谷 幹浩 (2024 年 11 月)
炎症性腸疾患患者に対する服薬指導の実態調査
第 15 回 日本炎症性腸疾患学会 学術集会
65. 佐藤 允洋, 上野 伸展, 久保田 寛之, 林 龍之介, 臺一樹, 小林 祐, 坂谷 慧, 安藤 勝祥, 嘉島 伸, 藤谷 幹浩 (2024 年 11 月)
IBD 患者の通院負担や診療待ち時間に関する実態調査
第 15 回 日本炎症性腸疾患学会 学術集会
66. 坂谷 慧, 安藤 勝祥, 上野 伸展, 伊藤 貴博, 前本 篤男, 野村 朝子, 桂田 武彦, 横山 佳浩, 那須野 正尚, 田中 浩紀, 折居 史佳, 蘆田 知史, 本谷 聰, 藤谷 幹浩, 仲瀬 裕志 (2024 年 11 月)
潰瘍性大腸炎に対する JAK 阻害剤 3 剤の有用性と安全性の検討 ~Phoenix cohort のデータから~
第 15 回 日本炎症性腸疾患学会 学術集会
67. 上野 伸展, 佐藤 允洋, 坂谷 慧, 安藤 勝祥, 藤谷 幹浩 (2024 年 11 月)
IBD 患者に対する両立支援確立に向けた医療者向け教育システムの有用性検証
第 15 回 日本炎症性腸疾患学会 学術集会
68. 長谷川 紗希, 太田 千尋, 工藤 莉奈, 楽天 洋美, 上野 伸展, 藤谷 幹浩 (2024 年 11 月)
炎症性腸疾患患者を対象にした看護師の両立支援の実施状況の調査
第 15 回 日本炎症性腸疾患学会 学術集会
69. 林 龍之介, 安藤 勝祥, 久保田 寛之, 臺一樹, 佐藤 允洋, 小林 裕, 坂谷 慧, 高橋 慶太郎, 上野伸展, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 田邊 裕貴, 藤谷 幹浩 (2024 年 11 月)
炎症性腸疾患に合併する腸管外悪性腫瘍の現状と予後の検討
第 15 回 日本炎症性腸疾患学会 学術集会
70. 河端 秀賢 (2024 年 11 月)
ERCP における十二指腸乳頭処置の基本と偶発症対処法
第 38 回 日本消化器内視鏡学会 北海道セミナー
71. 大竹 晋, 麻生 和信, 太田 雄, 林 秀美, 中嶋 駿介, 長谷部 拓夢, 澤田 康司, 藤谷 幹浩, 湯澤 明夏, 谷野 美智枝 (2024 年 11 月)
肝エキノコックス症と鑑別が困難であった肝内胆管癌の 1 例
第 23 回 北海道腹部造影エコー・ドプラ診断研究会
72. 高橋 賢治 (2024 年 11 月)
膵臓がんの早期診断へ向けて
令和 6 年度 旭川医科大学 感謝の集い
73. 小西 弘晃, 久野木 健仁, 安藤 勝祥, 上野 伸展, 久保田 寛之, 林 龍之介, 臺一樹, 佐藤 充洋, 小林 裕, 坂谷 慧, 高橋 慶太郎, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 田辺 裕貴, 藤谷 幹浩 (2024 年 12 月)
乳酸菌由来フェリクロームは食道癌細胞に対して抗腫瘍効果を発揮する
第 61 回 日本消化器免疫学会 総会

74. 澤田 康司, 藤谷 幹浩 (2024 年 12 月)
当院における肝炎ウイルス陽性者の受診勧奨～HCV 抗体陽性者への受診勧奨の効率化とその成果～
第 45 回 日本肝臓学会 東部会
75. 藤井 大翔, 澤田 康司, 上野 伸展, 安藤 勝祥, 大竹 晋, 林 秀美, 太田 雄, 長谷部 拓夢, 麻生 和信, 中島 駿介, 高橋 祐之, 島田 慎吾, 横尾 英樹, 藤谷 幹浩 (2024 年 12 月)
Crohn 病に対して azathioprine, infliximab 投与中に発症した肝硬変非合併肝細胞癌の 2 切除例
第 45 回 日本肝臓学会 東部会
76. Ono Y., Takahashi K., Takeda Y., Yamashita T., Sakamoto Y., Maeda C., Suzuki M., Isomoto H., Mizukami Y. (Dec 2024)
Liquid Biopsy targeted for measurement of long non-coding RNA expression combined with mutation profiles in pancreatic juice from pancreatic adenocarcinoma.
APA/JPS/CAP/IAP 2024 Annual Meeting
77. Takahashi K., Asai F., Ono Y., Shimizu Y., Koyama K., Otaki Y., Sato H., Okada T., Kawabata H., Iwamoto H., Kitano Y., Inuzuka T., Fujiya M., Mizukami Y. (Dec 2024)
The Clinical Application of Extracellular Vesicle Encapsulated RNA Panel as Liquid Biopsy for Pancreatic Cancer Diagnosis.
APA/JPS/CAP/IAP 2024 Annual Meeting
78. Itoh T., Omori Y., Ono Y., Okumura Y., Takahashi K., Kokumai T., Honda G., Hanada K., Shimizu Y., Nakamura M., Itoh K., Endo M., Katayose Y., Kinoshita K., Masamune A., Unno M., Mizukami Y., Furukawa T. (Dec 2024)
Molecular Evolutionary Model of Early Pancreatic Cancer.
APA/JPS/CAP/IAP 2025 Annual Meeting
79. 田中 宏樹, 水上 裕輔, 澤田 康司, 長谷部 拓夢, 後藤 正憲, 藤井 裕美子, 高澤 啓 (2024 年 12 月)
Tumor-educated platelets の蛋白質合成能の増強による肝発がん促進
第 9 回 Gastro-PLUS
80. 田邊 裕貴, 水上 裕輔, 蒔田 芳男 (Jan 2025)
進行大腸癌のがん遺伝子パネル検査では指摘されない APC 遺伝子全欠失を伴う家族性大腸腺腫症
第 11 回 消化管ポリポーラス研究会 学術集会
81. 澤田 康司, 鈴木 充希, 菊池 しのぶ, 藤谷 幹浩 (2025 年 3 月)
当院における肝炎ウイルス陽性者の受診勧奨の現状とその成果
第 136 回 日本消化器病学会 北海道支部例会
82. Konishi H., Sato H., Tanaka H., Sakatani A., Moriichi K., Fujiya M. (Mar 2025)
Lactobacillus-derived ferrichrome exerts antitumor efficacy through programmed cell death induction.
appw 2025
83. 小西 弘晃, 盛一 健太郎, 藤谷 幹浩 (2025 年 3 月)
Clostridium butyricum が產生する Butyrate は多発性骨髄腫の進行を抑制する
第 145 回 日本薬学会
84. 上野 伸展, 藤谷 幹浩 (2025 年 2 月)
無症候期クローニ病に対する小腸カプセル内視鏡とバイオマーカーを用いた再燃予測の有用性
第 18 回 日本カプセル内視鏡学会 学術集会
85. 佐藤 允洋, 嘉島 伸, 上野 伸展, 藤谷 幹浩 (2025 年 3 月)
高齢発症潰瘍性大腸炎患者の診療における通院距離と重症度・治療内容に関する検討
第 136 回 日本消化器病学会 北海道支部例会
86. 菅井 博達, 上野 伸展, 久保田 寛之, 林 龍之介, 墓 一樹, 佐藤 允洋, 小林 裕, 堂腰 達矢, 坂谷 慧, 高橋 慶太郎, 安藤 勝祥, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 田邊 裕貴, 藤谷 幹浩 (2025 年 3 月)
周期性発熱を伴わない家族性地中海熱の 1 例
第 136 回 日本消化器病学会 北海道支部例会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
水上 裕輔	新規	基盤研究(B)	腫瘍発癌素地の成り立ちと浸潤癌の芽の発生機構に基づく腫瘍早期診断
嘉島 伸	延長	基盤研究(C)	アレルギー疾患におけるプロバイオティクス由来抗アレルギー物質による新規治療開発
藤谷 幹浩	延長	基盤研究(C)	腸管外疾患治療に有効な有益菌由来分子の同定と作用機序解明に基づく新薬開発基盤研究
岩本 英孝	継続	基盤研究(C)	血漿遊離核酸マルチレイヤー解析の自己免疫性腫炎診断・活動性評価への応用
盛一 健太郎	継続	基盤研究(C)	有益菌由来活性分子を用いた新規バレット食道癌予防・治療法開発の基盤研究
長谷部 拓夢	新規	基盤研究(C)	肝硬変における血小板機能変化の可能性と治療標的の探索
高橋 賢治	新規	基盤研究(C)	腫瘍分子サブタイプに関わる ncRNA の探索と分子診断および創薬への応用
安藤 勝祥	新規	基盤研究(C)	炎症性腸疾患における Circular RNA-RNA 結合蛋白相互作用の解析
高橋 慶太郎	延長	若手研究	SGPL1 遺伝子変異を標的とした新規大腸癌治療の開発
小西 弘晃	継続	若手研究	有益微生物由来分子を用いた小児白血病治療薬の開発の基盤研究
坂谷 慧	継続	若手研究	宿主および菌由来分泌小胞を介した腸管-細菌相互作用の解明と消化器疾患病態への関与
太田 雄	継続	若手研究	プロバイオティクス由来の免疫活性物質による新規肝癌免疫療法の開発
河端 秀賢	新規	若手研究	GNAS・KRAS のクロストークによる腫瘍進展機序解明と治療標的の探索
小西 弘晃	継続	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A)）	プロバイオティクス由来抗腫瘍活性物質を応用した新規小児がん治療薬開発の基盤研究
水上 裕輔	継続	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	ヒト腫瘍の発生・進化ルートの再現による早期診断戦略

内科学講座
(血液内科学分野)

Department of Internal Medicine
(Division of Hematology)

所属教員等

内科学講座（血液内科学分野）

助 教 番山 真弓

内科（血液）

講 師 高橋 秀一郎
助 教 山本 昌代

寄附講座（地域医療支援および専門医育成推進講座）

特任講師 進藤 基博

研究業績紹介

内科学講座 血液内科学分野では、急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髓腫などの造血器腫瘍から骨髓異形成症候群、再生不良性貧血などの骨髓不全症候群、免疫性血小板減少症、自己免疫性溶血性貧血などの免疫異常に起因する血液疾患、凝固線溶異常、HIV感染症など幅広い診療を行っております。このような様々な疾患の診療を通して得られたリサーチクエスチョンを基礎研究および臨床研究で解明し、臨床に還元する姿勢を大事にし、Physician-scientist の養成を目指しています。

現在当科として取り組んでいる基礎研究としては、多発性骨髓腫における遺伝子変異の解析とリキッドバイオプシーの臨床応用についての検討があります。その他、臨床検体やマウスモデルを用いた、造血器腫瘍に対する各種治療と免疫パラメーターの解析に取り組んで参りたいと考えております。

臨床研究については、北海道内および道外の多数の施設が参加している北日本血液研究会のネットワークを活用して、悪性リンパ腫および多発性骨髓腫の臨床研究を立案し、取り組んできたいと考えております。

日々の診療を大切にしながら、将来の医療の発展のために必要不可欠な基礎研究および臨床研究の発展を目指し、医学の発展に貢献できるように研究活動を続けて参ります。

論文

1. Takahashi S., Simone A. Minnie, Kathleen S. Ensbey, Christine R. Schmidt, Sekiguchi T., Samuel R. W. Legg, Ping Zhang, Koyama M., Stuart D. Olver, Alika D. Collinge, Sara Keshmiri, Melissa L. Comstock, Antiopi Varelias, Damian J. Green, Geoffrey R. Hill (Apr 2024)
Regulatory T cells suppress myeloma-specific immunity during autologous stem cell mobilization and transplantation.
Blood 143(16): 1656-1669
2. Simone A. Minnie, Olivia G. Waltner, Ping Zhang, Takahashi S., Nicole S. Nemychenkov, Kathleen S. Ensbey, Christine R. Schmidt, Samuel R. W. Legg, Melissa Comstock, Julie R. Boiko, Ethan Nelson, Shruti S. Bhise, Alec B. Wilken, Koyama M., Madhav V. Dhodapkar, Marta Chesi, Stanley R. Riddell, Damian J. Green, Andrew Spencer, Scott N. Furlan, Geoffrey R. Hill (Apr 2024)
TIM-3+ CD8 T cells with a terminally exhausted phenotype retain functional capacity in hematological malignancies.
Science Immunology 9(94): eadg1094

3. Yewei Wang, Md Ashik Ullah, Olivia G Waltner, Shruti S Bhise, Kathleen S Ensbey, Christine R. Schmidt, Samuel R. Legg, Sekiguchi T., Ethan L. Nelson, Rachel D. Kuns, Nicole S. Nemychenkov, Erden Atilla, Albert C. Yeh, Takahashi S., Julie R. Boiko, Antiopi Varelias, Bruce R. Blazar, Koyama M., Simone A. Minnie, Andrew D. Clouston, Scott N. Furlan, Ping Zhang, Geoffrey R. Hill (Jun 2024)
Calcineurin inhibition rescues alloantigen-specific central memory T cell subsets that promote chronic GVHD.
Journal of Clinical Investigation 34(11): e170125
4. Albert C. Yeh, Koyama M., Olivia G. Waltner, Simone A. Minnie, Julie R. Boiko, Tamer B. Shabaneh, Takahashi S., Ping Zhang, Kathleen S. Ensbey, Christine R. Schmidt, Samuel R. W. Legg, Sekiguchi T., Ethan Nelson, Shruti S. Bhise, Andrew R. Stevens, Tracy Goodpaster, Saranya Chakka, Scott N. Furlan, Kate A. Markey, Marie E. Bleakley, Charles O. Elson, Philip H. Bradley, Geoffrey R. Hill (Jul 2024)
Microbiota dictate T cell clonal selection to augment graft-versus-host disease after stem cell transplantation.
Immunity 57(7): 1648-1664.e9
5. Hasegawa Y., Hashimoto D., Zixuan Zhang, Miyajima T., Saito Y., Wenyu Li, Kikuchi R., Senjo H., Sekiguchi T., Tateno T., Xuanzhong Chen, Yokoyama E., Takahashi S., Ohigashi H., Ara T., Hayase E., Yokota I., Teshima T. (Aug 2024)
GVHD targets organoid-forming bile duct stem cells in a TGF- β -dependent manner.
Blood 144(8): 904-913
6. Matsukawa T., Onozawa M., Kondo T., Kanaya M., Hidaka D., Ota S., Mori A., Shigematsu A., Miyagishima T., Kakinoki Y., Hashiguchi J., Yamamoto S., Yamamoto M., Wakasa K., Takahata M., Ishihara T., Haseyama Y., Fujimi A., Igarashi T., Sarashina T., Iyama S., Kobayashi R., Sakai H., Fujimoto K., Inamura J., Kanisawa Y., Hirabayashi S., Endo T., Hashimoto D., Teshima T. (Dec 2024)
FLT3 inhibitors and hematopoietic cell transplantation prolong survival in patients with FLT3-ITD-positive AML.
Annals of hematology 103(12):5333-5340
7. Funayama T., Nozu T., Ishioh M., Igarashi S., Tanaka H., Sumi C., Saito T., Toki Y., Hatayama M., Yamamoto M., Shindo M., Takahashi S., Okumura T. (Feb 2025)
Splenectomy prevents brain orexin, ghrelin, or oxytocin but not GLP-1-induced improvement of intestinal barrier function in rats.
Neurogastroenterology and motility 37(2): e14949

症例報告

1. Nagasue K., Kida R., Shigaki R., Nitanai K., Yagita A., Yanada H., Umekage Y., Mori C., Minami Y., Funayama T., Yamamoto M., Tanino M., Yoshida R., Sasaki T. (Jan 2025)
Treatment of lung adenocarcinoma with chemotherapy helps mitigate chronic myeloid leukaemia progression: A case report.
Oncology letters 29(1): 31
2. Inamura J., Taketani T., Mochida M., Goto T., Suzuki R., Igarashi S., Tsukada N., Yamamoto M., Shindo M., Sato K. (Feb 2025)
Acute myeloid leukemia with NUP98::RARG rearrangement: a case report and review of the relevant literature.
International journal of hematology 121(2): 265-271

研究発表

1. 斎藤 豪志, 進藤 基博, 佐々木, 礼奈, 向井 頌之, 船山 拓也, 鷺見 千紘, 畑山 真弓, 山本 昌代, 高橋 秀一郎 (2024年4月)
治療経過中に中枢神経浸潤を来たした難治性多発性骨髄腫の1例
第59回日本血液学会春季北海道地方会

2. Takahash S., Simone A. Minnie, Samuel RW. Legg, Christine R. Schmidt, Kathleen S. Ensley, Damian J. Green, Geoffrey R. Hill (Jul 2024)
Treg Depletion During Stem Cell Mobilization Enhances Anti-myeloma Immunity After Experimental ASCT
14th JSH International Symposium 2024 in Hakodate
3. 佐々木 礼奈, 船山 拓也, 山本 昌代, 鶯見 千紘, 斎藤 豪志, 畑山 真弓, 進藤 基博, 高橋 秀一郎, 後藤 秀樹 (2024年9月)
CAR-T 療法後の再燃に対してエプロリタマブが奏効したB細胞性リンパ腫の1例
第66回日本血液学会 秋季北海道地方会
4. 山本 昌代, 進藤 基博, 佐々木 礼奈, 向井 頌之, 船山 拓也, 鶯見 千紘, 斎藤 豪志, 畑山 真弓, 佐藤 一也, 小野 裕介, 水上 裕輔, 高橋 秀一郎 (2024年10月)
RAS/BRAF 遺伝子変異が初発多発性骨髄腫の予後に及ぼす影響に関する検討
第86回日本血液学会 学術集会
5. 松川 敏大, 近藤 健, 日高 大輔, 太田 秀一, 金谷 穂, 盛 晓生, 重松 明男, 宮城島 拓人, 柿木 康孝, 橋口 淳一, 山本 聰, 山本 昌代, 若狭 健太郎, 高畠 むつみ, 石原 敏道, 長谷山 美仁, 藤見 章仁, 五十嵐 哲祥, 更科 岳大, 井山 諭, 小林 良二, 酒井 基, 藤本 勝也, 稲村 純季, 蟹澤 祐司, 平林 真介, 小野澤 真弘, 遠藤 知之, 豊嶋 崇徳 (2024年10月)
FLT3 阻害薬は投与時期に関わらず FLT3 変異 AML の予後を延長する
第86回日本血液学会 学術集会
6. 白鳥 聰一, 長谷川 祐太, 杉田 純一, 小宅 達郎, 井山 諭, 山本 昌代, 橋本 大吾, 豊嶋 崇徳 (2024年10月)
ステロイド抵抗性/依存性慢性GVHDに対するruxolitinibの多施設共同研究: NJHSG-移植WG
第86回日本血液学会 学術集会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
高橋 秀一郎	継続	若手研究	移植片対宿主病による肝幹細胞傷害の有無と肝組織再生に与える影響についての検討

精神医学講座

Department of Psychiatry and Neurology

所属教員等

精神医学講座

教 授 橋岡 賢征
講 師 坂内 聖
助 教 松田 孟士

精神科神経科

講 師 大宮 友貴
助 教 市川 香織

研究業績紹介

当講座は、活性化グリアが引き起こす脳内の慢性炎症である Neuroinflammation の観点から、精神・神経疾患の病態解明、さらには新規治療薬の開発を目指し、基礎研究と臨床研究を行っている。グリアの活性化は、死後脳研究によってアルツハイマー病を始めとする神経変性疾患の病変部位で認められている。また近年の PET 研究によって、神経変性疾患のみならず、統合失調症、大うつ病といった内因性精神疾患においてもグリアが活性化していることが明らかになっており、Neuroinflammation は幅広い精神・神経疾患に共通した病態因子として認知されるようになった。現在、当講座では活性化アストロサイトが引き起こす神経細胞死が、炎症誘導性の細胞融解であるパイロトーシスである可能性を見出し、分子レベルで詳細に検討している。

論文

1. Hashioka S. (Jan 2025)
Glia as a New Target for Therapeutic Actions of Electroconvulsive Therapy.
CNS & neurological disorders drug targets 24(1): 2-6

研究発表

1. 橋岡 賢征 (2024 年 10 月)
認知症の共通病態としての活性化グリアの神経毒性
歯科基礎医学会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
橋岡 賢征	継続	基盤研究(B)	電気けいれん療法の抗神経炎症作用の包括的解明
松田 孟士	再々延長	若手研究	アルツハイマー病モデルの神経・グリア由来エクソソームによる認知機能制御機構の解明
松田 孟士	新規	若手研究	アルツハイマー病モデルの神経・グリア由来エクソソームによる認知機能制御機構の解明

小兒科学講座

Department of Pediatrics

所属教員等

小児科学講座

教 授 高橋 悟
講 師 中右 弘一
助 教 田中 亮介
助 教 岡 秀治
助 教 竹口 謙

小 児 科

講 師 長森 恒久
講 師 鈴木 滋
助 教 佐藤 雅之
助 教 櫻井 由香里
病院助教 石羽澤 映美

研究業績紹介

小児科では、新生児期から思春期までのあるゆる内科的疾患を対象としています。日常診療では、6つのグループ（感染・免疫、血液・腫瘍、神経、新生児、循環器、内分泌・代謝）に分かれて、専門的医療を提供しながらもお互いに連携しています。このような臨床経験の中から生じた疑問や発想を大切にして、子どもの難病の治療法の進歩に貢献することを願って研究を進めています。世界的な視野で考え、目の前にいる子ども・地域のために働く“Act locally, Think globally”をモットーにして、未だ見ぬ子ども達のためにもいい仕事をしたいと考えています。本年度の小児科の業績は、新生児グループ（周産母子センター）分を除いて、英語論文27編（総説1、原著18、症例報告8）、日本語論文10編（著書・総説5、原著2、症例報告3）でした。

総説・解説

1. Barbetti F., Deeb A., Suzuki S. (Sep 2024)
Neonatal diabetes mellitus around the world: Update 2024.
J Diabetes Investig 15(12): 1711-1724
2. 高橋 悟 (2024年8月)
MECP2 重複症候群
新薬と臨床 73: 39-42
3. 鈴木 滋 (2025年1月)
单一遺伝子異常による糖尿病
小児科 66(1): 29-35
4. 鈴木 滋 (2024年10月)
インスリン, Cペプチド, グルカゴン
小児臨床検査 2024 (小児内科) 56巻(増刊号) 497-500
5. 平林 真介, 更科 岳大, 山本 雅樹, 小林 良二 (2024年7月)
非腫瘍性疾患に対する造血細胞移植 先天性免疫異常症の造血細胞移植 北海道地区から考える。
日本小児血液・がん学会雑誌 61(2): 148-153

論文

1. Mori M., Yoshii S., Noguchi M., Takagi D., Shimizu T., Ito H., Matsuo-Takasaki M., Nakamura Y., Takahashi S., Hamada H., Ohnuma K., Shiohama T., Hayashi Y. (May 2024)
Generation of human induced pluripotent stem cell lines derived from four Rett syndrome patients with MECP2 mutations.
Stem Cell Res 77: 103432

2. Takeguchi R., Akaba Y., Kuroda M., Tanaka R., Tanaka T., Itoh M., Takahashi S. (Jun 2024) Neurophysiological and brain structural insights into cyclin-dependent kinase-like 5 deficiency disorder: visual and auditory evoked potentials and MRI analysis. **J Neurol Sci** 461: 123063
3. Hagiwara S., Shiohama T., Takahashi S., Ishikawa M., Kawashima Y., Sato H., Sawada D., Uchida T., Uchikawa H., Kobayashi H., Shiota M., Nabatame S., Tsujimura K., Hamada H., Suzuki K. (Sep 2024) Comprehensive high-depth proteomic analysis of plasma exosomes in Rett syndrome. **Biomedicines** 12(10): 2172. doi: 10.3390
4. Li R., Tsuboi H., Ito H., Takagi D., Chang YH., Shimizu T., Arai Y., Matsuo-Takasaki M., Noguchi M., Nakamura Y., Ohnuma K., Takahashi S., Hayashi Y. (Oct 2024) Generation of human induced pluripotent stem cell lines derived from two glucose transporter 1 deficiency syndrome patients. **Stem Cell Res** 81: 103584
5. Saijo Y., Yoshioka E., Sato Y., Kunori Y., Kanaya T., Nakanishi K., Kato Y., Nagaya K., Takahashi S., Ito Y., Iwata H., Yamaguchi T., Miyashita C., Itoh S., Kishi R.; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group (Jun 2024) Maternal pre-pregnancy body mass index and related factors: A cross-sectional analysis from the Japan Environment and Children's Study. **PLoS One** 19: e0304844
6. Akagi T., Saijo Y., Yoshioka E., Sato Y., Nakanishi K., Kato Y., Nagaya K., Takahashi S., Ito Y., Iwata H., Yamaguchi T., Miyashita C., Ito S., Kishi R.; Japan Environment and Children's Study group; JECS (Aug 2024) Association between maternal multimorbidity and neurodevelopment of offspring: a prospective birth cohort study from the Japan Environment and Children's Study. **BMJ Open** 14: e082585
7. Yazawa T., Watanabe Y., Yokohama Y., Imamichi Y., Hasegawa K., Nakajima K., Kitano T., Ida T., Sato T., Islam MS., Umezawa A., Takahashi S., Kato Y., Jahan S., Kawabe J. (Oct 2024) Evaluation of 3β -hydroxysteroid dehydrogenase activity using progesterone and androgen receptors-mediated transactivation. **Front Endocrinol (Lausanne)** 15: 1480722
8. Narita H., Natsume J., Suzuki T., Shiohama T., Kawaguchi M., Okazaki M., Hashizume A., Naganawa S., Ito Y., Yamamoto H., Nakata T., Kidokoro H., Takahashi Y., Takahashi S., Tsujimura K. (Mar 2025) Diffuse but Non-homogeneous Brain Atrophy: Identification of Specific Brain Regions and Their Correlation with Clinical Severity in Rett Syndrome. **Brain Dev** 47: 104348
9. Ito K., Oka H., Shibagaki Y., Sasaki Y., Imanishi R., Shimada S., Akiho Y., Fukao K., Nakagawa S., Iwata K., Nakau K., Takahashi S. (May 2024) Left atrial vortex flow and its relationship with left atrial functions in patients with congenital heart disease. **Egypt Heart J** 76(1): 53
10. Sasaki Y., Oka H., Nakau K., Shibagaki Y., Ito K., Imanishi R., Shimada S., Akiho Y., Fukao K., Nakagawa S., Iwata K., Takahashi S. (Aug 2024) Evaluation of Right Ventricular Myocardial Properties Using Systolic Myocardial T1 Mapping. **Cureus** 16(8): e67797
11. Hirono K., Hata Y., Imamura T., Tsuboi K., Takarada S., Okabe M., Nakaoka H., Ibuki K., Ozawa S., Ichimata S., Nishida N., Iwasaki H., Urata S., Okada S., Hiratsuji T., Sakaguchi H., Takigiku K., Nakazawa M., Nishihara E., Harada M., Matsuo O., Yasuda K., Yoshida Y., Namiki H., Yasuda K., Ifuku T., Urayama K., Oka H., Ogino K., Kato A., Kan N., Seki S., Seki M., Odanaka Y., Iwashima S., Yoshida S., Miyata T., Miyamoto T., Watanabe K., Kuwabara N., Inuzuka R., Takahashi Y., Sakazaki H., Muneuchi J., Kogaki S., Numano F., Kido S., Nii M., Hoshino S., Ishida H., Maeda J., Hayabuchi Y., Otsubo Y., Ikeda K., Tsukano S., Watanabe M., Momoi N., Fujii T., Fujioka T., Fujino M., Uchiyama H., Baba S., Horigome H., Honda T., Suzuki K., Ichida F. (Nov 2024) Determination of Genotype and Phenotypes in Pediatric Patients With Biventricular Noncompaction. **J Am Heart Assoc** 13(21): e035614

12. Hirono K., Hata Y., Ichimata S., Nishida N., Imamura T., Asano Y., Kuramoto Y., Tsuboi K., Takarada S., Okabe M., Nakaoka H., Ibuki K., Ozawa S., Muneuchi J., Yasuda K., Urayama K., Oka H., Miyamoto T., Baba K., Kato A., Saiki H., Kuwabara N., Harada M., Baba S., Morikawa M., Iwasaki H., Hirata Y., Ito Y., Sakaguchi H., Urata S., Toda K., Kittaka E., Okada S., Hasebe Y., Hoshino S., Fujii T., Mitsushita N., Nii M., Ogino K., Fujino M., Yoshida Y., Fukuda Y., Iwashima S., Takigiku K., Sakata Y., Inuzuka R., Maeda J., Hayabuchi Y., Fujioka T., Namiki H., Fujita S., Nishida K., Kuraoka A., Kan N., Kido S., Watanabe K., Ichida F. (Dec 2024)
Sarcomere gene variants did not improve cardiac function in pediatric patients with dilated cardiomyopathy from Japanese cohorts. *Sci Rep* 14(1): 30469
13. Ishibazawa E., Nagamori T., Kurisawa M., Sato M., Yoshida Y., Takahashi H., et al. (Oct 2024)
A novel scoring system for the prediction of disease severity in STEC-HUS. *Pediatr Int* 66: e15833
14. Hosokawa M., Ichihashi Y., Sato Y., Shibata N., Nagasaki K., Ikegawa K., Hasegawa Y., Hamajima T., Nagamatsu F., Suzuki S., Numakura C., Amano N., Sasaki G., Nagahara K., Soneda S., Ariyasu D., Maeda M., Kamasaki H., Aso K., Hasegawa T., Ishii T. (Jul 2024)
Incidence and Risk Factors for Adrenal Crisis in Pediatric-onset Adrenal Insufficiency: A Prospective Study. *J Clin Endocrinol Metab* 109(8): e1602-e1607
15. Yokomichi H., Mochizuki M., Suzuki S., Ito Y., Hotsubo T., Matsuura N. (Nov 2024)
Slowly progressive subtype of childhood-onset type 1 diabetes as a high-risk factor for end-stage renal disease: A cohort study in Japan. *J Diabetes Complications* 39(1): 108922
16. Yokomichi H., Mochizuki M., Suzuki S., Ito Y., Hotsubo T., Matsuura N. (Sep 2024)
Mortality rate and standardized mortality ratio of childhood-onset type 1 diabetes according to incidentally detected non-acute-onset or acute-onset subtype, sex, and onset age: A cohort study. *Clin Pediatr Endocrinol* 34(1): 83-88
17. Kokumai T., Suzuki S., Takahashi S., Okumiya T., Koga M. (Feb 2025)
Elevation of erythrocyte creatine post-puberty unrelated to erythrocyte lifespan: Implications from the lack of correlation between HbA1c and erythrocyte creatine. *Clin Chim Acta* 568: 120130
18. Sakurai Y., Iwasaki F., Hirose A., Matsumoto N., Miyagawa N., Keino D., Yokosuka T., Hamanoue S., Yanagimachi M., Shiomi M., Goto S., Tanaka M., Tanaka Y., Nozawa K., Goto H. (Apr 2024)
Metronomic Chemotherapy for Pediatric Refractory Solid Tumors: A Retrospective Single-center Study. *J Pediatr Hematol Oncol.* 46(5): 233-240
19. 花井潤師, 三浦 真之, 田中 稔泰, 山田 雅文, 長尾 雅悦, 棚橋 祐典, 福村 忍, 白石 秀明, 高橋 悟 (2024年4月)
北海道における脊髄性筋萎縮症スクリーニングについて *日本マスククリーニング学会雑誌* 34: 11-18
20. 高橋悟 (2024年9月)
発達性てんかん性脳症の脳内ネットワーク解析 *てんかん治療研究振興財団 研究年報* 35: 31-36

症例報告

1. Hara M., Matsuishi T., Takahashi S., Yamashita Y. (Jul 2024)
Sertraline treatment for paroxysmal nonkinesigenic dyskinesia comorbid with anxiety and depression. *eNeurologicalSci* 36: 100520
2. Akiba T., Shimada S., Imai K., Takahashi S. (Nov 2024)
A case of CDKL5 deficiency disorder with a novel intragenic multi-exonic duplication. *Hum Genome Var* 11(1): 40. doi: 10.1038

3. Kuniyoshi Y., Takahashi S. (Feb 2025)
Rett syndrome complicated by diabetes mellitus type 1.
Endocrinol Diabetes Metab Case Rep 2025: e240010
4. Onoda H., Kuroda M., Takeguchi R., Tanaka R., Ishii D., Miyagi H., Hirasawa M., Takahashi S. (Mar 2025)
Gallstone ileus in a 25-year-old female with cyclin-dependent kinase-like 5 deficiency disorder: A case report.
Case Rep Gastrointest Med 2025: 4901433
5. Oka H., Sato M., Ito K., Ishibazawa E., Nagamori T., Nakau K., Takahashi S. (Aug 2024)
The usefulness of parametric mapping in a patient with juvenile systemic sclerosis.
Pediatr Int 66(1): e15825
6. Saito S., Suzuki S., Izumi K., Kamiyama T., Saito K., Yamamura H., Kokumai T., Furuya A., Taketazu G., Makita Y., Niida Y., Takahashi S. (Feb 2025)
Clinical and Molecular Genetic Analyses of a Girl With Isolated Nephrogenic Diabetes Insipidus due to Contiguous Gene Deletion Involving AVPR2 and L1CAM.
Am J Med Genet A 24: e64024
7. Shibagaki Y., Suzuki S., Furuya A., Kokumai T., Takahashi S. (Feb 2025)
Discordance Between Thyroid Function and Thyroid-Stimulating Hormone (TSH) Receptor Antibodies in Down Syndrome Patients With Autoimmune Thyroid Disease: A Long-Term Follow-Up Study of Two Cases.
Cureus 17(2): e78457
8. Tanabe H., Koshizuka Y., Tanaka K., Takahashi K., Ijiri M., Takahashi K., Ando K., Ueno N., Kashima S., Sarashina T., Moriichi K., Mitsube K., Mizukami Y., Fujiya M., Makita Y. (Dec 2024)
High-resolution genetic analysis of whole APC gene deletions: a report of two cases and patient characteristics.
Hum Genome Var 11(1): 46
9. 田中 亮介, 赤羽 裕一, 黒田 真実, 竹口 諒, 鈴木 菜生, 高橋 悟 (2024年12月)
Febrile infection-related epilepsy syndrome の急性期にケトン食療法が著効した1例
てんかんをめぐって 41: 22-27
10. 本間 玲子, 飯田 高久, 三浦 貴徳, 藤永 明裕, 平松 一秀, 腰塚 靖之, 佐藤 啓介, 鈴木 滋 (2024年4月)
2型糖尿病の経過中に高インスリン血症性低血糖を繰り返した膵島細胞症の1例
糖尿病 67(4): 181-188
11. 中村 英記, 小野田 ひかる, 久保田 圭祐, 齊藤 翔真, 泉 健吾, 堀井 百祐, 平野 至規, 室野 晃一, 大石 由利子, 小野 方正, 野澤 明美, 鈴木 滋 (2024年12月)
新生児バセドウ病の治癒後に中枢性甲状腺機能低下症を発症した1例
名寄市立病院医誌 32: 2-5

著書

1. 鈴木 滋 (永井良三 編) (2025年2月)
先天性甲状腺機能低下症
今日の治療指針 第9版 1859-1860

研究発表

1. 高橋 悟 (2024年6月)
論文の基本的な作成方法
第66回日本小児神経学会 学術集会
2. 高橋 悟 (2025年1月)
新生児スクリーニングで見つかった脊髄性筋萎縮症の診断と治療
第25回北海道小児神経症例検討会
3. 萩原 翔, 塩浜 直, 高橋 悟, 佐藤 裕範, 川島 祐介, 澤田 大輔, 内田 智子, 斎藤 千尋, 小林 宏伸, 塩田 恵, 濱田 洋通, 鈴木 啓一郎 (2024年5月)
Rett症候群における高深度プロテオーム解析による新規バイオマーカーの探索
第66回日本小児神経学会 学術集会

4. 秋庭 崇人, 島田 姿野, 矢部 友奈, 井口 晃宏, 宮下 光洋, 水谷 聰志, 山口 解冬, 大谷 英之, 高橋 悟, 今井 克美 (2024年5月)
新規エクソン重複変異を有する CDKL5 遺伝子欠損症の1例
第66回日本小児神経学会 学術集会
5. 鈴木 菜生, 赤羽 裕一, 黒田 真実, 竹口 諒, 田中 亮介, 高橋 悟 (2024年5月)
神経発達症患者本人への診断名告知に関する検討
第66回日本小児神経学会 学術集会
6. 竹口 諒, 赤羽 裕一, 黒田 真実, 田中 亮介, 鈴木 菜生, 高橋 悟 (2025年2月)
CDKL5 欠損症患者における睡眠時脳波所見の検討
第34回日本てんかん学会 北海道地方会
7. 竹口 諒, 蒔田 芳男, 芳賀 俊介, 福田 郁江, 宮本 晶恵, 田中 肇, 柳 久美子, 要 匠, 高橋 悟 (2025年3月)
睡眠障害と癲癇により育児負担が大きかった PACS1 症候群の2例
第44回日本小児神経学会 北海道地方会
8. 田中 亮介 (2024年6月)
脊髄性筋萎縮症を疑う乳幼児健診でのポイント
旭川市乳幼児健診に関するセミナー
9. 岡 秀治, 佐々木 勇気, 中右 弘一, 高橋 悟 (2024年4月)
4D flow MRI を用いた冠動脈瘻の評価
第80回北海道小児循環器研究会
10. 岡 秀治, 佐々木 勇気, 中右 弘一, 高橋 悟 (2024年6月)
小児肥大型心筋症患者での心臓 MRI 検査の有用性
第320回日本小児科学会 北海道地方会
11. 岡 秀治, 伊藤 啓太, 栗澤 未央 ジューン, 佐藤 雅之, 石羽澤 映美, 長森 恒久, 中右 弘一, 高橋 悟 (2024年7月)
若年性全身性強皮症患者における parametric mapping の有用性
第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会
12. 岡 秀治, 柴垣 有希, 伊藤 啓太, 佐々木 勇気, 中右 弘一, 高橋 悟 (2024年7月)
ファロー四徴類縁疾患患者における大動脈血流形態の評価
第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会
13. 岡 秀治, 伊藤 啓太, 福井 晨介, 松本 尚也, 櫻井 由香里, 更科 岳大, 中右 弘一 (2024年8月)
鉄過剰症における肝 T1/T2 mapping の有用性と心筋評価への影響
第7回日本腫瘍循環器学会 学術集会
14. 岡 秀治, 佐々木 勇気, 中右 弘一 (2024年9月)
フォンタン循環における肝・門脈血流評価にむけて
第6回4D FLOW 研究会
15. 岡 秀治 (2024年11月)
心不全診療のブレイクスルーを目指した生体情報モニターの開発
産学連携で加速する研究シーズの事業化
16. 岡 秀治, 柴垣 有希, 佐々木 勇気, 今西 梨菜, 中右 弘一 (2025年1月)
心室内血流解析を用いた右心不全評価
第26回日本成人先天性心疾患学会 総会・学術集会
17. 岡 秀治, 柴垣 有希, 佐々木 勇気, 今西 梨菜, 中右 弘一 (2025年1月)
心室内運動エネルギーの相互関係からみた心室連関評価
第26回日本成人先天性心疾患学会 総会・学術集会
18. Oka H., Shibagaki Y., Sasaki Y., Imanishi R., Nakau K. (Jan 2025)
Evaluation of Ventricular Interaction by Relationship of Ventricular Kinetic Energy.
the 28th Annual Scientific Sessions of the Society for Cardiovascular Magnetic Resonance
19. 岡 秀治, 今西 梨菜, 中右 弘一 (2025年3月)
ファロー四徴症術後患者における右室内運動エネルギー解析
第8回日本小児心臓 MR 研究会

20. 鈴木 滋, 松尾 公美浩 (2025年2月)
副腎アンドロゲン抑制不全により女性化乳房を呈したと考えられた21水酸化酵素欠損症の男児
第32回日本ステロイドホルモン学会 学術集会
21. 鈴木 滋 (2025年1月)
症例から学ぶ単一遺伝子糖尿病の特徴と診療の実際
日本小児内分泌学会 第3回 北海道地方会
22. 泉 健吾, 斎藤 翔真, 鈴木 滋, 國米 崇秀, 古谷 曜子, 山村 日向子, 新井田 要, 蒔田 芳男, 高橋 悟 (2025年1月)
尿細管上皮細胞においてX染色体不活性化の偏りを認めなかったAVPR2ヘテロ欠失による先天性腎性尿崩症の女児
日本小児内分泌学会 第3回 北海道地方会
23. 中村 英記, 土川 颯, 栗澤 未央ジューン, 柴垣 有希, 堀井 百祐, 平野 至規, 室野 晃一, 鈴木 滋, 山岸 卓弥 (2025年1月)
当院における新生児マススクリーニング (NMS) 検査の現況と問題点
日本小児内分泌学会 第3回 北海道地方会
24. 高橋 弘典, 藤井 未帆, 小野田 ひかる, 山木 ゆかり, 島田 空知, 土田 悅司, 真鍋 博美, 佐藤 敬, 竹田津 原野, 白井 勝, 鈴木 滋 (2025年1月)
血清Cre高値が診断契機となった萎縮性甲状腺炎の一例
日本小児内分泌学会 第3回 北海道地方会
25. 鈴木 滋 (2024年12月)
実臨床で遭遇する成長障害 成長障害診療の基礎～実際の症例を通して～
Next Generation central meeting Current and future management in growth disorders
26. 久保田 圭祐, 泉 健吾, 山村 日向子, 鈴木 滋, 高橋 悟 (2024年12月)
Xp21欠失保因者より出生し、出生時より治療を開始した複合型グリセロールキナーゼ欠損症の1例
日本小児科学会 北海道地方会 第321回 例会
27. 國米 崇秀, 鈴木 滋, 梶野 浩樹 (2024年10月)
月経周期による顕著な血糖変動が Hybrid Closed Loop の導入により劇的に改善した1型糖尿病女子の1例
第57回日本小児内分泌学会 学術集会
28. 泉 健吾, 山村 日向子, 國米 崇秀, 棚橋 祐典, 鈴木 滋, 向井 徳男, 西村 玄, 高橋 悟 (2024年10月)
幼児期にX線写真での橈骨弯曲を契機に診断したSHOX異常症の2例
第57回日本小児内分泌学会 学術集会
29. 鈴木 滋, 泉 健吾, 山村 日向子, 國米 崇秀, 棚橋 祐典, 依藤 亨, 高橋 悟 (2024年10月)
耐糖能異常が顕在化しオクトレオチドLARを中止し得たABCC8両アレル変異による先天性高インスリン血症の一例
第57回日本小児内分泌学会 学術集会
30. 大山 和紗, 末岡 秀文, 石井 玲, 岩佐 真実, 中村 慧, 木原 美奈子, 鈴木 滋, 津川 育 (2024年10月)
hybrid closed loop療法を導入したHNF1A-MODY
第57回日本小児内分泌学会 学術集会
31. 鈴木 滋 (2024年10月)
Year Book 7 糖尿病・低血糖・糖代謝
第57回日本小児内分泌学会 学術集会
32. 鈴木 滋 (2024年9月)
成長障害の診断と成長ホルモン治療: 症例を通じて学ぶアプローチ
岩手県こどもの低身長を考える会
33. 鈴木 滋 (2024年9月)
SGA性低身長の診断と治療～当科の臨床知見も交えて～
norditropin® Short Web Seminar
34. 泉 健吾, 山村 日向子, 鈴木 滋 (2024年7月)
当科における小児2型糖尿病の臨床像
第25回北海道小児糖尿病研究会

35. 鈴木 滋, 國米 崇秀, 古谷 曜子, 棚橋 祐典, 依藤 亨, 高橋 悟 (2024 年 6 月)
オクトレオチド 14 年間投与中の ABCC8 両アレル変異による先天性高インスリン血症の一例
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
36. 國米 崇秀, 鈴木 滋, 奥宮 敏可, 古賀 正史 (2024 年 5 月)
月経発来後の女児の赤血球クレアチンは高値を示すが、HbA1c は影響を受けない
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
37. 望月 美恵, 雨宮 伸, 武者 育麻, 鈴木 滋, 國米 崇秀, 小林 浩司, 菅原 大輔, 小山 さとみ, 小林 基章, 松浦 信夫, 菊池透 (2024 年 5 月)
ヘモグロビン糖化度の個人差を加味した調整 HbA1c 値 (adjusted HbA1c, aA1c) の提案
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
38. 松浦 信夫, 横道 洋司, 伊藤 善也, 鈴木 滋, 母坪 智行, 望月 恵美 (2024 年 4 月)
小児期発症 1 型糖尿病児の長期予後調査 - 北海道コホートにおける末期腎不全の疫学 -
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
39. 田上 晃弘, 國米 崇秀, 古谷 曜子, 鈴木 滋, 向井 徳男, 白井 勝, 伊藤 善也, 高橋 悟 (2024 年 4 月)
COVID-19 流行以前からの特発性中枢性思春期早発症女児例の急増: 2014-2022 年度北海道上川中部
医療圏の Population based study
第 127 回 日本小児科学会 学術集会
40. 更科 岳大 (2024 年 10 月)
分類不能型先天性白血病の 1 例
第 5 回 北海道小児血液・がん研究会
41. 櫻井 由香里 (2025 年 3 月)
乳児期早期に発症した視神経視床下部神経膠腫の一例
第 5 回 小児脳腫瘍カンファレンス
42. 佐藤 雅之, 栗澤 未央ジューン, 石羽澤 映美, 長森 恒久, 高橋 悟, 高橋 弘典, 小川 弥生 (2024 年 6 月)
初期治療に抵抗した IgA 優位の沈着を伴う膜性増殖性糸球体腎炎様腎炎(MPGN 様腎炎)の一例
第 59 回 日本小児腎臓病学会 学術集会
43. 佐藤 雅之, 津田 淳希, 石羽澤 映美, 長森 恒久, 高橋 悟, 西端 友香, 益田 紗季子, 石津 明洋, 高橋 弘典 (2024 年 9 月)
複数の測定法による解析で抗糸球体基底膜抗体の偽陽性を確認した無症候性血尿の男児例
第 54 回 日本腎臓学会 東部学術大会
44. 佐藤 雅之, 津田 淳希, 石羽澤 映美, 長森 恒久, 高橋 悟 (2025 年 3 月)
局在するばち状指から診断に至った SLE の 13 歳女児例
北海道小児リウマチ性疾患研究会
45. 石羽澤 映美, 津田 淳希, 佐藤 雅之, 長森 恒久, 高橋 悟 (2024 年 4 月)
STEC-HUS (志賀毒素産生性腸管出血性大腸菌関連溶血性尿毒症症候群)重症化リスクスコアの病勢
モニタリングにおける有用性
第 127 回 日本小児科学会
46. 石羽澤 映美, 津田 淳希, 佐藤 雅之, 長森 恒久, 高橋 悟 (2024 年 11 月)
志賀毒素産生性腸管出血性大腸菌関連溶血性尿毒症症候群(STEC-HUS)重症化リスクスコアとサイ
トカインの検討
第 56 回 日本小児感染症学会
47. Ishibazawa E., Tsuda J., Sato M., Nagamori T. (Mar 2025)
A novel scoring system for prediction of disease severity in STEC-HUS.
Pediatrics Summit
48. 津田 淳希, 石羽澤 映美, 佐藤 雅之, 長森 恒久, 高橋 悟 (2024 年 11 月)
鼠径ヘルニア嵌頓が疑われた鼠径部化膿性リンパ節炎の乳児例
第 56 回 日本小児感染症学会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
高橋 悟	継続	基盤研究(C)	ハプロ不全で発症する GLUT1 欠損症の治療薬開発：既承認薬ライブラリーからの選別
鈴木 滋	継続	基盤研究(C)	ヒト病理検体と疾患モデル細胞およびマウスを用いた NBAS 遺伝子異常症の病態解明
長森 恒久	新規	基盤研究(C)	iPS 細胞を用いた SIFD の病態解明と治療法開発のための基盤研究
岡 秀治	継続	若手研究	心臓 MRI による AYA 世代のがんサバイバーの潜在的心筋障害の早期発見、治療の検討

外科学講座
(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)

Department of Surgery
(Division of Vascular, Respiratory and Surgical Oncology)

所属教員等

外科学講座（血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野）

教 授 東 信良
准 教 授 菊地 信介
助 教 鎌田 啓輔
客員准教授 内田 恒
客員助教 平澤 雅敏

外科（血管・呼吸・腫瘍）

教授(病院) 北田 正博
講 師 宮城 久之
助 教 石井 大介
助 教 大平 成真
助 教 安田 俊輔
助 教 栗山 直也

寄附講座（包括的高度慢性下肢虚血研究講座）

特任助教 土井田 務

研究業績紹介

教室の血管外科部門では、主として末梢動脈疾患の治療に関する臨床研究の成果を欧文誌、和文誌や国内外の学会に報告している。特に末梢動脈疾患の最重症型である包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）に対する血行再建術式や術後の潰瘍治癒、歩行機能維持など血行再建のアウトカムに関する臨床研究を行って国際的に認知されてきた。また、3年ほど前から動脈硬化疾患と流血中のエクソソームとの関係を研究しており、重症度や予後が非常に多様な CLTI 患者集団において、術後早期の心血管イベント発生や生命予後の良し悪しを予測するエクソソームの抽出、miRNA の同定を行っている。基礎研究においても、エクソソーム研究を東京医科大学の研究室と共同で進めており、これとは別に血管再生についても学内での連携などを基盤に基礎研究を進めている。加えて、閉塞性動脈疾患や破裂動脈瘤に関する多施設臨床研究をリードし、解析結果を報告してきた。さらに、大動脈緊急症に対する ICT を活用した病院間画像連携の研究も国内最先端の取り組みとして報告している。また、血管外科手術手技について若手外科医教育に注力して、全国的および国際的なハンズオンやワークショップなどを行っており、それが評価されてドイツ血管外科学会から表彰された。

小児外科部門でも、小児外科手術の工夫や長期成績に関する臨床での報告に加え、動物モデルでの基礎実験成果も出始めており、学会発表や論文報告を増やしている。

なお、呼吸器外科および乳腺外科の研究業績については、乳腺疾患センターとして掲載しているので、そちらを参照されたい。

総説・解説

1. 内田 大貴 (2025 年 1 月)
静脈疾患における圧迫療法ガイドライン 2025
静脈疾患における圧迫療法ガイドライン 2025

論文

1. 菊地 信介 (2024 年 5 月)
末梢動脈疾患ガイドラインを読み解く
医学書院 検査と技術 臨床検査技師の「知りたい！」にこたえる Vol.52 No.5 P500-502
2. 東 信良 (2024 年 5 月)
無症候 LEAD を含む LEAD フレイル研究
メディカル・ビュー・ポイント (MVP) Vol.45 No.5 P4-5
3. 竜川 貴光, 鹿野 耕平, 中島 恵一, 矢澤 隆志, 江口 良二, 鹿原 真樹, 堀内 至, 早坂 大希, 松尾 梨沙, 長谷部 直幸, 東 信良, 川辺 淳一 (2024 年 5 月)
NG2 陽性周皮細胞は迅速な筋核のターンオーバーを介して遅筋の恒常性維持に寄与している
北海道医学雑誌 Vol.99 No.1 P15
4. Kuriyama N., Kikuchi S., Hashimoto Y., Doita T., Kamada K., Azuma N. (Sep 2024)
Utility of Duplex Ultrasound in the Diagnosis and Treatment of Functional Popliteal Artery Entrapment syndrome.
Annals of Vascular Diseases Advance Published Date P1-4
5. Kikuchi S., Kamai H., Obara H., Abe K., Ohki T., Mii S., Youngkwang Park, Hashina K., Yamanaka T., Deguchi J., Kamada A., Kokubo T., Kaneko K., Guntani A., Miyama N., Omine T., Fujimura N., Chung-Dann Kan, Jang Yong Kim, Werner Lang, Azuma N. (Oct 2024)
Evaluation of a Web-Based Surgical Training Approach and Insights from Distal Bypass Competition 2021 Using a Simulator Kit.
JVS-Vascular Insights doi: 10.1016/j.jvsvi.2024.100149
6. 内田 大貴, 菊地 信介, 田丸 祐也, 高橋 一輝, 大平 成真, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 東 信良 (2024 年 6 月)
【特集】救急現場における外科 破裂性腹部大動脈瘤におけるプレホスピタルマネジメントへの期待
北海道外科雑誌 Vol.69 No.1 P10-14
7. 田丸 祐也, 菊地 信介, 浦本 孝幸, 高橋 一輝, 鎌田 啓輔, 吉田 有里, 内田 大貴, 西尾 卓哉, 山尾 健, 石戸谷 俊太, 岸部 麻里, 稲葉 雅史, 林 利彦, 山本 明美, 東 信良 (2024 年 6 月)
包括的高度慢性下肢虚血を合併した Pseudo-Kaposi Sarcoma の一治験例
北海道外科雑誌 Vol.69 No.1 P61-64
8. 岩田 浩義, 松野 直徒, 石井 大介, 鳥海 飛鳥, 大谷 将秀, 大原 みづほ, 小原 弘道, 西川 祐司, 横尾 英樹 (2024 年 6 月)
マージナル肝グラフトに対する機械灌流溶液としての histidine-tryptophan-ketoglutarate 液の応用
北海道外科雑誌 Vol.69 No.1 P65-69
9. Tamaru Y., Kikuchi S., Uramoto T., Takahashi K., Kamada K., Yoshida Y., Uchida D., Nishio T., Yamao T., Ishitoya S., Kishibe M., Inaba M., Hayashi T., Ishida-Yamamoto A., Azuma N. (Jun 2024)
A case of pseudo-Kaposi sarcoma with chronic limb-threatening ischemia.
Surgical Case Report 2024 Jun 6;10(1): 139. doi: 10.1186
10. Iida O., Takahara M., Ohura N., Hata Y., Kodama A., Soga Y., Yamaoka T., Higuchi Y., Azuma N. (Jul 2024)
Editor's Choice - Impact of Infrapopliteal Revascularisation Establishing In Line Flow to the Wound in Patients with Chronic Limb Threatening Ischaemia.
Observational Study Eur J Vasc Endovasc Surg 2024 Nov;68(5): 631-638. doi: 10.1016
11. Miyake K., Kikuchi S., Uchida D., Doita T., Miyagawa S., Azuma N. (Aug 2024)
The impact of angiographic pedal circulation status on wound healing in chronic limb-threatening ischemia after bypass surgery.
Journal of Vascular Surgery Cases 2024 Dec;80(6): 1836-1846. doi: 10.1016
12. Haraguchi T., Tan M., Uchida D., Dannoura Y., Shibata T., Iwata S., Azuma N. (Dec 2024)
Importance of Successful Revascularization in Acute Limb Ischemia: Sub-Analysis From the RESCUE ALI Trial.
Multicenter Study 2025 Jan;105(1): 211-218. doi: 10.1002

13. Ogino H., Kumamaru H., Motomura N., Fujiyoshi T., Shimahara Y., Azuma N., Kinukawa N., Ueda Y., Okita Y. (Jan 2025)
Current status of surgical treatment for acute aortic dissection in Japan: Nationwide database analysis.
The Journal of thoracic and cardiovascular surgery S0022-5223(23): 01120-0. doi: 10.1016
14. 石井 大介 (2025 年 1 月)
小腸に対する臓器灌流保存の基礎検討
BIOLOGY TOPICS 40 号 P1344-1347
15. 東 信良 (2024 年 5 月)
【特集】II 期目を迎えた循環器病対策推進基本計画 - これから何が変わるか - 大動脈疾患診療のこれから
Current Therapy Vol.43 No.2 P122-127
16. Doita T., Kikuchi S., Tamaru Y., Uramoto T., Takahashi K., Kamada K., Ohira S., Moriyama H., Tatsukawa T., Kuriyama N., Yoshida Y., Uchida D., Miyake K., Miyagawa S., Azuma N. (Mar 2025)
Clinical Features of Acute on Chronic Lower Limb Ischemia and the Importance of Underlying Arterial Disease for Revascularization.
circulation Reports 7;7(3): 168-175. doi: 10.1253
17. Seike Y., Azuma N., Ohki T., Morikage N., Kodama A., Sumi M., Maeda K., Matsuda H. (Mar 2025)
Current Status of Diagnostic Process in Asymptomatic Abdominal Aortic Aneurysm in Japan.
Annals of vascular diseases 2025;18(1): 25-00025. doi: 10.3400

研究発表

1. 宮城 久之, 石井 大介, 石井 聖也, 元木 恵太, 久万田 優佳 (2024 年 4 月)
過疎化が進む北の大地の小児外科における SDGs な地域医療連携の展開
第 124 回 日本外科学会 定期学術集会
2. 石井 大介, 松野 直徒, 石井 聖也, 元木 恵太, 久万田 優佳, 宮城 久之 (2024 年 4 月)
共同開発した臓器灌流保存装置を用いた小児分割肝移植の応用への検討
第 124 回 日本外科学会 定期学術集会
3. 菊地 信介, 内田 大貴, 田丸 祐也, 土井田 務, 大平 成真, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 東 信良 (2024 年 4 月)
本邦 CLTI 患者に対する Global Vascular Guideline の適応と問題点
第 124 回 日本外科学会 定期学術集会
4. 石井 大介 (2024 年 4 月)
小児神経芽腫に対して、原発巣摘出時に吸収性スペーサーを留置して術後 X 線治療を施行した一例
第 7 回 スペーサー治療研究会
5. Meya Y., Ishii D., Ishii S., Motoki K., Kumata Y., Matsumoto H., Miyagi H. (Apr 2024)
Laparoscopic Fundoplication using the Endo Stitch™ for Hiatal Hernia Repair for severely disabled patient.
The 57th Annual PAPS meeting
6. 竜川 貴光 (2024 年 5 月)
高齢、高度屈曲、Shaggy Ao 例における Challenging EVAR の一例
Endovascular Surgery Forum in Hokkaido 12th
7. 東 信良 (2024 年 5 月)
Chronic limb-threatening ischemia / 包括的高度慢性下肢虚血
第 67 回 日本糖尿病学会 年次学術集会
8. 宮城 久之, 石井 大介, 目谷 勇貴, 元木 恵太, 久万田 優佳, 松本 陽 (2024 年 5 月)
旭川医科大学小児外科における LPEC 導入と成人への展望
第 29 回 北海道内視鏡外科研究会
9. 松本 陽 (2024 年 5 月)
臍帶潰瘍の 2 症例
第 61 回 日本小児外科学会 学術集会

10. 目谷 勇貴, 石井 大介, 平澤 雅敏, 元木 恵太, 石井 聖也, 久万田 優佳, 松本 陽, 宮城 久之 (2024年5月)
Endo Stitch (TM)を用いて食道裂孔縫縮を行う腹腔鏡下噴門形成術
第61回日本小児外科学会 学術集会
11. 久万田 優佳 (2024年5月)
小児人工肛門閉鎖創に対して予防的局所陰圧閉鎖療法を施行した5例
第61回日本小児外科学会 学術集会
12. 石井 大介 (2024年5月)
北海道小児外科若手勉強会の取り組み
第61回日本小児外科学会 学術集会
13. 佐藤 真規, 菊地 信介, 白須 拓郎, 三宅 啓介, 柴田 豪, 森崎 浩一, 福島 宗一郎, 夏目 佳代子, 市川 洋平, 内山 英俊, 大森 槟子, 折本 有貴, 乗田 憲明, 下河原 達也, 藤村 直樹, 松原 裕, 尾原 秀明, 東 信良 (2024年5月)
JAST2301研究: EVAR術後Open Conversion症例についての多施設共同研究
第52回日本血管外科学会 学術総会
14. 栗山 直也, 菊地 信介, 土井田 務, 田丸 祐也, 鎌田 啓輔, 竜川 貴光, 吉田 有里, 内田 大貴, 東 信良 (2024年5月)
超音波検査が診断・治療に有用であった機能的膝窩動脈捕捉症候群の一例
第52回日本血管外科学会 学術総会
15. Kikuchi S. (May 2024)
Current status of CLTI in Japan and Impact of Surgical Revascularization for Severe CLTI Cases.
第52回日本血管外科学会 学術総会
16. 菊地 信介, 栗山 直也, 鎌田 啓輔, 田丸 祐也, 土井田 勿, 竜川 貴光, 大平 成真, 高橋 一輝, 吉田 有里, 内田 大貴, 東 信良 (2024年5月)
Global Vascular Guidelines確立によるCLTI治療の変遷
第52回日本血管外科学会 学術総会
17. 土井田 勿, 菊地 信介, 田丸 祐也, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 内田 大貴, 三宅 啓介, 宮川 繫, 東 信良 (2024年5月)
Chronic limb threatening ischemia患者における血行再建後の歩行能に関するリスク因子の検討と血行再建前の予測モデルの構築
第52回日本血管外科学会 学術総会
18. 橋本 侑樹, 菊地 信介, 田丸 祐也, 土井田 勿, 大平 成真, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 内田 大貴, 東 信良 (2024年5月)
IFU外症例を含む腹部大動脈瘤破裂に対するEVARの治療成績についての検討
第52回日本血管外科学会 学術総会
19. 内田 大貴, 田丸 祐也, 土井田 勿, 大平 成真, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 菊地 信介, 東 信良 (2024年5月)
腹部大動脈瘤破裂におけるICTの貢献 - ICTはゲームチェンジャーになり得るか -
第52回日本血管外科学会 学術総会
20. 菊地 信介 (2024年5月)
Clinical experience of Indigo system in Japan.
第52回日本血管外科学会 学術総会
21. 菊地 信介 (2024年5月)
レオカーナ使用後の肢予後と適応の振り返り
第52回日本血管外科学会 学術総会
22. 田丸 祐也, 菊地 信介, 土井田 勿, 大平 成真, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 内田 大貴, 東 信良 (2024年5月)
手技と患者リスクに基づいた末梢動脈バイパスにおける神経ブロック麻酔の適応と変遷
第52回日本血管外科学会 学術総会
23. Kikuchi S. (May 2024)
Establishment of Japanese-Origin 'Skills' and 'Harmony' through Education for Young Vascular Surgeons.
第52回日本血管外科学会 学術総会

24. 東 信良 (2024 年 5 月)
血管外科医として求められている日本の「足病」診療の一角
第 52 回 日本血管外科学会 学術総会
25. 栗山 直也, 菊地 信介, 吉岡 祐亮, 高橋 一輝, 東 信良, 落谷 孝広 (2024 年 5 月)
下肢末梢動脈疾患における動脈硬化微小環境内細胞外小胞の機能解明
第 52 回 日本血管外科学会 学術総会
26. 菊地 信介, 栗山 直也, 田丸 祐也, 土井田 務, 大平 成真, 竜川 貴光, 吉田 有里, 内田 大貴 (2024 年 5 月)
早期および長期成績を見越した足関節動脈バイパスの手術戦略
第 52 回 日本血管外科学会 学術総会
27. 内田 大貴 (2024 年 6 月)
下肢静脈瘤に対する治療の変遷
第 44 回 日本静脈学会 総会 第 24 回 下肢静脈瘤血管内治療研修会
28. 内田 大貴 (2024 年 6 月)
慢性静脈疾患(C1-C6)における疼痛の軽減に圧迫療法は有効か
第 44 回 日本静脈学会 総会 第 24 回 下肢静脈瘤血管内治療研修会
29. 菊地 信介 (2024 年 6 月)
血行動態に基づいたコラテジエン投与による臨床効果の検討
Japan Endovascular Treatment Conference 2024
30. 菊地 信介 (2024 年 6 月)
症例提示 1
Japan Endovascular Treatment Conference 2024
31. 菊地 信介 (2024 年 6 月)
症例提示 2
Japan Endovascular Treatment Conference 2024
32. Hashimoto Y. (Jun 2024)
Long-term results of EVAR for ruptured abdominal aortic aneurysms: clinical impact of outside instructions for use (IFU).
JAST conference
33. Kikuchi S. (Jun 2024)
Current management of CLTI.
JAST conference
34. Kikuchi S. (Jun 2024)
A wide range of indications of Endurant Stentgraft System for AAA from Asahikawa Experiences.
Kore-Japan joint meeting for Vascular Surgery 2024
35. 内田 大貴 (2024 年 7 月)
Basic 講義 血管外科
日本フットケア・足病医学会 第 5 回 北海道地方会 学術集会
36. 内田 大貴 (2024 年 7 月)
レオカーナの使いどころ、当科の経験から
日本フットケア・足病医学会 第 5 回 北海道地方会 学術集会
37. 菊地 信介, 栗山 直也, 真岸 孝行, 田丸 裕也, 土井田 勿, 大平 成真, 竜川 貴光, 吉田 有里, 内田 大貴, 東 信良 (2024 年 7 月)
創傷治癒の観点から見た EVT 成績不良例の背景
第 30 回 日本血管内治療学会 学術集会総会
38. 東 信良 (2024 年 7 月)
心臓血管外科救急における遠隔画像診断 - その重要性と ICT 活用の実態
第 49 回 日本超音波検査学会 学術集会
39. Kikuchi S. (2024 年 7 月)
Usefulness of the Indigo System-Catheter Direct Thrombus Aspiration for acute lower limb ischemia.
CVIT2024 第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会 学術集会

40. 内田 大貴 (2024年8月)
腹部大動脈瘤破裂
JSVS 39回 日本血管外科学会 教育セミナー
41. 内田 大貴 (2024年8月)
レオカーナの使いどころ、当科の経験から
第121回 日本血管外科学会 九州地方会
42. 菊地 伸介 (2024年9月)
NBCA の適応成績
Medtronic Aortic Masters Japan Meeting 2024
43. 土井田 務, 菊地 信介, 真岸 孝行, 田丸 祐也, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 内田 大貴, 三宅 啓介, 宮川 繫, 東 信良 (2024年9月)
大動脈 - 両側外腸骨動脈バイパス後中枢吻合部仮性瘤に対するEVAR中に血栓形成しALIに至った症例
第43回 日本血管外科学会 北海道地方会
44. 菊地 信介, 橋本 侑樹, 田丸 祐也, 土井田 努, 吉田 有里, 竜川 貴光, 庄中 達也, 内田 大貴, 東 信良 (2024年9月)
破裂性腹部大動脈瘤術後腹部コンパートメント症候群に対する閉腹術の工夫
第126回 日本臨床外科学会 北海道支部例会
45. 土井田 勿, 菊地 信介, 真岸 孝行, 田丸 祐也, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 内田 大貴, 三宅 啓介, 宮川 繫, 東 信良 (2024年9月)
腎動脈上遮断を要した緊急腹部大動脈人工血管置換術後の脾液瘻に対して経乳頭的ドレナージにより完治を得た症例
第126回 日本臨床外科学会 北海道支部例会
46. 真岸 孝行, 内田 大貴, 田丸 祐也, 土井田 努, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 菊地 信介, 東 信良 (2024年9月)
バスキュラーアクセス再開通後に脳循環障害に伴い意識障害・神経症状を呈した一例
第43回 日本血管外科学会 北海道地方会
47. 銭坂 晴日, 栗山 直也, 菊地 信介, 田丸 祐也, 土井田 勿, 真岸 孝行, 大平 成真, 竜川 貴光, 吉田 有里, 内田 大貴, 青木 直子, 東 信良 (2024年9月)
右母指主動脈瘤に対し、瘤切除および右深掌動脈弓 - 母指主動脈バイパスを行った一例
第7回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会 (HOPES2024)
48. 関根 慶佳, 栗山 直也, 菊地 信介, 田丸 祐也, 土井田 勿, 真岸 孝行, 大平 成真, 竜川 貴光, 吉田 有里, 内田 大貴, 東 信良 (2024年9月)
混合型胸郭出口症候群に対し第一肋骨切除、前斜角筋及び中斜角筋切離を施行した一例
第7回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会 (HOPES2024)
49. 須田 彩月, 目谷 勇貴, 石井 大介, 元木 恵太, 久万田 優佳, 松本 陽, 河原 仁守, 本多 昌平, 加藤 達哉, 宮城 久之 (2024年9月)
胸腔鏡下囊胞開窓術後に再発を認めた先天性囊胞性肺疾患の1例
第7回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会 (HOPES2024)
50. 目谷 勇貴, 石井 大介, 元木 恵太, 久間田 優佳, 松本 陽, 宮城 久之 (2024年9月)
胆道閉鎖症術後の長期フォローアップ症例からの反省
第109回 日本小児外科学会 北海道地方会
51. 菊地 信介 (2024年9月)
血管疾患における血管診療技師の重要性
第43回 日本血管外科学会 北海道地方会
52. 松本 陽, 石井 大介, 目谷 勇貴, 元木 恵太, 久万田 優佳, 宮城 久之 (2024年9月)
先天性食道閉鎖症A型に対する食道延長術式選択 - 木村法とHoward法の検討
第109回 日本小児外科学会 北海道地方会
53. 浦本 孝幸, 菊地 信介, 真岸 克明, 角浜 孝行, 東 信良, 和泉 祐一 (2024年9月)
血管外科手術後における感染が疑われる症例の鼠径創部に対して単回使用陰圧閉鎖療法システムPICOを用いた閉鎖切開創陰圧創傷治(ciNPWT)を施行し治療した2例
第43回 日本血管外科学会 北海道地方会

54. 田丸 祐也, 菊地 信介, 土井田 務, 栗山 直也, 真岸 孝之, 大平 成真, 竜川 貴光, 吉田 有里, 内田 大貴, 東 信良 (2024年9月)
上腸間膜動脈血栓症に対して上腕動脈穿刺で INDIGO system を用いて血栓吸を施行した2症例の検討
第126回日本臨床外科学会 北海道支部例会
55. 竜川 貴光, 内田 大貴, 真岸 孝行, 田丸 祐也, 土井田 勿, 栗山 直也, 吉田 有里、菊地 信介, 東 信良 (2024年9月)
交通外傷により上腸管膜静脈結紮術施行後の遠隔期に生じた出血性十二指腸静脈瘤に対して回結腸静脈 - 下大静脈バイパスを施行し治癒に至った一例
第43回日本血管外科学会 北海道地方会
56. 菊地 信介, 橋本 侑樹, 田丸 祐也, 土井田 勿, 吉田 有里, 竜川 貴光, 庄中 達也, 内田 大貴, 東 信良 (2024年9月)
破裂性腹部大動脈瘤術後腹部コンパートメント症候群に対する閉腹術の工夫
第126回日本臨床外科学会 北海道支部例会
57. Azuma N. (Oct 2024)
CLTI treatment in Japan: Role of distal bypasses remains important.
40th German Society for Vascular Surgery and Vascular Medicine
58. 元木 恵太, 石井 大介, 目谷 勇貴, 久万田 優佳, 松本 陽, 宮城 久之 (2024年10月)
L-カルニチンを経口投与から経静脈投与へ変更したことにより症状改善した1例
第40回日本小児外科学会 第53回日本小児外科代謝研究会
59. 松本 陽, 石井 大介, 目谷 勇貴, 元木 恵太, 久万田 優佳, 宮城 久之 (2024年10月)
A型食道閉鎖に対する食道延長術の2例
第40回日本小児外科学会 第43回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会
60. 目谷 勇貴, 石井 大介, 元木 恵太, 久万田 優佳, 松本 陽, 河原 仁守, 本多 昌平, 加藤 達哉, 宮城 久之 (2024年10月)
気管支原性囊胞に対し胸腔鏡下囊胞開窓術後に再発を認め胸腔鏡下囊胞全摘出術を施行した1例
第40回日本小児外科学会 第34回日本小児呼吸器外科研究会
61. 宮城 久之, 石井 大介, 目谷 勇貴, 元木 恵太, 久万田 優佳, 松本 陽 (2024年10月)
中間位鎖肛に対するStephens-Smith手術の長期排便機能
第40回日本小児外科学会 第80回直腸肛門奇形研究会
62. 久万田 優佳, 石井 大介, 目谷 勇貴, 元木 恵太, 松本 陽, 宮城 久之 (2024年10月)
神経芽腫に対する放射線治療前に吸収性スペーサーを留置した1例
第40回日本小児外科学会 第43回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会
63. 宮城 久之, 石井 大介, 目谷 勇貴, 元木 恵太, 久万田 優佳, 松本 陽 (2024年10月)
日本最北端の小児外科医のリクルート活動
第40回日本小児外科学会 秋季シンポジウム
64. 東 信良 (2024年11月)
「これからの中大動脈領域の診療体制を考える」胸部・心臓・血管外科領域特定行為研修修了看護師登録制度について
第77回日本胸部外科学会 定期学術集会
65. Kuriyama N. (Nov 2024)
DUS Surveillance protocol for LEAD patients undergoing autologous vein bypass at our institution.
ASUS2024 The 7th Congress of Asian Surgical Ultrasound Society
66. 神野 浩史, 菊地 信介, 真岸 孝行, 田丸 祐也, 土井田 勿, 大平 成真, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 内田 大貴, 東 信良 (Nov 2024)
下肢閉塞性動脈硬化症急性増悪後の大腿切断端感染に対して経皮的血栓吸引療法で血行再建し断端閉鎖した症例
第132回日本循環器学会 北海道地方会 第104回北海道医学大会 循環器分科会
67. 東 信良 (2024年11月)
もう一步先を目指す学術集会
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会

68. 日野岡 蘭子, 菊地 信介, 内田 大貴, 吉田 有里, 大平 成真, 栗山 直也, 竜川 貴光, 土井田 努, 田丸 祐也, 東 信良 (2024年11月)
遠隔診療アプリ JOIN を用いた看護師医師も交えた広域連携
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
69. 東 信良, 三宅 啓介, 菊地 信介 (2024年11月)
Angiosome 概念と創傷治癒: これまでの考え方の変遷
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
70. 菊地 信介, 内田 大貴, 田丸 祐也, 真岸 孝行, 土井田 努, 大平 成真, 竜川 貴光, 吉田 有里, 東 信良 (2024年11月)
Evidenced-based revascularization と創傷治癒にむけた治療戦略
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
71. 東 信良 (2024年11月)
足病って何? あなたの血管、神経は大丈夫?
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
72. 日野岡 蘭子, 菊地 信介, 内田 大貴, 吉田 有里, 大平 成真, 栗山 直也, 竜川 貴光, 土井田 努, 田丸 祐也, 東 信良 (2024年11月)
アウトカムを見据えた血行再建を考える ~潰瘍治療: 創傷管理の立場から~
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
73. 東 信良, 川辺 信秀 (2024年11月)
LEAD・フレイル研究の意義
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
74. 河辺 信秀, 東 信良, 寺師 浩人, 辻 依子, 東田 隆治, 高原 充佳, 山田 憲嗣, 野口 博史, 林 久恵, 渡部 祥輝, 柿花 隆昭, 日吉 徹, 隅崎 達夫 (2024年11月)
LEAD・フレイル研究の概要と現状
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
75. 土井田 務, 菊地 信介, 真岸 孝行, 田丸 祐也, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 内田 大貴, 三宅 啓介, 宮川 繁, 東 信良 (2024年11月)
Bypass 術による血行再建を施行した CLTI 加療における IM grade P2 の重度足部病変が肢機能に与える影響
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
76. 橋本 侑樹, 菊地 信介, 森山 寛也, 内田 恒 (2024年11月)
CLTI 患者の創傷治癒と自宅退院に必要な因子とは ~集学的アプローチの重要性~
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
77. 餌取 将臣, 日野岡 蘭子, 菊地 信介, 東 信良 (2024年11月)
多職種チームと患者教育により自宅退院が実現した一症例
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
78. 竜川 貴光 (2024年11月)
当院におけるコラテジエン®の使用経験
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
79. 菊地 信介 (2024年11月)
日本と米国の糖尿病性下肢虚血潰瘍に対する Limb Salvage はどこまで? ~対足肢も安心はできない。エビデンスから語る SCLI (潜在的重症下肢虚血) ~
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
80. 菊地 信介 (2024年11月)
救肢に向けた最新知見
第5回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
81. Azuma N. (Dec 2024)
Current status CLTI treatment in Japan Reviewing SPINACH study.
The 25th Congress of the Asian Society for Vascular Surgery (ASVS)
82. Azuma N. (Dec 2024)
Training in vascular surgical procedures Inspiring next generations!
The 25th Congress of the Asian Society for Vascular Surgery (ASVS)

83. Kikuchi S. (Dec 2024)
My routine during leg artery bypass.
VESSEL Update 2024
84. Azuma N. (Dec 2024)
Conceptual Change from Angiosome to Wondosome: Reviewing the results of WARRIORS Registry.
VESSEL Update 2024
85. Kikuchi S. (Dec 2024)
AAA Registry, Japan.
VESSEL Update 2024
86. Takahashi K. (Dec 2024)
AAA Research and clinical outcomes.
VESSEL Update 2024
87. Kikuchi S. (Dec 2024)
Optimizing CO₂ Angiography.
VESSEL Update 2024
88. Takahashi K. (Dec 2024)
Leg bypass requirements in Asahikawa.
VESSEL Update 2024
89. Kikuchi S. (Dec 2024)
Reverse Slider Technique Using Endurant Stent Graft.
2024 Xmas Xperts Medtronic Aortic Symposium
90. 木村 友紀, 大津 洋, 米本 直裕, 東 信良, 佐瀬 一洋 (2025年2月)
日本におけるTEVAR導入前のB型動脈解離の長期成績
第55回日本心臓血管外科学会 学術総会
91. 土井田 務, 菊地 信介, 眞岸 孝行, 田丸 裕也, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 友里, 内田 大貴, 三宅 啓介, 宮川 繁, 東 信良 (2025年2月)
CLTI症例の機能肢維持に影響する因子と GVG フレームワークにおける新たな立ち位置
第55回日本心臓血管外科学会 学術総会
92. 栗山 直也, 菊地 信介, 眞岸 孝行, 田丸 裕也, 神野 浩史, 土井田 勿, 大平 成真, 竜川 貴光, 吉田 有里, 内田 大貴, 東 信良 (2025年2月)
包括的高度慢性下肢虚血患者の解剖学的重症度が生命予後に与える影響
第55回日本心臓血管外科学会 学術総会
93. 成田 昌彦, 赤坂 伸之, 福田 はな, 田丸 裕也, 中津 知己, 角浜 孝行, 紙谷 寛之 (2025年2月)
急性大動脈解離に対するFET法 - 中長期経過におけるspring-back forceの影響 -
第55回日本心臓血管外科学会 学術総会
94. 竜川 貴光, 菊地 信介, 眞岸 孝行, 田丸 裕也, 土井田 勿, 神野 浩史, 大平 成真, 栗山 直也, 吉田 有里, 内田 大貴, 東 信良 (2025年2月)
当院におけるコラテジエンの使用経験と短期成績
第55回日本心臓血管外科学会 学術総会
95. 三宅 啓介, 福島 宗一郎, 菊地 信介, 白須 拓郎, 森崎 浩一, 竹内 由利子, 柴田 豪, 佐野 真規, 大森 横子, 桑田 憲明, 藤村 直樹, 夏目 佳代子, 市川 洋平, 内山 英俊, 折本 有貴, 下河原 達也, 松原 裕, 尾原 秀明, 東 信良 (2025年2月)
JAST2302研究: 日本の血管外科施設における膝窩動脈瘤治療のリアルワールドデータ
第55回日本心臓血管外科学会 学術総会
96. 内田 大貴, 菊地 信介, 眞岸 孝行, 田丸 裕也, 神野 浩史, 土井田 勿, 竜川 貴光, 栗山 直也, 吉田 有里, 東 信良 (2025年2月)
破裂性腹部大動脈瘤における遠隔期外科的再介入の実情
第55回日本心臓血管外科学会 学術総会
97. 浦本 孝幸 (2025年2月)
高度石灰化を伴う大動脈腸骨動脈・大腿膝窩動脈閉塞病変に対する工夫をもった外科再建術
Peripheral Artery Surgical Meeting 2025 in Moji

98. Kikuchi S. (2025 年 2 月)
Up date: Usefulness of Valvelotome for distal bypass.
The 2nd Seoul and Asahikawa International Winter Vascular Symposium
99. Jinno H. (2025 年 2 月)
Clinical Case of CLTI in Asahikawa by young vascular surgeons.
The 2nd Seoul and Asahikawa International Winter Vascular Symposium
100. Kikuchi S. (2025 年 2 月)
Update: Usefulness of Xenosure for LEAD.
The 2nd Seoul and Asahikawa International Winter Vascular Symposium
101. Uramoto T. (2025 年 2 月)
Update: Clinical results of Xenosure vs Vein in Asahikawa.
The 2nd Seoul and Asahikawa International Winter Vascular Symposium
102. Kikuchi S. (2025 年 2 月)
Hybrid Procedure for VA Occlusion using Non-compliant Balloon Catheter.
The 2nd Seoul and Asahikawa International Winter Vascular Symposium
103. Kikuchi S. (2025 年 3 月)
Outcomes of Rheocarna therapy in patients with CLTI after Surgical revascularization in Japan.
CLTI Challenges with Revascularization and Adjuvant Therapy

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
東 信良	継続	基盤研究(B)	臨床検体遺伝子解析に基づいた静脈グラフト内膜肥厚制御方法の大動物モデルでの確立
菊地 信介	継続	基盤研究(C)	包括的高度慢性下肢虚血が与える自家静脈グラフトへの分子細胞学的影響
安田 俊輔	継続	基盤研究(C)	コルヒチン腫瘍内投与による抗腫瘍効果の機序解明と免疫学的併用療法の開発
石井 大介	継続	若手研究	小腸灌流保存による免疫応答の抑制

外科学講座

(心臓大血管外科学分野)

Department of Surgery

(Division of Cardiovascular Surgery)

所属教員等

外科学講座（心臓大血管外科学分野）

教 授	紙谷 寛之
講 師	小山 恭平
助 教	筒井 真博
助 教	菊池 悠太
助 教	宮本 寛之
助 教	広藤 愛菜
助 教	藤井 裕美子
客員教授	山崎 健二
客員助教	横山 博一

外科（心臓大血管）

助 教	潮田 亮平
助 教	大久保 謙
助 教	瀬戸川 友紀
助 教	高橋 昌吾

集中治療部

助 教	國岡 信吾
助 教	竹吉 大輔

研究業績紹介

当講座における研究分野は臨床と基礎の2つに分かれている。臨床は紙谷が統括しており、主に低侵襲心臓手術、弓部大動脈外科、開心術後心房細動について多数の論文を発表している。また、若手研究者の登竜門として症例報告も重要だが、学会で発表した演題は必ず論文化するように指導している。継続的な努力の結果、2014年の開講以来、英文論文数は162編となっている。最近ではタイ・ランバーン病院との共同研究も加速しており、アメリカ胸部外科学会など超一流国際学会でも多数の発表を行っている。

基礎は小山が担当し、動物実験と分子生物学の知識と経験を基にした研究を展開している。その一端を紹介する。先進国で死亡原因の上位を占める虚血性心疾患では、冠動脈閉塞による心筋虚血とそれに伴う心筋壊死が病態の本質である。よって根本的な治療法を確立するためには、①虚血の解除に加えて、②失った心筋の再生が必要となる。自家血管を用いた冠動脈バイパス術は、心筋虚血の解除に有効であるが、グラフトの採取に伴う侵襲やグラフト自体の質的量的問題が治療の制限となる。そこで我々は生体吸収性ナノファイバー(NF)を用いて、自家血管へと変化する人工血管の作成に取り組んできた。2024年度、生体に移植したNFスキャフォールドがどのような分解挙動を取るのか初めて定量的な解析を行いTERMIS World Congressで報告した(投稿準備中)。この研究はTERMIS-AP SYIS Awardにノミネートされ、高い評価を受けている。一方、血行再建術は確立された治療だが、心筋壊死を伴う病態において心臓機能を回復させることはできない。その原因是失った心筋を再生するのに十分な分裂能力を心筋細胞がもっていないためであり、遺伝子の使い方を決定するエピゲノムが重要な役割を果たす。我々は独自に確立したマウスモデルの解析から、心筋細胞の遺伝子発現制御におけるヘテロクロマチンの新たな役割について明らかにした。2024年度は、上記の2つのテーマに関して8つの科研費(継続5件、新規3件)とJSPS二国間共同事業の研究費を獲得し、重症心不全の克服に向けて研究を行った。

総説・解説

1. 紙谷 寛之 (2025年3月)
右小開胸左房展開のコツ
胸部外科 Vol.78 No.3 p.16

論文

1. Ushioda R., Hirofuji A., Dit Yoongtong, Boonsap Sakboon, Jaroen Cheewinmethasiri, Thanin Lokeskrawee, Jayanton Patumanond, Suppachai Lawanaskol, Kamiya H., Nuttapon Arayawudhikul (May 2024)
Multi-vessel coronary artery grafting: analyzing the minimally invasive approach and its safety.
Frontiers in Cardiovascular Medicine Vol.11 - 2024
2. Ushioda R., Hirofuji A., Dit Yoongtong, Boonsap Sakboon, Jaroen Cheewinmethasiri, Thanin Lokeskrawee, Jayanton Patumanond, Suppachai Lawanaskol, Kamiya H., Nuttapon Arayawudhikul (May 2024)
Assessing the Benefits of Anaortic Off-pump Coronary Artery Bypass Grafting.
Frontiers in Cardiovascular Medicine Vol.11 - 2024
3. Isa H., Kanamori T., Miyatani K., Tsutsui M., Ushioda R., Yamanaka S., Kamiya H. (Jun 2024)
Cardiopulmonary resuscitation at operating room entry in acute aortic dissection type A patients: is surgery contraindicated?
Frontiers in Surgery 11: 1404825
4. Ushioda R., Hirofuji A., Dit Yoongtong, Boonsap Sakboon, Jaroen Cheewinmethasiri, Thanin Lokeskrawee, Jayanton Patumanond, Suppachai Lawanaskol, Kamiya H., Nuttapon Arayawudhikul (Aug 2024)
The left axillary artery is a reasonable option as the inflow site for saphenous vein graft in minimally invasive coronary artery bypass grafting.
Frontiers in Cardiovascular Medicine 11: 1397396
5. Kikuchi Y., Wakabayashi N., Daikelly I., Braghieri, Patricia Pranke, Kamiya H., Oyama K. (Nov 2024)
Evaluation of the patency rate and endothelialization of a poly- ϵ -caprolactone, nanofiber sheet-based vascular graft using a rat abdominal aortic implantation model.
Frontiers in Surgery Vol.11 - 2024
6. Ise H., Oyama K., Ushioda R., Hirofuji A., Kamada K., Yoshida Y., Payam Akhyari, Kamiya H. (Mar 2025)
Hypothermic circulatory arrest at 20°C does not deteriorate coagulopathy compared to 28°C in a pig model.
Journal of Artificial Organs 28(1): 36-42
7. Okubo R., Shirasaka T., Ushioda R., Narita M., Kunioka S., Kikuchi Y., Tsutsui M., Motoyoshi N., Kamiya H. (Mar 2025)
Relationships among hemolysis indicators and neuron - specific - enolase in patients undergoing veno - arterial extracorporeal membrane oxygenation.
Journal of Artificial Organs 28(1): 43-49

症例報告

1. Okubo R., Otani N., Kamiya H. (Apr 2024)
Renal rescue after inadvertent coverage during endovascular aneurysm repair.
Journal of Vascular Surgery Cases and Innovative Techniques 10(2): 101411
2. Motiduki N., Ushioda R., Yuzawa S., Miyatani K., Isa H., Setogawa Y., Ishidou K., Narita M., Suzuki F., Hirofuji A., Okubo R., Kunioka S., Tsutsui M., Ishikawa N., Hiroyuki K. (Apr 2024)
A case of non-bacterial thrombotic endocarditis on the aortic valve following coronary angiography.
Journal of Surgical Case Reports 2024(4): rjae212

3. Inoue A., Ushioda R., Miyatani K., Shirakura K., Mochizuki N., Isa H., Setogawa Y., Narita M., Suzuki F., Hirofuji A., Okubo R., Kunioka S., Tsutsui M., Kamiya H. (May 2024)
Fulminant respiratory failure due to severe pneumothorax after re-do coronary artery bypass grafting treated with veno-venous extracorporeal membrane oxygenation.
Journal of Surgical Case Reports 2024(5): rjae360
4. Mochizuki N., Ushioda R., Dit Yoongtong, Boonsap Sakboon, Jaroen Cheewinmethasiri, Kamiya H., Nuttapon Arayawudhikul (Jun 2024)
Epicardial hematoma due to heart positioner device in minimally invasive coronary artery bypass.
Journal of Surgical Case Reports 2024(6): rjae417
5. Suzuki F., Tsutsui M., Isa H., Kunioka S., Kamiya H. (Jun 2024)
Abiotrophia defectiva Endocarditis: A Case Diagnosed Incidentally Due to Multi-organ Embolism.
Cureus 16(6): e63146
6. Takeyoshi D., Konuma T., Kojima A., Takigiku K., Takeuchi T., Kamiya H., Harada Y. (Jun 2024)
Long-term outcomes of the non-fenestrated strategy for extracardiac total cavopulmonary connection.
Annals of Thoracic Surgery Short Reports 2(4): 820-824
7. 井上 陽斗, 宮谷 和樹, 伊佐 秀貴, 鈴木 文隆, 瀬戸川 友紀, 大久保 謙, 広藤 愛菜, 國岡 信吾, 筒井 真博, 石川 成津矢, 紙谷 寛之 (2024年6月)
気管切開後の重症僧帽弁閉鎖不全症に対し低侵襲心臓手術を行った一例
北海道外科雑誌 Vol.69 No.1 70-71p.
8. Tsutsui M., Miyatani K., Shirakura K., Setogawa Y., Suzuki F., Miyamoto H., Okubo R., Ushioda R., Kunioka S., Ishikawa N., Otani N., Kamiya H. (Oct 2024)
A case of minimum invasive debranch thoracic endovascular aortic repair for isolated left vertebral artery: complete revascularization without artificial vessels via a single small incision.
Journal of Surgical Case Reports 2024(10): rjae595
9. Hayashi K., Ushioda R., Maruoka J., Shimizu K., Shirakura K., Mochizuki N., Setogawa Y., Okubo R., Miyamoto H., Takahashi S., Kunioka S., Tsutsui M., Kamiya H. (Oct 2024)
Successful surgical repair of a huge left ventricular pseudoaneurysm after repair of left ventricular rupture during mitral valve replacement.
Journal of Surgical Case Reports 2024(10): rjae636
10. Isa H., Tsutsui M., Suzuki F., Ushioda R., Kunioka S., Kamiya H. (Nov 2024)
Axillary-coronary artery bypass using a vein graft via the suprasternal route.
Asian Cardiovascular & Thoracic Annals 32(8-9): 481-483
11. Ushioda R., Boonsap Sakboon, Dit Yoongtong, Jaroen Cheewinmethasiri, Kamiya H., Nuttapon Arayawudhikul (Nov 2024)
Giant cardiac schwannoma around the left atrium: a case report.
Journal of Surgical Case Reports 2024(11): rjae738
12. Shirakura K., Ushioda R., Tsutsui M., Kunioka S., Mochizuki N., Aonuma T., Kawabata N., Saitoh E., Nakagawa N., Kamiya H. (Feb 2025)
A case of rapid rupture of a calcified amorphous tumor observed by echocardiography.
Journal of Surgical Case Reports 2025(2): rjaf064
13. Takahashi S., Shirakura K., Tsutsui M., Kunioka S., Ushioda R., Kitani Y., Minoshima A., Takeuchi T., Nakagawa N., Kamiya H. (Mar 2025)
Transapical aortic valve replacement and concomitant coronary bypass grafting in on-pump beating fashion: a case report.
Journal of Surgical Case Reports 2025(3): rjaf119

研究発表

1. Ushioda R., Hirofuji A., Dit Yoongtong, Boonsap Sakboon, Jaroen Cheewinmethasiri, Kamiya H., Nuttapon Arayawudhikul (Apr 2024)
Assessing the Benefits of Nonaortic Off-pump Coronary Artery Bypass Grafting.
AATS 104TH ANNUAL MEETING

2. 小山 恭平, 田中 宏樹, 立石 義隆, 紙谷 寛之 (2024 年 6 月)
Trim28 の欠損はマウス心筋細胞で脂肪酸代謝遺伝の発現を低下させる
第 17 回 日本エピジェネティクス研究会年会
3. 福田 はな, 成田 昌彦, 水島 大地, 中津 知己, 赤坂 伸之 (2024 年 6 月)
胸部ステントグラフ内挿術後に播種性血管内凝固症候群をきたした一例
第 131 回 日本循環器学会 北海道地方会
4. 白倉 健太朗, 望月 伸浩, 瀬戸川 友紀, 大久保 謙, 宮本 寛之, 潮田 亮平, 國岡 信吾, 筒井 真博, 石川 成津矢, 紙谷 寛之 (2024 年 6 月)
手術適応に悩んだ僧帽弁 Calcified amorphous tumor(CAT)の一例
第 131 回 日本循環器学会 北海道地方会
5. Oyama K., Kikuchi Y., Yoshida T., Naruse D., Kunioka S., Kamiya H. (Jun 2024)
Insulin Treatment Prevents Deterioration of PCL Graft In A Diabetic Rat Model.
7th termis world congress
6. Kunioka S., Yoshida T., Naruse D., Setogawa Y., Kikuchi Y., Tsutsui M., Wakabayashi N., Oyama K., Kamiya H. (Jun 2024)
Characterizing The Degradation Behavior Of Various Nanofiber Scaffolds In Vivo.
7th termis world congress
7. Narita M., Shirakura K., Fukuta H., Mizushima D., Nakatsu T., Kamiya H., Akasaka N. (Jun 2024)
Thoracic Aortic Rupture in a Patient with Repeated Oral Fluoroquinolone Administration.
The 13th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery
8. 潮田 亮平, 紙谷 寛之, 広藤 愛菜, Arayawudhiku Nuttapon (2024 年 7 月)
MICS OPCAB における SVG の inflow 選択
第 28 回 日本冠動脈外科学会 学術大会
9. 紙谷 寛之 (2024 年 7 月)
CABG は医師 5 年目くらいまでは執刀を開始した方が良いのではなかろうか?
第 28 回 日本冠動脈外科学会 学術大会
10. 伊佐 秀貴, 紙谷 寛之, 筒井 真博, 望月 伸浩, 鈴木 文隆, 瀬戸川 友紀, 大久保 謙, 潮田 亮平, 宮本 寛之, 國岡 信吾 (2024 年 7 月)
Leriche 症候群, Porcelain Aorta 合併の急性心筋梗塞症例に対し total venous CABG を行った一例
第 28 回 日本冠動脈外科学会 学術大会
11. 紙谷 寛之 (2024 年 7 月)
現場での実践と課題-CABG は Underuse されている
第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会 学術集会
12. 塩泡 優大, 徳野 翔太, 木谷 祐也, 青沼 達也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 斎藤 江里香, 衰島 晓帆, 坂本 央, 田邊 康子, 竹内 利治, 伊佐 秀貴, 國岡 信吾, 紙谷 寛之 (2024 年 7 月)
心原性ショック合併急性心筋梗塞における Impella の初期成績と短期予後予測因子の検討
第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会 学術集会
13. 堀元 美里, 大久保 謙, 筒井 真博, 國岡 信吾, 潮田 亮平, 白倉 健太朗, 竹吉 大輔, 宮本 寛之, 瀬戸川 友紀, 紙谷 寛之 (2024 年 9 月)
下行大動脈瘤破裂への緊急 TEVAR による distal SINE が原因で偽腔経由に破裂孔からの再出血を生じ、同日追加治療を必要とした 1 例
第 7 回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会
14. 福田 はな, 成田 昌彦, 白倉 健太朗, 水島 大地, 中津 知己, 赤坂 伸之 (2024 年 9 月)
レボフロキサシンの反復投与後に大動脈瘤破裂をきたした一例
第 7 回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会
15. 野村 悠起, 潮田 亮平, 望月 伸浩, 白倉 健太朗, 瀬戸川 友紀, 大久保 謙, 宮本 寛之, 竹吉 大輔, 國岡 信吾, 筒井 真博, 紙谷 寛之 (2024 年 9 月)
感染性胸部仮性大動脈瘤に対する上行大動脈人工血管置換術の 1 例
第 7 回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会

16. 竹吉 悠, 潮田 亮平, 望月 伸浩, 白倉 健太朗, 濑戸川 友紀, 大久保 諒, 宮本 寛之, 竹吉 大輔, 國岡 信吾, 筒井 真博, 紙谷 寛之 (2024年9月)
植え込み型除細動器リードの繰り返す感染に対して循環停止下での摘出を要した1例
第7回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会
17. 宮崎 晉, 筒井 真博, 白倉 健太朗, 望月 伸浩, 潮田 亮平, 大久保 諒, 宮本 寛之, 竹吉 大輔, 國岡 信吾, 石川 成津矢, 紙谷 寛之 (2024年9月)
Mitraclip 施行中に生じた僧帽弁後尖損傷に対し MICS MVR を施行した1例
第7回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会
18. 白倉 健太朗, 望月 伸浩, 濑戸川 友紀, 大久保 諒, 宮本 寛之, 潮田 亮平, 國岡 信吾, 筒井 真博, 石川 成津矢, 紙谷 寛之 (2024年9月)
手術適応に悩んだ冠動脈肺動脈瘻の1治験例
第7回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会
19. 潮田 亮平, 紙谷 寛之, Arayawudhikul Nuttapon (2024年11月)
70歳以上の高齢者における全動脈血行再建と片側内胸動脈に伏在静脈グラフト使用症例の比較
第77回 胸部外科学会 定期学術集会
20. 國岡 信吾, 吉田 巧, 成瀬 大輔, 濑戸川 友紀, 筒井 真博, 菊池 悠太, 若林 尚宏, 小山 恭平, 紙谷 寛之 (2024年11月)
種々のナノファイバースキャフォールドの生体内分解挙動の解析
第77回 胸部外科学会 定期学術集会
21. 成田 昌彦, 福田 はな, 水島 大地, 中津 知己, 紙谷 寛之, 赤坂 伸之 (2024年11月)
開心術後のトルバプラシンリン酸エステルナトリウム(サムタス点滴静注用)投与の安全性と効果に対する検討
第77回 胸部外科学会 定期学術集会
22. 筒井 真博, 白倉 健太朗, 望月 伸浩, 濑戸川 友紀, 宮本 寛之, 大久保 諒, 潮田 亮平, 竹吉 大輔, 國岡 信吾, 石川 成津矢, 紙谷 寛之 (2024年11月)
当院における急性大動脈解離に対する FROZENIX partial ET の使用経験
第77回 胸部外科学会 定期学術集会
23. 白倉 健太朗, 望月 伸浩, 濑戸川 友紀, 大久保 諒, 宮本 寛之, 潮田 亮平, 國岡 信吾, 筒井 真博, 石川 成津矢, 紙谷 寛之 (2024年11月)
若手心臓外科医師における SAVR の安全性の検討
第77回 胸部外科学会 定期学術集会
24. 宮崎 晉, 筒井 真博, 清水 要, 丸岡 純, 白倉 健太朗, 濑戸川 友紀, 宮本 寛之, 大久保 諒, 潮田 亮平, 高橋 昌吾, 竹吉 大輔, 國岡 信吾, 田村 駿, 橋口 隼太朗, 伊達 歩, 竹内 利治, 紙谷 寛之 (2024年11月)
長年のAFによる三尖弁輪拡大によって引き起こされた内科治療困難なTRに対して単独のTVRを施行した1例
第132回 日本循環器学会 北海道地方会
25. 佐藤 有沙, 木谷 祐也, 田村 駿, 小尾 基記, 佐藤 朱夏, 橋口 隼太朗, 渡辺 栄, 徳野 翔太, 伊達 歩, 萩島 曜帆, 田邊 康子, 竹内 利治, 國岡 信吾, 筒井 真博, 紙谷 寛之, 中川 直樹 (2024年11月)
冠動脈狭窄及び大動脈弁狭窄を伴うペーシング誘発性心筋症に対し内科・外科的ハイブリッド治療を行った1例
第132回 日本循環器学会 北海道地方会
26. 田村 駿, 小尾 基記, 佐藤 朱夏, 橋口 隼太朗, 渡辺 栄, 徳野 翔太, 青沼 達也, 木谷 祐也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 齋藤 江里香, 萩島 曜帆, 田邊 康子, 竹内 利治, 國岡 信吾, 紙谷 寛之, 中川 直樹 (2024年11月)
重症僧帽弁閉鎖不全症を合併した大動脈弁狭窄症に対するTAVIの有効性についての検討
第132回 日本循環器学会 北海道地方会
27. 高橋 昌吾, 筒井 真博, 丸岡 純, 清水 要, 白倉 健太朗, 濑戸川 友紀, 宮本 寛之, 大久保 諒, 潮田 亮平, 國岡 信吾, 紙谷 寛之 (2024年11月)
急性心不全かつ高度石灰化を伴うASR、3枝病変に対してハートチームでの治療が奏効した1例
第132回 日本循環器学会 北海道地方会
28. 小山 恭平, 田中 宏樹, 立石 義隆, 紙谷 寛之 (2024年11月)
心筋細胞の遺伝子発現制御に与える Trim28 knockout の影響
第47回 日本分子生物学会 年会

29. 白倉 健太朗, 望月 伸浩, 瀬戸川 友紀, 大久保 諒, 宮本 寛之, 潮田 亮平, 國岡 信吾, 筒井 真博, 紙谷 寛之 (2024年11月)
CLTI患者におけるCABGの治療戦略と遠隔予後
第37回日本冠疾患学会学術集会
30. 小山 恭平 (2024年12月)
心筋細胞の遺伝子発現制御におけるTrim28の役割
文部科学省科学研究費助成事業
学術変革領域研究「学術研究支援基盤形成」『先進ゲノム解析研究推進プラットフォーム(先進ゲノム支援)』-拡大班会議-
31. 中津 知己, 木村 文昭, 伊佐 秀貴, 福田 はな, 田丸 祐也, 成田 昌彦, 角浜 孝行 (2025年1月)
左上肢の人工血管抜去後の創部治癒不全に対して、バイパス手術を行い治癒した一例
第2回北海道静脈フォーラム
32. 潮田 亮平, 丸岡 純, 清水 要, 望月 伸浩, 白倉 健太朗, 高橋 昌吾, 宮本 寛之, 大久保 諒, 瀬戸川 友紀, 國岡 信吾, 筒井 真博, Arayawudhikul Nuttapon, 紙谷 寛之 (2025年2月)
右内胸動脈を no-touch saphenous vein と radial artery どちらで延長させるべきか
第55回日本心臓血管外科学会学術集会
33. 白倉 健太朗, 望月 伸浩, 瀬戸川 友紀, 大久保 諒, 宮本 寛之, 潮田 亮平, 國岡 信吾, 筒井 真博, 紙谷 寛之 (2025年2月)
急性大動脈解離におけるStanford, DeBakey分類および偽腔血流の発症時年齢との関連性
第55回日本心臓血管外科学会学術集会
34. 横山 博一, 筒井 真博, 國岡 信吾, 菊池 悠太, 潮田 亮平, 紙谷 寛之 (2025年2月)
大動脈解離の発症起因に関する初期検討 - 30年前に発表された論文に基く検証 -
第55回日本心臓血管外科学会学術集会
35. 成田 昌彦, 赤坂 伸之, 福田 はな, 田丸 祐也, 中津 知己, 角浜 孝行, 紙谷 寛之 (2025年2月)
急性A型大動脈解離に対するFET法 - 中長期経過におけるspring-back forceの影響 -
第55回日本心臓血管外科学会学術集会
36. 國岡 信吾, 筒井 真博, 丸岡 純, 白倉 健太朗, 瀬戸川 友紀, 宮本 寛之, 大久保 諒, 高橋 昌吾, 清水 要, 望月 伸浩, 鈴木 文隆, 伊佐 秀貴, 紙谷 寛之 (2025年2月)
術中5分間出血量カウントと閉胸後15分出血量カウントによる出血再開胸の予防
第55回日本心臓血管外科学会学術集会
37. 高橋 昌吾, 清水 要, 丸岡 純, 白倉 健太朗, 瀬戸川 友紀, 宮本 寛之, 大久保 諒, 潮田 亮平, 國岡 信吾, 筒井 真博, 紙谷 寛之 (2025年2月)
Impella使用心原性ショック症例における蘇生後脳症の検討
第55回日本心臓血管外科学会学術集会
38. 宮本 寛之, 清水 要, 丸岡 純, 望月 伸浩, 白倉 健太朗, 瀬戸川 友紀, 潮田 亮平, 大久保 諒, 竹吉 大輔, 國岡 信吾, 筒井 真博, 紙谷 寛之 (2025年2月)
Stanford A型急性大動脈解離に対するFROZENIX Partial ETの使用経験
第55回日本心臓血管外科学会学術集会
39. 須田 康裕, 千葉 拓, 竹吉 大輔, 小林 大太, 小北 直宏, 紙谷 寛之, 牧野 洋 (2024年3月)
三尖弁位の感染性心内膜炎の塞栓予防として施行した外科的治療が敗血症の病態改善に有効であった一例
第52回日本集中治療医学会学術集会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
紙谷 寛之	継続	基盤研究(B)	冠動脈バイパス術のグラフト材としての生体吸収性ナノファイバーグラフトの研究
筒井 真博	継続	基盤研究(C)	生体吸収性小口径人工血管の長期開存性担保の為の新生内膜肥厚の検討
広藤 愛菜	継続	基盤研究(C)	Mycを用いた心筋細胞分裂誘導メカニズムの解明と心筋再生治療の基盤構築

國岡 信吾	継続	基盤研究(C)	移植後早期に完全自家血管化する小口径人工血管の開発
藤井 裕美子	継続	基盤研究(C)	胆管上皮細胞における SHIP2 脂質ホスファターゼの核内機能とその発がんへの関与
小山 恭平	新規	基盤研究(B)	心筋細胞分裂を促すトランスポゾン由来エンハンサーによる心不全の克服
瀬戸川 友紀	新規	研究活動スタート支援	ヒト心筋細胞分裂制御におけるトランスポゾンの役割の解明
小山 恭平	新規	国際共同研究強化 (海外連携研究)	心臓再生の治療ターゲットを同定する <i>in vivo</i> Split-seq 解析の応用

外科学講座

(肝胆膵・移植外科学分野)

Department of Surgery

(Division of Hepato-Biliary-Pancreatic and Transplant Surgery)

所属教員等

外科学講座（肝胆膵・移植外科学分野）

教 授 横尾 英樹
講 師 今井 浩二
助 教 高橋 裕之
客員教授 今井 政人

外科（肝胆膵・移植）

助 教 島田 慎吾
客員講師 萩原 正弘
客員助教 関 美香子

救急科

助 教 水上 獨一郎

研究業績紹介

外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野は、旧第二外科開講の頃より臨床、教育、研究の三本柱のうち、特に研究に力を注ぎました。旭川医大の名を世界に知らしめた初代水戸迪郎教授による肝細胞を脾臓に移植する研究に始まり、連綿と肝胆膵領域の研究が継続されており、現在は第四代 横尾英樹教授のもと、その精神は今も教室員に受け継がれています。また、当講座単独で研究を行うだけではなく、消化器内科との共同研究による複数の科研費の獲得、全国的な多施設共同試験への積極的な参加、学会主導のプロジェクト研究への参加、大学院生を国立がん研究センター研究所や当院の病院病理部へ出向させての共同研究など、多数の基礎、及び臨床研究を行って成果を上げています。

総説・解説

1. 谷 誠良, 榎本 克朗, 渡部 大成, 水上 獨一郎, 武田 智宏, 大谷 将秀, 大原 みづほ, 庄中 達也, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024年12月)

【直腸癌に対するロボット支援手術の最新の知見】(総説)

北海道外科雑誌 69巻2号 Page102-106

論文

1. Adachi Y., Noguchi R., Osaki J., Ono T., Iwata S., Akiyama T., Tsuchiya R., Toda Y., Sekita T., Iwata S., Kobayashi E., Kojima N., Yoshida A., Yokoo H., Kawai A., Kondo T. (Aug 2024) Establishment and characterization of two novel patient-derived cell lines from myxofibrosarcoma: NCC-MFS7-C1 and NCC-MFS8-C1. *Hum Cell* 37(6): 1742-1750
2. Mizukami S., Shonaka T., Takeda T., Takahata H., Shimazaki R., Otani M., Ohara M., Tani C., Hasegawa K., Yokoo H. (Mar 2025) Comparative Evaluation of Laparoscopic Origami Crane Training With 3D and 2D Laparoscopy: Correlation With Fundamentals of Laparoscopic Surgery Scores. *Surg Innov* 32(3): 262-269

症例報告

1. 篠原 翔平, 島田 慎吾, 竹元 小乃美, 浜田 卓巳, 山田 健司, 横田 良一 (2024年8月) 鼠径ヘルニア症状を来さず偽還納による腸閉塞で発症し腹腔鏡下に診断および解除した1例 *日本消化器外科学会雑誌* 57巻8号 Page401-409

2. Takahashi T., Ishii T., Maejima T., Miyazaki D., Fukahori S., Kuwahara H., Aimon E., Kimura T., Yanai M., Hagiwara M. (Nov 2024)
Total Minimally Invasive Curative Staged Resections After Induction Systemic Therapy for Metastatic Rectal Cancer.
Cancer Rep (Hoboken) 7(11): e70051.

研究発表

1. 島田 慎吾, 高橋 裕之, 牧野 開, 高畠 宏規, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024年4月)
肝細胞癌に対する門脈四次分枝を意識した亜区域切除未満の肝切除
第124回 日本外科学会 (名古屋)
2. 今井 浩二, 高畠 宏規, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 角 泰雄, 横尾 英樹 (2024年4月)
脾頭十二指腸切除術後胆管炎のリスク因子と傾向スコアマッチングを用いた肝管空腸吻合連続吻合の有用性に関する検討
第124回 日本外科学会 (名古屋)
3. 安達 雄輝, 野口 玲, 大崎 珠理亜, 岩田 秀平, 谷野 美智枝, 佐々木 一樹, 大槻 純男, 横尾 英樹, 近藤 格 (2024年5月)
肝細胞癌のFFPE標本を対象とした網羅的プロテオーム解析: 再発メカニズムの解明と新規バイオマーカーの同定を目指して
第110回 日本消化器病学会 総会 (徳島)
4. 高橋 裕之, 榎本 克朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024年5月)
当科におけるロボット支援下肝切除の安全な導入
第29回 北海道内視鏡外科研究会 (札幌)
5. 高橋 裕之, 榎本 克朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024年6月)
胆管腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する肝拡大右葉切除時の術中胆管ステント留置の経験
第78回 手術手技研究会 (福岡)
6. 安達 雄輝, 野口 玲, 大崎 珠理亜, 岩田 秀平, 谷野 美智枝, 佐々木 一樹, 大槻 純男, 横尾 英樹, 近藤 格 (2024年6月)
肝細胞癌術後再発における分子機構の解明と予後予測バイオマーカーの開発: FFPE標本を対象とした網羅的プロテオーム解析
第60回 日本肝臓学会 総会 (熊本)
7. 水上 燐一朗, 庄中 達也, 横尾 英樹, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 今井 浩二 (2024年6月)
結腸直腸癌肝転移に対する根治的肝切除後の Histopathological growth pattern の予後の意義の検証
第60回 日本肝臓学会 総会 (熊本)
8. 水上 燐一朗, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024年6月)
胆管癌進展度診断に対するゲノム変異情報付加の有用性
第125回 日本臨床外科学会 北海道支部総会 (帯広)
9. 榎本 克朗, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024年6月)
脾腫瘍との鑑別が困難であった仮性腸間膜嚢胞の切除経験
第125回 日本臨床外科学会 北海道支部総会 (帯広)
10. 安達 雄輝, 野口 玲, 岩田 秀平, 佐々木 一樹, 谷野 美智枝, 大槻 純男, 横尾 英樹, 近藤 格 (2024年6月)
肝細胞癌のFFPE標本を活用した網羅的プロテオーム解析: 術後再発における分子機構の解明と予後予測バイオマーカーの開発
日本プロテオーム学会 2024年大会・第20回 日本臨床プロテオゲノミクス学会 合同大会 (青森)
11. 今井 浩二, 牧野 開, 水上 燐一朗, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 横尾 英樹 (2024年6月)
Safety of surgery for pancreatic cancer in the elderly.
第36回 日本肝胆膵外科学会 学術集会 (広島)
12. 島田 慎吾, 高橋 裕之, 牧野 開, 高畠 宏規, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024年6月)
Liver resection for hepatocellular carcinoma less than segmentectomy focused on the fourth branch of the portal vein.
第36回 日本肝胆膵外科学会 学術集会 (広島)

13. 水上 獨一朗, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024 年 6 月)
Prognostic factors and efficacy of neoadjuvant chemotherapy in technically resectable colorectal liver metastasis.
第 36 回 日本肝胆胰外科学会 学術集会 (広島)
14. 島田 慎吾, 高橋 裕之, 牧野 開, 高畠 宏規, 今井 浩二, 石戸谷 俊太, 横尾 英樹 (2024 年 7 月)
肝細胞癌に対する肝切除における MR エラストグラフィの意義
第 60 回 日本肝癌研究会 (姫路)
15. 水上 獨一朗, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024 年 7 月)
当科における大腸癌肝転移に対する根治的肝切除後の再発・予後因子と治療ストラテジーの検討
第 60 回 日本肝癌研究会 (姫路)
16. 横尾 英樹, 高橋 裕之, 榎本 克朗, 渡部 大成, 牧野 開, 水上 獨一朗, 島田 慎吾, 今井 浩二 (2024 年 7 月)
大型肝細胞癌に対するレンバチニブ投与後の肝切除成績は Upfront 切除より良好か
第 60 回 日本肝癌研究会 (姫路)
17. 今井 浩二, 牧野 開, 水上 獨一朗, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 横尾 英樹 (2024 年 7 月)
高齢者脾疾患に対する脾頭十二指腸切除術の安全性についての検討
第 79 回 日本消化器外科学会 総会 (下関)
18. 島田 慎吾, 高橋 裕之, 水上 獨一朗, 牧野 開, 高畠 宏規, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024 年 7 月)
大腸癌肝転移切除症例における術前化学療法と RAS 変異の意義
第 79 回 日本消化器外科学会 総会 (下関)
19. 高橋 裕之, 榎本 克朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024 年 7 月)
地方大学の消化器外科医育成プログラムにおける地域医療研修の重要性とその活用法
第 79 回 日本消化器外科学会 総会 (下関)
20. 水上 獨一朗, 庄中 達也, 高橋 裕之, 武田 智宏, 大原 みづほ, 谷 誓良, 島田 慎吾, 今井 浩二,
長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024 年 7 月)
結腸直腸癌肝転移に対する根治的肝切除後の Histopathological growth pattern の予後的意義の検証
第 79 回 日本消化器外科学会 総会 (下関)
21. 榎本 克朗, 高橋 裕之, 牧野 開, 水上 獨一朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 澤田 康司, 横尾 英樹 (2024 年 7 月)
クローム病に合併した多発巨大肝細胞癌に対して Atezolizumab + Bevacizumab 療法後に肝切除を施行した一例
第 30 回 日本肝がん分子標的治療研究会 (東京)
22. 安達 雄輝, 野口 玲, 大崎 珠理亞, 岩田 秀平, 塩田 よもぎ, 近藤 格 (2024 年 8 月)
世界初の再発骨巨細胞腫 (Giant Cell Tumor of Bone: GCTB) 細胞株樹立と特性評価: 薬物治療の最適化を目指して
日本患者由来がんモデル学会・日本ヒト細胞学会合同学術集会 2024 (東京)
23. 榎本 克朗, 高橋 裕之, 牧野 開, 水上 獨一朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024 年 8 月)
クローム病に合併した多発巨大肝細胞癌に対して Atezolizumab + Bevacizumab 療法後に肝切除を施行した 1 例
第 135 回 日本消化器病学会 北海道支部例会 (札幌)
24. 榎本 克朗, 高橋 裕之, 牧野 開, 水上 獨一朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024 年 9 月)
深層学習の手法を用いた腹腔鏡下肝切除における最適なポート造設位置の推定の試み
第 18 回 肝癌治療ナビゲーション研究会
25. 島田 慎吾, 高橋 裕之, 今井 浩二, 佐野 麻衣, 高橋 美香, 岡田 基, 古川 博之, 横尾 英樹 (2024 年 9 月)
旭川医科大学病院における脳死下臓器提供シミュレーションによる院内コーディネーター教育
第 60 回 日本移植学会総会 (長崎)
26. 島田 慎吾, 中川 直樹, 和田 直樹, 橘田 岳也, 佐野 麻衣, 高橋 裕之, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2024 年 9 月)
生体腎ドナーにおける長期的腎機能の推移およびアウトカム
第 60 回 日本移植学会総会 (長崎)
27. 榎本 克朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 水上 獨一朗, 高橋 裕之, 谷野 美智枝, 河本 徹, 横尾 英樹
(2024 年 9 月)
GCD 療法後にコンバージョン切除に至った肝門部領域胆管癌の 1 例
第 7 回 HOPES (札幌)

28. 井出 裕人(学生5年生), 今井 浩二, 榎本 克朗, 水上 瑞一朗, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 横尾 英樹
(2024年9月)
食道癌術後における胃管温存脾頭十二指腸切除術の2例
第7回HOPES(札幌)
29. 安達 雄輝, 野口 玲, 大崎 珠理亜, 岩田 秀平, 谷野 美智枝, 佐々木 一樹, 大槻 純男, 横尾 英樹, 近藤 格
(2024年9月)
Molecular Mechanisms of Postoperative Recurrence in Hepatocellular Carcinoma: Proteomic Analysis of FFPE Samples.
第83回日本癌学会 学術総会(福岡)
30. 高橋 裕之, 榎本 克朗, 水上 瑞一朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹(2024年10月)
Standardized Laparoscopic Left Hepatectomy in Our Institute.
ILLS 2024(京都)
31. Shimada S., Takahashi H., Makino K., Takahata H., Imai K., Yokoo H. (Oct 2024)
Liver resection for hepatocellular carcinoma less than segmentectomy focused on the fourth branch of the portal vein.
ACS Clinical Congress 2024 (San Francisco)
32. Adachi Y., Noguchi R., Osaki J., Iwata S., Tanino M., Sasaki K., Ohtsuki S., Yokoo H., Kondo T. (Oct 2024)
Investigating molecular mechanisms and novel biomarkers of postoperative recurrence in hepatocellular carcinoma: proteomic analysis of FFPE samples.
Human Proteome Organization World Congress 2024 (Germany)
33. 水上 瑞一朗, 庄中 達也, 高橋 裕之, 榎本 克朗, 渡部 大成, 武田 智宏, 大原 みづほ, 谷 誓良, 島田 慎吾,
今井 浩二, 長谷川 公治, 谷野 美智枝, 横尾 英樹(2024年10月)
Histopathological growth pattern は大腸癌肝転移の重要な病理学的予後予測因子となる
第62回日本癌治療学会 学術集会(福岡)
34. 横尾 英樹, 高橋 裕之, 今井 浩二(2024年10月)
大型進行肝細胞癌に対するレンバチニブ投与後肝切除の治療成績
JDDW 2024(神戸)
35. 高橋 裕之, 榎本 克朗, 水上 瑞一朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹(2024年11月)
当科における術者と助手の協調によるロボット支援下肝切除の安全な導入
第18回肝臓内視鏡外科研究会(宇都宮)
36. 榎本 克朗, 高橋 裕之, 今井 浩二, 島田 慎吾, 水上 瑞一朗, 横尾 英樹(2024年11月)
深層学習の手法を用いた腹腔鏡下肝切除における最適なポート造設位置の推定の試み
第86回臨床外科学会 学術集会(宇都宮)
37. 高橋 裕之, 榎本 克朗, 水上 瑞一朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹(2024年12月)
当科におけるロボット支援下肝切除の安全な導入と助手の重要性
第37回日本内視鏡外科学会(福岡)
38. 榎本 克朗, 高橋 裕之, 渡部 大成, 水上 瑞一朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 澤田 康司, 大谷 将秀,
長谷川 公治, 横尾 英樹(2025年1月)
進行胃癌を合併した巨大肝細胞癌に対する Atezolizumab + Bevacizumab 療法後の肝・胃同時切除の経験
第31回肝がん分子標的治療研究会(岡山)
39. 島田 慎吾, 中川 直樹, 和田 直樹, 橘田 岳也, 佐野 麻衣, 高橋 裕之, 今井 浩二, 横尾 英樹(2025年2月)
生体腎マージナルドナーにおける腎機能の推移およびアウトカム
第58回日本臨床腎移植学会(広島)
40. 渡部 大成, 今井 浩二, 水上 瑞一朗, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 谷野 美智枝, 横尾 英樹(2025年3月)
術前に肝内胆管癌との鑑別が困難であった IgG4 関連硬化性胆管炎の1切除例
第136回日本消化器病学会 北海道支部例会(札幌)
41. 横尾 英樹, 高橋 裕之, 渡部 大成, 榎本 克朗, 水上 瑞一朗, 島田 慎吾, 今井 浩二(2025年3月)
導入初期経験からみたロボット支援下肝切除テクニックの展望
第17回日本ロボット外科学会(宇都宮)

42. 潤澤 朋紀 (初期研修医), 高橋 裕之, 渡部 大成, 島田 慎吾, 今井 浩二, 横尾 英樹 (2025年3月)
 脇頭十二指腸切除後の創し開による挙上空腸脚破裂の1例
 第61回 日本腹部救急医学会 (名古屋)

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
横尾 英樹	再延長	基盤研究(C)	患者由来がんモデルを用いた肝細胞癌に対するFABP5を標的にした新規治療法の開発
今井 浩二	継続	基盤研究(C)	全臍のゲノム異常監視による臍癌術後再発の予測
島田 慎吾	延長	若手研究	腸内細菌叢を標的とした新たな肝細胞癌術後再発制御法の開発

外科学講座
(消化管外科学分野)

Department of Surgery
(Division of Gastrointestinal Surgery)

所属教員等

外科学講座（消化管外科学分野）

講 師 庄中 達也
客員講師 千里 直之
客員講師 小原 啓

外科（消化管）

講 師 長谷川 公治
助 教 谷 誓良
助 教 大谷 将秀

救急科

助 教 武田 智宏

寄附講座（女性活躍・地域活性推進外科学講座）

特任助教 大原 みづほ

研究業績紹介

旭川医大消化管外科学講座は、初代教授の角泰雄教授が2018年9月に開講された。当科では「臨床研究」「医学教育」「最先端機器」「ゲノム医療」を4本柱に研究が進行中である。臨床研究では悪性腫瘍のみならず炎症性腸疾患の外科手術及び一般外科の分野

（ヘルニア、腹腔内腫瘍、憩室炎など）の治療例や独自の治療方法について論文及び研究発表を行っている。現在は、当院独自で行っている人工肛門閉鎖術施行時の肛門側腸管への栄養剤投与の有効性や大腸ステント症例の長期予後についても報告している。近年問題となっている腹壁瘢痕ヘルニアについての治療例の報告も多数行っている。医学教育では腹腔鏡やロボット支援手術などの効果的な教育方法を模索しており、折り鶴作成を行うことによる腹腔鏡の初学者の効率的な研究を行っている。この研究成果は医学生や大学院生を中心に発表・報告され、論文化されるに至った。現在はロボット支援手術が初学者に与える手術教育に与える影響を研究中である。最先端機器は8K内視鏡の有効性やTaTMEと呼ばれる直腸癌の2team手術、ロボット支援手術について多数の報告をしてきた。また、悪性腫瘍の治療を多く扱う当科にとってゲノム医療は今後の治療にとって大きな柱となると考えており特に力点を置いている。現在我々は直腸癌の術前化学療法施行例に消化器内科と共同しゲノム解析を行い、その特徴を探索する研究を行っている。また、近年は肝胆膵移植外科と合同で転移性肝癌の組織学的形態から見た、有効例の探索研究を行っており、ゲノム探索も並行して行っている。これらの研究成果は、スタッフだけではなく、医学生や研修医・専攻医にも積極的に発表してもらっており、徐々に研究成果が蓄積されつつある。

総説・解説

1. 谷 誓良, 榎本 克朗, 渡部 大成, 水上 稔一朗, 武田 智宏, 大谷 将秀, 大原 みづほ, 庄中 達也, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024年12月)
直腸癌に対するロボット支援手術の最新の知見
北海道外科雑誌 69(2): 102-106
2. 庄中 達也, 武田 智宏, 横尾 英樹 (2024年10月)
TP53-RAS/RAF 経路のクロストークに基づく局所進行直腸癌の術前治療戦略
Medical Science Digest 50(11): 612-614

論文

1. Mizukami S., Shonaka T., Takeda T., Takahata H., Shimazaki R., Otani M., Ohara M., Tani C., Hasegawa K., Yokoo H. (Mar 2025)
Comparative Evaluation of Laparoscopic Origami Crane Training With 3D and 2D Laparoscopy: Correlation With Fundamentals of Laparoscopic Surgery Scores.
Surg Innov. ahead of print
2. Sawada N., Mukai S., Akagi T., Okamoto K., Fujita F., Suwa H., Ide Y., Furuhata T., Kanazawa A., Shimamura T., Kojima S., Ohnuma S., Kinjo T., Ichikawa N., Yamaguchi S., Taketomi A., Naitoh T., Furutani A., Noda A., Ishibe A., Tani C., Yamamoto D., Teraishi F., Ishida F., Asahara F., Ozawa H., Karasawa H., Osawa H., Iijima H., Nagano H., Takeshita H., Ota H., Ochiai H., Ogawa H., Saeki H., Hasegawa H., Bando H., Horie H., Nagahara H., Watanabe J., Hayashibara K., Uehara K., Takehara K., Kojo K., Saito K., Ikeda K., Munakata K., Goto K., Otsuka K., Hida K., Nagakari K., Uemura M., Shimomura M., Shiozawa M., Takata M., Yamamoto M., Ito M., Inomata M., Watanabe M., Numata M., Miguchi M., Shibusawa M., Ozawa M., Takatsuki M., Aisu N., Suzuki N., Ikeshima R., Inada R., Oshima R., Maruyama S., Homma S., Fujino S., Mori S., Takeda S., Aoyama S., Saito S., Takahashi S., Sasaki T., Yamanashi T., Matsuda T., Miura T., Fukuoka T., Ono T., Shonaka T., Godai T., Funakoshi T., Adachi T., Yamaguchi T., Kimura T., Aiba T., Nagasaki T., Fujiwara T., Mizushima T., Iseki Y., Sumi Y., Rino Y., Kamada Y., Kurose Y., Kita Y., Sakai Y. (Dec 2024)
Usefulness of participation of endoscopic surgical skill qualification system-qualified surgeons in laparoscopic high anterior resection.
Asian Journal of Endoscopic Surgery 18(1), e13409

症例報告

1. Hayashi R., Ueno N., Watanabe H., Kobayashi Y., Sakatani A., Takahashi K., Yuzawa S., Ando K., Tani C., Kashima S., Shonaka T., Moriichi K., Tanabe H., Tanino M., Fujiya M. (Oct 2024)
Unresectable Ulcerative Colitis Associated Colon Cancer in a Young Japanese Patient: A Case Report.
Intern Med. ahead of print
2. 牧野 開, 庄中 達也, 島崎 龍太郎, 武田 智宏, 大原 みづほ, 谷 誓良, 北 健吾, 長谷川 公治, 湯澤 明夏, 谷野 美智枝, 横尾 英樹 (2024年12月)
増大傾向を認め切除した直腸神経鞘腫の1例
北海道外科雑誌 69(2): 127-133

研究発表

1. Takeda T., Shonaka T., Mizukami Y., Otani M., Ohara M., Tani C., Hasegawa K., Ono Y., Tanino M., Yokoo H. (May 2024)
Predictive Factors for Neoadjuvant Chemotherapy Efficacy and Prognosis in Locally Advanced Rectal Cancer: Insights from Genetic Mutations and Co-mutations.
The 37th PPSA-JC
2. Otani M., Hasegawa K., Watanabe D., Enomoto K., Takeda T., Ohara M., Tani C., Shonaka T., Asai K., Yokoo H. (Oct 2024)
eTEP-Rives-Stoppa Repair of Recurrent Incisional Hernia with Central Mesh Failure: A Case Report.
2024 World Congress of Abdominal Wall Hernia Surgery
3. 谷 誓良, 庄中 達也, 牧野 開, 島崎 龍太郎, 武田 智宏, 大原 みづほ, 北 健吾, 長谷川 公治, 横尾 英樹, 角 泰雄 (2024年4月)
クローン病手術症例の検討
第124回日本外科学会定期学術集会
4. 谷 誓良, 庄中 達也, 高畠 宏規, 島崎 龍太郎, 武田 智宏, 大原 みづほ, 北 健吾, 長谷川 公治, 上小倉 佑機, 湯澤 明夏, 谷野 美智枝, 横尾 英樹, 角 泰雄 (2024年6月)
当院で経験した虫垂 Goblet cell adenocarcinoma (GCA) の2例
第49回日本外科系連合学会学術集会

5. Shonaka T., Tani C., Takeda T., Shimazaki R., Shimazaki S., Ohara M., Hasegawa K., Taninno M., Makita Y., Yokoo H. (Jul 2024)
MSI-H 大腸癌の臨床病理学的特徴とバイオマーカーとしての意義
第 79 回 日本消化器外科学会 総会
6. 庄中 達也, 水上 稔一朗, 武田 智宏, 榎本 克朗, 渡部 大成, 大谷 将秀, 大原 みづほ, 谷 誓良, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 今井 浩二, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024 年 11 月)
腹腔鏡の Off the job training としての「折り鶴トレーニング」がもたらす技能向上の可能性
第 86 回 日本臨床外科学会 総会
7. 庄中 達也, 谷 誓良, 武田 智宏, 渡部 大成, 水上 稔一朗, 大谷 将秀, 大原 みづほ, 長谷川 公治, 田邊 裕貴, 蒔田 芳男, 谷野 美智枝, 横尾 英樹 (2024 年 6 月)
当科での高頻度マイクロサテライト不安定性大腸癌におけるリンチ症候群診療の現状
第 79 回 日本大腸肛門病学会 学術集会
8. 大原 みづほ, 渡部 大成, 榎本 克朗, 水上 稔一朗, 武田 智宏, 大谷 将秀, 谷 誓良, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 庄中 達也, 今井 浩二, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024 年 11 月)
多様な背景を持つ指導者がこれから外科医を育てる -女性外科医の視点から-
第 86 回 日本臨床外科学会
9. 武田 智宏, 庄中 達也, 牧野 開, 高畠 宏規, 島崎 龍太郎, 大原 みづほ, 谷 誓良, 北 健吾, 長谷川 公治, 小野 裕介, 水上 裕輔, 谷野 美智枝, 横尾 英樹, 角 泰雄 (2024 年 4 月)
局所進行直腸癌における TP53, KRAS, SMAD4, その他の変異プロファイルと術前治療効果および予後との関連性
第 124 回 日本外科学会 定期学術集会
10. 武田 智宏, 庄中 達也, 谷 誓良, 高畠 宏規, 牧野 開, 島崎 龍太郎, 大原 みづほ, 北 健吾, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024 年 7 月)
局所進行直腸癌に対する NAC・NACRT の比較検討: 单施設後方視的研究
第 79 回 日本消化器外科学会 総会
11. 庄中 達也, 谷 誓良, 大原 みづほ, 渡部 大成, 榎本 克朗, 水上 稔一朗, 大谷 将秀, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 今井 浩二, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024 年 11 月)
左側大腸癌術後回腸人工肛門閉鎖術前における空置大腸への経腸栄養剤投与の有効性
JDDW 2024
12. 庄中 達也, 谷 誓良, 大原 みづほ, 渡部 大成, 榎本 克朗, 大谷 将秀, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024 年 11 月)
下部進行直腸癌に対する NAC を中心とした術前治療の検討: 单施設後方視的研究
第 86 回 日本臨床外科学会 総会
13. 武田 智宏, 庄中 達也, 谷 誓良, 大原 みづほ, 渡部 大成, 榎本 克朗, 大谷 将秀, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024 年 12 月)
下部直腸癌に対する TpAPR の安全性と有効性の検討: 单施設後方視的研究
第 37 回 日本内視鏡外科学会 総会
14. 大谷 将秀, 長谷川 公治, 角 泰雄 (2024 年 5 月)
横切開瘢痕を伴う正中腹壁瘢痕ヘルニアに対して eTEP-TAR で修復した 1 例
第 22 回 日本ヘルニア学会 学術集会
15. 大谷 将秀, 武田 智宏, 大原 みづほ, 谷 誓良, 庄中 達也, 長谷川 公治, 角 泰雄 (2024 年 7 月)
減量後に修復した巨大腹壁瘢痕ヘルニアの 1 例
第 61 回 日本外科代謝栄養学会
16. 大谷 将秀, 渡部 大成, 武田 智宏, 大原 みづほ, 谷 誓良, 庄中 達也, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024 年 9 月)
緊急開腹術後の大きな腹壁瘢痕ヘルニアに対して内視鏡下腹膜外修復術を施行した 1 例
第 16 回 日本 Acute Care Surgery 学会
17. 大谷 将秀, 渡部 大成, 武田 智宏, 大原 みづほ, 谷 誓良, 庄中 達也, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024 年 12 月)
腹壁瘢痕ヘルニアに対して eTEP-TAR 法で修復した 6 例
第 37 回 日本内視鏡外科学会 総会

18. 榎本 克朗, 高橋 裕之, 今井 浩二, 島田 慎吾, 水上 稔一朗, 横尾 英樹 (2024年11月)
深層学習の手法を用いた腹腔鏡下肝切除における最適なポート造設位置の推定の試み
第86回日本臨床外科学会 学術集会
19. 榎本 克朗, 高橋 裕之, 渡部 大成, 水上 稔一朗, 島田 慎吾, 今井 浩二, 澤田 康司, 大谷 将秀,
長谷川 公治, 横尾 英樹 (2025年1月)
進行胃癌を合併した巨大肝細胞癌に対する Atezolizumab + Bevacizumab 療法後の肝・胃同時切除の
経験
第31回 肝がん分子標的治療研究会
20. 渡部 大成, 武田 智宏, 榎本 克朗, 大谷 将秀, 大原 みづほ, 谷 誓良, 庄中 達也, 長谷川 公治, 横尾 英樹
(2024年11月)
非閉塞性腸間膜虚血症に対する Open Abdominal Management 適応の探索: 単施設後方視的研究
第86回日本臨床外科学会 学術集会
21. 庄中 達也, 水上 稔一朗, 渡部 大成, 武田 智宏, 大谷 将秀, 大原 みづほ, 谷 誓良, 長谷川 公治,
榎本 克明, 高橋 裕之, 島田 慎吾, 今井 浩二, 澤田 康司, 長谷部 拓夢, 岡田 哲弘, 上小倉 佑機,
谷野 美智枝, 横尾 英樹 (2024年6月)
直腸癌肝転移の自然壊死と周囲に多数の IgG4 陽性形質細胞浸潤を認めた1例
第50回 肝組織を見る会
22. 庄中 達也, 榎本 克朗, 渡部 大成, 水上 稔一朗, 武田 智宏, 大谷 将秀, 大原 みづほ, 谷 誓良, 高橋 裕之,
島田 慎吾, 今井 浩二, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024年8月)
若手への技術伝承を目指した旭川医大の試み - AMSUE による外科専門医育成と「折り鶴トレーニング」-
第135回日本消化器病学会 北海道支部例会
23. 庄中 達也, 谷 誓良, 大原 みづほ, 渡部 大成, 武田 智宏, 大谷 将秀, 長谷川 公治, 宮内 琴菜, 和田 直樹,
横尾 英樹 (2024年10月)
直腸脱・完全子宮脱合併例へ腹腔鏡下直腸後方固定術とロボット支援仙骨臍固定術を同時施行した1
例
第45回日本大腸肛門病学会 北海道支部例会
24. 渡部 大成, 大原 みづほ, 武田 智宏, 大谷 将秀, 谷 誓良, 庄中 達也, 長谷川 公治, 上小倉 佑機, 横尾 英樹
(2024年8月)
局所進行下行結腸癌穿通に対し集学的治療で根治切除が可能となった一例
第135回日本消化器病学会 北海道支部例会
25. 西田 さと, 大原 みづほ, 榎本 克朗, 武田 智宏, 大谷 将秀, 谷 誓良, 庄中 達也, 坂田 玲, 林 真奈実,
上小倉 佑機, 佐藤 允洋, 菅原 基史, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2025年3月)
直腸肛門部悪性黒色腫術後12年で吻合部に再発した1例
第136回日本消化器病学会 北海道支部例会
26. 武田 智宏, 庄中 達也, 谷 誓良, 大原 みづほ, 渡部 大成, 大谷 将秀, 長谷川 公治, 横尾 英樹
(2024年5月)
腹腔鏡下結腸右半切除術における課題～当科成績と若手執刀ビデオを通じて～
第29回 北海道内視鏡外科学研究会
27. 澤田 葉緒音, 武田 智宏, 渡部 大成, 大谷 将秀, 谷 誓良, 庄中 達也, 盛一 健太郎, 林 真奈実,
谷野 美智枝, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2024年9月)
FAPに併存するびまん性胃底腺ポリポーシスに対して予防的胃全摘術を施行した一例
第7回 北海道外科学会 合同学術集会
28. 大谷 将秀, 岩田 浩義, 浅井 慶子, 唐崎 秀則, 稲葉 聰 (2024年5月)
eTEP-TAR 法による腹壁瘢痕ヘルニア修復後に腹腔鏡下回盲部切除術を施行した1例
第29回 北海道内視鏡外科学研究会
29. 大谷 将秀, 岩田 浩義, 浅井 慶子, 唐崎 秀則, 橋本 道紀, 稲葉 聰 (2024年6月)
Defect 16cm の腹壁瘢痕ヘルニアに対して eTEP-TAR 法で修復した1例
第125回日本臨床外科学会 北海道支部総会
30. 大谷 将秀, 長谷川 公治, 渡部 大成, 武田 智宏, 大原 みづほ, 谷 誓良, 庄中 達也, 湯澤 明夏,
谷野 美智枝, 横尾 英樹 (2024年6月)
術後2年目に肝転移再発した早期胃原発胎児消化管類似癌の1例
第125回日本臨床外科学会 北海道支部総会

31. 大谷 将秀, 浅井 慶子, 久万田 優佳, 岩田 浩義, 唐崎 秀則, 橋本 道紀, 稲葉 聰, 長谷川 公治, 横尾 英樹
(2024年11月)
Hartmann手術後の腹壁瘢痕ヘルニア再発に対して腹腔鏡下修復術を施行した1例
第17回北海道「ヘルニアを学ぶ会」
32. 大谷 将秀, 石井 大介, 岩田 浩義, 佐武 由康, 岡田 陽子, 鳥海 飛鳥, 今村 匠志, 西川 裕司, 松野 直徒, 長谷川 公治, 横尾 英樹 (2025年3月)
温虚血障害下のブタ肝移植片に対するケルセチンとスクロース含有溶液の保存効果
第37回代用臓器・再生医学研究会総会 日本バイオマテリアル学会 北海道ブロック 第9回研究会
33. 渡部 大成, 武田 智宏, 大谷 将秀, 大原 みづほ, 谷 誓良, 庄中 達也, 湯澤 明夏, 長谷川 公治, 横尾 英樹
(2024年6月)
卵巣腫瘍を契機に診断された低異型度虫垂粘液性腫瘍卵巣転移の一例
第125回日本臨床外科学会 北海道支部総会
34. 渡部 大成, 大原 みづほ, 武田 智宏, 大谷 将秀, 谷 誓良, 庄中 達也, 長谷川 公治, 上小倉 佑機, 横尾 英樹
(2024年8月)
局所進行下行結腸癌穿通に対し集学的治療で根治切除が可能となった一例
第135回日本消化器病学会 北海道支部例会
35. 渡部 大成, 渡部 大成, 大谷 将秀, 武田 智宏, 大原 みづほ, 谷 誓良, 庄中 達也, 長谷川 公治, 横尾 英樹
(2024年9月)
治療に難渋した High Output Stoma Syndrome の1例
第113回北海道外科学会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
庄中 達也	継続	基盤研究(C)	TP53-RAS/RAF経路のクロストークに基づく局所進行直腸癌の術前治療戦略
大谷 将秀	新規	研究活動スタート支援	腹壁瘢痕ヘルニア患者における術前減量がもたらすCT計測値と筋膜閉鎖への影響の評価

整形外科学講座

Department of Orthopaedic Surgery

所属教員等

整形外科学講座

教 授	伊藤 浩
講 師	小林 徹也
講 師	谷野 弘昌
講師(学内)	妹尾 一誠
助 教	三好 直樹
助 教	柴田 宏明
助 教	松倉 圭佑

整形外科

講 師	阿部 里見
講師(学内)	入江 徹
助 教	小原 和宏
助 教	光武 遼
助 教	高橋 裕貴
特命助教	宮澤 良祐

寄附講座（人工関節講座）

特任助教 水谷 幸三郎

研究業績紹介

＜股関節班＞ 股関節班の手術は THA、骨切り術、外傷などを中心に行っておりますが、コロナ禍で減少していた手術件数は右肩上がりに増加し、現在はコロナ以前の手術件数を超える勢いで手術数となっております。現在の研究は主に、より確実な手技を目指したポータブルナビゲーションシステムの導入、研究を主として行っており、研究は海外論文にも多数アクセプトされております。

＜上肢班＞ 腕神経叢、肩から指先における上肢全般の診療、手術加療を行っておりますが、肩関節に関してはこの 10 年で世界的に普及が進んでまいりましたリバース型人工肩関節の治療を、いち早く国内の肩関節の著明な先生への師事や海外留学の経験を活かしてとりいれ、肩板損傷の治療を含め幅広く活躍しております。また、肘関節分野では野球肘などスポーツ外傷の手術治療やスポーツ復帰へのサポート、手指に関しても先天性疾患、外傷、変性疾患など、豊富な知識と経験を活かした専門的な治療を行っています。

＜下肢班＞ 下肢班は海外留学を行いながら、臨床から基礎研究まで幅広く活躍されております。臨床では変性疾患、スポーツ障害、外傷、小児先天性疾患における膝や足関節の治療を行っています。基礎研究では関節軟骨の再生と間葉系幹細胞の移植免疫の研究や ACL などの研究を中心に行っております。

＜腫瘍班＞ 整形外科領域の骨軟部腫瘍のほか、転移性骨腫瘍の診断、マネージメントなどを中心に行っておりますが、骨軟部腫瘍や転移性腫瘍を自信をもって診断治療できる医師は整形外科、他科とも旭川市内、道北オホーツク圏内には限られた医師しかおらず、日々いろいろな地域の先生方からコンサルトを受け、忙しく活動しております。研究としては全国規模の他施設研究への参加等を行っており、院内では科横断的な役割を果たしております。

<脊椎班> 脊椎班は先代の竹光義治名誉教授が着目し築き上げてきた、脊柱変形の研究が現在世界的にも注視され、30年以上続く当大学の疫学的調査は現在も受け継がれ、研究内容は世界への情報発信源として非常に注目されています。これらの報告・研究はこの数年間、アクセプトされるのがステータスとされる欧米の主要脊椎学会や整形外科学会に採択され、研究成果を海外にて発表しております。また Rush 大学、総合せき損センター、徳島大学など、基礎臨床両面での研鑽をつんでいます。

総説・解説

1. 清水 瞳也, 小林 徹也 (2024 年 12 月)
【全身アライメントで考える変形性関節症】長期住民検診からみた立位全脊柱アライメントと体幹・下肢筋力ならびに関節可動域の関係性
Orthopaedics 37(13): 1-7
2. 水谷 幸三郎, 伊藤 浩, 西良 浩一 (2024 年 10 月)
【整形外科外来診療の工夫--診断, 保存療法, 外来手術】部位別疾患と保存療法 脊椎 椎間板性腰痛診断と全内視鏡下脊椎手術
別冊整形外科 86: 93-96
3. 柴田 宏明, 伊藤 浩 (2024 年 7 月)
北海道から発信する骨軟部腫瘍のエビデンス 道北地方における骨軟部腫瘍診療
北海道整形災害外科学会雑誌 66(1): 10-13
4. 水谷 幸三郎, 西良 浩一 (2024 年 5 月)
整形外科 名人の know-how 全内視鏡下腰椎椎体間固定術(FE-KLIF)
整形・災害外科 67(6): 706-709
5. 水谷 幸三郎, 西良 浩一 (2024 年 5 月)
【スポーツ医学で華麗に加齢-人生 100 年時代に向けた運動器の役割-】華麗に加齢 姿勢変化の抗加齢 腰部脊柱管狭窄症の後弯姿勢
臨床スポーツ医学 41(5): 476-480
6. 三好 直樹, 末永 直樹 (2024 年 4 月)
【インプラント周囲骨折の治療-成功へ導く最新の知見-】人工肩関節置換術後のインプラント周囲骨折の特徴と治療の実際
関節外科 43(4): 436-445

論文

1. Higa M., Tanino H., Hirai Y., Inoue S., Mitsutake R., Ito H. (Mar 2025)
A wireless intraoperative joint force sensing system for total hip arthroplasty.
Medical Engineering&Physics 138: 104325
2. 谷野 弘昌, 光武 遼, 高木 建一, 伊藤 浩 (2025 年 2 月)
拡張現実技術を用いた市販型股関節ポータブルナビゲーションシステムはコンベンショナルテクニックに比べてカップ設置を正確にするか?-前向きランダマイズ研究
整形外科 76(2): 182-185
3. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平, 伊藤 浩 (2024 年 12 月)
関節開大力により異なるギャップ・バランスのクラスター分析
日本人工関節学会誌 54: 109-110
4. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平, 伊藤 浩 (2024 年 12 月)
内側開大式高位脛骨骨切り術後の人工膝全関節置換術のギャップバランスと joint line の問題
日本人工関節学会誌 54: 99-100
5. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 12 月)
小児脛骨顆間隆起骨折の関節鏡視下プルアウト修復術の 5 年の中期的評価: 3 例の症例報告
日本膝関節学会誌 1: 317-321
6. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 12 月)
先天性膝蓋骨脱臼・亜脱臼に対して 10 歳未満と 10 歳以降で手術治療行った症例の比較
日本膝関節学会誌 1: 322-325

7. 岡安 浩宜, 小林 徹也, 妹尾 一誠, 津村 謙一, 西能 渉一, 伊藤 浩 (2024年11月)
COVID-19 パンデミックによる脊柱側彎症診療への影響
Journal of Spine Research 15(11): 1272-1276
8. Tanino H., Mitsutake R., Ito H. (Nov 2024)
Interposition of the Fracture Fragment of a Vitamin E-Blended, Highly Crosslinked Polyethylene Liner After Total Hip Arthroplasty: A Case Report.
Clinical Case Reports 12: e9561
9. 北村 勇斗, 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平, 佐々木 祐介, 伊藤 浩 (2024年9月)
多発関節拘縮症に合併した垂直距骨に対する外科的治療の一例
東日本整形災害外科学会誌 36: 97-100
10. 橋本 ちひろ, 土屋 瑠奈, 原谷 俊治, 今野 真都佳, 光武 遼, 谷野 弘昌 (2024年8月)
人工股関節全置換術後の患者の退院後の活動ニーズ
Hip Joint 50(2): S28-S30
11. 三好 樹, 入江 徹, 高橋 裕貴, 藤澤 拓真, 奥原 一貴, 井上 和也, 伊藤 浩 (2024年8月)
当科における解剖学的人工肩関節置換術とリバース型人工肩関節置換術の中期成績 平均5年以上
肩関節 48(1): 160-165
12. Abe S., Sasaki Y., Matsukura K. (Jul 2024)
Long-term outcomes of BCG osteomyelitis in infants: Epiphyseal regeneration and minimal leg-length discrepancy after 10 years.
JOS Case Reports 3(2): 111-116
13. Mitsutake R., Takakuwa M., Tanino H., Ito H. (May 2024)
Administration of Cimetidine for Calcific Tendinitis of the Rectus Femoris: Five Cases.
Cureus Journal of Medical Science 16(5): e61002

研究発表

1. Abe S., Ito H. (Mar 2025)
Progression of coronal varus knee deformity is related to pelvic posterior tilt and distal tibia varus.
American Academy of Orthopaedic Surgery 2025 Annual meeting
2. Abe S., Ito H. (Mar 2025)
Middle-term Effects of Open Wedge High Tibial Osteotomy on Medial Compartment Cartilage and Meniscus Evaluated by MRI.
American Academy of Orthopaedic Surgery 2025 Annual meeting
3. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平, 伊藤 浩 (2025年2月)
Rotating Hinge型人工膝関節における脱臼症例報告と要因の検討
第55回日本人工関節学会
4. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2025年2月)
クリニカルパス活用による尿道カテーテル早期抜去はTKA術後尿路感染症を防ぐ
第55回日本人工関節学会
5. Abe S., Matsukura K., Ito H. (Feb 2025)
Varus Alignment Affects Femoral Cartilage and Meniscus Extrusion: No Correlation with Tibial Cartilage.
Orthopaedic Research Society Annual Meeting 2025
6. 阿部 里見 (2025年2月)
足関節軟部悪性腫瘍の一例
第39回下肢と足部疾患研究会
7. 阿部 里見 (2025年1月)
持続的局所抗菌薬灌流CLAPと創外固定で治療した化膿性足関節炎を合併した慢性骨髓炎の一例
旭川関節疾患カンファレンス
8. 阿部 里見 (2025年1月)
変形性膝関節症の病態生理と個別化治療～新たな視点と最近の知見～
三木会 学術講演会

9. 谷村 謙成, 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 12 月)
化膿性膝関節炎に対する追加手術の予測因子の検討
第 2 回 日本膝関節学会
10. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 12 月)
膝変形性関節症を認めない 75 歳以上の下肢アライメントと特徴の検討
第 2 回 日本膝関節学会
11. 伊藤 貴理, 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 12 月)
高位脛骨骨切り術の出血対策は必要か? ~人工関節全置換術との比較検討~
第 2 回 日本膝関節学会
12. 川尻 誠, 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 12 月)
反復性膝蓋骨脱臼における Patellar instability Severity Score
第 2 回 日本膝関節学会
13. 松倉 圭佑, 阿部 里見, 前田 陽平 (2024 年 12 月)
前十字靱帯損傷では脛骨外側後方の T2 値が延長し再建後も改善しない ~MRI による軟骨の質的評価~
第 2 回 日本膝関節学会
14. 前田 陽平, 阿部 里見, 松倉 圭佑 (2024 年 12 月)
SecuAlign HTO プレートシステムを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術におけるプレート設置についての検討
第 2 回 日本膝関節学会
15. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 12 月)
先天性膝関節脱臼は早期治療介入が重要である
第 2 回 日本膝関節学会
16. 松倉 圭佑, 阿部 里見, 前田 陽平 (2024 年 11 月)
舟状骨底側亜脱臼と立方骨骨折を伴った一例
第 49 回 日本足の外科学会 学術集会
17. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 11 月)
関節鏡視下足関節固定術における距骨外側突起方向のスクリューと早期荷重は骨癒合に有効である
第 49 回 日本足の外科学会 学術集会
18. 谷野 弘昌, 佐藤 達也, 光武 遼, 伊藤 浩 (2024 年 11 月)
歩行解析による股関節不安定性の評価
日本臨床バイオメカニクス学会
19. 三好 直樹, 入江 徹, 藤澤 拓真, 見田 貴弘, 伊藤 浩, 奥原 一貴 (2024 年 10 月)
各 RSA implant の特徴と適応 Zimmer mixuse の特徴と適応
第 51 回 日本肩関節学会 学術集会
20. 見田 貴弘, 三好 直樹, 入江 徹, 奥原 一貴, 高橋 裕貴, 藤澤 拓真, 伊藤 浩 (2024 年 10 月)
Surface holding 方を用いた腱板修復・再建術の中長期成績
第 51 回 日本肩関節学会 学術集会
21. 中島 大輔, 三好 直樹, 入江 徹, 奥原 一貴, 高橋 裕貴, 藤澤 拓真, 伊藤 浩 (2024 年 10 月)
上腕骨近位に腫瘍用人工骨頭置換術を行い長期経過した 1 例
第 51 回 日本肩関節学会 学術集会
22. 谷野 弘昌, 光武 遼, 伊藤 浩 (2024 年 10 月)
AR-HIP の計測精度と pelvic motion の関係
第 51 回 日本股関節学会 学術集会
23. 千葉 恒, 小林 徹也, 清水 瞳也, 妹尾 一誠, 杉澤 裕之, 菅原 敏暢, 横濱 韶 (2024 年 10 月)
陳旧性骨粗鬆症性椎体骨折例の生活習慣および自己効力感の検討
第 26 回 日本骨粗鬆症学会
24. 松倉 圭佑, 近藤 誠, Maak Travis G., Grainger Davie W., 岡野 光夫 (2024 年 10 月)
ヌードラット軟骨欠損移植モデルにおける小児軟骨細胞シート移植後 4 週間以内の組織学的変化
第 39 回 日本整形外科学会 基礎学術集会

25. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 9 月)
クリニカルパスによる尿道カテーテル留置期間短縮は TKA 術後尿路感染症を減少させる
第 73 回 東日本整形災害外科学会
26. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 9 月)
X 線で膝変形性関節症を認めない 75 歳以上の下肢アライメントと特徴の検討
第 73 回 東日本整形災害外科学会
27. 松倉 圭佑, 阿部 里見, 前田 陽平, 伊藤 浩 (2024 年 9 月)
Open wedge HTO における軟骨修復に影響を与える因子の検討
第 73 回 東日本整形災害外科学会
28. 前田 陽平, 阿部 里見, 松倉 圭佑, 伊藤 浩 (2024 年 9 月)
開大式楔状高位脛骨骨切り術前後における内側半月逸脱体積の検討
第 73 回 東日本整形災害外科学会
29. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 9 月)
スポーツ義足における外傷性大腿切断の外科的およびスポーツ活動の課題
第 2 回 日本スポーツ整形外科学会
30. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 9 月)
疼痛のみや MRI 診断が困難な hypermobile lateral meniscus は手術まで期間が長い
第 2 回 日本スポーツ整形外科学会
31. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 9 月)
膝蓋骨内側不安定性に対してデクスマデトミジン塩酸塩を用いた術中覚醒下に外側修復術を施行した一例
第 2 回 日本スポーツ整形外科学会
32. 前田 陽平, 阿部 里見, 松倉 圭佑 (2024 年 9 月)
3 次元 MRI 解析を用いた開大式高位脛骨骨切り術後 1 年の内側半月逸脱体積の検討
第 2 回 日本スポーツ整形外科学会
33. 阿部 里見 (2024 年 9 月)
反復性膝蓋骨脱臼における Patellar instability Severity Score
北海道膝関節研究会
34. 阿部 里見 (2024 年 8 月)
整形外科の立場から - 血友病性関節症の治療
道北血友病セミナー
35. 前田 陽平, 阿部 里見, 松倉 圭佑 (2024 年 8 月)
CLAP と創外固定を用いた関節固定により早期治癒を目指した化膿性足関節炎の一例
第 34 回 北海道下肢と足部疾患研究会
36. 阿部 里見、松倉 圭佑、前田 陽平、伊藤 浩 (2024 年 7 月)
敗血症性膝関節炎の術後 1 週の CRP は追加手術の予測因子となる
第 47 回 日本骨・関節感染症学会
37. 柴田 宏明, 宮澤 良祐, 伊藤 浩, 丹代 晋 (2024 年 7 月)
対照的な経過をたどった Ewing-like sarcoma の 2 例
第 57 回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会
38. 前田 陽平, 阿部 里見, 松倉 圭佑, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
SecuAlign HTO プレートシステムを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術におけるプレート設置についての検討
第 143 回 北海道整形災害外科学会
39. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
3DMRI による変形性膝関節症における下肢アライメントと軟骨体積や内側半月逸脱体積の関連性の検討
第 143 回 北海道整形災害外科学会
40. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 6 月)
関節鏡視下足関節固定術における距骨外側突起方向のスクリューと早期荷重は骨癒合に有効である
第 143 回 北海道整形災害外科学会

41. 谷村 謙成, 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
敗血症性膝関節炎における追加手術の予測因子の検討
第 143 回 北海道整形災害外科学会
42. 谷野 弘昌, 光武 遼, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
AR-HIP の計測精度と pelvic motion の関係
第 143 回 北海道整形災害外科学会
43. 西能 渉一, 妹尾 一誠, 小林 徹也, 津村 謙一, 北村 勇斗, 宮澤 良祐, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
Candida albicans による腰椎化膿性脊椎炎の 1 例
第 143 回 北海道整形災害外科学会
44. 妹尾 一誠, 小林 徹也, 津村 謙一, 西能 渉一, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
各世代で撮影された全脊椎 CT を用い、後方視的にびまん性特発性骨増殖症や既存椎体骨折の有病率や発生傾向を調査した疫学的研究
第 143 回 北海道整形災害外科学会
45. 水谷 幸三郎, 西能 渉一, 妹尾 一誠, 小林 徹也, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
成人脊柱変形の非 X 線項目に関する住民コホート研究
第 143 回 北海道整形災害外科学会
46. 水谷 幸三郎, 西能 渉一, 妹尾 一誠, 小林 徹也, 伊藤 浩, 西良 浩一 (2024 年 6 月)
全内視鏡下脊椎手術を施行した Baastrup 病の 1 例
第 143 回 北海道整形災害外科学会
47. 津村 謙一, 小林 徹也, 妹尾 一誠, 水谷 幸三郎, 西能 渉一, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
高齢者脊柱変形コホート研究 体幹下肢筋力と X 線項目の縦断変化について
第 143 回 北海道整形災害外科学会
48. 水谷 幸三郎, 西能 渉一, 妹尾 一誠, 小林 徹也, 伊藤 浩, 西良 浩一 (2024 年 6 月)
FE-KLIF における ENRI 発生率と回避方法 多施設研究
第 143 回 北海道整形災害外科学会
49. 見田貴弘、三好直樹、入江 徹、奥原一貴、高橋裕貴、藤澤拓真、伊藤 浩 (2024 年 6 月)
Surface holding 法を用いた腱板修復・再建術の術後成績
第 143 回 北海道整形災害外科学会
50. 高橋 裕貴, 入江 徹, 三好 直樹, 藤澤 拓真, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
観血的整復を要した母指 IP 関節背側脱臼の一例
第 143 回 北海道整形災害外科学会
51. 藤澤 拓真, 入江 徹, 三好 直樹, 見田 貴弘, 伊藤 浩, 奥山 峰志, 奥原 一貴, 高橋 裕貴, 平山 隆三 (2024 年 6 月)
当科における上腕骨外側上顆炎の手術成績
第 143 回 北海道整形災害外科学会
52. 宮澤 良祐, 柴田 宏明, 伊藤 浩, 丹代 晋 (2024 年 6 月)
大腿骨近位の骨巨細胞腫に対しデノスマブで保存的に治療した高校サッカー選手の一例
第 143 回 北海道整形災害外科学会
53. 北村 勇斗, 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
髄内釘固定後に近位骨片転位にて再手術を施行した脛骨骨幹部分節骨折の一例
第 143 回 北海道整形災害外科学会
54. 光武 遼, 谷野 弘昌, 伊藤 浩 (2024 年 6 月)
各種インプラントにおけるオフセットおよび脚長の再現度の検討
第 143 回 北海道整形災害外科学会
55. Abe S., Matsukura K., Maeda Y. (May 2024)
Progression of coronal varus knee deformity is related to pelvic posterior tilt and distal tibia.
第 97 回 日本整形外科学会 学術集会
56. 妹尾 一誠 (2024 年 5 月)
体幹筋力維持が脊柱矢状アライメント維持や腰痛予防に有効であるかの縦断調査
第 97 回 日本整形外科学会 学術集会

57. 三好 直樹, 入江 徹, 高橋 裕貴, 奥原 一貴, 伊藤 浩 (2024 年 5 月)
Surface holding 法を用いた腱板修復・再建術の術後成績
第 97 回 日本整形外科学会 学術集会
58. 水谷 幸三郎, 添田 沙織, 公文 雅士, 杉浦 宏祐, 手束 文威, 山下 一太, 西良 浩一 (2024 年 5 月)
椎間板性腰痛の椎間板内鏡視所見の特徴
第 97 回 日本整形外科学会 学術集会
59. 津村 謙一, 小林 徹也, 妹尾 一誠, 水谷 幸三郎, 西能 渉一, 伊藤 浩 (2024 年 5 月)
住民検診における腰痛関連項目の横断・縦断調査 - X 線項目と身体因子の関係 -
第 97 回 日本整形外科学会 学術集会
60. 谷野 弘昌, 光武 遼, 伊藤 浩 (2024 年 5 月)
市販型拡張現実技術を用いたポータブルナビゲーションによるカップ設置位置 - 前向きランダマイズ研究 -
第 97 回 日本整形外科学会 学術集会
61. 千葉 恒, 小林 徹也, 清水 瞳也, 妹尾 一誠, 今井 充, 杉澤 裕之, 菅原 敏暢, 幅口 竜也 (2024 年 5 月)
QOL を良好に維持している 5 年以上経過例の体幹機能と脊柱骨盤矢状面アライメントの特徴
第 97 回 日本整形外科学会 学術集会
62. 阿部 里見, 松倉 圭佑, 前田 陽平 (2024 年 4 月)
OWTHO 術前と術後 1 年における 3DMRI 評価: 軟骨体積変化と MME の検討
第 3 回 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会
63. 笹井 健吾, 加茂 裕樹, 妹尾 一誠, 清水 瞳也, 岡安 浩宜, 水谷 幸三郎, 津村 謙一, 村住 拓哉, 西能 渉一, 小林 徹也 (2024 年 4 月)
胸腰椎骨折に対する PES 併用経皮的後方固定術の有用性 術後 implant failure の比較検討
第 53 回 日本脊椎脊髄病学会 学術集会
64. 岡安 浩宜, 小林 徹也, 妹尾 一誠, 水谷 幸三郎, 笹井 健吾, 津村 謙一, 西能 渉一, 菅原 修, 伊藤 浩 (2024 年 4 月)
高齢者における筋力低下と新規椎体骨折発生の縦断コホート観察研究
第 53 回 日本脊椎脊髄病学会 学術集会
65. 妹尾 一誠, 小林 徹也, 津村 謙一, 西能 渉一, 伊藤 浩 (2024 年 4 月)
各世代で撮影された全脊椎 CT を用い, 後方視的にびまん性特発性骨増殖症や既存椎体骨折の有病率や発生傾向を調査した疫学的研究
第 53 回 日本脊椎脊髄病学会 学術集会
66. 水谷 幸三郎, 添田 沙織, 公文 雅士, 杉浦 宏祐, 手束 文威, 山下 一太, 西良 浩一 (2024 年 4 月)
椎間板性腰痛の椎間板内鏡視所見の特徴と MRI 所見との関係
第 53 回 日本脊椎脊髄病学会 学術集会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
阿部 里見	新規	若手研究	同種細胞治療を目的とした異なる組織由来の間葉系幹細胞における免疫特性の比較

皮膚科學講座

Department of Dermatology

所属教員等

皮膚科学講座

講 師 井川 哲子
助 教 野崎 尋意
助 教 中川 智絵
助 教 大坪 紗和

皮膚科

准 教 授 岸部 麻里
助 教 高橋 千晶
診療助教 小松 麻衣

臨床研究支援センター 教 授 本間 大

復職・子育て・介護支援センター 助 教 菅野 恭子

研究業績紹介

皮膚科学講座では、皮膚科領域の臨床、研究、教育の3領域にわたり、教員が一丸となって精力的に活動を行っている。

令和6年度における主要な成果としては、2024年度日本皮膚科学会雑誌振興賞（サノフィ助成）優秀施設として表彰された点が挙げられる。これは、野崎尋意助教を中心として遂行した臨床研究の成果を含む、当講座の学術活動が評価された結果である。

また同年12月に開催された The 49th Annual Meeting of Japanese Society of Investigative Dermatology (JSID)において、岸部麻里准教授、井川哲子講師、野崎尋意助教が研究成果を発表し、トラベルグラン트を獲得している。さらに、中川智絵助教は、第14回JSID きさらぎ塾に参加し、付属器系腫瘍と融合遺伝子の発現に関する研究発表を行い、全国の若手研究者との交流を深めた。また、飯沼晋客員助教は北見赤十字病院での症例を基に、複数の英文誌に症例報告を発表している。他大学との共同研究の成果は、Allergology International、Journal of American Academy of Dermatology、Rheumatology (Oxford)に掲載され、共同研究体制の充実を示した。これらは講座を代表する成果であり、他の教員による日常的な研究支援と臨床活動の蓄積がその基盤を支えている。

著書の分野においては、岸部麻里准教授および井川哲子講師が専門外来での臨床経験を踏まえた皮膚疾患の治療に関する実践的な解説を執筆している。さらに、他の教員においても診療や教育活動を通じて専門分野の発展に貢献しており、知見の共有と若手育成に努めている。

上記の学術活動のほか、当講座所属の教員は、日本皮膚科学会総会、日本皮膚科学会東部支部学術大会、日本皮膚科学会西部支部学術大会、日本皮膚科学会北海道地方会、日本皮膚免疫アレルギー学会、日本小児皮膚科学会、日本皮膚悪性腫瘍学会、日本乾癬学会、日本美容皮膚科学会総会などにおいて、積極的に研究成果の発表を行っており、講座一丸となって皮膚科学の発展に寄与している。

総説・解説

1. 岸部 麻里 (2024年12月)
【"口とのど"の悩みに応える】口腔粘膜病変 皮膚科からの視点
ENTONI 304号 Page55-61
2. 飯沼 晋 (2024年9月)
勤務医の学びと成長
日本臨床皮膚科医会雑誌 41卷5号 Page706-709

論文

1. Kishibe M., Umekage K., Nozaki H., Nakagawa T., Kanno K., Manabe A., Ishida-Yamamoto A. (Jan 2025)
Potential thioflavin T false positives in lipomembranous changes in adipocytes during systemic amyloidosis diagnosis.
J Dermatol 52(1): 171-174.
2. Yoshikawa T., Takeichi T., Nishida K., Kobayashi Y., Sano H., Shibata A., Koizumi H., Tsutsumi R., Fukaura R., Hayashi M., Imanishi A., Nakamura K., Mikoshiba Y., Ogawa E., Sano S., Kinoshita M., Okamoto T., Kageyama R., Sano Y., Kaneko S., Aoi J., Hara T., Togawa Y., Kishibe M., Yoshida Y., Yagi H., Honda T., Sugiura K., Sano S., Suzuki T., Ogi T., Muro Y., Akiyama M. (Apr 2024)
MEFV variants are a predisposing factor for generalized pustular psoriasis.
J Am Acad Dermatol 90(4): 852-854
3. Maeda A., Tsuchida N., Uchiyama Y., Horita N., Kobayashi S., Kishimoto M., Kobayashi D., Matsumoto H., Asano T., Migita K., Kato A., Mori I., Morita H., Matsubara A., Marumo Y., Ito Y., Machiyama T., Shirai T., Ishii T., Kishibe M., Yoshida Y., Hirata S., Akao S., Higuchi A., Rokutanda R., Nagahata K., Takahashi H., Katsuo K., Ohtani T., Fujiwara H., Nagano H., Hosokawa T., Ito T., Haji Y., Yamaguchi H., Hagino N., Shimizu T., Koga T., Kawakami A., Kageyama G., Kobayashi H., Aoki A., Mizokami A., Takeuchi Y., Motohashi R., Hagiya H., Itagane M., Teruya H., Kato T., Miyoshi Y., Kise T., Yokogawa N., Ishida T., Umeda N., Isogai S., Naniwa T., Yamabe T., Uchino K., Kanasugi J., Takami A., Kondo Y., Furuhashi K., Saito K., Ohno S., Kishimoto D., Yamamoto M., Fujita Y., Fujieda Y., Araki S., Tsushima H., Misawa K., Katagiri A., Kobayashi T., Hashimoto K., Sone T., Hidaka Y., Ida H., Nishikomori R., Doi H., Fujimaki K., Akasaka K., Amano M., Matsushima H., Kashino K., Ohnishi H., Miwa Y., Takahashi N., Takase-Minegishi K., Yoshimi R., Kirino Y., Nakajima H., Matsumoto N. (Aug 2024)
Efficient detection of somatic UBA1 variants and clinical scoring system predicting patients with variants in VEXAS syndrome.
Rheumatology (Oxford) 63(8): 2056-2064.
4. Nozaki H., Honma M., Ishida-Yamamoto A. (May 2024)
Clinical Characteristics of Psoriasis Cases Treated by Biologics With an Extended Administration Interval: A Single-Center, Retrospective Observational Study.
Cureus. 16(5): e59969.
5. Nozaki H., Uehara J., Kato N., Honma M., Ishida-Yamamoto A. (Jan 2025)
Toxic epidermal necrolysis induced by nivolumab therapy for unresectable intraperitoneal cancer.
Journal of Cutaneous Immunology and Allergy 7
6. 野崎 寛意, 岸部 麻里, 菅野 恭子, 井川 哲子, 本間 大, 中馬 真幸, 田崎 嘉一, 山本 明美 (2024年4月)
旭川医科大学皮膚科でエリテマトーデスに対してヒドロキシクロロキンを導入した30症例のまとめ
日本皮膚科学会雑誌 134卷4号 Page733-741
7. 大坪 紗和, 井川 哲子, 岸部 麻里, 山本 明美, 高橋 憲義, 加藤 直樹, 橋本 喜夫, 木ノ内 基史, 大石 泰史, 飯沼 晋 (2025年1月)
旭川医科大学病院と関連施設におけるIgA血管炎69例の臨床的検討
皮膚科の臨床 67卷1号 Page9-12
8. 古田 恵, 清水 薫子, 菅野 恭子, 今野 哲, 高橋 誠, 山本 明美, 渥美 達也 (2025年2月)
医学部生におけるダイバーシティ(男女共同参画、キャリアに関する意識調査)
北海道医報 1277号 Page14-16

症例報告

1. Tamaru Y., Kikuchi S., Uramoto T., Takahashi K., Kamada K., Yoshida Y., Uchida D., Nishio T., Yamao T., Ishitoya S., Kishibe M., Inaba M., Hayashi T., Ishida-Yamamoto A., Azuma N. (Jun 2024) A case of pseudo-Kaposi sarcoma with chronic limb-threatening ischemia.
Surg Case Rep 10(1): 139
2. Iinuma S., Kobayashi T., Tsuji M., Abe T., Fujiki Y., Ishida-Yamamoto A. (Aug 2024) Severe acne with diffuse sclerosing osteomyelitis of the mandible: a unique presentation of synovitis, acne, pustulosis, hyperostosis and osteitis syndrome.
Eur J Dermatol 34(4): 446-447
3. Iinuma S., Kobayashi T., Fujiki Y. (Jul 2024) Blue Nevus Associated With Acquired Dermal Melanocytosis on the Back.
Cureus. 16(7): e65428.
4. Iinuma S., Kobayashi T., Nagashima T. (Mar 2025) Rectus Sheath Hematoma as a Cutaneous Manifestation of Essential Thrombocythemia.
Cureus. 17(3): e81324.
5. Kobayashi T., Iinuma S., Kato S., Ishida-Yamamoto A. (Apr 2024) Acute haemorrhagic oedema of infancy complicated by intestinal bleeding.
Eur J Dermatol. 34(2): 209-211.
6. Kobayashi T., Iinuma S., Watanabe A., Ishida-Yamamoto A. (Sep 2024) Unusual Verrucous Skin Lesion in Diabetic Neuropathy Following Toe Amputation and Skin Grafting.
Cureus. 16(9): e69695.
7. Kobayashi T., Iinuma S., Hashiguchi H. (Jan 2024) Radial Artery Pseudoaneurysm With Cutaneous Manifestations in a Patient With Neurofibromatosis Type 1.
Cureus. 17(1): e76907

著書

1. 岸部 麻里 (2024年10月)
異汗性湿疹
治りにくい皮膚疾患・どうする? Page22-23
2. 岸部 麻里 (2024年11月)
伝染性単核球症
皮膚疾患最新の治療 2025-2026 Page209
3. 井川 哲子 (2024年12月)
皮膚疾患患者・家族のためのより良いコミュニケーションのために「アトピー性皮膚炎」
Clinical Derma 26巻4号 Page9-10

研究発表

1. 中川 智絵, 小松 麻衣, 岸本 悠里, 宮澤 愛梨, 佐藤 祐樹, 野崎 尋意, 菅原 基史, 山本 明美, 小林 裕 (2024年5月) Nivolumab+Ipilimumab 療法を契機に、irAE による重篤な麻痺性イレウスをきたした1例
第40回日本皮膚悪性腫瘍学会 学術大会
2. 岸部 麻里, 高橋 千晶, 菅野 恭子 (2024年6月) 非典型的な臨床像を呈したIgA血管炎について考える - 非典型たる所以はどこにある?
第123回日本皮膚科学会 総会
3. 中川 智絵, 小松 麻衣, 岸本 悠里, 佐藤 祐樹, 野崎 尋意, 菅原 基史, 山本 明美, 小林 裕 (2024年6月) Nivolumab+Ipilimumab 療法中に重篤な麻痺性イレウスをきたした悪性黒色腫の1例
第438回日本皮膚科学会 北海道地方会 山本明美旭川医科大学皮膚科学講座教授退任記念地方会
4. 菅野 恭子, 中川 智絵, 野崎 尋意, 岸部 麻里, 長谷川 匠 (2024年7月) Lipofibromatosis の1例
第48回日本小児皮膚科学会 学術大会

5. 井川 哲子 (2024 年 7 月)
選んで Happy これから的小児アトピー性皮膚炎治療を考える
第 48 回 日本小児皮膚科学会 学術大会
6. 岸部 麻里 (2024 年 7 月)
Netherton 症候群の病態と治療の現状
第 48 回 日本小児皮膚科学会 学術大会
7. 井川 哲子, 岸部 麻里, 山本 明美, 豊田 典明 (2024 年 8 月)
長期に無症候性で経過した掌蹠播種型に合併した eruptive pruritic papular porokeratosis の 1 例
第 39 回 角化症研究会
8. 菅野 恭子, 横浜 祐子, 谷野 美智枝 (2024 年 8 月)
ワークバランスの授業における学生の意識変化の検討
第 56 回 日本医学教育学会 大会
9. 野崎 尋意 (2024 年 8 月)
Spesolimab の適切な導入タイミング - GPP の臨床経験からの考察 -
第 39 回 日本乾癬学会 学術大会
10. 野崎 尋意, 岸部 麻里, 本間 大 (2024 年 8 月)
実臨床下で生物学的製剤により治療中の乾癬患者における血中抗薬物抗体に関する検討
第 39 回 日本乾癬学会 学術大会
11. 野崎 尋意 (2024 年 9 月)
Spesolimab の適切な導入タイミング - GPP の臨床経験からの考察 -
第 76 回 日本皮膚科学会 西部支部学術大会
12. 野崎 尋意 (2024 年 9 月)
チルドラキズマブ IL-23p19 阻害薬における位置づけ
第 88 回 日本皮膚科学会 東部支部学術大会
13. 菅原 基史, 坂本 優乃, 山本 日美花, 佐藤 祐樹, 野崎 尋意, 中川 智絵, 山本 明美, 岸部 麻里, 野口 藍子, 鷺見 千絵, 谷野 美智枝 (2024 年 9 月)
プレドニゾロン内服で寛解した皮下脂肪織炎様 T 細胞リンパ腫 (SPTCL) の 1 例
第 88 回 日本皮膚科学会 東部支部学術大会
14. 井川 哲子, 菅 裕司, 高橋 隼也, 能登 舞, 林 周次郎, 皆川 智子 (2024 年 9 月)
いつまでも歩き続けたい皮膚科道～メンターも知りたい爪診療～
第 88 回 日本皮膚科学会 東部支部学術大会
15. 井川 哲子, 高橋 千晶, 岸部 麻里 (2024 年 9 月)
Atopic Dermatitis Control Tool (ADCT) の利用経験のまとめ
第 5 回 日本アレルギー学会 北海道支部地方会
16. 岸部 麻里 (2024 年 10 月)
掌蹠膿疱症 - 患者 QOL 向上への取り組み -
第 75 回 日本皮膚科学会 中部支部学術大会
17. 高橋 千晶, 井川 哲子, 岸部 麻里, 本間 大 (2024 年 10 月)
デュピルマブによる好酸球增多を伴った好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 1 例
第 75 回 日本皮膚科学会 中部支部学術大会
18. 中川 智絵, 井川 哲子, 岸部 麻里, 山本 明美, 松尾 梨沙, 後藤 啓介 (2024 年 10 月)
免疫染色により、YAP1 遺伝子転座関連腫瘍と推察された porocarcinoma の 1 例
第 75 回 日本皮膚科学会 中部支部学術大会
19. Nozaki H., Nakagawa T., Umekage K., Kanno K., Kishibe M., Honma M., Ishida-Yamamoto A. (Dec 2024)
Could Mechanical Stress Serve as a Predisposing Factor for the Malignant Transformation of Seborrheic Keratosis?
日本研究皮膚科学会 第 49 回 年次学術大会・総会
20. Igawa S., Ishida-Yamamoto A., Toyota N., Kishibe M. (Dec 2024)
The association of IL-31 with pruritis in eruptive pruritic papular porokeratosis (EPPP).
日本研究皮膚科学会 第 49 回 年次学術大会・総会

21. Kishibe M., Nozaki H., Igawa S., Ishida-Yamamoto A. (Dec 2024)
Utilizing SERPINB7 Immunostaining for Enhanced Diagnosis of Hereditary Palmoplantar Keratoderma.
日本研究皮膚科学会 第 49 回 年次学術大会・総会
22. 菅野 恭子, 本間 大, 井川 哲子, 岸部 麻里, 江連 智暢 (2024 年 12 月)
超音波顕微鏡で皮膚硬化の改善を確認した強皮症の 1 例
第 440 回 日本皮膚科学会 北海道地方会
23. 高橋 千晶, 井川 哲子, 本間 大, 岸部 麻里, 熊井 琢美 (2024 年 12 月)
旭川医大におけるデュピルマブ投与後好酸球增多症例の検討 - デュピルマブ投与後好酸球增多を来たした好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の 1 例を経験して -
第 440 回 日本皮膚科学会 北海道地方会
24. 井川 哲子, 山本 明美, 豊田 典明, 岸部 麻里 (2025 年 2 月)
ネモリズマブが奏功した eruptive pruritic papular porokeratosis (EPPP) の 1 例
第 441 回 日本皮膚科学会 北海道地方会
25. 井川 哲子, 高橋 千晶, 西條 泰明, 岸部 麻里 (2025 年 3 月)
AD 患者 - 医師評価乖離要因に関する検討
日本皮膚科学会 東北六県合同地方会 学術大会 第 410 回 例会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
岸部 麻里	継続	基盤研究(C)	ケラチン遺伝子変異の違いによる単純型表皮水疱症の病態への影響と個別化医療の開発
井川 哲子	延長	若手研究	表皮におけるスフィンゴシン-1-リン酸受容体の機能解析

腎泌尿器外科学講座

Department of Renal and Urologic Surgery

所属教員等

腎泌尿器外科学講座 准教授 橘田 岳也

泌尿器科

講 師	堀 淳一
講 師	和田 直樹
助 教	小林 進
助 教	大谷 美結
助 教	菊地 大樹
助 教	宮内 琴菜
助 教	恒川 良兼

研究業績紹介

旭川医科大学腎泌尿器外科学講座は、高度先進医療を実践するとともに、地域医療との連携を重視した活動を展開している。実臨床において生じるクリニカルクエスチョンを解決すべく臨床研究を計画・実行している。また、研究のグローバル化の重要性が強調されている今日において、米国ピッツバーグ大学をはじめ国内外の研究室との共同研究による基礎研究を行い、その成果を学会にて報告し、専門誌での発表を定期的に行っている。

我々の教室における研究テーマは、大きく3つに分けられる。①腫瘍に関する研究、②下部尿路機能障害に関する研究、③小児/女性泌尿器科に関する研究を主要テーマとしている。①腫瘍に関する研究については、急速に普及した手術支援ロボットによる手術が可能となった現在の状況から、ロボット支援手術の治療成績や合併症に関する報告をしている。基礎研究としては、札幌医科大学第一病理学講座との共同研究として、腎癌細胞における癌抗原の同定に関する研究を行った。また、②下部尿路機能障害に関する研究は多岐にわたる。過活動膀胱、前立腺肥大症、低活動膀胱、間質性膀胱炎、さらにそれら疾患に関するサルコペニア・フレイルといった、超高齢社会における現状を基礎、臨床の両方面からの研究を行っている。特に基礎実験においては、病態モデル動物を用いた生理学的実験を積極的に実施しており、専門誌における報告は多数ある。さらに③小児/女性泌尿器科に関しては、当教室では小児泌尿器科手術の豊富な経験を有しているため、手術による外科的介入の成果を報告している。なかでも先天性の尿路閉塞に対する外科的介入については、症例数も多く定期的に発表している。女性泌尿器科においては、腹圧性尿失禁、骨盤臓器脱、尿路損傷に対する再建手術を積極的に行っており、その成果を報告している。

論文

1. Sekido N., Matsuyama F., Murata T., Takahashi R., Matsuoka M., Sengoku A., Nomi M., Kitta T., Mitsui T. (Oct 2024)
Impact of urinary catheters including reusable catheters on quality of life and work productivity in persons with spinal cord lesion.
Scientific reports. 14(1): 24383. doi: 10.1038/s41598-024-74578-z.
2. Homma Y., Akiyama Y., Jang Hwan Kim, Yao-Chi Chuang, Seong Jin Jeong, En Meng, Kitta T., Jia-Fong Jhang, Furuta A., Kyu-Sung Lee, Maeda D. (Sep 2024)
Definition Change and Update of Clinical Guidelines for Interstitial Cystitis and Bladder Pain Syndrome.
Lower urinary tract symptoms. 16(5): e12532. doi: 10.1111/luts.12532.

3. Kitta T., Wada N., Shinohara S., Hayashi N., Yamamura H., Yamamoto T., Takagi H., Hatakeyama T., Nagabuchi M., Morishita S., Tsunekawa R., Ohtani M., Kobayashi S., Hori J., Kakizaki H. (Oct 2024) Validation of the area under the Watts factor curve during the voiding cycle as a novel parameter for diagnosing detrusor underactivity in females.
International journal of urology 31(10): 1121-1127
4. Sekido N., Takahashi R., Matsuyama F., Murata T., Matsuoka M., Sengoku A., Nomi M., Kitta T., Mitsui T. (May 2024) Factors associated with symptomatic urinary tract infection in persons with spinal cord lesions who perform clean intermittent catheterization with single-use catheters. **Low Urin Tract Symptoms. Lower urinary tract symptoms.** 16(3): e12515. doi: 10.1111/luts.12515.
5. Ouchi M., Kitta T., Chiba H., Higuchi M., Abe-Takahashi Y., Togo M., Kusakabe N., Murai S., Kikuchi H., Matsumoto R., Osawa T., Abe T., Shinohara N. (Sep 2024) Physiotherapy for continence and muscle function in prostatectomy: a randomised controlled trial. **BJU international.** 134(3): 398-406
6. 及川 貴允, 和田 直樹, 野澤 佳祐, 薗田 弥代, 橘田 岳也, 柿崎 秀宏 (Sep 2024) 人工尿道括約筋埋め込み術前後の下部尿路機能に関する検討
泌尿器外科 37 卷 9 号 Page1060-1065
7. Wada N., Hatakeyama T., Takagi H., Morishita S., Tsunekawa R., Nagabuchi M., Kitta T., Kakizaki H. (Feb 2025) Screening tool for sarcopenia (SARC-F) predicts unsatisfactory medical treatment of lower urinary tract symptoms in elderly men aged 75 years or older: a preliminary observational study. **International urology and nephrology.** 57(2): 399-406.
8. Wada N., Hatakeyama T., Takagi H., Tsunekawa R., Kobayashi S., Nagabuchi M., Kitta T., Kakizaki H. (Jan 2025) Trends in age and antithrombotic therapy in patients who underwent transurethral resection of bladder tumor and perioperative complications.
International journal of urology doi: 10.1111/iju.15684. Online ahead of print.

症例報告

1. 牧野 将悟, 堀 淳一, 高木 はるか, 竹内 舜悟, 森下 俊, 大谷 美結, 小林 進, 和田 直樹, 橘田 岳也, 柿崎 秀宏 (2024 年 8 月) 炎症性癒着が高度で摘出に難渋した後腹膜膿瘍の 1 例
泌尿器科紀要 70 卷 8 号 Page253-256
2. Wada N., Hatakeyama T., Ishimaru T., Tsunekawa R., Miyauchi K., Kikuchi D., Kitta T., Watanabe M. (Feb 2025) Bladder Pain Syndrome With Repeated Bladder Hydrodistention - A Case of Functional Somatic Syndrome Considered in Relation to Alexithymia.
IJU Case Reports <https://doi.org/10.1002/iju5.70007>

著書

1. 橘田 岳也 (2024 年 9 月) 特集: 下部尿路機能障害/下部尿路症状の診療-診断・治療のヒントとコツ - III.各論: 診断と治療 脳疾患による下部尿路機能障害 1
日本臨牀 82(9): 1432-1437
2. 橘田 岳也 (2024 年 4 月) α 1 遮断薬 + β 3 作動薬 10.前立腺肥大症
泌尿器外科 37 卷特別号 Page274-278
3. 和田 直樹 (2024 年 4 月) ビベグロン(ベオーバ[®]) 9.過活動膀胱
泌尿器外科 37 卷特別号 Page222-223
4. 和田 直樹 (2024 年 4 月) ミラベグロン(ベタニス[®]) 9.過活動膀胱
泌尿器外科 37 卷特別号 Page224-225

5. 橘田 岳也 (2024 年 4 月)
抗コリン薬 12. 神経因性下部尿路機能障害
泌尿器外科 37 卷特別号 Page290-293
6. 和田 直樹, 恒川 良兼, 宮内 琴菜, 大谷 美結 (2024 年 9 月)
骨盤内手術による下部尿路機能障害 特集: 下部尿路機能障害/下部尿路症状の診断 - 診断・治療のヒントとコツ - III.各論: 診断と治療
日本臨床 82 卷 9 号 Page1444-1450
7. 橘田 岳也, 和田 直樹, 柿崎 秀宏 (2024 年 7 月)
特集 清潔間欠導尿 - 泌尿器科医/看護師が知っておくべき清潔間欠導尿のミニマムエッセンス - 総論
清潔間欠導尿の適応
泌尿器外科 37(7): 797-801
8. 橘田 岳也, 和田 直樹, 柿崎 秀宏 (2024 年 5 月)
総論 - 診療ガイドライン, 過活動膀胱診療ガイドライン, 特集人生 100 年時代の老年泌尿器科診療
臨床泌尿器科 78(5): 254-261

研究発表

1. Wada N., Takagi H., Nagabuchi M., Hatakeyama T., Morishita S., Tsunekawa R., Kitta T., Kakizaki H. (May 2024)
Sarcopenia is a factor for unsatisfied medical treatment of lower urinary tract symptoms in elderly men aged 75 years or older - analysis using SARC-F
AUA 2024 annual meeting
2. Kitta T. (May 2024)
Virtual CONEs Panel on NP in BPH/OAB patients.
APMA Nocturia Expert Panel & Publication in Desmopressin Optimization for NP
3. Kitta T. (Jun 2024)
Urinary tract Dysfunction in Multiple Sclerosis Urinary tract Dysfunction in Parkinson's Disease (PD) and multiple system atrophy (MSA).
International Course on Neuro-Urology(INUS) Congresses.
4. Kitta T., Wada N., Shinohara S., Hayashi N., Yamamura H., Yamamoto T., Takagi H., Hatakeyama T., Nagabuchi M., Morishita S., Tsunekawa R., Ohtani M., Kobayashi S., Hori J., Kakizaki H. (Oct 2024)
Validation of the area under the Watts factor curve during the voiding cycle as a novel parameter for diagnosing detrusor underactivity in females.
ICS 43rd Annual meeting
5. Kitta T. (Nov 2024)
Current Trends of Geriatric Functional Urology in Japan.
Japan-Korea Geriatric Urology
6. Wada N., Takagi H., Nagabuchi M., Hatakeyama T., Morishita S., Tsunekawa R., Ohtani M., Kobayashi S., Hori J., Kitta T., Kakizaki H. (Apr 2024)
Trends in age and frequency of antithrombotic therapy in patients who underwent transurethral resection of bladder tumor.
第 111 回 日本泌尿器科学会 総会
7. 恒川 良兼, 和田 直樹, 畠山 翼, 高木 はるか, 永渕 将哉, 森下 俊, 小林 進, 堀 淳一, 橘田 岳也, 柿崎 秀宏 (2024 年 4 月)
ロボット支援前立腺全摘除術における神経温存の適応決定因子
第 111 回 日本泌尿器科学会 総会
8. 和田 直樹, 石丸 太一朗, 畠山 翼, 宮内 琴菜, 恒川 良兼, 菊地 大樹, 大谷 美結, 橘田 岳也, 市川 英俊 (2024 年 4 月)
ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術後に生じた小腸瘤の 2 例
第 421 回 日本泌尿器科学会 北海道地方会
9. 恒川 良兼, 和田 直樹, 高木 はるか, 畠山 翼, 永渕 将哉, 森下 俊, 小林 進, 堀 淳一, 橘田 岳也, 市川 英俊 (2024 年 5 月)
完全子宮脱に合併した膀胱腔瘻に膀胱外反を伴った 1 例
第 421 回 日本泌尿器科学会 北海道地方会

10. 小林 進, 石丸 太一朗, 畠山 翼, 恒川 良兼, 宮内 琴菜, 菊地 大樹, 大谷 美結, 堀 淳一, 和田 直樹, 橘田 岳也 (2024年5月)
腎細胞癌の予後予測因子に関する臨床的検討
第421回 日本泌尿器科学会 北海道地方会
11. 畠山 翼, 和田 直樹, 石丸 太一朗, 恒川 良兼, 宮内 琴菜, 菊地 大樹, 大谷 美結, 小林 進, 堀 淳一, 橘田 岳也 (2024年5月)
Dose-dense MVAC 療法の初期経験
第421回 日本泌尿器科学会 北海道地方会
12. 橘田 岳也, 遠藤 誠之, 田舎中 真由美, 吉田 美香子 (2024年5月)
泌尿器科医の立場からみたウロギネ領域におけるアンチエイジング
第24回 日本抗加齢医学会 総会
13. 和田 直樹 (2024年8月)
骨盤臓器脱と下部尿路症状: POP と LUTS
第26回 日本女性骨盤底医学会
14. 恒川 良兼, 和田 直樹, 高木 はるか, 畠山 翼, 永渕 将哉, 森下 俊, 小林 進, 堀 淳一, 橘田 岳也, 市川 英俊 (2024年8月)
完全子宮脱に合併した膀胱腔瘻に膀胱外反を伴った1例
第26回 日本女性骨盤底医学会
15. 橘田 岳也 (2024年9月)
排尿管理と排便管理のあいだで
第31回 排尿機能学会
16. 和田 直樹, 高木 はるか, 畠山 翼, 恒川 良兼, 永渕 将哉, 森下 俊, 大谷 美結, 小林 進, 橘田 岳也, 柿崎 秀宏 (2024年9月)
過活動膀胱治療薬休薬後の治療再開に関する前向き研究
第31回 排尿機能学会
17. 和田 直樹 (2024年9月)
排尿の舞台裏 - 重要かつ興味深い排尿機能の側面
第31回 排尿機能学会
18. 宮内 琴菜, 和田 直樹, 石丸 太一朗, 畠山 翼, 恒川 良兼, 菊地 大樹, 大谷 美結, 小林 進, 堀 淳一, 橘田 岳也 (2024年9月)
前立腺体積はロボット支援前立腺全摘除術後の排尿 QOL に影響を与えるか?
第31回 排尿機能学会
19. 和田 直樹, 宮内 琴菜, 畠山 翼, 石丸 太一朗, 恒川 良兼, 菊地 大樹, 大谷 美結, 橘田 岳也 (2024年9月)
骨盤計測によるロボット支援腹腔鏡下仙骨墻固定術 (RSC) 導入初期の難易度予測
第422回 日本泌尿器科学会 北海道地方会
20. 大谷 美結, 堀 淳一, 石丸 太一朗, 畠山 翼, 宮内 琴菜, 菊地 大樹, 和田 直樹, 橘田 岳也, 森下 俊 (2024年9月)
転移性尿路上皮癌に対するエンホルツマブ ベドチンの初期経験
第422回 日本泌尿器科学会 北海道地方会
21. 宮内 琴菜, 森下 俊, 和田 直樹, 石丸 太一朗, 畠山 翼, 恒川 良兼, 菊地 大樹, 大谷 美結, 小林 進, 堀 淳一, 橘田 岳也 (2024年9月)
転移性去勢感受性前立腺癌に対するアパルタミドの治療効果
第422回 日本泌尿器科学会 北海道地方会
22. 橘田 岳也 (2024年10月)
難治性過活動膀胱に対する治療戦略
第89回 日本泌尿器科学会 東部総会
23. 橘田 岳也 (2024年10月)
高齢者における攻めの排尿治療/管理: 合併症を起こさず QOL を改善させるために
第89回 日本泌尿器科学会 東部総会

24. 堀 淳一, 石丸 太一朗, 畠山 翼, 恒川 良兼, 宮内 琴菜, 菊地 大樹, 大谷 美結, 小林 進, 和田 直樹, 橘田 岳也 (2024年10月)
当院における過去18年間のMD-TESEの成績
第89回日本泌尿器科学会東部総会
25. 大谷 美結, 堀 淳一, 石丸 太一朗, 畠山 翼, 宮内 琴菜, 菊地 大樹, 和田 直樹, 橘田 岳也, 森下 俊 (2024年10月)
転移性尿路上皮癌に対するエンホルツマブベドチンの初期経験
第89回日本泌尿器科学会東部総会
26. 畠山 翼, 和田 直樹, 石丸 太一朗, 恒川 良兼, 宮内 琴菜, 菊地 大樹, 大谷 美結, 小林 進, 堀 淳一, 橘田 岳也 (2024年10月)
Dose-dense MVAC療法の初期経験
第89回日本泌尿器科学会東部総会
27. 上野 直美, 本間 美穂, 渡邊 充広, 稲場 幸子, 加藤 千晴, 松尾 昇, 小林 進, 堀 淳一, 和田 直樹, 大原 みづほ, 谷 誓良, 庄中 達也 (2024年10月)
多職種連携で早期退院を可能とした、遠方で管理困難が予測された患者のストーマケア
第41回北海道ストーマリハビリテーション研究会学術集会
28. 和田 直樹, 宮内 琴菜, 畠山 翼, 石丸 太一朗, 恒川 良兼, 菊地 大樹, 大谷 美結, 橘田 岳也 (2024年11月)
骨盤計測によるロボット支援腹腔鏡下仙骨墜固定術(RSC)導入初期の難易度予測
第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会学会総会
29. 堀 淳一, 小林 進, 和田 直樹, 橘田 岳也, 蒔田 芳男, 阿部 紀之 (2025年1月)
BRCA遺伝子変異陽性去勢抵抗性前立腺癌の臨床的特徴
第423回日本泌尿器科学会北海道地方会
30. 和田 直樹, 畠山 翼, 宮内 琴菜, 石丸 太一朗, 恒川 良兼, 菊地 大樹, 小林 進, 大谷 美結, 橘田 岳也 (2025年1月)
体腔内U字型回腸新膀胱造設術の初期経験
第423回日本泌尿器科学会北海道地方会
31. 石丸 太一朗, 和田 直樹, 畠山 翼, 恒川 良兼, 宮内 琴菜, 菊地 大樹, 小林 進, 堀 淳一, 橘田 岳也 (2025年1月)
膀胱癌転移による十二指腸狭窄に対してエンホルツマブベドチン・ペンブロリズマブ併用療法が奏功した1例
第423回日本泌尿器科学会北海道地方会
32. 菊地 大樹, 石丸 太一朗, 畠山 翼, 恒川 良兼, 宮内 琴菜, 大谷 美結, 小林 進, 堀 淳一, 和田 直樹, 橘田 岳也 (2025年1月)
ハイリスク前立腺癌に対する術前ホルモン療法の検討
第423回日本泌尿器科学会北海道地方会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
橘田 岳也	継続	基盤研究(C)	排泄障害への新戦略提言を目指した抗パーキンソン病薬の膀胱・腸管への作用の検討

眼科学講座

Department of Ophthalmology

所属教員等

眼科学講座

教 授	長岡 泰司
准 教 授	横田 陽匡
助 教	高橋 賢伍
講師(学内)	神谷 隆行

眼 科

講 師	西川 典子
講 師	善岡 尊文
講師(学内)	宇都宮 嗣了
助 教	今野 杏美
診療助教	大坪 充

寄附講座（眼科地域医療創生講座）

特任教授 木ノ内 玲子

研究業績紹介

旭川医科大学眼科学講座の2024年度の業績をご説明させていただきます。

原著論文は英語論文13編、日本語論文2編、日本語総説・解説2編、日本語著書2編でした。

また、学会発表は、国際3件、国内8件です。

基礎研究、臨床研究、症例報告とバランス良く論文発表ができたと思います。特に症例報告を5編英語雑誌に掲載することができました。

課題としては、原著論文は他の施設との共同研究が多かったので、旭川医大オリジナルな研究が増えるよう努力したいと思います。

科学研究費の採択状況ですが、3名の先生が新規に基盤研究(C)に採択されており、研究を精力的に進めています。

2025年度には大学院生も増え、研究体制をさらに充実させて、さらなる論文・学会発表と研究費獲得を目指したいと思います。

総説・解説

1. 西川典子(2024年10月)
増刊号6年前の常識は現在の非常識! - AI時代へ向かう今日の眼科医へ IX.外眼部・神経眼科・腫瘍などデジタルデバイスと内斜視
臨床眼科 78(11), 307-311
2. 西川典子(2024年12月)
スマホ内斜視(デジタルデバイスによる後天内斜視)
眼科 66(13), 1597-1604

論文

1. Saima Y., Yokota H., Kushiyama A., Hanaguri J., Ohno A., Takase K., Sugiyama R., Muranaka K., Yamagami S., Nagaoka T. (Jun 2024)
Effects of switching from intravitreal injection of aflibercept to faricimab on ocular blood flow in patients with diabetic macular edema.
Scientific Reports 14; 14(1): 13798
2. Nagaoka T., Yokota H., Watanabe M., Aso H., Takase K., Hanaguri J., Ohno A., Kushiyama A., Harino S., Yamagami S. (Jul 2024)
Impairment of Flicker-induced Increase in Retinal Blood Flow in Diabetic Pigs.
Japanese Journal of Ophthalmology 68(4): 362-366

3. Sugiyama R., Hanaguri J., Yokota H., Kushiyama A., Kushiyama S., Kikuchi T., Igarashi T., Iketani M., Ohsawa I., Harino S., Nakashizuka H., Yamagami S., Nagaoka T. (Oct 2024) Oral intake of hydrogen water improves retinal blood flow dysregulation in response to flicker stimulation and systemic hyperoxia in diabetic mice.
Transl Vis Sci Technol 1; 13(10): 36
4. Nishikawa N., Iimori H., Kinouchi R., Nishina S., Yoshida T., Hikoya A., Komori M., Hieda O., Goseki T., Mori T., Morimoto T., Negishi T., Shimizu T., Shimizu Y., Hayashi S., Sugiyama Y., Yokoyama Y., Kimura A., Suzuki H., Suzuki S., Azuma N., Sato M. (Oct 2024) Factors Affecting Outcome of Acquired Comitant Esotropia with Restricted Use of Digital Devices - ACEDD Study 3.
BMJ Open Ophthalmol 31; 9(1): e001713.
5. Hirano T., Murata T., Nakao S., Shimura M., Nozaki M., Suzuma K., Nagaoka T., Sugimoto M., Takamura Y., Murakami T., Iwasaki K., Tsujimura J., Yoshida S. (Oct 2024) Optimization of individualized faricimab dosing for patients with diabetic macular edema: Protocol for the SWAN open-label, single-arm clinical trial.
PLoS One 10; 19(10): e0311484.
6. Goto H., Umazume K., Usui Y., Nishikawa N. (Nov 2024) Clinical features and multimodal imaging of primary choroidal lymphoma.
Jpn J Ophthalmol 68(6): 722-730.
7. Iimori H., Nishikawa N., Nishina S., Yoshida T., Mori T., Hieda O., Hikoya A., Komori M., Hayashi S., Negishi T., Goseki T., Sugiyama Y., Kimura A., Morimoto T., Shimizu Y., Shimizu T., Yokoyama Y., Suzuki H., Suzuki S., Azuma N., Sato M. (Mar 2025) Impact of prolonged digital device use on acquired comitant esotropia: ACE-DD study 2.
Jpn J Ophthalmol Online ahead of print
8. 審田 耕治, 神谷 隆行, 木ノ内 玲子 (2024年9月) クリスタリン網膜症様眼底と視神経、視神経管と強膜に異所性石灰化を認めた副甲状腺機能亢進症
眼科 66(9): p.921-926
9. 笹森 あすか, 松島 亮介, 室野 真孝, 木ノ内 玲子 (2025年1月) ペムプロリズマブ投与後に myelin oligodendrocyte glycoprotein 抗体陽性視神経炎を発症した1症例
日本眼科学会雑誌 129(1): 22-27

症例報告

1. Nishikawa N., Kawaguchi Y., Fushitsu R., Kuroda Y., Nagaoka T. (Jun 2024) Successful prism treatment for cyclic esotropia.
American Journal of Ophthalmology Case Reports Vol. 34
2. Otsubo M., Kaga T., Yokoyama Y., Kojima T. (Jul 2024) Endoscopic Surgery for congenital or acquired cataract associated with persistent fetal vasculature: A case series.
Retinal Cases & Brief Reports Online ahead of print
3. Konno S., Yuzawa S., Kinouchi R. (Sep 2024) A case of masquerade syndrome caused by metastatic iris tumor diagnosed by a high CEA level in the aqueous humor and iris biopsy.
Diagnostic Pathology 27; 19(1): 128
4. Konno A., Ishibazawa A., Kagokawa H., Meya Y., Nagaoka T. (Nov 2024) An open-globe injury case caused by brown bear attack.
Am J Ophthalmol Case Rep 9: 36: 102210.
5. Takahashi K., Song Y., Motokawa K., Nagaoka T. (Jan 2025) Acute Transient Choroidal Elevation Induced by Hyperpermeability of Asymmetrical Pachyvessel Over-crossed Watershed Zone.
Am J Ophthalmol Case Rep 7; 37: 102250.

6. Otsubo M., Takarada K., Taneda T., Kamiya Y., Nagaoka T. (Mar 2025)
A case of successful ciliary body suture for recurrent membranous deposits around the intraocular lens
in a patient with cyclodialysis.
Retinal Cases & Brief Reports Online ahead of print

著書

1. 宇都宮 崑了 (2024年4月)
最新 ドライアイと涙道疾患ナビゲート 2.6 涙液検査
眼科診療エクレール 3 58-61
2. 西川 典子 (2024年4月)
そこが知りたかった! 弱視斜視診療のポイント 4. 斜視の感覚面の検査 4) プリズムアダプテーション
テスト
新編眼科プラクティス 14 146-147
3. 宇都宮 崑了 (2024年11月)
4. 結膜 4) 結膜浮腫
眼科診療ガイド第2版 127-129

研究発表

1. 大坪 充 (2024年4月)
進行性に高度な脈絡膜剥離をきたした内頸動脈海綿静脈洞症の一例
第128回 日本眼科学会 総会
2. Kinouchi R. (May 2024)
Differences in risk factors among drusen subtypes in an Asian population.
ARVO 2024
3. 西川 典子 (2024年6月)
多施設共同研究～最近の成果を共有する～共同性後天内斜視とデジタルデバイス
第80回 日本弱視斜視学会 総会 第49回 日本小児眼科学会 総会
4. 高橋 賢伍 (2024年6月)
VQ-VAE2 を用いて生成した糖尿病黄斑浮腫における光干渉断層計画像精度の検討
第30回 日本糖尿病眼学会 総会
5. 木ノ内 玲子 (2024年11月)
VPN を利用したダイレクト入院システムの利用の推移
第28回 日本遠隔医療学会 学術大会
6. 大坪 充 (2024年11月)
隅角・毛様体解離眼の眼内レンズ周囲に生じたフィブリンに毛様体縫合が奏功した1例
第78回 日本臨床眼科学会
7. 今野 杏美 (2024年11月)
レーザードップラー血流計を用いた網膜血流測定による糖尿病網膜症の発症予測
第78回 日本臨床眼科学会
8. 今野 杏美 (2024年12月)
原因不明のぶどう膜炎に対して前房穿刺を施行し、悪性緑内障が増悪したと思われる1例
第63回 日本網膜硝子体学会 総会
9. 今野 杏美 (2025年1月)
レーザードップラー血流計を用いた網膜血流測定による2型糖尿病の網膜症発症予測
第31回 日本糖尿病眼学会 総会
10. 大坪 充 (2025年3月)
The impact of travel distance on rhegmatogenous retinal detachment in Hokkaido.
FujiRetina 2025
11. 横田 陽匡 (2025年3月)
Role of Autotaxin in the Pathogenesis of Diabetic Retinopathy.
FujiRetina 2025

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
長岡 泰司	継続	基盤研究(C)	ナノ粒子点眼による糖尿病網膜症に対する新規低侵襲治療法の確立
神谷 隆行	再々延長	若手研究	眼循環、眼循環調節因子を用いた新規緑内障評価、治療法の確立
宇都宮 嗣了	再々延長	若手研究	眼表面摩擦関連疾患における角膜上皮細胞アンギオポエチン様蛋白4の役割解明

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

Department of Otorhinolaryngology– Head
and Neck Surgery

所属教員等

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

教 授 高原 幹
准 教 授 岸部 幹
助 教 関根 一郎
助 教 佐藤 遼介
助 教 脇坂 理紗

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

講 師 大原 賢三
講 師 熊井 琢美
講師(学内) 山木 英聖
助 教 小松田 浩樹
助 教 河野 通久

手術部

准 教 授 林 達哉

研究業績紹介

旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座では、扁桃病巣疾患の病態解明、頭頸部癌における免疫動態の解明および新規免疫療法の構築、アレルギー性上気道疾患の病態解析を中心に研究活動を行っている。

2024年度は低酸素が免疫治療の標的なることを初めて明らかにし (Wakisaka et al. Cancers.)、また世界初となる頭頸部癌腫瘍関連抗原のマウスワクチンモデルを開発した (Kono et al. Head & Neck.)。さらに皮下組織と口腔内で腫瘍の免疫治療への応答性が異なることも明らかにした (Kono et al. Oral oncology.)。2025年度に向けて、ROR1タンパクや鉄依存性細胞死が抗腫瘍免疫に及ぼす影響について有望な結果を得ておらず、次年度に英文で報告する予定である。稀少癌である甲状腺未分化癌の細胞株樹立に成功しており、その増殖シグナルなどについて、次年度以降に報告していく。また、FDG-PET/CTにおけるSUV Max以外の腫瘍体積が予後と関連すること (Wakisaka et al. Clinical otolaryngol.) や、PD-1阻害薬のバイオマーカーとして可溶性PD-L2が有用な可能性 (Sato et al. Head & Neck)、希少癌である唾液腺癌に対するPTX+Cetu療法の有用性 (Sato et al. ORL.) も報告してきた。この他にも甲状腺VANS法やIgA腎症に対する扁桃摘出の有用性など、多くの研究データ臨床知見の英文を20本以上報告しており、広く国際社会の医学発展に貢献している。

総説・解説

1. Sato R., Yamaki H., Komatsuda H., Wakisaka R., Inoue T., Kumai T., Takahara M. (May 2024) Exploring Immunological Effects and Novel Immune Adjuvants in Immunotherapy for Salivary Gland Cancers. *Cancers* 16(6): 1205
2. Kumai T., Sato R., Takahara M. (Mar 2025) Response to "Multi-institutional studies to enhance the understanding of primary salivary gland squamous cell carcinoma". *Auris Nasus Larynx* S0385-8146(25) 00027-6
3. Takahara M., Doi A., Inoshita A., Ohori J., Kono M., Hirano A., Kakuki T., Yamada K., Akagi H., Takano K., Nakata S., Harabuchi Y. (Aug 2024) Guidance of clinical management for patients with tonsillar focal disease. *Auris Nasus Larynx* 51(4): 761-773

4. 林 達哉 (2024年6月)
教育講演2目で診る! 口腔・咽頭病変
口腔咽頭科 37(2): 101-105
5. 林 達哉 (2024年10月)
臓器別に斬る小児の感染症 最適な抗菌薬の選択と期間とは? II 各論, II-4 耳・鼻腔, 急性中耳炎.
小児科診療 87(Suppl 2): 87-91
6. 岸部 幹 (2024年9月)
てこずった症例・難治症例にどう対応するか 耳領域 滲出性中耳炎を疑ったが ANCA 関連血管炎性中耳炎からの多発血管炎性肉芽腫症だった症例
JOHNS 40(9): 927-930
7. 熊井 琢美, 坂下 雅文, 高野 賢一, 藤枝 重治 (2024年9月)
留学とキャリアパス - 耳鼻咽喉科・頭頸部外科医の課外留学サポートを目指した取り組み -
日耳鼻会報誌 127(9): 21-25
8. 熊井 琢美 (2024年4月)
扁桃手術の適応と新しい手技 扁桃病巣疾患を診断する
ENTONI 295: 8-16
9. 高原 幹 (2024年12月)
扁桃を中心とした病巣疾患の発症機序
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌 4(4): 183-187
10. 脇坂 理紗, 高原 幹 (2024年12月)
"口とのど"の悩みに応える成人の口腔・咽頭粘膜病変
ENTONI 304: 45-53
11. 高原 幹 (2024年11月)
掌蹠膿疱症性骨関節炎の臨床症状・診断・治療 掌蹠膿疱症性骨関節炎の治療(扁桃摘出術)
日本脊椎関節炎学会誌 11(1): 13-17

論文

1. Nishi K., Yoshimoto S., Tanaka T., Kimura S., Tsunoda T., Watanabe A., Teranaka K., Oguma Y., Ogawa H., Kumai T., Yamano T. (Mar 2025)
Spatial transcriptomics of the epipharynx in long COVID identifies SARS-CoV-2 signalling pathways and the therapeutic potential of epipharyngeal abrasive therapy.
Scientific reports 15(1): 8618
2. Watanabe K., Nishio S., Usami S.; Deafness Gene Study Consortium (Kumai T.) (Apr 2024)
The prevalence and clinical features of MYO7A-related hearing loss including DFNA11, DFNB2 and USH1B.
Scientific reports 14(1) 8326
3. Aaron E. Fan, Hussein Sultan, Kumai T., Valentyna I. Fesenkova, Juan Wu, John D. Klement, Joshua D. Bernstock, Gregory K. Friedman, Esteban Celis (Mar 2025)
STAT5 Activation Enhances Adoptive Therapy Combined with Peptide Vaccination by Preventing PD-1 Inhibition.
Mol Cancer Ther 24(3) 419-430
4. Tsuda T., Kumai T., Imoto Y., Kono M., Kishikawa T., Hosokawa K., Sakashita M. (Dec 2024)
Empowering Communication in Medicine: A Workshop Approach to Improve Presentation Skills for Ear, Nose, and Throat Specialists.
Cureus 16(12): e76342
5. Kumai T., Nishio S., Moteki H., Katada A., Usami S. (Jan 2025)
Auditory Neuropathy Caused by a Structural Variation in the OTOF Gene, Identified Using Oxford Nanopore Adaptive Sampling.
Genes 16(2): 116

6. Nagato T., Komatsuda H., Hayashi R., Takahara M., Ujiie N., Kosaka A., Ohkuri T., Oikawa K., Sato R., Wakisaka R., Kono M., Yamaki H., Ohara K., Kumai T., Kishibe K., Katada A., Hayashi T., Kobayashi H. (Apr 2024)
Soluble CD27 as a predictive biomarker for intra-tumoral CD70/CD27 interaction in nasopharyngeal carcinoma.
Cancer Sci. 115(4): 1073-1084
7. Ohara K., Kumai T., Kishibe K., Yamaki H., Komatsuda H., Hayashi T., Takahara M. (Oct 2024)
Comparative outcomes of video-assisted thyroidectomy and traditional open surgery : A 5-year analysis of a single center experience.
Braz J Otorhinolaryngol 91(2): 101539
8. Kono M., Saito S., Rokugoa M., Ann Marie Egloff, Ravindra Uppaluri (May 2024)
Enhanced oral versus flank lymph node T cell response parallels anti-PD1 efficacy in head and neck cancer.
Oral Oncology 152: 106795
9. Kono M., Wakisaka R., Komatsuda H., Hayashi R., Kumai T., Yamaki H., Sato R., Nagato T., Ohkuri T., Kosaka A., Ohara K., Kishibe K., Kobayashi H., Hayashi T., Takahara M. (Aug 2024)
Immunotherapy targeting tumor-associated antigen in a mouse model of head and neck cancer.
Head and Neck 46(8): 2056-2067
10. Sato R., Komatsuda H., Inoue T., Wakisaka R., Kono M., Yamaki H., Ohara K., Kumai T., Kishibe K., Hayashi T., Takahara M. (Sep 2024)
Combined approach for predicting the efficacy of nivolumab in head and neck carcinoma by tissue and soluble expressions of PD - L1 and PD - L2.
Head & Neck 46(9): 2233-43
11. Sato R., Kumai T., Yuasa R., Wakisaka R., Komatsuda H., Yamaki H., Ishida Y., Wada T., Takahara M. (Apr 2024)
Common Characteristics of Sinonasal Inflammation Associated with IgG4-Related Disease and Other Chronic Inflammatory Diseases: A Retrospective Observational Study.
ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec 86(2): 95-100
12. Sato R., Wakisaka R., Komatsuda H., Yamaki H., Ohara K., Kumai T., Kishibe K., Nakagawa N., Hayashi T., Takahara M. (Oct 2024)
A comparison of the clinical efficacy of tonsillectomy with steroid pulse therapy and tonsillectomy therapy alone for patients with immunoglobulin A nephropathy: a retrospective observational study.
Clinical and Experimental Nephrology 28(12): 1254-1260
13. Wakisaka R., Kumai T., Komatsuda H., Yamaki H., Kono M., Sato R., Ohara K., Kishibe K., Hayashi T., Okizaki A., Takahara M. (Nov 2024)
Prognostic value of the 18F-FDG PET/CT and hematological parameters in head and neck cancer.
Clinical Otolaryngology 49(6): 733-741
14. Wakisaka R., Yamaki H., Kono M., Inoue T., Sato R., Komatsuda H., Ohara K., Kosaka A., Ohkuri T., Nagato T., Kishibe K., Nakayama K., Kobayashi H., Kumai T., Takahara M. (Aug 2024)
Hypoxia-Targeted Immunotherapy with PD-1 Blockade in Head and Neck Cancer.
Cancers 29(16): 3013
15. Saito S., Kono M., Hoang C.B. Nguyen, Ann Marie Egloff, Cameron Messier, Patrick Lizotte, Cloud Paweletz, Douglas Adkins, Ravindra Uppaluri (May 2024)
Targeting Dendritic Cell Dysfunction to Circumvent Anti-PD1 Resistance in Head and Neck Cancer.
Clinical Cancer Research 30(9): 1934-1944
16. Sato R., Kumai T., Kusaka T., Kano S., Ohkoshi A., Kubota S., Miyakura Y., Murayama K., Tagawa A., Godo S., Matsushita D., Tomizawa H., Toyoma S., Shiroto A., Takahara M. (Feb 2025)
Treatment outcomes of primary salivary gland squamous cell carcinoma: A multi-institutional retrospective study in Japan.
Auris Nasus Larynx 52(1): 43-49
17. Kumai T., Sato R., Takahara M. (Mar 2025)
Response to "Multi-institutional studies to enhance the understanding of primary salivary gland squamous cell carcinoma".
Auris Nasus Larynx S0385-8146(25) 00027-6

18. 井上 貴博, 熊井 琢美, 大原 賢三, 岸部 幹, 林 達哉, 高原 幹 (2024年12月)
歯性感染症を契機に膿瘍形成をきたした3例
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌 4(4): 189-195

症例報告

1. Inoue T., Kumai T., Ohara K., Takahara M. (Aug 2024)
Hypocalcemia Following Thyroidectomy in a Patient With COVID-19: A Case Report and Literature Review.
Cureus 16(8): e66665
2. Hayashi S., Bandoh N., Baba S., Hayashi M., Goto T., Takahara M., Kato Y., Aimono E., Nishihara H. (May 2024)
A case of hyalinizing trabecular tumor of the thyroid: diagnostic significance of PAX8-GLIS3 fusion.
Thyroid Research 17(1): 9
3. Ominato H., Kumai T., Ota R., Takahara M. (Feb 2025)
Bilateral Peritonsillar Abscesses Subsequent to Coronavirus Disease 2019 (COVID-19): A Case Report.
Cureus 17(2): e78590
4. Ominato H., Yoshizaki T., Hirata-Nozaki Y., Sakaue H., Takahara M. (Mar 2025)
Pediatric pharyngeal foreign body with a difficult diagnosis.
Acute Med Surg 12(1): e70052
5. 林 秀斗, 熊井 琢美, 道塚 智彦, 大崎 隆士 (2024年7月)
前頸部に発生した Myxoinflammatory fibroblastic sarcoma の1例
耳鼻臨床 117(7): 647-657
6. 宮越 薫, 熊井 琢美, 大原 賢三, 岸部 幹, 林 達哉, 高原 幹 (2024年6月)
Marine-Lenhart 症候群(MLS)の1例
頭頸部外科 34(1): 99-103

著書

1. 林 達哉, 宇野 芳史, 河野 正充, 澤田 正一, 泰地 秀信, 保富 宗城, 丸山 裕美子, 矢野 寿一, 喜多村 健, 工藤 典代 (2024年5月)
小児急性中耳炎診療ガイドライン 2024年版
金原出版
2. 林 達哉 (2024年9月)
プラクティス耳鼻咽喉科の臨床 6, 耳鼻咽喉科医のための診療ガイドライン活用マニュアル 急性中耳炎
中山書店 14-16

研究発表

1. 佐藤 遼介, 熊井 琢美, 井上 貴博, 脇坂 理紗, 高原 幹 (2024年4月)
唾液腺癌に対するPD-1阻害薬の治療効果に関する検討
第4回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会
2. 脇坂 理紗, 熊井 琢美, 佐藤 遼介, 小松田 浩樹, 山木 英聖, 林 達哉, 高原 幹 (2024年4月)
低酸素環境と鉄依存性細胞死を標的とした頭頸部癌免疫療法の開発
第4回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会
3. 熊井 琢美 (2024年4月)
当科における頭頸部癌治療について
第6回道北アレルギー懇話会
4. 山木 英聖 (2024年4月)
当科におけるTKI使用例の検討
第101回北北海道耳鼻咽喉科懇話会

5. 熊井 琢美, 上咽頭擦過療法検討委員会 (2024年5月)
上咽頭擦過療法の有効性に関する前向きアンケート調査 中間報告
第125回 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
6. Kumai T., Epipharyngeal abrasive therapy committee (May 2024)
Epipharyngeal abrasive therapy in Long COVID: An interim report of the multicenter study.
第125回 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
7. 大原 賢三, 熊井 琢美, 山木 英聖, 岸部 幹, 林 達哉, 高原 幹 (2024年5月)
内視鏡補助下甲状腺手術 - VANS - 単一術者による初回から30症例の検討
第125回 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
8. Wakisaka R., Kumai T., Yamaki H., Ohara K., Kishibe K., Hayashi T., Okizaki A., Takahara M. (May 2024)
Prognostic value of the 18F-FDG PET/CT and hematological parameters in head and neck cancer.
第125回 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
9. 大原 賢三, 高原 幹 (2024年5月)
内視鏡補助下甲状腺手術中の反回神経即時吻合
第36回 日本内分泌外科学会 総会
10. 佐藤 遼介, 熊井 琢美, 高原 幹 (2024年9月)
IgA腎症における扁桃細菌叢の検討
第37回 日本口腔・咽頭科学会
11. Yamaki H., Kumai T., Wakisaka R., Kono M., Ohara K., Nagato T., Kosaka A., Ohkuri T., Hobayashi H., Takahara M. (Sep 2024)
Brachyury-targeted immunotherapy combined with gemcitabine against head and neck cancer.
第83回 日本癌学会
12. Kono M., Kumai T., Komatsuda H., Wakisaka R., Yamaki H., Ohara K., Kishibe K., Ravindra Uppaluri, Takahara M. (Sep 2024)
Cancer vaccine counteracts T cell deletion-induced immune resistance in head and neck cancer.
第83回 日本癌学会
13. Wakisaka R., Kumai T., Kono M., Ohara K., Nagato T., Ohkuri T., Kosaka A., Kobayashi H., Takahara M. (Sep 2024)
Effect of ferroptosis on proliferation and tumor immunity in head and neck cancer.
第83回 日本癌学会
14. 熊井 琢美, 佐藤 遼介, 大原 賢三, 岸部 幹, 高原 幹 (2024年9月)
シラカンバ花粉症患者の咽喉頭症状に対するアンケート調査
第5回 アレルギー学会 北海道地方部会
15. 熊井琢美, 有馬涼太, 脇坂理紗, 小松田浩樹, 岸部 幹, 林 達哉, 高原 幹 (2024年10月)
上咽頭癌における滲出性中耳炎リスク因子の検討
第34回 日本耳科学会
16. 岸部 幹, 金谷 健史, 高原 幹 (2024年11月)
Ocular flutter の2例
第83回 日本めまい平衡医学会
17. 高原 幹 (2024年11月)
口腔咽頭粘膜疹、特にアフタ性粘膜疹について
第38回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 秋季大会
18. 高原 幹 (2024年8月)
シンポジウム2:「病巣感染から考える乾癬関連疾患」耳鼻咽喉科から見る扁桃を病巣とした皮膚疾患
第39回 日本乾癬学会
19. 熊井 琢美 (2024年4月)
パネルディスカッション4: - 腫瘍免疫は人類を救う - 免疫システム解明がもたらす癌薬物療法の広がり
第4回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会

20. 熊井 琢美 (2024 年 6 月)
シンポジウム 8: ウィルス腫瘍の基礎研究 - 研究推進と研究費獲得のコツ - EB ウィルスから見た鼻性
NK/T 細胞リンパ腫
第 48 回 日本頭頸部癌学会
21. 熊井 琢美 (2024 年 9 月)
シンポジウム 1: 魅惑の扁桃研究 今何が行われているか? 口蓋扁桃と上咽頭を標的とした耳鼻科診療
- 上咽頭擦過療法の多施設共同試験を踏まえて
第 37 回 日本口腔・咽頭科学会
22. 高原 幹 (2024 年 6 月)
口蓋扁桃のお話 炎症からがんまで
東旭川公民館 市民学級 公開講座
23. 高原 幹 (2024 年 7 月)
扁桃病巣疾患と掌蹠膿疱症
掌蹠膿疱症山梨県連携 講演会
24. 高原 幹 (2024 年 7 月)
扁桃病巣疾患 アレルギーも添えて
苫小牧耳鼻咽喉科医会 講演会
25. 高原 幹 (2024 年 8 月)
研究・診療・教育の業績と今後の抱負について
第 25 回 旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 学術講演会
26. 高原 幹 (2024 年 10 月)
扁桃病巣疾患診療の手引き
第 36 回 帯広耳鼻科医会 学術講演会
27. 高原 幹 (2024 年 10 月)
中咽頭癌 その臨床と HPV との繋がりについて
旭川医科大学 産婦人科
28. 高原 幹 (2024 年 11 月)
アレルギー性鼻炎、扁桃病巣疾患
第 5 回 御茶ノ水耳鼻咽喉科頭頸部カンファレンス
29. 高原 幹 (2024 年 12 月)
扁桃病巣疾患
日本耳鼻咽喉科学会 福井県地方部会
30. 林 達哉 (2024 年 9 月)
ランチョンセミナー5: What's New: 2024 年版小児急性中耳炎診療ガイドライン
第 37 回 日本口腔・咽頭科学会
31. 林 達哉 (2024 年 9 月)
徹底解説! 2024 年版小児急性中耳炎診療ガイドライン
第 57 回 信耳会
32. 林 達哉 (2024 年 11 月)
失敗から学ぶ・考える 重要情報伝達エラー～「画像・病理診断レポート」から「生体情報ミニター
アラーム」まで～
札幌東徳洲会病院 医療安全対策委員会
33. 大原 賢三 (2024 年 10 月)
内視鏡補助下甲状腺手術 Up-to-Date
愛知県医師会 生涯教育講座
34. 熊井 琢美 (2024 年 4 月)
頭頸部癌に対する革新的免疫療法の開発
第 4 回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会
35. 熊井 琢美 (2024 年 4 月)
アレルギー性鼻炎
アレルギー週間 講演会

36. 熊井琢美 (2024 年 7 月)
頭頸部癌免疫療法の今後
旭川医科大学腫瘍センター セミナー
37. 熊井琢美 (2024 年 11 月)
Special Lecture II: 基礎研究と臨床をつなぐ頭頸部癌免疫療法
北海道頭頸部がん セミナー
38. 河野 通久 (2024 年 8 月)
帰朝報告 ハーバード大学ダナファーバーがん研究所での臨床と研究
第 25 回 旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 学術講演会
39. 脇坂 理紗 (2024 年 6 月)
聞こえの仕組みと聴覚障害・聴覚補償・聴覚障害者コミュニケーション
旭川中途失聴者協会 要約筆記を学ぶ会
40. 大原 賢三, 熊井 琢美, 山木 英聖, 河野 通久, 岸部 幹, 林 達哉, 高原 幹 (2025 年 1 月)
内視鏡補助下甲状腺手術後の漿液腫に関する検討
第 34 回 日本頭頸部外科学会
41. 脇坂 理紗, 熊井 琢美, 河野 通久, 山木 英聖, 大原 賢三, 岸部 幹, 高原 幹 (2025 年 3 月)
当科における早期声門癌の放射線照射法による比較検討
第 37 回 日本喉頭科学会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
高原 幹	継続	基盤研究(C)	扁桃病巣疾患における基礎的、臨床的エビデンスの構築
脇坂 理紗	継続	基盤研究(C)	TRK 阻害薬を用いた頭頸部癌およびその神経浸潤と免疫逃避に対する新規治療法の開発
熊井 琢美	継続	基盤研究(C)	頭頸部癌特異的 T 細胞を活用した複合型免疫療法の開発
大原 賢三	継続	若手研究	花粉食物アレルギー症候群マウスモデルの作製と新規治療法の開発
山木 英聖	新規	若手研究	頭頸部癌における新規ペプチドワクチンと免疫アジュバントの開発

産婦人科学講座

Department of Obstetrics and Gynecology

所属教員等

産婦人科学講座

教 授 加藤 育民
准 教 授 片山 英人
講師(学内) 市川 莫俊
助 教 水崎 恵

産科婦人科

助 教 中西 研太郎
助 教 板橋 彩
助 教 津村 亜依
診療助教 石川 雄大
病院助教 酒井 美穂

研究業績紹介

産婦人科学講座では、2024年度は邦文論文5本を発表した。

産科グループでは2022年度より科研費研究である妊娠婦の骨格筋量と産後のメンタルヘルスの解明について研究を行っており、現在も継続して研究データを蓄積している。中間解析の結果を学会で発表し、来年度は論文化する予定である。近年、晩婚化、晩産化の影響で、出生前診断のニーズが高まっているが、産婦人科学講座では道北・道東の妊娠を中心に、精力的に出生前診断を行っており、出生前診断について学会発表した。そのほか、道北・道東のハイリスク妊娠を多数受け入れており、多数の学会発表を行った。

婦人科グループでは、ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン接種の勧奨再開にあたり、MSD医学教育事業助成を獲得し、HPVワクチン接種の普及に取り組んでいる。昨年度に引き続き、2024年度も、各自治体で講演会を行ったり、大学職員や学生を対象とした集団接種を行ったりした。その結果、2023年度のHPVワクチン1回目接種率が道内主要11市中1位となり、HPVワクチン接種率の向上に貢献したと考える。また、放射線部を中心として、MRIによる摘出子宮重量測定について研究中である。

臨床業務が多忙でなかなか研究に時間を割くことができていないが、学会発表は積極的に行っている。今後も、道北・道東の産婦人科医療を守りながら、研究活動も活発に行っていく予定である。

総説・解説

1. 加藤 育民 (2024年4月)
各論 この症状で「困った!」ときの漢方の使いドコロ!⑧『月経諸疾患や症状にどう対応する?!』
総合診療 34(4)
2. 加藤 育民 (2024年5月)
HPVの最近の動向『日本でのHPVワクチン接種率向上のために』
日本産科婦人科学会雑誌 76(5): 612-618
3. 加藤 育民 (2024年11月)
婦人科外来診療パーセプトブック 感染症『骨盤内炎症性疾患(PID) - 子宮附属器炎を含む』
産婦人科の実際 73(11): 1260-1265
4. 加藤 育民 (2024年11月)
女性のヘルスケア『骨粗鬆症』
産婦人科の実際 73(11): 1260-1265

論文

1. 石川 雄大, 大石 由利子, 中村 真彰, 今田 洋紀, 車野 晃大, 野澤 明美 (2024年5月)
ジノプロストン腔用剤を用いた分娩誘発についての後方視的検討: 傾向スコアマッチングを用いた従来法との比較
日本周産期・新生児医学会雑誌 60(1): 58-65
2. 水崎 恵 (2025年2月)
『注目すべき論文』 Induction chemotherapy followed by standard chemoradiotherapy versus standard chemoradiotherapy alone in patients with locally advanced cervical cancer (GCIG INTERLACE): an international, multicentre, randomised phase 3 trial.
婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG) 会員向け HP

症例報告

1. 竹内 肇, 加藤 育民 (2024年5月)
ペルテス病既往のある思春期の月経困難症に桂枝茯苓丸が奏功した1症例
産婦人科 漢方研究のあゆみ 40: 95-99

著書

1. 加藤 育民 (2025年1月)
産婦人科疾患『月経の人工移動法』
今日の治療指針 2025 67: 1323

研究発表

1. 市川 英俊, 林 なつき, 水崎 恵, 板橋 彩, 上田 あかね, 高橋 知昭, 片山 英人, 加藤 育民 (2024年4月)
エストロゲン産生卵巣類内膜癌の3例
第76回日本産科婦人科学会 学術講演会
2. 酒井 美穂, 土川 恵, 津村 亜依, 林 なつき, 水崎 恵, 板橋 彩, 上田 あかね, 市川 英俊, 高橋 知昭, 片山 英人, 加藤 育民 (2024年4月)
採卵後に内膜症性囊胞の感染から直腸穿通を来たした1例
第76回日本産科婦人科学会 学術講演会
3. 吉澤 明希子, 石川 雄大, 中西 研太郎, 金井 麻子, 横浜 祐子, 加藤 育民 (2024年4月)
一過性骨髓異常増殖症症例の胎盤病理所見と周産期経過の検討
第76回日本産科婦人科学会 学術講演会
4. 土川 恵, 水崎 恵, 佐藤 淳斗, 林 なつき, 板橋 彩, 上田 あかね, 市川 英俊, 高橋 知昭, 片山 英人, 加藤 育民 (2024年4月)
患側付属器摘出困難であったが、その後ブレオマイシン・エトポシド・シスプラチニ併用療法で腫瘍縮小が得られた一例
第76回日本産科婦人科学会 学術講演会
5. 佐藤 淳斗, 石川 雄大, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 金井 麻子, 横浜 祐子, 加藤 育民 (2024年4月)
子宮底部横切開による帝王切開5例の検討
第76回日本産科婦人科学会 学術講演会
6. 加藤 育民 (2024年5月)
日本から子宮頸がんを撲滅できるのか～HPVワクチン接種を広めよう！～
長崎県HPVワクチン講演会
7. 中西 研太郎, 石川 雄大, 金井 麻子 (2024年5月)
妊娠14週に自然隔膜破綻をきたしたが2児生存した一絨毛膜二羊膜双胎妊娠の一例
日本超音波医学会 第97回 学術集会
8. 加藤 育民 (2024年6月)
妊婦さんから更年期までの女性のライフステージに合わせた漢方薬の使い分け
帯広十勝産婦人科医会 学術講演会
9. 加藤 育民 (2024年6月)
様々な場面で使用される漢方薬～どのように利用されているか～
旭川医科大学医大祭 公開講座

10. 酒井 美穂, 板橋 彩, 水沼 月子, 土川 恵, 津村 亜依, 水崎 恵, 市川 英俊, 片山 英人, 加藤 育民 (2024年7月)
進行卵巣癌に対する審査腹腔鏡の有効性についての検討
第24回 北海道産婦人科低侵襲研究会
11. 土川 恵, 水崎 恵, 水沼 月子, 酒井 美穂, 津村 亜依, 板橋 彩, 市川 英俊, 片山 英人, 加藤 育民 (2024年7月)
当院で診断された漿液性卵管上皮内癌 (Serous tubal intraepithelial carcinoma: STIC) の検討
第24回 北海道産婦人科低侵襲研究会
12. 津村 亜依, 土川 恵, 水崎 恵, 水沼 月子, 酒井 美穂, 板橋 彩, 市川 英俊, 片山 英人, 加藤 育民 (2024年7月)
当院の術前レルゴリクス投与例における子宮体積の縮小率の検討
第24回 北海道産婦人科低侵襲研究会
13. 水沼 月子, 板橋 彩, 津村 亜依, 土川 恵, 水崎 恵, 酒井 美穂, 市川 英俊, 片山 英人, 加藤 育民 (2024年7月)
子宮鏡下子宮筋腫核出術中に空気塞栓を発症した1例
第24回 北海道産婦人科低侵襲研究会
14. 加藤 育民 (2024年7月)
函館で安心して HPVワクチンを接種できる体制づくり～私が実践していること～
HPVワクチンセミナー
15. 加藤 育民 (2024年7月)
HPVワクチンキャッチアップ接種～本学の取り組み、そして次へ～
HPVワクチンOnlineセミナー
16. 金井 麻子, 横浜 祐子, 吉澤 明希子, 中西 研太郎, 石川 雄大, 酒井 美穂, 土川 恵, 加藤 育民 (2024年7月)
妊娠中期までアンジオテンシンII受容体拮抗薬を内服し、内服中止後に胎児水腫となったが生児を得た一例
第60回 日本周産期・新生児学会 学術講演会
17. 石川 雄大, 土川 恵, 酒井 美穂, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 金井 麻子, 横浜 祐子, 加藤 育民 (2024年7月)
双胎妊娠107例における分娩時異常出血と分娩前の血液凝固検査の菅家について検討
第60回 日本周産期・新生児学会 学術講演会
18. 酒井 美穂, 土川 恵, 石川 雄大, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 金井 麻子, 横浜 祐子, 加藤 育民 (2024年7月)
重篤な合併症を伴い入院管理を要した摂食障害妊婦の4例
第60回 日本周産期・新生児学会 学術講演会
19. 中村 真彰, 石川 雄大, 今田 泰紀, 小野 方正, 大石 由利子 (2024年7月)
ジノプロストン隆用剤を用いた分娩誘発の後方視的検討: 傾向スコアマッチングを用いた従来法との比較
第60回 日本周産期・新生児学会 学術講演会
20. 市川 英俊, 水沼 月子, 土川 恵, 酒井 美穂, 津村 亜依, 水崎 恵, 板橋 彩, 片山 英人, 加藤 育民 (2024年7月)
フルマ酸ヒドロターゼ欠損子宮平滑筋腫の3例
第66回 日本婦人科腫瘍 学術講演会
21. 水崎 恵, 水沼 月子, 土川 恵, 酒井 美穂, 津村 亜依, 板橋 彩, 市川 英俊, 片山 英人, 加藤 育民 (2024年7月)
当院の進行および再発子宮頸癌に対する TC+Pembrolizmab 療法の使用経験
第66回 日本婦人科腫瘍 学術講演会
22. 板橋 彩 (2024年7月)
HPVワクチンのことをよく知ろう
子宮頸がん予防・HPVワクチン 講演会
23. 板橋 彩 (2024年7月)
子宮頸がん予防と HPVワクチン
令和6年度 産婦人科新人医師 ウエルカム・ガイダンス 学術講演会

24. 加藤 育民 (2024 年 7 月)
最新のホルモン療法の話題
令和 6 年度 産婦人科新人医師 ウエルカム・ガイダンス 学術講演会
25. 加藤 育民 (2024 年 8 月)
知っておきたい HPV ワクチン～若年女性にも発症する子宮頸がんを減らすために～
第 43 回 日本思春期学会 総会・学術集会
26. 土川 恵, 水崎 恵, 水沼 月子, 酒井 美穂, 津村 亜依, 板橋 彩, 市川 英俊, 片山 英人, 湯澤 明夏, 加藤 育民 (2024 年 9 月)
子宮の良性疾患に対する低侵襲手術による子宮全摘 の際に、卵巣がん予防目的に両側卵管の同時摘出を 推奨する当院の取り組みについて
第 64 回 日本産科婦人科内視鏡学会
27. 市川 英俊, 水沼 月子, 土川 恵, 酒井 美穂, 津村 亜依, 水崎 恵, 板橋 彩, 片山 英人, 加藤 育民 (2024 年 9 月)
ロボット支援下手術後に診断された卵巣ステロイド 細胞腫瘍の一例
第 64 回 日本産科婦人科内視鏡学会
28. 津村 亜依, 土川 恵, 水崎 恵, 水沼 月子, 酒井 美穂, 板橋 彩, 市川 英俊, 片山 英人, 加藤 育民 (2024 年 9 月)
当院の術前レルゴリクス投与症例の後方視的検討
第 64 回 日本産科婦人科内視鏡学会
29. 水沼 月子, 板橋 彩, 土川 恵, 酒井 美穂, 津村 亜依, 水崎 恵, 市川 英俊, 片山 英人, 加藤 育民 (2024 年 9 月)
硬性子宮鏡モルセレーションシステムを用いた子宮 鏡下子宮筋腫核出術中に空気塞栓を発症した 1 例
第 64 回 日本産科婦人科内視鏡学会
30. 加藤 育民 (2024 年 9 月)
医師の働き方改革元年～将来を見据えた産婦人科医療体制を考える～
第 71 回 北日本産科婦人科学会 総会・学術講演会
31. 中西 研太郎, 影近 瑠唯, 石川 雄大, 吉澤 明希子, 金井 麻子, 横浜 祐子, 加藤 育民 (2024 年 9 月)
妊娠婦の骨格筋量と産後のメンタルヘルスについての検討
第 71 回 北日本産科婦人科学会 総会・学術講演会
32. 石川 雄大, 影近 瑠唯, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 金井 麻子, 横浜 祐子, 中嶋 えりか, 加藤 育民 (2024 年 9 月)
Mycoplasma hominis による帝王切開術後腹腔内膿瘍が遷延したクローン病合併妊娠の一例
第 71 回 北日本産科婦人科学会 総会・学術講演会
33. 水沼 月子, 土川 恵, 酒井 美穂, 津村 亜依, 板橋 彩, 水崎 恵, 市川 英俊, 片山 英人, 加藤 育民 (2024 年 9 月)
リングペッサリーにより臀部膿瘍を來した 1 例
第 71 回 北日本産科婦人科学会 総会・学術講演会
34. 土川 恵, 水崎 恵, 水沼 月子, 酒井 美穂, 津村 亜依, 板橋 彩, 市川 英俊, 片山 英人, 加藤 育民 (2024 年 9 月)
子宮捻転を術前に疑った巨大子宮筋腫の一例
第 71 回 北日本産科婦人科学会 総会・学術講演会
35. 影近 瑠唯, 石川 雄大, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 金井 麻子, 横浜 祐子, 加藤 育民 (2024 年 9 月)
人工妊娠中絶後に産褥子宮内膜炎による敗血症に至った妊娠 18 週の前期破水の 1 例
第 71 回 北日本産科婦人科学会 総会・学術講演会
36. Yokohama Y., Makita Y., Yuzawa S., Tanino M., Kato Y. (Oct 2024)
Our approach to genetic diagnosis and management of Hereditary Leiomyomatosis and Renal Cell Cancer.
日本人類遺伝学会 第 69 回 大会
37. 中川 貞裕, 土川 恵, 高橋 知昭, 加藤 育民, 沖崎 貴琢 (2024 年 10 月)
MRI を用いた摘出子宮重量測定と最適な撮影時期の提案
JSawi 2024

38. 金井 麻子, 影近 瑠唯, 津村 亜依, 石川 雄大, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 横浜 祐子, 加藤 育民 (2024年10月)
当学の非侵襲性出生前遺伝学的検査再開後の出生前診断数の推移
第26回 北海道出生前診断研究会
39. 横浜 祐子, 湯澤 明夏, 影近 瑠唯, 石川 雄大, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 金井 麻子, 加藤 育民 (2024年10月)
先天性上部消化管閉鎖症における臍帯潰瘍出血例でみられた Chorioamniotic membrane separation の報告
第26回 北海道出生前診断研究会
40. 片山 英人 (2024年10月)
ゲノム診療を意識した当施設における検体取り扱いの実際
卵巣癌検体取り扱い講演会
41. 金井 麻子, 影近 瑠唯, 石川 雄大, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 横浜 祐子, 加藤 育民 (2024年11月)
当院のプロゲステロン製剤、頸管縫縮術による早産予防について検討
第17回 日本早産学会 学術集会
42. 加藤 育民 (2024年11月)
更年期女性に多い頭痛と喉のつまり感～漢方的に考える～
第33回 旭川漢方勉強会 - 入門編 -
43. 加藤 育民 (2024年11月)
更年期女性のヘルスケアを考える～女性ホルモンの凄さ～
女性医療セミナー～更年期世代の女性が抱える健康課題と対策～
44. 加藤 育民 (2024年12月)
ホルモン補充療法とLEPにおける次なる幕開け
令和6年度 富山県産科婦人科学会 第4回例会・特別講演会
45. 中西 研太郎 (2024年12月)
産婦人科領域で役立つ漢方薬
第5回 旭川漢方ショートレクチャー
46. 加藤 育民 (2025年1月)
婦人の治療は男性の十倍難しい？～漢方からのアプローチ～
第12回 小樽後志漢方講演会
47. 加藤 育民 (2025年2月)
今後のHPVワクチン接種を考える～キャッチアップ接種の経過措置を含めて～
HPVワクチンOnlineセミナー
48. 中西 研太郎 (2025年2月)
双胎妊娠～診断・管理から長期予後まで～
第13回 北海道産婦人科臨床フォーラム

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
中西 研太郎	継続	基盤研究(C)	妊娠婦の骨格筋量が産後のメンタルヘルスに与える影響の解明

放射線医学講座

Department of Radiology

放射線部

Clinical Radiology

所属教員等

放射線医学講座

教 授 沖崎 貴琢
講 師 山品 将祥
講 師 中山 理寛
講師(学内) 石戸谷 俊太
助 教 大屋 明希子

放射線科

教授(病院) 中島 香織
講師(学内) 渡邊 尚史
助 教 戸田 雅博
助 教 野村 優里菜

放射線部

助 教 青木 友希
助 教 野村 健太

総説・解説

1. 渡邊 尚史 (2024年8月)
出会ったときに悩まない医原性病変の画像診断 序説
臨床画像 40(8): 933-933
2. 大屋 明希子, 沖崎 貴琢 (2024年8月)
出会ったときに悩まない医原性病変の画像診断 特徴的な画像所見を呈する薬剤性の疾患
臨床画像 40(8): 984-992
3. 野村 優里菜, 渡邊 尚史, 沖崎 貴琢 (2024年9月)
動脈解離再考! 今こそ全身の動脈解離を網羅する 腹部内臓動脈解離の画像診断
臨床画像 40(9): 1116-1122

論文

1. Wakisaka R., Kumai T., Komatsuda H., Yamaki H., Kono M., Sato R., Ohara K., Kishibe K., Hayashi T., Okizaki A., Takahara M. (Jul 2024)
Prognostic Value of the 18F-FDG PET/CT and Haematological Parameters in Head and Neck Cancer.
Clinical Otolaryngology 2024; 0: 1-9, <https://doi.org/10.1111/coa.14195>
2. Nomura K., Nakayama M., Okizaki A. (Sep 2024)
Usefulness of the Automated Bone Scan Index in Arthritis: A Quantitative Approach for Evaluating Synovitis, Acne, Pustulosis, Hyperostosis, and Osteitis (SAPHO) Syndrome.
Nuclear Medicine and Molecular Imaging <https://doi.org/10.1007/s13139-024-00883-0>
3. Saito T., Shikama N., Takahashi T., Nakamura N., Mori T., Nakajima K., Koizumi M., Sekii S., Ebara T., Kiyohara H., Higuchi K., Yorozu A., Nishimura T., Ejima Y., Harada H., Araki N., Miwa M., Yamada K., Kawamoto T., Imano N., Heianna J., Nozaki M., Wada Y., Ohkubo Y., Uchida N., Watanabe M., Kosugi T., Miyazawa K., Yasuda S., Onishi H. (Jul 2024)
Quality of palliative radiotherapy assessed using quality indicators: a multicenter survey.
Journal of Radiation Research 65(4): 532-539, doi: 10.1093/jrr/rrae048
4. Morikawa F., Kobayashi R., Murayama T., Fukuya S., Tabata K., Fujishiro H., Nakayama M., Naoe J. (Nov 2024)
Evaluating Electroconvulsive Therapy for Dementia With Lewy Bodies, Including the Prodromal Stage: A Retrospective Study on Safety and Efficacy.
International Journal of Geriatric Psychiatry 39(12): n/a-n/a, doi: 10.1002/gps.70020

5. Miura S., Amemiya K., Okizaki A., Manabe O., Tsujinaga S., Miyazaki C., Ikeda Y., Hatakeyama K., Takahashi S., Yamashita T. (Jan 2025) Impaired myocardial perfusion and myocardial inflammation of acute myopericarditis associated with COVID-19. **Journal of Cardiology Cases** 31(1): 12-16
6. Oya A., Nakayama M., Uno T., Ueda H., Yoshida I., Fujiya A., Nomura Y., Okizaki A. (Feb 2025) Comparison of the diagnostic accuracy of VS-BONE BSI versions for detecting bone metastases in breast and prostate carcinoma patients using conventional and CZT detector gamma cameras. **Annals of Nuclear Medicine** doi: 10.1007/s12149-025-02020-z
7. 森直人, 中川貞裕, 岩田邦弘, 沖崎貴琢 (2024年8月) 心臓T1マッピングにおける脈波同期がT1値に及ぼす影響について: 脈波同期法は心電同期法の代替となりうるか **日本放射線技術学会雑誌** doi: 10.6009/jirt.2024-1458

症例報告

1. Tamaru Y., Kikuchi S., Uramoto T., Takahashi K., Kamada K., Yoshida Y., Uchida D., Nishio T., Yamao T., Ishitoya S., Kishibe M., Inaba M., Hayashi T., Ishida-Yamamoto A., Azuma N. (Jun 2024) A case of pseudo-Kaposi sarcoma with chronic limb-threatening ischemia. **Surgical Case Reports** (2024) 10: 139, doi.org/10.1186/s40792-024-01933-7

研究発表

1. 渡邊尚史, 石戸谷俊太, 大屋明希子, 戸田雅博, 野村優里菜, 斎藤美季, 野村健太, 上枝翔, 吉田一平, 沖崎貴琢 (2024年4月) 内臓動脈瘤の画像診断 第83回日本医学放射線学会総会
2. 野村健太, 中山理寛, 沖崎貴琢, 佐藤翔太, 森直人, 内部拓, 岩田邦弘, 宇野貴寛 (2024年5月) 当施設導入の新デジタルPET-CT装置における初期検討 - 臨床編 - 第1回日本核医学会北海道支部会
3. 宇野貴寛, 佐藤翔太, 森直人, 内部拓, 岩田邦弘, 野村健太, 中山理寛, 沖崎貴琢 (2024年5月) 当施設導入の新デジタルPET-CT装置における初期検討 - 技術編 - 第1回日本核医学会北海道支部会
4. 斎藤美季, 沖崎貴琢, 上枝翔, 吉田一平, 渡邊尚史, 石戸谷俊太, 大屋明希子, 戸田雅博, 藤谷淳 (2024年6月) 当院における間質性肺炎の集学的検討(MDD)の経験 第150回日本医学放射線学会北日本地方会
5. 青木友希, 山品将祥, 中島香織, 沖崎貴琢 (2024年6月) 当院における骨盤骨への緩和照射の治療成績 第150回日本医学放射線学会北日本地方会
6. 藤谷淳, 山品将祥, 青木友希, 中島香織, 沖崎貴琢 (2024年10月) 喉頭に転移した節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型の一例 第151回日本医学放射線学会北日本地方会
7. 野村健太, 中山理寛, 沖崎貴琢 (2024年10月) 骨シンチグラフィーにおける関節炎集積に対するBone Scan Indexを用いた検討 第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会
8. 中島香織, 山品将祥, 青木友希, 松田健吾, 佐々木駿, 矢野雅樹, 山田裕樹, 林秀樹 (2024年11月) 胸部悪性腫瘍に対する胸部緩和照射の治療成績 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会
9. 青木友希, 山品将祥, 中島香織, 沖崎貴琢 (2024年11月) 当院における骨転移照射の分割回数による疼痛緩和効果の比較 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会

10. 大久保 悠, 高橋 健夫, 中村 直樹, 鹿間 直人, 中島 香織, 西村 岳, 江原 威, 角田 喜美代, 和田 健太郎, 三輪 弥沙子(2024 年 11 月)
 緩和照射を普及させるための好事例集の作成(院内・院外連携促進の Tips 集)
 日本放射線腫瘍学会 第 37 回 学術大会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
沖崎 貴琢	継続	基盤研究(C)	胸部 X 線写真上の全自动異常検出及び診断支援システムの開発
中山 理寛	継続	基盤研究(C)	脳内ド派ミントランスポーターイメージにおける時短収集に伴う新たな定量解析法の開発

麻醉・蘇生学講座

Department of Anesthesiology and
Critical Care Medicine

所属教員等

麻酔・蘇生学講座

教 授	牧野 洋
准 教 授	岩崎 肇
助 教	菅原 亜美
助 教	佐古 澄子
助 教	須田 康裕

麻酔科蘇生科

講師(学内)	鷹架 健一
助 教	井上 真澄
助 教	高橋 裕香子
助 教	荒木 走
助 教	上坂 司
助 教	渡辺 麻由

研究業績紹介

旭川医科大学麻酔・蘇生学講座においては、伝統的に筋弛緩薬に対する基礎・臨床研究が研究の柱であり、現在岩崎肇を中心として業績が蓄積されている。当科では臨床面において、経食道心エコー、超音波ガイド下神経ブロックにおいて、全国的に普及する前の早い段階で海外の難資格を取得するなど、国内で指導的位置にあったため、それらに関する症例報告や臨床研究が盛んに行われてきた。また、ウイルスベクターを用いた痛みの遺伝子治療の基礎研究や、新規静脈麻酔薬の血中濃度に関する臨床研究も行われている。

2024年度も上記の研究成果が論文及び学会発表されている。

近年の手術件数増加により臨床に費やす時間が増加していることや、長期にわたる教授不在期間における人員減少、コロナ禍など、当科における基礎・臨床研究の遂行には逆風が吹いている状態であるが、2023年7月1日には新教授が就任した。まずは麻酔科医師の充足を図り、研究に割ける時間を作り出すことが急務であるが、時間がない中でも、医局員の頑張りにより、症例報告や臨床研究論文がPublishされるなど、少しずつ確実な芽が出始めている。また、基礎系講座や各基礎診療科との共同研究を推進することで諸課題を克服していきたいと考えている。新教授が就任したことにより、前任地で行ってきた脳動脈瘤に関する基礎研究や医工連携による“ものづくり”なども増加することが期待されている。

総説・解説

1. 岩崎 肇 (2024年5月)
電位感知型筋弛緩モニタ
臨床麻酔 48(5): 655-659.
2. 牧野 洋 (2024年6月)
地方において想うこと
臨床麻酔 48(6): 717-718.
3. 牧野 洋, 土手 健太郎 (2024年7月)
世界の麻酔博物館から学ぶ
臨床麻酔 48(7): 815-822
4. 齊藤 繁, 牧野 洋 (2024年8月)
第71回学術集会 麻酔博物館特別展示報告
日本麻酔科学会 NEWS LETTER 2(3): 3

5. 牧野 洋 (2024年8月)
麻醉科学史の魅力
日本麻酔科医会連合会 NEWS LETTER No.3
6. 館岡 一芳 (2024年11月)
麻醉科 この一年
名寄市立病院医誌 32(1): 60
7. 小野寺 美子 (2024年10月)
「最期」の選択相談を、旭川医大病院「人生会議」を学ぶ講座
北海道新聞 16
8. 菅原 亜美, 牧野 洋 (2025年3月)
Physician empathy and chronic pain out-comes. (文献抄訳)
ペインクリニック 46(3): 341

論文

1. Kawakatsu T., Kamio Y., Makino H., Hokamura K., Imai R., Sugimura S., Kimura T., Hiramatsu H., Umemura K, Hashimoto T, Kurozumi K. (Apr 2024)
Dietary Iron Restriction Protects against Aneurysm Rupture in a Mouse Model of Intracranial Aneurysm.
Cerebrovasc Dis. 53(2): 191-197
2. Suda Y., Mikami T., Shiiku C., Asai Y., Kanda H. (Oct 2024)
Detection of graft flow failure in the left internal mammary artery using transesophageal echocardiography during coronary artery bypass grafting.
J Cardiothorac Vasc Anesth. 8(10): 2377-2382
3. Suda Y., Takemitsu M., Ushioda R., Makino H. (Nov 2024)
Transesophageal Echocardiographic Imaging of Right Coronary Blood Flow With and Without Left Ventricular Decompression.
J Cardiothorac Vasc Anesth. 38(11): 2847-2849
4. Suda Y., Takemitsu M., Makino H. (Jan 2025)
Transesophageal Echocardiographic Assessment of Incomplete Aortic Cross-Clamp.
J Cardiothorac Vasc Anesth. 39(1): 332-333
5. Suda Y., Takemitsu M., Ueda H., Makino H. (Feb 2025)
Aortic Regurgitation of Antegrade Cardioplegia: Solution-Dependence of Transesophageal Echocardiography Appearance.
J Cardiothorac Vasc Anesth. 39(2): 549-550
6. 岩田 千広, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年9月)
低心機能患者の大腿切斷術に対する神経ブロック施行後に高度低血圧をきたし鑑別に苦慮した1症例
臨床麻酔 48(9): 1028-1094
7. 江島 豊, 長瀬 清, 釈永 清志, 高階 雅紀, 黒澤 温, 全国国立大学病院手術部会議 WG2 (2024年10月)
全国国立大学病院手術部における働き方改革取り組み状況調査報告
日本手術医学会誌 45(3): 32-342
8. 岩田 千広, 菅原 亜美, 井上 真澄, 佐藤 泉, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2025年1月)
20年以上持続した歩行時痛に超音波ガイド下 fascia ハイドロリリースが著効した1例
日本ペインクリニック学会誌 32(1): 19-23
9. 山本 香緒里, 山本 譲, 飯田 慎也, 菅谷 香緒里, 山下 恭範, 小野 尚志, 黒澤 温, 小野寺 美子, 谷 祐児, 中馬 真幸, 田崎 嘉一 (2025年3月)
二次元コードを活用した手術部門システム等との連動を中心とする麻薬管理システムの再構築と評価
日本病院薬剤師会雑誌 61(3): 239-244

研究発表

1. Suzuki A., Uesaka T., Makino H. (Sep 2024)
Clinical experience using continuous M-TAPA block as analgesia in three cases of abdominal aortic aneurysm open repair surgery: A case series.
41st ESRA Annual Congress - Prague 2024
2. 鷹架 健一 (2024年4月)
Hypotension PredicsionIndexTM を活かした低血圧予防と行動変容の促進
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会
3. 渡辺 麻由, 小野寺 美子, 山中 瑛里加, 黒田 早姫, 佐古 澄子, 牧野 洋 (2024年4月)
持続腕神経叢ブロックで用いたカテーテルが原因で術後MRI検査が延期になった一症例
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会
4. 黒田 早姫, 上坂 司, 渡辺 麻由, 竹光 美秀, 鷹架 健一, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年4月)
難治性心室頻拍を伴う高度心機能低下患者の麻酔導入に上喉頭神経ブロックが有用であった一例
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会
5. 鈴木 紗香, 鷹架 健一, 田畠 宏樹, 上坂 司, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年4月)
直接大動脈アプローチ経カテーテル大動脈弁留置術後の鎮痛に持続胸横筋膜面ブロックが有効であった一例
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会
6. 田畠 宏樹, 上坂 司, 鷹架 健一, 小野寺 美子, 鈴木 紗香, 牧野 洋 (2024年4月)
多数の重篤な併存疾患を有し、抗血栓症薬内服中患者の大腿切断術を末梢神経ブロックで管理した一例
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会
7. 竹光 美秀, 上坂 司, 黒田 早姫, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年4月)
血氣胸患者の鎖骨骨折に、浅頸神経叢ブロックと鎖骨胸筋筋膜面ブロックを施行し全身麻酔を回避した1例
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会
8. 小野寺 美子 (2024年5月)
周術期のタイムアウトに関する安全を考える
令和5年度 第2回 日本手術医学会 教育セミナー
9. 黒澤 晴 (2024年6月)
周術期の呼吸に関するピットフォール、診るべきポイントの教育講演 -呼吸のおはなし
第13回 北海道手術医学研究会
10. 上田 峻輔, 野呂 多実枝, 塙 豪汰, 佐藤 泉, 長谷部 拓夢, 加藤 育民 (2024年6月)
方剤に関する多角的な分析と検証
第74回 日本東洋医学会 学術集会
11. 牧野 洋 (2024年6月)
麻酔科学の歴史から見た麻酔科の魅力
日本麻酔科学会 第71回 学術集会
12. 牧野 洋 (2024年6月)
挿管困難症例への対処法 - 温故知新 -
日本麻酔科学会 第71回 学術集会
13. 岩崎 肇 (2024年6月)
最新のガイドラインから読み解く筋弛緩モニタリングと筋弛緩回復
日本麻酔科学会 第71回 学術集会
14. 岩崎 肇 (2024年6月)
スガマデクスは次の段階へ
日本麻酔科学会 第71回 学術集会
15. 松井 拓郎 (2024年6月)
C症候群(Opitz三角頭蓋症候群)患者に対して麻酔管理を行った一例
日本麻酔科学会 第71回 学術集会

16. 牧野 洋 (2024 年 6 月)
世界初の指尖測定型パルスオキシメータ OXIMET-1471
日本麻酔科学会 第 71 回 学術集会
17. 神田 浩嗣, 佐藤 泉, 小野寺 美子, 神田 恵, 川股 知之 (2024 年 6 月)
HIV 関連神経障害性疼痛に関するアンケート調査 - 第 2 報リスク因子検索
日本麻酔科学会 第 71 回 学術集会
18. 山縣 智尋, 南部 淳大, 高田 優, 鈴木 紗香, 岩崎 肇 (2024 年 6 月)
小児の電位感知型・加速度感知型母指内転筋モニタリングにおける最大上刺激値の比較
日本麻酔科学会 第 71 回 学術集会
19. 牧野 洋 (2024 年 6 月)
歯科医師の麻酔科学への貢献
第 38 回 北海道臨床歯科麻酔学会
20. 岩崎 肇 (2024 年 8 月)
小児の筋弛緩モニタリングは必要ないと考えていませんか?
日本小児麻酔学会 第 29 回 大会
21. 鷹架 健一 (2024 年 9 月)
Hypotension Prediction Index™ (HPI™) を活かした術中低血圧予防と行動変容の促進
日本麻酔科学会 北海道・東北支部 第 14 回 学術集会
22. 竹光 美秀, 佐藤 泉, 牧野 洋 (2024 年 9 月)
多発性硬化症合併妊婦に対して硬膜外麻酔で帝王切開術を行った 1 症例
日本麻酔科学会 北海道・東北支部 第 14 回 学術集会
23. 畔津 克弘, 永渕 りりこ, 上坂 司, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024 年 9 月)
背部軟部肉腫の多発骨転移によるがん疼痛のため術前に高用量オピオイドを使用し疼痛管理に難渋していた患者の経皮的椎弓根スクリュー固定術の術後鎮痛に脊柱起立筋面ブロックが有用であった一例
日本麻酔科学会 北海道・東北支部 第 14 回 学術集会
24. 土手 健太郎, 矢野 雅起, 牧野 洋 (2024 年 9 月)
華岡流門人 高階枳園(たかしな きえん)について
第 125 回 日本医史学会 総会・学術大会
25. 薬師寺 竜太, 黄 仁謙, 荒木 走, 渡辺 麻由, 古川 早姫, 高田 優 (2024 年 9 月)
MICS MVP 手術における人工心肺離脱時の VV ECMO への移行の際に TEE が有用であった一症例
日本心臓血管麻酔学会 第 29 回 学術大会
26. 須田 康裕, 上坂 司, 岩崎 肇, 黒澤 温, 牧野 洋 (2024 年 9 月)
経食道心エコーで冠動脈バイパス術後の心タンポナーデの原因がグラフト吻合部の出血である事を特定した一例
日本心臓血管麻酔学会 第 29 回 学術大会
27. 鈴木 紗香, 高橋 裕香子, 鷹架 健一, 牧野 洋 (2024 年 9 月)
閉塞性動脈硬化症手術における Acumen™ Hypotension Prediction Index (HPI™) 使用の有効性の検討
日本心臓血管麻酔学会 第 29 回 学術大会
28. 高田 優, 須田 康裕, 岩崎 肇, 黒澤 温, 牧野 洋 (2024 年 9 月)
心停止下冠動脈バイパス術の人工心肺離脱後に生じた急性機能性僧帽弁閉鎖不全症に対して IABP が著効した一例
日本心臓血管麻酔学会 第 29 回 学術大会
29. 岡島 愛美, 鈴木 紗香, 須田 康裕, 菅原 亜美, 岩崎 肇, 黒澤 温, 上坂 司, 牧野 洋 (2024 年 9 月)
麻酔導入後執刀前に施行した経食道心エコーで可動性腫瘍の消失を確認したため手術を回避できた一例
日本心臓血管麻酔学会 第 29 回 学術大会
30. 佐藤 泉, 菅原 亜美, 渡辺 麻由, 井上 真澄, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024 年 9 月)
膠原病背景の重症虚血肢の術前に血管攣縮予防で腰部交感神経節ブロックを施行した一例
日本ペインクリニック学会 第 5 回 北海道支部 学術集会

31. 渡辺 麻由, 菅原 亜美, 井上 真澄, 佐藤 泉, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年9月)
強皮症患者のレイノー現象に対するキセノン光の効果と手温変化を観察した一症例
日本ペインクリニック学会 第5回 北海道支部 学術集会
32. 小野寺 美子 (2024年9月)
ACP 知っていますか? 今日から知ろう APC
第15回 地域がん診療連携拠点病院 旭川医科大学病院主催 市民公開講座
33. 小野寺 美子 (2024年9月)
自分で決める生き方～それぞれの立場で考える人生会議～
第15回 地域がん診療連携拠点病院 旭川医科大学病院主催 市民公開講座
34. 牧野 洋 (2024年10月)
医学の歴史 - 感染症との闘い -
令和6年度 派遣講座
35. 須田 康裕 (2024年10月)
心筋保護の実際と最適な心筋保護を考察する - 麻酔科医の立場から～麻酔科医が担うべき心筋保護のモニタリング～
第49回 日本体外循環技術医学会 大会
36. 山本 香緒里, 山本 謙, 飯田 慎也, 菅谷 香緒里, 山下 恭範, 小野 尚志, 黒澤 温, 小野寺 美子, 谷 祐児, 中馬 真幸, 田崎 嘉一 (2024年11月)
二次元コードの活用により手術部門システムとの連動を可能とした麻薬管理システムの構築と評価
第34回 日本医療薬学会 年会
37. 岩崎 寛 (2024年11月)
公益信託 小坂臨床麻酔学振興基金 - その意義ある運用を考える
日本臨床麻酔学会 第44回 大会
38. 高田 優, 薬師寺 竜太, 松野 賢一, 黄 仁謙 (2024年11月)
高度側彎患者の脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔 (CSEA) 施行時、事前の CT 画像検討が有用であった一症例
日本臨床麻酔学会 第44回 大会
39. 竹光 美秀, 菅原 亜美, 須田 康裕, 牧野 洋 (2024年11月)
子宮鏡下子宮筋腫摘出術中に空気塞栓を生じた一症例
日本臨床麻酔学会 第44回 大会
40. 浅野 雄貴, 高林 伶奈, 佐々木 英輝, 小川 章子, 朝井 裕一, 牧野 洋 (2024年11月)
デクスマデトミジンを用いて意識下挿管し安全に管理できた高度肥満、睡眠時無呼吸症候群合併患者の麻酔経験
日本臨床麻酔学会 第44回 大会
41. 飯田 慎也, 岩田 達也, 中村 智美, 阿部 由希子, 小野寺 美子, 黒澤 温, 林 達哉, 田崎 嘉一, 松本 成史 (2024年11月)
ナトリウム・グルコース共輸送体2阻害薬による周術期正常血糖ケトアシドーシスのモニタリング
体制構築と運用効果の検証
第19回 医療の質・安全学会 学術集会
42. 長瀬 清, 江島 豊, 釈永 清志, 高階 雅紀, 黒澤 温 (2024年12月)
国立大学病院における特定行為に係る看護師(術中麻酔管理領域)の活動状況(続報)
第46回 日本手術医学会 総会
43. 田中 誠子, 林 達哉, 黒澤 温, 小野寺 美子, 橋場 哲也 (2024年12月)
手術室看護師における単回使用医療機器(SUD)収集の現状と課題
第46回 日本手術医学会 総会
44. 小野寺 美子 (2025年1月)
疼痛との関わり、慢性疼痛からがん性疼痛、基礎研究も含めて
第3回 慢性疼痛診療講演会
45. 岩崎 寛 (2025年2月)
麻酔科学の発展のため臨床研究に携わる意義と機会を提示しよう
日本麻酔科医会連合 年次集会 2025 (第15回 学術・政策勉強会)

46. 須田 康裕, 千葉 拓, 竹吉 大輔, 小林 大太, 小北 直宏, 紙谷 寛之, 牧野 洋 (2025年3月)
三尖弁位の感染性心内膜炎の塞栓予防として施行した外科的治療が敗血症の病態改善に有効であった一例
第52回日本集中治療医学会 学術集会
47. 道崎 実, 日尾 早香, 廣木 忠直, 菅原 亜美 (2025年3月)
レミマゾラムでの全身麻酔5時間後にICUにて再鎮静をきたした一例
第52回日本集中治療医学会 学術集会
48. 須田 康裕 (2025年3月)
臨床で実際に行う画像装置の設定・感染安全管理
第41回経食道心エコー講習会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
菅原 亜美	延長	基盤研究(C)	心臓手術を受ける患者におけるレミマゾラムの薬物動態モデルの算出
牧野 洋	新規	基盤研究(C)	歯髄幹細胞脳室内投与による脳動脈瘤破裂予防法の開発

脳神経外科学講座

Department of Neurosurgery

所属教員等

脳神経外科学講座

教	授	木下	学
講	師	三井	宣幸
助	教	清水	豪士
助	教	佐藤	広崇
助	教	上森	元氣

脳神経外科

講	師	広島	覚
講師(学内)		齊藤	仁十
助	教	福山	秀青
助	教	高橋	未来
特命助教		高野	千恵

研究業績紹介

旭川医科大学脳神経外科学講座では脳神経外科学全般における臨床研究を推進しています。脳腫瘍研究では日本臨床腫瘍グループ (Japan Clinical Oncology Group: JCOG) 脳腫瘍グループで症例登録数が全国 2 位であることをはじめとして、悪性脳腫瘍の遺伝子情報と画像情報を包括的に解析する研究を行っております。放射線画像解析には特に力を入れており、MRI 画像に対する Radiomics 解析や深層学習解析を積極的に取り入れ、非侵襲的に脳腫瘍の真の姿を可視化する新しい技術の開発を進めています。また脳血管障害研究では画像解析や病理解析による虚血性脳疾患の病態理解を進める研究を実施しています。また、覚醒下手術や皮質脳波解析を中心に据えて、本講座の伝統的な研究分野である脳機能解析を実施しています。

医療安全を主題とした臨床研究も実施しており、抗血栓薬の意図的中止が引き起こす脳卒中の発症リスクを明らかにしました。

また、AMED 革新的がん医療実用化研究事業の支援を受けて、旭川医科大学脳神経外科学講座が研究事務局を担当する JCOG2303 試験が 2024 年 7 月にスタートしました。これからも旭川医科大学脳神経外科学講座では臨床試験から基礎研究まで幅が広く厚みのある研究を推進してまいります。

総説・解説

1. Kinoshita M., Okita Y., Kishima H. (Jan 2025)
When machines start examining tissue specimens on their own.
Neuro Oncol 2025 Jan 26: noaf021. doi: 10.1093/neuonc/noaf021. Online ahead of print.
2. Sato H., Kinoshita M., Takano T., Sanada T., Fujikawa S., Toda M., Choji K., Kimura T. (Mar 2025)
Black Hole Sign under Anticoagulant Therapy: A Retrospective Comparison of Warfarin and Direct Oral Anticoagulants.
American journal of neuroradiology 46(3) 489-494

論文

1. Sanada T., Kapeller C., Jordan M., Miyuchi M., Fukuyama S., Kimura T., Hiroshima S., Kinoshita M., Nakano N., Guger C., Tsuyuguchi N. (Jan 2025)
Attenuation of High gamma activity by repetitive motor tasks.
Human Brain Mapping in press

2. Kuroda H., Okita Y., Arisawa A., Utsugi R., Murakami K., Hirayama R., Kijima N., Arita H., Kinoshita M., Fujimoto Y., Nakamura H., Kagawa N., Tomiyama N., Kishima H. (Jan 2025) Cerebral blood flow and histological analysis for the accurate differentiation of infiltrating tumor and vasogenic edema in glioblastoma. **PLoS One** 10;20(1): e0316168.
3. Kanamori M., Tsuzuki S., Shibahara I., Saito K., Shimoda Y., Tanaka K., Yamaguchi S., Natsumeda M., Matsutani T., Hanihara M., Nakada M., Kuroda J., Matsuda M., Yoshimoto K., Yonezawa U., Sonoda Y., Takano K., Yonezawa H., Otani Y., Nakahara Y., Uchida M., Nonaka M., Mineharu Y., Kitamura Y., Yamashita S., Yamauchi T., Miyake Y., Deguchi S., Beppu T., Tamura K., Koizumi S., Hirose Y., Asano K., Hiruta R., Kinoshita M., Miyake K., Nakayama N., Inoue A., Ono T., Sasaki T., Akiyama Y., Fukami S., Yoshino A., Kawanishi Y., Asanome T., Yamaguchi T., Takahashi M., Yamasaki F., Arakawa Y., Narita Y. (Nov 2024) Impact of tumor-treating fields on the survival of Japanese patients with newly diagnosed glioblastoma: A multicenter, retrospective cohort study. **Neurooncol Adv.** 28;6(1): vdae176.
4. Kinoshita M., Fushimi Y., Masumoto T., Sasaki K., Sekita T., Natsume A., Wakabashi T., Komori T., Tsuzuki S., Muragaki Y., Motomura K., Saito R., Sato K., Beppu T., Takahashi M., Kuroda J., Sonoda Y., Kobayashi K., Mishima K., Mitsuya K., Yamasaki F., Inoue A., Matsutani T., Nakamura H., Yamaguchi S., Ishikawa E., Nakaya M., Tanaka S., Ujifuku K., Uchida H., Kanamori M., Otani R., Kijima N., Nishida N., Yoshino A., Mineharu Y., Arakawa Y., Fukuda H., Narita Y., Brain Tumor Study Group (JCOG-BTSG). (Nov 2024) Image-based reevaluation of the JCOG0911 study, focusing on tumor volume and survival, disease progression diagnosis, and radiomic prognostication for newly diagnosed glioblastoma. **Magn Reson Med Sci.** in press
5. Sekino Y., Sonoda Y., Shibahara I., Mizusawa J., Sasaki K., Sekita T., Ichikawa M., Igaki H., Kinoshita M., Kumabe T., Shibahara J., Ichimura K., Arakawa Y., Fukuda H., Narita Y. (Jan 2025) Protocol digest of a phase III randomized trial of gross total resection versus possible resection of fluid-attenuated inversion recovery-hyperintense lesion on MRI for newly diagnosed supratentorial glioblastoma: JCOG2209 (FLAMINGO). **Jpn J Clin Oncol.** 8;55(1): 75-79.
6. Sato H., Kinoshita M., Fujikawa S., Sanada T., Toda M., Choji K., Kimura T. (Mar 2025) Black hole sign with taking anticoagulant drug: A retrospective comparison between the warfarin and direct oral anticoagulants (DOAC). **AJNR Am J Neuroradiol.** 4;46(3): 489-494.
7. Mitsui N., Wada H., Saito M., Sato H., Kinoshita M. (Nov 2024) Clinical characteristics of contrast leakage and contrast-induced encephalopathy following endovascular treatment for unruptured intracranial aneurysm. **Oncology Letters** 18(11): 287-292.
8. Hayashi N., Fukai J., Nakatogawa H., Kawaji H., Yoshioka E., Kodama Y., Nakajo K., Uda T., Naito K., Kijima N., Okita Y., Kagawa N., Takahashi Y., Hashimoto N., Arita H., Takano K., Sakamoto D., Iida T., Arakawa Y., Kawauchi T., Sonoda Y., Mitobe Y., Ishibashi K., Matsuda M., Achiha T., Tomita T., Nonaka M., Hara K., Takebe N., Tsuzuki T., Nakajima Y., Ohue S., Nakajima N., Watanabe A., Inoue A., Umegaki M., Kanematsu D., Katsuma A., Sumida M., Shofuda T., Mano M., Kinoshita M., Mori K., Nakano N., Kanemura Y. (Jul 2024) Neuroradiological, genetic and clinical characteristics of histone H3 K27-mutant diffuse midline gliomas in the Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors (Kansai Network) cohort. **Acta Neuropathologica Communications.** 27;12(1): 120.
9. Yamada S., Umehara T., Sonehara K., Kijima N., Kawabata S., Takano K., Kidani T., Hirayama R., Arita H., Okita Y., Kinoshita M., Kagawa N., Fujinaka T., Fujita T., Wakyama A., Matsuda K., Okada Y., Kishima H. (Sep 2024) Genome-wide association study on meningioma risk in Japan: a multicenter prospective study. **J Neuro-oncol** 169(2): 281-286.

10. Iwata T., Oshino S., Saitoh Y., Kinoshita M., Onoda Y., Kijima N., Kishima H. (Jun 2024) Surgical strategy and prognosis of Rathke's cleft cyst based on the characteristics of the cyst consistency.
Pituitary 27(3): 287-293.
11. Sawada J., Katayama T., Kikuchi-Takeguchi S., Kano K., Saito M., Mitsui N., Hiroshima S., Kinoshita M., Nakagawa N. (Jun 2024) Clinical features and prognostic factors of patients with cancer-associated stroke.
Neurol Sci. 45(6): 2747-2757.

症例報告

1. Yoshida T., Yamamoto S., Yuzawa S., Takano T., Sanada T., Saito M., Tanino M., Kinoshita M. (Feb 2025) Meningitis due to inflammatory reaction to Echinococcus antigen after the resection of cerebral alveolar hydatid cyst.
J Surg Case Rep 2025(2): rjaf072
2. Tajima Y., Yuzawa S., Kanemura Y., Tanino M., Kinoshita M. (Jan 2025) Diagnosis of Isocitrate Dehydrogenase-Mutant Astrocytoma in the Subcallosal Gyrus Using T2Fluid-Attenuated Inversion Recovery Mismatch Sign and Quantitative Magnetic Resonance Relaxometry.
Cureus 17(1): e76963.
3. Nakamura Y., Sanada T., Tucker A., Fujikawa S., Fujiwara T., Kinoshita M., Kimura T. (Mar 2025) Conservative management of an expanding intracranial epidural abscess: illustrative case.
J Neurosurg Case Lessons 3;9(9).

研究発表

1. 木下 学, 伏見 育崇, 増本 智彦, 佐々木 啓太, 夏目 敦至, 若林 俊彦, 荒川 芳輝, 福田 治彦, 成田 善孝, 日本臨床腫瘍研究グループ, 脳腫瘍グループ (2024年10月) 初発膠芽腫に対するランダム化第II相試験 (JCOG0911) の附随研究: MRIによる治療効果判定と予後予測
日本脳神経外科学会 第83回 学術総会
2. 木下 学 (2024年6月) 神経膠腫に対する集学的治療と認知機能障害
第8回日本脳神経外科認知症学会
3. 木下 学 (2024年6月) 認知症とてんかん - 今わかっている事 -
第8回日本脳神経外科認知症学会
4. 木下 学, 貴島 晴彦 (2024年6月) 脳神経外科疾患に対する集束超音波治療の未来
第43回日本脳神経超音波学会 総会 / 第27回 日本栓子検出と治療学会
5. 木下 学 (2024年5月) 脳・神経画像に対する定量的解析の潮流
第44回日本脳神経外科コングレス総会
6. 木下 学, 伏見 育崇, 増本 智彦, 佐々木 啓太, 夏目 敦至, 若林 俊彦, 荒川 芳輝, 福田 治彦, 成田 善孝, 日本臨床腫瘍研究グループ, 脳腫瘍グループ (2024年9月) 初発膠芽腫に対するランダム化第II相試験 (JCOG0911) の附隨研究: MRIによる治療効果判定と予後予測
第52回日本磁気共鳴医学会 大会
7. 清水 豪士, 佐藤 広崇, 真田 隆広, 齊藤 仁十, 三井 宣幸, 広島 覚, 木下 学 (2024年12月) Lesion map と Tractography による初発膠芽腫の再発時の進展様式の定量的検討
第42回日本脳腫瘍学会
8. 清水 豪士, 真田 隆広, 佐藤 広崇, 齊藤 仁十, 三井 宣幸, 広島 覚, 木下 学 (2024年10月) Lesion map と Tractography による初発膠芽腫の再発時の進展様式の定量的検討
第92回日本脳神経外科 北海道支部会

9. 清水 豪士, 真田 隆広, 佐藤 広崇, 齊藤 仁十, 三井 宣幸, 広島 覚, 木下 学 (2024年10月)
Lesion map と Tractography による初発膠芽腫の再発時の進展様式の定量的検討
第29回日本脳腫瘍の外科学会
10. 清水 豪士, 佐藤 広崇, 真田 隆広, 齊藤 仁十, 三井 宣幸, 広島 覚, 木下 学 (2024年10月)
Lesion map と Tractography による初発膠芽腫の再発時の進展様式の定量的検討
第83回日本脳神経外科学会 総会
11. 清水 豪士, 尾崎 博一, 広島 覚, 木下 学, 上小倉 佑機, 谷野 美智枝 (2024年5月)
外転神経麻痺で発症した斜台部腫瘍の1例
第42回日本脳腫瘍病理学会
12. 上森 元気 (2024年10月)
腰部脊柱管狭窄症に対する対側進入除圧術における外視鏡の有用性
第31回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会
13. 上森 元気, 福山 秀青, 清水 豪士, 木下 学 (2024年10月)
発達の遅れにより気づかれた頭蓋内進展を伴った頸髄髄内脂肪腫の一治療経験
第83回日本脳神経外科学会 総会
14. 上森 元気, 福山 秀青, 清水 豪士, 木下 学 (2024年10月)
発達の遅れにより気づかれた頭蓋内進展を伴った頸髄髄内脂肪腫の一治療経験
第92回日本脳神経外科学会 北海道支部会
15. 上森 元気 (2024年11月)
腰部脊柱管狭窄症に対する対側進入除圧術における外視鏡の有用性
第59回日本脊髄障害医学会
16. 上森 元気 (2024年11月)
発達の遅れにより気づかれた頭蓋内進展を伴った頸髄髄内脂肪腫の一治療経験
第59回日本脊髄障害医学会
17. 上森 元気, 田島 祐, 齊藤 仁十, 三井 宣幸, 木下 学 (2025年3月)
横突孔開放により良好な転帰を得た回旋性椎骨脳底動脈循環不全の一例
第93回日本脳神経外科学会 北海道支部会
18. 佐藤 広崇, 水嶋 慎, 進藤 崇史, 齊藤 仁十, 三井 宣幸, 櫻井 寿郎, 和田 始, 木下 学, 瀧澤 克己
(2024年10月)
機械的血栓回収療法適応例での良好な転機に影響する因子は何か?
第83回日本脳神経外科学会 総会
19. 佐藤 広崇 (2024年7月)
機械的血栓回収療法における退院時 modified Rankin Scale (mRS) 0-2 に影響する患者背景の検討
第56回北海道脳卒中研究会
20. 佐藤 広崇, 水嶋 慎, 進藤 崇史, 齊藤 仁十, 三井 宣幸, 櫻井 寿郎, 和田 始, 木下 学, 瀧澤 克己
(2025年3月)
機械的血栓回収療法対象患者の脳梗塞発症 90 日後の modified Rankin Scale (mRS) の予測モデルの確立と検証
STROKE 2025
21. 三井 宣幸, 和田 始, 佐藤 広崇, 齊藤 仁十, 和田 始, 木下 学 (2024年10月)
未破裂頭蓋内動脈瘤に対する血管内治療後の造影剤漏出および造影剤誘発性脳症の臨床的特徴
第83回日本脳神経外科学会 総会
22. 三井 宣幸, 澤田 潤, 木下 学 (2025年3月)
がん既往歴・抗血栓薬内服歴と虚血性脳疾患発症の関係に関する探索的研究
STROKE 2025
23. 三井 宣幸, 佐藤 広崇, 齊藤 仁十, 和田 始, 木下 学 (2024年11月)
CAS と CEA 後の SPECT 検査所見と交絡因子の検討
第40回日本脳神経血管内治療学会
24. 三井 宣幸, 澤田 潤, 木下 学 (2024年12月)
がん既往歴・抗血栓薬内服歴と虚血性脳疾患発症の関係に関する探索的研究
第2回 Stroke Oncology

25. 広島 覚, 福山 秀青, 佐藤 広崇, 清水 豪士, 木下 学 (2024 年 10 月)
脳神経減圧術の開頭時に単純 CT から横・S 状静脈洞を同定する手技についての検討
第 83 回 日本脳神経外科学会 総会
26. 福山 秀青, 高橋 未来, 野口 智弘, 高草木 薫 (2024 年 10 月)
脚橋被蓋核による橋延髓網様体および外側前庭脊髓路を介した姿勢制御機構の解明
第 54 回 日本臨床神経生理学会
27. 高橋 未来, 中島 敏, 福山 秀青, 野口 智弘, 千葉 龍介, 木下 学, 高草木 薫 (2025 年 2 月)
外傷性脳損傷後における平衡機能障害のモデル動物の作成
第 48 回 日本脳神経外傷学会
28. 高橋 未来, 阪本 太吾, 中村 公彦, 札幌市消防局中央特別高度救助隊, 木下 学, 大山 太 (2025 年 3 月)
救助隊員の厳冬期都市型搜索救助活動における脱水の可能性について
第 30 回 日本災害医学会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
木下 学	継続	基盤研究(C)	定量的 MRI による神経膠腫の分子診断と可視化技術の開発
福山 秀青	継続	基盤研究(C)	脚橋被蓋核-橋延髓網様体および前庭神経核投射系による姿勢制御機構の解明
高橋 未来	延長	若手研究	姿勢制御の最適化を実現する高次脳機能メカニズムの解明
清水 豪士	新規	若手研究	迷走神経刺激による脳幹網様体の機能的变化の究明
佐藤 広崇	新規	若手研究	医療過疎地域での地理情報システムによる遠隔医療分析と新規 ICT 基盤医療体制の構築

歯科口腔外科学講座

Department of Oral and
Maxillo-Facial Surgery

所属教員等

歯科口腔外科学講座

教 授 竹川 政範
准 教 授 吉田 将亞

歯科口腔外科

講 師 小神 順也
助 教 佐藤 栄晃
助 教 矢島 優己

研究業績紹介

歯科口腔外科学講座 竹川政範

歯科口腔外科領域では、歯、歯周組織、口腔、顎骨の疾患を取り扱います。そのため、歯周組織疾患や顎骨腫瘍などの各種疾患治療により失われた歯や顎骨を再生し、審美的な形態の回復と咀嚼・発音などの機能的な回復を目指すことが私たちの使命です。

歯科口腔外科学講座開設以来、当講座では顎骨再生についての基礎的な研究を継続しています。特に骨移植研究では、人工骨や各種処理骨、骨成長因子、放射線照射骨などに関する研究業績を積み重ねてきました。さらに、侵襲の少ない顎骨や歯の再生を目指し、体性幹細胞を用いた研究にも取り組んでいます。この研究では骨髄幹細胞だけでなく、脂肪組織由来の間葉系幹細胞を用いた基礎研究も行っており、その成果の一部は大学院生の学位取得にもつながっています。近年では、骨再生と血管新生にも焦点を当てており、歯科口腔外科の佐藤助教を中心に生化学講座との共同研究を進めています。

臨床研究では、口唇口蓋裂や顎変形症などの顎顔面の変形や奇形、薬剤性顎骨壊死、口腔腫瘍による顎骨の欠損に対して、機能的・形態的な評価と新たな治療法の開発を行っています。本臨床研究は、竹川教授と吉田准教授が中心となって進めています。

また、口腔機能管理においても、小神講師を中心に口腔状態評価の標準化と口腔ケア介入の均てん化を目指して研究と臨床を行っています。特に口腔状態評価では、AI技術を活用したスマートホンによる口腔状態の評価に関する臨床研究を推進しており、実践的な応用を目指して研究を継続しています。

以上のように、歯科口腔外科学講座では、口腔疾患の管理・診療を通じて患者の生活の質を向上させ、安心・安全な治療法の開発に取り組んでいます。

総説・解説

1. 竹川 政範 (2025年3月)
OAG を使用した周術期口腔ケアの実践
歯界展望 144(4) 814-829

論文

1. Murai A., Kubo T., Ohkuri T., Yanagawa J., Mizue Y., Yajima Y., Kosaka A., Dongliang Li, Nagato T., Murata K., Kanaseki T., Tsukahara T., Nagasaki T., Hirohashi Y., Kobayashi H., Torigoe T. (Jun 2024) NF9 peptide specific cytotoxic T lymphocyte clone cross react to Y453F mutation of SARS-CoV-2 virus spike protein. *Immunological Medicine* 47(2) 93-99

症例報告

1. Sato H., Takekawa M., Yuzawa S., Motohashi M., Matsuda S., Adachi M. (Mar 2025)
Tongue squamous cell carcinoma masked by herpes simplex virus infection: A case report.
Oncology Letters 29(5) 1-5

研究発表

1. 飯田 理人, 庭瀬 俊, 矢島 優己, 佐藤 栄晃, 小神 順也, 吉田 将亜, 竹川 政範 (2025年3月)
皮下気腫を発症したRett症候群患者の1例
第43回日本有病者歯科医学会総会・学術大会
2. 矢島 優己, 佐藤 栄晃, 水野 かほ, 飯田 理人, 庭瀬 俊, 小神 順也, 吉田 将亜, 谷野 美智枝, 竹川 政範 (2024年7月)
舌背部に発生した類上皮血管腫の1例
第50回日本口腔外科学会北日本支部学術集会
3. 矢島 優己, 吉田 将亜, 飯田 理人, 庭瀬 俊, 佐藤 栄晃, 小神 順也, 竹川 政範 (2024年7月)
当科における唇頸口蓋裂患者の臨床的検討
第78回日本口腔外科学会学術集会
4. 庭瀬 俊, 吉田 将亜, 七田 悠大, 竹治 凌佑, 飯田 理人, 水野 かほ, 矢島 優己, 佐藤 栄晃, 小神 順也, 竹川 政範 (2024年7月)
咀嚼筋腱・腱膜過形成症の1例
第50回日本口腔外科学会北日本支部学術集会
5. 矢内 室津子, 小神 順也, 名和 佑美, 藤倉 弓子, 岡 久美子, 佐藤 栄晃, 竹川 政範 (2024年4月)
旭川医科大学病院における全身麻酔前の歯の損傷リスク評価の試み
第21回日本口腔ケア学会総会・学術大会
6. 名和 佑美, 岡 久美子, 藤倉 弓子, 大西 歩, 矢内 室津子, 佐藤 栄晃, 小神 順也, 竹川 政範 (2024年4月)
旭川医科大学病院歯科口腔外科における口腔ケアの質向上へ向けた取り組みOAGの導入と口腔ケアへの意識調査
第21回日本口腔ケア学会総会・学術大会
7. 七田 悠大, 岡田 益彦, 村井 知佳, 庭瀬 俊, 飯田 理人, 竹川 政範 (2024年7月)
帶状疱疹に続発した下顎骨壊死の1例
第50回日本口腔外科学会北日本支部学術集会
8. 角 伸博, 藤盛 真樹, 金山 純一, 五十嵐 一真, 竹川 政範 (2024年7月)
頸骨炎症性疾患に対する骨SPECT定量解析による評価
第50回日本口腔外科学会北日本支部学術集会
9. 北川 健, 井村 英人, 伊東 雅哲, 夏目 長奈, 新美 照幸, 古川 博雄, 佐久間 千里, 夏目 長門, 吉田 将亜, 竹川 政範 (2024年7月)
先天異常にに関する発展途上国への技術移転に関する研究(第10報)COVID19後のベトナムでの口唇口蓋裂医療協力
第50回日本口腔外科学会北日本支部学術集会
10. 真名瀬 愛子, 嶋崎 康相, 飯田 理人, 大西 智和, 鳥谷部 純行, 竹川 政範 (2024年7月)
多種の指定難病を有する口腔多発癌の周術期計画に苦慮した1例
第50回日本口腔外科学会北日本支部学術集会
11. 松本 侑樹, 藤盛 真樹, 角 伸博, 吉田 将亜, 竹川 政範 (2024年7月)
被疑薬休薬により薬剤性歯肉増殖症が消退した2例
第50回日本口腔外科学会北日本支部学術集会
12. 飯田 理人, 矢島 優己, 水野 かほ, 庭瀬 俊, 佐藤 栄晃, 小神 順也, 吉田 将亜, 竹川 政範 (2024年11月)
当科における過去11年間の薬剤関連頸骨壊死の臨床的検討
第69回日本口腔外科学会総会・学術大会
13. 庭瀬 俊, 吉田 将亜, 飯田 理人, 水野 かほ, 矢島 優己, 佐藤 栄晃, 小神 順也, 竹川 政範 (2024年11月)
旭川医科大学医学部歯科口腔外科学講座における10年間の顎矯正手術の臨床的検討
第69回日本口腔外科学会総会・学術大会

14. 矢島 優己, 庭瀬 俊, 飯田 理人, 矢島 優己, 佐藤 栄晃, 小神 順也, 吉田 将亜, 竹川 政範 (2024年11月)
FXYD3 が口腔扁平上皮癌の新たなバイオマーカーとなり得るかの検証
第69回日本口腔外科学会 総会・学術大会
15. Yoshida M., Yajima Y., Iida R., Niwase S., Sato H., Ogami J., Takekawa M. (Jul 2024)
Clinical Investigation of Cleft Lip and/or Palate Patients in the Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Asahikawa Medical University.
CLEFT TOKYO 2024 The 16th world congress of the International Cleft Lip and Palate Foundation.
16. 吉田 将亜 (2024年11月)
口唇口蓋裂治療を始めるために - 治療の概要と課題 -
第69回日本口腔外科学会 総会・学術大会
17. 水野 かほ, 矢島 優己, 庭瀬 俊, 吉田 将亜, 竹川 政範 (2024年11月)
小児の上顎臼歯部に発症したエナメル上皮線維歯牙腫の1例
第36回日本小児口腔外科学会 総会・学術大会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
矢島 優己	継続	若手研究	口腔扁平上皮癌の治療効果予測バイオマーカーと新規治療の開発研究

救急医学講座

Department of Emergency Medicine

所属教員等

救急医学講座

教 授	岡田 基
准 教 授	丹保 亜希仁
講 師	中嶋 駿介
講師(学内)	川口 哲

救急科

助 教	岩本 英孝
助 教	武田 智宏
助 教	水上 燐一朗
助 教	藤代 大介
助 教	佐藤 寛起

研究業績紹介

基礎研究では川口学内講師・岡田を中心に、「敗血症性心筋症の病態解明とその治療法についての研究」を行っている。内容は救急医学会・集中治療医学会などで発表し、救命医療学会にて特別講演を行った。また、敗血症性心筋症における代謝やミトコンドリア機能についての総説 (Int. J. Mol. Sci. 2024, 25(9), 4710) を上梓した。岡田は心不全のランジオロールについて国際共同研究を行い、論文化 (J Clin. Med. 2024, 13(10), 2951) した。丹保准教授は、日本版敗血症ガイドラインおよび集中治療室での栄養療法ガイドラインの作成委員となった他、栄養療法や集中治療におけるリハビリテーションについて、多施設前向きコホート研究に参加し研究成果をあげている。(Clin Nutr. 2024 Nov;43(11):1-9), (IPAMICS-study 2024;6(4):97-105)。

講座での臨床研究としては、救急医療機関における自傷・自殺未遂レジストリ (C2136), 熱中症患者の医学情報などに関する疫学調査: Heatstroke study (18035), ドクターカーの運用事例に関する調査研究 (C2308), 患者情報システムを用いた集中治療部の機能評価: JPAD 事業 (19003), 院外心停止に対する包括的治療体制の構築に関する研究 (18100), 小児 BLS における従来教育とショート動画での教育効果の比較検討 (23143) を行っている。また、第 48 回北海道救急医学会学術集会の当番幹事として運営にあたった。その他、全国学会及び地方会にて多くの研究発表・症例発表を行っている。一部は case report として論文化した (Cureus 2024 Aug 11;16(8):e66625), (Acute Med & Surg 2024 11(1) e908)。

外部資金の獲得では、川口学内講師は、KAKEN 基盤研究 C で「敗血症性心筋症の新規治療戦略となる β 3 アドレナリン受容体を介した NO 産生経路の解明」(24K12149) を獲得し、岡田(21K09009)とともに β 3 受容体ノックアウトマウスを用いた研究を行っている。

総説・解説

1. 岡田 基 (2025 年 3 月)
敗血症での心筋代謝とミトコンドリア機能 (総説)
日本救命医療学会雑誌 2025 年 39 卷 p.1-8
2. 丹保 亜希仁 (2024 年 6 月)
麻酔科医と救急医療 (解説)
麻酔科学レビュー 2024 卷 Page289-297

研究発表

1. 丹保 亜希仁 (2024 年 9 月)
当科における胸腔ドレナージ関連インシデント・アクシデントの検討
第 22 回 日本臨床医学リスクマネジメント学会
2. 佐藤 研斗, 丹保 亜希仁, 松村 美和, 山下 雅廣, 千葉 凌, 滝口 僅也, 難波 亮, 佐藤 寛起, 岩原 素子, 川口 哲, 中嶋 駿介, 小北 直宏, 岡田 基 (2024 年 9 月)
肝囊胞に対するミノサイクリン注入療法後に発症した急性腎障害を伴う DRESS の 1 例
第 39 回 日本救命医学会 総会
3. 岡田 基 (2024 年 9 月)
敗血症での心筋代謝とミトコンドリア機能
第 39 回 日本救命医学会 総会
4. 川口 哲, 佐藤 寛起, 難波 亮, 國岡 信吾, 吉田 有里, 中嶋 駿介, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2024 年 10 月)
当院の後ろ向き研究から見えてくるコーニス症候群の特徴と管理方法
第 52 回 日本救急医学会 学術集会
5. 小泉 明子, 中嶋 駿介, 難波 亮, 佐藤 寛起, 黒嶋 健起, 川口 哲, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2024 年 10 月)
非糖尿病患者における重症低血糖症例の検討
第 52 回 日本救急医学会 学術集会
6. 佐藤 寛起, 川口 哲, 伊藤 敦巳, 砂田 大貴, 岡田 基 (2024 年 10 月)
非 ST 上昇型急性心筋梗塞診断への高感度トロポニン 0/1 時間アルゴリズムの有用性
第 52 回 日本救急医学会 学術集会
7. 中嶋 駿介, 難波 亮, 佐藤 寛起, 黒嶋 健起, 川口 哲, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2024 年 10 月)
コロナ禍を経た夜間・休日時間外外来受診動向の変遷
第 52 回 日本救急医学会 学術集会
8. 丹保 亜希仁 (2024 年 10 月)
重症患者における微量栄養素(ビタミン・微量元素)の補充をどう考えるか?
第 52 回 日本救急医学会 学術集会
9. 佐藤 研斗, 安藤 玲, 松村 美和, 山下 雅廣, 千葉 凌, 滝口 僅也, 難波 亮, 佐藤 寛起, 岩原 素子, 丹保 亜希仁, 岡田 基 (2024 年 10 月)
超難治性てんかん重積に対してケタミンを使用した 1 例
第 48 回 北海道救急医学会 学術集会
10. 松村 美和, 丹保 亜希仁, 岩原 素子, 津田 淳希, 佐藤 雅之, 石羽澤 映美, 長森 恒久, 岡田 基 (2024 年 10 月)
肺炎球菌性髄膜炎に TMA を合併した 1 例
第 48 回 北海道救急医学会 学術集会
11. 小泉 明子, 中嶋 駿介, 佐藤 研斗, 山下 雅廣, 松村 美和, 千葉 凌, 滝口 僅也, 難波 亮, 佐藤 寛起, 岩原 素子, 川口 哲, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2024 年 10 月)
ナファモスタットが主な誘因と思われる透析関連アレルギーを来たした 1 例
第 48 回 北海道救急医学会 学術集会
12. 丹保 亜希仁 (2024 年 10 月)
北海道での ICLS コース運営に関する情報提供
第 48 回 北海道救急医学会 学術集会
13. 佐藤 寛起, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2024 年 10 月)
長距離搬送を要する重症肝損傷症例に対する REBOA の使用経験
第 48 回 北海道救急医学会 学術集会
14. 難波 亮, 丹保 亜希仁 (2024 年 11 月)
旭川医科大学病院におけるドクターへリ搬送症例の検討
第 31 回 日本航空医療学会 総会・学術集会
15. 丹保 亜希仁 (2024 年 12 月)
心肺蘇生時に気管挿管を実施すべきか? ~1 人 Pros & Cons~
日本蘇生学会 第 43 回 大会

16. 岡田 基, 滝口 僅也, 北村 草太, 小泉 明子, 丹保 亜希仁 (2025 年 3 月)
旭川市の避難所の問題と冬季防災訓練への取り組み
第 30 回 日本災害医学会 学術集会
17. 川口 哲, 小泉 明子, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 中川 直樹, 岡田 基 (2025 年 3 月)
急性冠症候群に難治性心室細動を合併した患者の短期予後についての後方視的研究
第 52 回 日本集中治療医学会 学術集会
18. 小泉 明子, 川口 哲, 三田村 昂亮, 滝口 僅也, 岩原 素子, 中嶋 駿介, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2025 年 3 月)
ビタミン B1 欠乏を背景とした乳酸アシドーシスにより心停止に至った 1 例
第 52 回 日本集中治療医学会 学術集会
19. 丹保 亜希仁 (日本版 敗血症診療ガイドライン 2024 特別委員会 急性血液浄化班) (2025 年 3 月)
CQ4: 急性血液浄化
第 52 回 日本集中治療医学会 学術集会
20. 丹保 亜希仁 (2025 年 3 月)
ポイントオブケア肺超音波～ICU 編～
第 52 回 日本集中治療医学会 学術集会
21. 丹保 亜希仁 (2025 年 3 月)
私が考える論文作成のポイント
第 52 回 日本集中治療医学会 学術集会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
中嶋 駿介	延長	若手研究	新規 SNP に基づく SGLT2 阻害薬による NASH 個別化医療の開発
川口 哲	新規	基盤研究(C)	敗血症性心筋症の新規治療戦略となる β 3 アドレナリン受容体を介した NO 産生経路の解明
岡田 基	新規	基盤研究(C)	新規の炎症制御分子 Ninj1 の敗血症における役割の解明と治療への試み

地域医療教育学講座

Department of Regional Medicine
and Education

所属教員等

地域医療教育学講座

教 授 野津 司

研究業績紹介

当講座では、内科学講座の奥村教授と共同で、ストレスと消化管機能、機能性消化管障害の病態生理についての研究を行っている。具体的には過敏性腸症候群（IBS）のラットモデルを使用して、IBS の新規治療薬の探索、内臓感覚、腸管バリア機能の制御機構の探究、また腹部手術後イレウスモデルを使用して、術後麻痺性イレウスの病態と新規治療法の探索等をテーマに実験を進めている。IBS は腸管バリアの傷害の結果、LPS が遊離し、TRL4 を介して炎症性サイトカインが放出される。サイトカインは内臓の感覚神経を刺激し内臓知覚過敏を起し、さらに腸管上皮の tight junction protein に作用して、腸管バリアのさらなる傷害を惹起する。その結果、慢性の全身性微小炎症が生じて、腸管機能に異常を来すことが病態として重要である。我々はこれらの変化は、corticotropin releasing factor (CRF) と TLR4 が相互に活性化し合い悪循環を形成し、サイトカインシグナルの持続的な活性化という機序によって起きることを報告している。一方、メタボリックシンドロームでも、慢性の全身性炎症と TLR4- 炎症性サイトカインシグナルの活性化が起きており、腸管バリアも傷害されていることがわかっている。以上より IBS とメタボリックシンドロームは共通の病態を持っていると考えられ、この視点から両者に対する新たな治療アプローチの可能性について研究を進めている。当該年度は、CRF, TLR4 が相互に活性化することにより、NLRP3 インフラゾームシグナルを活性化することで、内臓知覚過敏、腸管バリア傷害を来すことをこれまでの IBS モデルで証明し、NLRP3 インフラゾームの抑制薬である tranilast が、これらの変化を阻止することを明らかとし、これは International Immunopharmacology に掲載された。さらに neurotensin receptor 1 agonist が、サイトカインシグナルを抑制し、IBS モデルのこれら変化を阻止することを報告し、Neurogastroenterology and Motility に掲載された。

論文

1. Funayama T., Nozu T., Ishioh M., Igarashi S., Tanaka H., Sumi C., Saito T., Toki Y., Hatayama M., Yamamoto M., Shindo M., Takahashi S., Okumura T. (Oct 2024)
Splenectomy prevents brain orexin, ghrelin, or oxytocin but not GLP-1-induced improvement of intestinal barrier function in rats.
Neurogastroenterol. Motil. E14949
2. Ishioh M., Nozu T., Miyagishi S., Igarashi S., Funayama T., Ueno N., Okumura T. (Apr 2024)
Brain histamine improves colonic hyperpermeability through the basal forebrain cholinergic neurons, adenosine A2B receptors and vagus nerve in rats.
Biochem. Pharmacol. 224.116201
3. Nozu T., Arie H., Miyagishi S., Ishioh M., Takakusaki K., Okumura T. (Apr 2024)
Tranilast alleviates visceral hypersensitivity and colonic hyperpermeability by suppressing NLRP3 inflammasome activation in irritable bowel syndrome rat models.
Int. Immunopharmacol. 133.112099
4. Nozu T., Miyagishi S., Ishioh M., Takakusaki K., Okumura T. (Sep 2024)
The neurotensin receptor 1 agonist PD149163 alleviates visceral hypersensitivity and colonic hyperpermeability in rat irritable bowel syndrome model.
Neurogastroenterol. Motil. e14925
5. Funayama T., Nozu T., Ishioh M., Sumi C., Saito T., Hatayama M., Yamamoto M., Shindo M., Takahashi S., Okumura T. (Mar 2025)
Brain AMPK signaling improves intestinal barrier function through brain orexin and the vagal pathway in rats.
Neurosci. Lett. 138208

6. Nozu T., Miyagishi S., Ishioh M., Takakusaki K., Okumura T. (Mar 2025)
Irisin prevents visceral hypersensitivity and colonic hyperpermeability in a rat model of irritable bowel syndrome.
Peptides 171394

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
野津 司	継続	基盤研究(C)	腹部手術後イレウスと術後せん妄に対する新規治療法の探究

形成・再建外科学講座

Plastic and Reconstructive Surgery

所属教員等

形成・再建外科学講座

教 授 林 利彦
講師(学内) 山尾 健

総説・解説

1. 林利彦 (2024年6月)
【それぞれの創傷治癒】瘢痕拘縮における創傷治癒
形成外科 67: S12
2. 林利彦 (2025年1月)
私の心に残る1症例 (No.51)
形成外科 68(1) 67-69

論文

1. Maeda T., Hayashi T., Ishikawa K., Miura T., Funayama E., Yamamoto Y. (Jan 2025)
Physiological and Functional Restoration of the Modiolus Using a Double Tendon Sling in Patients With Full-Thickness Oral Defects.
Annals of plastic surgery 94(1) 70-74
2. Maeda T., Ishikawa K., Hayashi T., Furukawa H., Miura T., Hojo M., Funayama E., Yamamoto Y. (Dec 2024)
Comparison of leg volume ratio between inguinal lymphadenectomy and inguino-pelvic lymphadenectomy in patients with skin cancer of the lower extremity.
Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery 99: 397-405
3. Nishio T., Maeda T., Ishikawa K., Murao N., Fuyama K., Yamamoto Y., Hayashi T. (May 2024)
Lymphatic drainage patterns of malignant skin tumors in the head and neck region: a single-center retrospective study.
International journal of clinical oncology 29(5) 582-591

症例報告

1. 宮田 明久生, 林 成司, 西尾 卓哉, 市原 寛大, 宮田 夏実, 山尾 健, 林 利彦 (2024年7月)
眼窩内に生じた孤立性纖維性腫瘍の治療経験
日本形成外科学会会誌 44(7) 312-321

著書

1. 林利彦 (2025年2月)
皮膚皮下腫瘍: 悪性腫瘍
標準形成外科学 第8版 168-172

研究発表

1. 林利彦 (2025年3月)
頭頸部皮膚リンパ流の特徴と顔面領域における再建の工夫
第41回東海頭頸部腫瘍研究会
2. 林利彦 (2025年3月)
CLTI患者の難治性潰瘍に対する遊離組織移植: 血管外科とのチーム医療
第41回東海頭頸部腫瘍研究会
3. 林利彦 (2024年10月)
再建マイクロ分野指導医セミナー: 下顎再建を行うための基礎知識
第33回日本形成外科学会基礎学術集会

4. 林 利彦 (2024 年 7 月)
ランチョンセミナー: CLTI 患者に対する創傷管理 - 外科医が考えるレオカーナの使用目的と使いどころ -
第 16 回 日本創傷外科学会 総会・学術集会
5. 林 利彦 (2024 年 4 月)
皮膚腫瘍外科分野指導医(教育セミナー): 皮膚リンパ流の特徴と臨床応用
第 67 回 日本形成外科学会 総会・学術集会
6. 林 利彦 (2024 年 4 月)
シンポジウム 2 ニッポンの形成外科へ: 足病の未来を託す～足病患者の救肢の限界に挑む～
第 67 回 日本形成外科学会 総会・学術集会
7. 林 利彦 (2024 年 4 月)
教育講演 23 (皮膚・軟部): 皮膚悪性腫瘍の治療の考え方: 診断、切除および再建について
第 67 回 日本形成外科学会 総会・学術集会
8. 山尾 健 (2024 年 5 月)
仙骨部毛巣洞から発生し骨切除を要した有棘細胞癌の切除・再建
第 40 回 日本皮膚悪性腫瘍学会 学術大会
9. 山尾 健 (2024 年 11 月)
シンポジウム 2: 血行再建後の足潰瘍治療の標準化: この足どう治す? ①第 5 趾 MTP 骨頭が露出している症例
第 5 回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
10. 山尾 健 (2024 年 11 月)
シンポジウム 5: 難治性潰瘍の症例検討: バイパス術後の CLTI に対し遊離広背筋皮弁を施行したが
バイパス閉塞と皮弁壊死をきたし治療に難渋した一例
第 5 回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
11. 山尾 健 (2024 年 11 月)
ランチョンセミナー3: 足病変治療に対するチーム医療の取り組みと NPWT・ciNPT の効果的活用
CLTI に対する NPWT と ciNPT の活用法
第 5 回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会
12. 山尾 健 (2025 年 3 月)
特別コメンテーター
道北創傷ケア リモートカンファレンス

看護学講座

Department of Nursing Course

所属教員等

看護学講座

教	授	升田	由美子
教	授	藤井	智子
教	授	伊藤	俊弘
教	授	小田嶋	裕輝
教	授	菅原	峰子
教	授	長谷川	博亮
教	授	濱田	珠美
教	授	平	義樹
教	授	山内	まゆみ
教	授	山根	由起子
准	教	荒	ひとみ
准	教	一條	明美
准	教	塙川	幸子
准	教	野中	雅人
准	教	原口	眞紀子
准	教	森	浩美
准	教	眞鍋	貴行
講	師	石川	千恵
講	師	神成	陽子
講	師	苦米地	真弓
講師(学内)		綱元	亜依
講師(学内)		巻島	愛
講師(学内)		牧野	志津
講師(学内)		水口	和香子
講師(学内)		山口	希美
講師(学内)		山田	咲恵
講師(学内)		松田	奈緒美
助 教		出村	唯
助 教		吉原	茉寿

看護職キャリア支援センター

特任助教 白瀧 美由紀

研究業績紹介

2024（令和6）年度現在、看護学講座は専門基礎医学、基礎看護学、成人看護学、精神看護学、母性看護学・助産学、小児看護学、高齢者看護学、在宅看護学、がん看護学、公衆衛生看護学、健康教育開発学の12領域、計29名が所属する大講座です。それぞれの専門領域の研究はもちろん、講座内の複数領域や他講座との共同研究、さらに看護職キャリア支援センターの各部門と連携した研究活動も積極的に推進しています。大学院修士課程での研究を基盤とした学会発表や論文発表にも注力し、看護の専門性を高めるとともに研究成果を社会に還元しています。

また、上述した看護職キャリア支援センターを中心とした研究も複数発表されました。2019年度末に開設した同センターは大学看護学科と大学病院看護部が協働して活動しています。今後も道北・道東地区の看護職・看護学生のキャリア開発に貢献する研究成果を公表していく予定です。

最後に、看護学講座では研究支援チームが NAMU (Journal Club for Nurses of AMU) という研究論文抄読会を月 1 回のペースで開催しており、2025 年 3 月で第 52 回を迎えるました。全領域が輪番で担当し、看護学科教員と大学院生、臨床ナースを対象にしています。各領域に関連した研究論文を紹介してクリティイークするだけでなく、自分が取り組んでいる研究を紹介して参加者からアドバイスをもらうなど幅広い内容となっています。他領域の研究の方向性や内容を知ることによって、研究計画のブラッシュアップや新たな共同研究が生まれることを期待しています。

総説・解説

1. 松原 三智子, 山田 小織, 伊木 智子, 入野 了士, 草野 恵美子, 氏原 将奈, 塩川 幸子, 高橋 郁子, 田場 真由美, 萩原 智代, 岩本 里織, 大木 幸子, 滝澤 寛子, 長谷川 美香 (2024 年 5 月)
活動領域に拠らない共通の公衆衛生看護技術の明確化
保健師教育 8(1) 18-30
2. 白瀧美由紀, 升田由美子, 神成陽子, 原口眞紀子, 山根由起子 (2024 年 12 月)
基礎教育と臨床現場の連携・協働・相互支援の新しい形 (前編)
看護人材育成 21(5) 106-111
3. 菱沼 典子, 升田 由美子, 北 素子, 大西 真由美, 山内 栄子 (2025 年 3 月)
日本看護学教育評価機構 (JABNE) の事業と活動
看護教育 66(2) 196-202

論文

1. 塩川 幸子, 藤井 智子, 神戸 愛, 水口 和香子, 山下 千絵子 (2024 年 4 月)
事例検討における質問の特徴からみた高齢者のアセスメントの視点 - 新任期保健師研修を通して -
日本公衆衛生看護学会誌 13(1) 1-9
2. 石川 千恵, 岩代 純, 斎田 健 (2024 年 6 月)
精神科認定看護師の役割開発を目指した北海道の精神科看護師学習ニードの実態調査
日本精神科看護学術集会誌 67(1) 12-18
3. 野中 雅人, 熊井 琢美, 服部 ユカリ (2024 年 7 月)
化学放射線療法を受ける高齢頭頸部がん患者に対する口腔内評価ツールの評価と看護実践
日本がん看護学会誌 38.95-101
4. 小田嶋 裕輝, 和田 ゆかり (2024 年 7 月)
認知症グループホームで生活を送る入居者に対するスタッフのケア内容
日本認知症ケア学会誌 23(2) 432-438
5. 伊藤彰浩, 新里美由紀, 山内靖子, 浅井香澄, 加藤直美, 小田嶋裕輝 (2024 年 11 月)
A 大学病院の混合病棟に勤務する中堅看護師の職業継続に影響を及ぼす要因
日本看護学会誌 19(2) 59-64
6. 藤井智子, 水口和香子, 塩川幸子, 伊藤俊弘, 神田浩路, 吉田貴彦 (2025 年 3 月)
アフリカ諸国出身の研修員から学ぶ公衆衛生 -JICA 研修が看護初学者にもたらす成果
北海道公衆衛生学雑誌 38: 61-66

著書

1. 一條 明美 (分担執筆) (2024 年 5 月)
第 10 章 プレゼンテーションスキル、第 12 章 看護技術の学び方
泉澤 真紀, 升田 由美子 編; **看護学を学ぶためのスタートガイド 看護キャリアの第一歩**
74-80, 90-100
2. 神成 陽子 (分担執筆) (2024 年 5 月)
第 7 章 情報リテラシー、第 12 章 看護技術の学び方
泉澤 真紀, 升田 由美子 編; **看護学を学ぶためのスタートガイド 看護キャリアの第一歩**
52-58, 90-100

3. 綱元 亜依 (分担執筆) (2024 年 5 月)
第 4 章 文章の読み方・まとめ方、第 6 章 文献の書き方
泉澤 真紀, 升田 由美子 編; **看護学を学ぶためのスタートガイド 看護キャリアの第一歩**
23-30, 43-51
4. 升田 由美子 (分担執筆) (2024 年 5 月)
第 15 章 看護とキャリア
泉澤 真紀, 升田 由美子 編; **看護学を学ぶためのスタートガイド 看護キャリアの第一歩** 119-127

研究発表

1. 菅谷 香緒里, 神山 直也, 真鍋 貴行, 山本 香緒里, 山本 讓, 小野 尚志, 中馬 真幸, 小野寺 美子, 田崎 嘉一 (2024 年 5 月)
ヒドロモルファン塩酸塩注導入直後の用量変更の発生状況
第 17 回 日本緩和医療薬学会 年会
2. 石川 千恵, 岩代 純, 圭田 健 (2024 年 6 月)
精神科認定看護師の役割開発にむけた北海道における精神科看護師学習ニードの実態調査
第 49 回 日本精神科看護学術集会
3. 升田 由美子 (2024 年 8 月)
4 年一貫プログラム「地域包括ケア論」の学びによる学習成果とその評価
日本看護研究学会 第 50 回 学術集会
4. 神成 陽子, 石川 千恵, 井戸川 みどり, 苦米地 真弓, 白瀧 美由紀, 植山 さゆり, 升田 由美子 (2024 年 8 月)
旭川医科大学看護職キャリア支援センター教育プログラム開発部門による実習指導者研修プログラム受講者の成果の検証
日本看護研究学会 第 50 回 学術集会
5. 山根 由起子 (2024 年 8 月)
地域在住高齢者の口腔・嚥下機能・栄養状態への対策
日本摂食嚥下リハビリテーション学会
6. 真鍋 貴行 (2024 年 9 月)
ICF 共通テンプレートを導入して感じた温度感
第 24 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議
7. 堀 康子, 真鍋 貴行, 小川 真澄, 北川 美雪, 青木 菜月, 畑山 幸恵, 近藤 夕子, 神山 直也, 田崎 嘉一, 松本 成史 (2024 年 9 月)
被験者組入れ促進を目指した地域フリーペーパーへの被験者募集広告の工夫
第 24 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議
8. 塩川 幸子, 藤井 智子, 神戸 愛, 山下 千絵子, 浅野 紗子, 水野 芳子, 松原 三智子 (2024 年 10 月)
新任期保健師の家庭訪問の振り返りにおける指導者の教育プロセス
第 83 回 日本公衆衛生学会
9. 山下 千絵子, 塩川 幸子, 藤井 智子, 神戸 愛, 浅野 紗子, 水野 芳子, 松原 三智子 (2024 年 10 月)
新任期保健師の家庭訪問における再アセスメントの実態
第 83 回 日本公衆衛生学会
10. 藤井 智子, 水口 和香子, 塩川 幸子, 神田 浩路, 伊藤 俊弘, 吉田 貴彦 (2024 年 10 月)
アフリカ諸国から公衆衛生を学ぶ - JICA 研修が看護初学者にもたらす効果 -
第 83 回 日本公衆衛生学会
11. 神田 浩路, 伊藤 俊弘, 藤井 智子, 塩川 幸子, 吉田 貴彦 (2024 年 10 月)
本邦における複数言語を用いたアフリカ地域保健人材育成研修の評価
第 83 回 日本公衆衛生学会
12. 平塚 志保, 山内 まゆみ, 塩川 幸子, 井戸川 みどり, 牧野 志津, 佐藤 こずえ, 澤田 裕子, 白瀧 美由紀 (2024 年 10 月)
大学病院と訪問看護事業所の看護連携 (第 1 報) 「連携セミナー」を通した連携上の課題
第 83 回 日本公衆衛生学会

13. 山内 まゆみ, 平塚 志保, 塩川 幸子, 井戸川 みどり, 牧野 志津, 佐藤 こずえ, 澤田 裕子, 白瀧 美由紀 (2024年10月)
大学病院と訪問看護事業所の看護連携 (第2報) - 地域を紡ぐ看護連携セミナーの評価 -
第83回日本公衆衛生学会
14. 吉原 茉寿, 山内 まゆみ (2024年10月)
北海道の市町村において地域の看護職が妊婦に行う母乳育児支援の実態と母乳率の関連要因についての検討
北海道母性衛生学会誌 (2次抄録: 53巻 Page3-6)
15. 吉原 茉寿, 山内 まゆみ (2024年10月)
北海道の地域の看護職が妊娠期に行う母乳育児支援の実態・"母乳代替品のマーケティングに関する国際基準"の知識
第38回日本助産学会 学術集会
16. 出村 唯, 山内 まゆみ (2024年10月)
死産を体験した母親が退院後に望む看護援助への思い
第38回日本助産学会 学術集会
17. 奥原 真仁, 長谷川 博亮, 工藤 京子 (2024年10月)
看護学生の「気づき」を育成するための教育方法「対話型鑑賞」の検討
日本看護技術学会 第22回学術集会 交流セッション
18. 出村 唯, 山内 まゆみ (2024年12月)
死産した母親が死産直後から退院後も望む看護援助の実際
第44回日本看護科学学会 学術集会
19. 矢橋 忍, 長谷川 博亮 (2024年12月)
高齢者の精神的健康と死に対する態度が時間的展望に及ぼす影響
第44回日本看護科学学会 学術集会
20. 西宮 ひとみ, 小林 裕美, 長谷川 博亮 (2024年12月)
就労継続支援B型に通所する統合失調症を有する人の希望を見出す過程
第44回日本看護科学学会 学術集会
21. 北山 明子, 塩川 幸子, 青野 美智代, 吉田 祐子, 菊池 みさき, 角谷 里佳, 藤井 智子 (2024年12月)
新型コロナウイルス感染症対策において保健所の統括保健師が果たした役割 (第1報) - 業務マネジメントの実際 -
第13回日本公衆衛生看護学会
22. 塩川 幸子, 北山 明子, 青野 美智代, 吉田 祐子, 菊池 みさき, 角谷 里佳, 藤井 智子 (2025年1月)
新型コロナウイルス感染症対策において保健所の統括保健師が果たした役割 (第2報) - モチベーションを保つこころのマネジメント -
第13回日本公衆衛生看護学会
23. 藤井 智子, 塩川 幸子, 水口 和香子, 工藤 裕子 (2025年1月)
保健師基礎教育における「予算管理」演習の学習成果 - 保健師学生及び新任期保健師の立場からの考察 -
第13回日本公衆衛生看護学会
24. 山下 千絵子, 塩川 幸子, 藤井 智子, 神戸 愛, 浅野 綾子, 水野 芳子, 松原 三智子 (2025年1月)
プリセプターによる新任期保健師の家庭訪問に対する教育の実践内容
第13回日本公衆衛生看護学会
25. Shiokawa S., Fujii T., Matsubara M., Yamashita C., Koube A. (Feb 2025)
The Impact of Reflection on the Independence Process of Home Visiting by Newly Qualified Public Health Nurses.
15th International Nursing Conference & 28 East Asian Forum of Nursing Scholars
26. 上杉 紘一, 中馬 真幸, 寺川 央一, 都築 仁美, 寒藤 雅俊, 井上 正朝, 山本 讓, 岩山 訓典, 神山 直也, 真鍋 貴行, 田崎 嘉一 (2025年2月)
敗血症患者におけるパンコマイシンの初期投与設計と早期AUCとの関係
旭川薬剤師会・旭川病院薬剤師会合同フォーラム

27. 野中 雅人, 川村 三希子, 貝谷 敏子 (2025年2月)
化学放射線療法を受けた頭頸部癌患者の亜急性期における栄養関連症状に関する文献検討
第39回日本がん看護学会 学術集会
28. 松浦 泰寛, 眞鍋 貴行, 大久保 知子, 田崎 嘉一 (2025年3月)
mTOR complex2 活性阻害はメロキシカムのMPP+誘発性神経細胞死保護作用を抑制させる
第145回日本薬学会
29. 水上 紗良, 岩山 訓典, 眞鍋 貴行, 長屋 奏絵, 秋山 雄, 大櫛 凜, 大杉 愛奈, 相馬 まゆ子, 佐藤 恵亮, 町田 麻依子, 今田 愛也 (2025年3月)
RAW264.7 細胞を用いた炎症モデルにおけるテトラサイクリン系抗菌薬の影響
第145回日本薬学会
30. 今井 なつみ, 岩山 訓典, 眞鍋 貴行, 石野 匠人, 貴志 結香, 相馬 まゆ子, 町田 麻依子, 今田 愛也 (2025年3月)
医薬品副作用データベースを用いた間質性肺疾患に対する心血管系薬剤併用の予防薬効果の探索と
in vitro における薬効評価
第145回日本薬学会
31. 貴志 結香, 岩山 訓典, 眞鍋 貴行, 石野 匠人, 今井 なつみ, 相馬 まゆ子, 町田 麻依子, 今田 愛也 (2025年3月)
医薬品副作用データベースを用いた間質性肺疾患に対する免疫・アレルギー系薬剤及び鎮痛薬併用の予防薬効果の探索と invitro における薬効評価
第145回日本薬学会
32. 石野 匠人, 岩山 訓典, 眞鍋 貴行, 今井 なつみ, 貴志 結香, 相馬 まゆ子, 町田 麻依子, 今田 愛也 (2025年3月)
医薬品副作用データベースを用いた間質性肺疾患に対する消化器系薬剤併用の予防薬効果の探索と
in vitro における薬効評価
第145回日本薬学会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
森 浩美	継続	基盤研究(C)	在宅移行後1年間の医療的ケア児と親を支援する遠隔看護システムの構築
塩川 幸子	継続	基盤研究(C)	アクションリサーチによる保健師の家庭訪問の再アクセスメント可視化と教育モデル開発
水口 和香子	継続	基盤研究(C)	おっくうと感じる高齢者へのナッジを用いた社会活動維持方策の構築に関する介入研究
山根 由起子	継続	基盤研究(C)	オーラルフレイルに関するプログラム検証－地域在住高齢者のコホート研究－

一般教育

Department of General Education

所属教員等

心理 学

教 授 池上 将永

社会 学

教 授 工藤 直志

数 学

准 教 授 加藤 勲

数理情報科学

教 授 高橋 龍尚

物 理 学

教 授 本間 龍也

准 教 授 稲垣 克彦

講師(学内) 藤井 敏之

化 学

教 授 真山 博幸

准 教 授 室崎 喬之

生 物 学

教 授 日下部 博一

准 教 授 日野 敏昭

助 教 岡本 麻子

生命科学

講師(学内) 津村 直美

英 語

教 授 三好 暢博

准 教 授 桑名 保智

研究業績紹介

一般教育は9つの研究領域（学科目）で構成されています。各研究領域の研究活動・成果の概要を記載します。

心理学：多次元衝動性検査を作成し、ADHD児の行動評価および診断補助に応用する研究を行っている。成果は Society for the Quantitative Analyses of Behavior 46th Annual Meeting 等で発表した。

社会学：社会学分野の学術雑誌で、現代の日本社会における異種移植への態度を明らかにした論文を発表した。また、社会調査で得た自由回答（テキストデータ）の分析結果を科学社会学会第13回年次大会で発表した。

数 学：Half wave Schrödinger方程式の劣臨界指数における部分的な非適切性結果を得た。今後はエネルギー空間における適切性問題を考察し、鍵となる評価式を導出する。

数理情報科学：We investigate the microcirculatory networks using fractal theory and the regulatory mechanisms of blood flow and blood pressure in the circulation. Also, we deal with the design principle of mammalian respiratory and circulatory systems by deriving the scaling law of morphological and physiological parameters from the allometric formulas.

化 学：生体表面の濡れ性や知覚に関する研究および生物付着に関する研究を行っている。皮膚の変形と触覚に関する研究や付着基質の表面官能基と生物付着との関係についての研究成果を、コロイドおよび界面化学討論会や国際フォトポリマーコンファレンスなどで発表した。

生物学：令和6年度は、前年度に確立したマウス生殖細胞核型解析法を用い、マウス配偶子・初期胚の染色体分配エラーのメカニズムを探る研究を立ち上げた。さらに、マウスにおける精子または卵子の卵管内輸送機構の解明およびミニ卵凍結乾燥法の改良に関する研究を継続し、シンポジストとしての講演、学会発表、論文投稿（原著、in press）を行った。加えて、哺乳動物の子宮内免疫寛容機構の解明を視野に入れた分子生物学的手法の導入に着手した。

物理学：銅酸化物高温超伝導の分野で蓄積された実験データを解析し、高温超伝導の発現機構解明を目指している。低次元導体分野での未解決問題を研究するとともに、動的カシミール効果の理論的研究にも取り組んでいる。

生命科学：アルツハイマー病は原因不明の孤発性のものが多い。酸化ストレス過程の関与を仮定し、神経変性の機序解明のために分子細胞生物学的なアプローチを試みている。また、抗認知症食となる成分も調べている。

英 語：本講座では、言語間の差異を超えた言語の特性を理論的に研究する基礎研究を行っている。2024年度に発表した論文は、動詞・目的語・斜格の語順および項と付加部に関する論文、グリーンバーグの普遍性に関する論文、英語の核強勢に関する論文である。2024年度に行った研究発表は、名詞と形容詞の語順に関する研究、括弧付けパラドックスの意味に関する研究、英語の動詞と前置詞の語法、統語的能格性に関する研究である。また、ラベル理論に関するシンポジウムの講師として句構造に関する研究を発表した。

総説・解説

1. 室崎喬之 (2024年4月)
性状の異なる表面における付着生物の付着基質選択性
粉体工学会誌 61(4): 213-219
2. 室崎喬之 (2024年5月)
付着生物の付着基質選択性を利用した低環境負荷型の新規防汚材料開発について
Material stage 24(2): 60-64

論文

1. Tokizaki H., Kuwana Y. (May 2024)
The order of OVX and the argument-adjunct distinction.
Proceedings of the Linguistic Society of America 9(1)
2. Hashimoto Y., Hase A., Tani A., Nishimura R., Hattori Y., Mayama H., Yokojima S., Nakamura S., Uchida K. (Jun 2024)
Polymer replica of microcrystalline surface with dual wettability, mimicking a termite wing.
Polymer Journal 56: 847-853

3. 工藤直志 (2024年6月)
異種移植はどのように考えられているか: 社会調査データの計量分析から
年報科学・技術・社会 33: 31-53
4. Inagaki K., Nakatsugawa K., Tanda S. (Jul 2024)
Revisitation of the lock-in transition in one-dimensional charge-density waves.
Journal of the Physical Society of Japan 93: 083702
5. Tokizaki H., Kuwana Y. (Oct 2024)
*Heavy-Head-Light: Generalizing Greenberg's Universal #25.
Phonological Externalization 9: 125-151
6. Kuwana Y. (Mar 2025)
Nuclear Stress and Causative/Experiential Have
実践英語音声学 6: 19-31

著書

1. 加藤健司, 真山博幸他 (2024年7月)
第4章 第1節 フラクタル構造と濡れ性
濡れ性～基礎・評価・制御・応用～ 136-143
2. 賴末武史, 室崎喬之, 渡部裕美, 真山博幸 (2024年11月)
3.1 化学と物理からみた付着のしくみ
付着生物のはなし 56-66
3. 賴末武史, 室崎喬之, 渡部裕美, 真山博幸 (2024年11月)
Column 3 生態防汚とバイオミメティクス
付着生物のはなし 94-95

研究発表

1. 三好暢博 (2024年5月)
[XP, YP]問題について
日本英文学会 第96回大会シンポジウム
2. Ikegami M., Sorama M., Katayama A., Omiya H. (May 2024)
The Utility of Delay Discounting Tests in ADHD Cognitive Behavioral Assessment Battery: A Preliminary Study in a Non-clinical Group.
Society for the Quantitative Analysis of Behavior 46th Annual Meeting
3. 日野敏昭, 柳町隆造 (2024年5月)
マウス生体の卵管における卵子輸送の観察～卵管液流・纖毛拍動・蠕動運動との関係に着目して～
第65回日本卵子学会学術集会
4. Murosaki T., Hirai Y., Nogata Y. (Jul 2024)
Fouling control technologies based on the understanding of larval settlement selectivity in marine sessile organisms.
The 41th International Conference of Photopolymer Science and Technology
5. 加藤勲 (2024年8月)
Ill-posedness for the half wave Schrödinger equation.
第5回大同大学若手微分方程式セミナー in 釧路
6. 真山博幸 (招待講演) (2024年9月)
バイオミメティクス: ハスの葉の表面フラクタル構造と超撥水性
化学工学会 第55回秋季大会
7. 真山博幸, 成澤琉希, 菊地莉緒, 野々村美宗 (2024年9月)
正弦波状にこすったときの皮膚の静摩擦・動摩擦スイッチング
第75回コロイドおよび界面化学討論会
8. 工藤直志 (2024年9月)
異種移植をめぐるイメージと解釈: 自由回答データの分析から
科学社会学会 第13回年次大会

9. Asano S., Sugawara S., Muroasaki T., Nogata Y., Hirai Y. (Sep 2024)
Analysis of the barnacle exploratory behavior on precisely controlled different functional group surfaces by video analysis.
The annual conference of the Chitose Institute of Science and Technology
10. 浅野 祥大, 菅原 珠廉, 室崎 喬之, 野方 靖行, 平井 悠司 (2024 年 9 月)
フジツボ幼生の表面選択メカニズム解明を目指した各種表面官能基上での探索行動の動画解析
第 73 回 高分子討論会
11. 野方 靖行, 平井 悠司, 室崎 喬之, 小林 元康 (2024 年 9 月)
生物機能に着目した海洋付着生物対策技術の進歩
第 73 回 高分子討論会
12. 桑名 保智 (2024 年 10 月)
動詞 name に後続する前置詞
英語語法文法学会 第 32 回 大会
13. 日野 敏昭 (2024 年 10 月)
哺乳動物の卵管内における精子輸送機構
第 16 回 生殖補助医療胚培養士セミナーおよび倫理講習会
14. 日下部 博一 (2024 年 11 月)
マウス凍結乾燥ミニ卵作製と染色体ダメージについて
第 69 回 日本生殖医学会 学術講演会・総会
15. 時崎 久夫, 稲葉 治朗, 桑名 保智 (2024 年 11 月)
括弧付けパラドックスの構造と意味: プラン B で行こう
日本言語学会 第 169 回 大会
16. 歸山 亜紀, 工藤 直志 (2024 年 11 月)
日米比較意識調査の分析(5) - 日本と米国の若年世代における異種移植にたいする意識
第 97 回 日本社会学会 大会
17. Kuwana Y., Tokizaki H. (Dec 2024)
Order of Noun and Adjective in Word Order Typology.
15th International Conference of the Association for Linguistic Typology
18. 三好 暢博 (2025 年 3 月)
Antipassive, Anti-agreement, and Agent Focus.
北海道理論言語学研究会
19. 空間 美智子, 池上 将永, 片山 綾 (2025 年 3 月)
子どもの遅延割引と ADHD 診断補助への応用
第 28 回 人間行動分析研究会
20. 日野 敏昭 (2025 年 3 月)
マウス卵管内における精子と卵子の輸送機構の検証
第 5 回 有性生殖研究会・新学術「全能性」最終公開シンポジウム
21. 浅野 祥大, 菅原 珠廉, 室崎 喬之, 野方 靖行, 平井 悠司 (2025 年 3 月)
異なる表面官能基上のフジツボキプリス幼生の探索挙動解析による付着メカニズムの調査
2025 年度 日本付着生物学会 研究集会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
桑名 保智	継続	基盤研究(C)	英語の形容詞・派生名詞と後続句に関する記述的・理論的研究
池上 将永	継続	基盤研究(C)	多次元衝動性検査の開発と ADHD 診断補助への応用
日下部 博一	新規	基盤研究(C)	凍結乾燥ミニ卵を用いるミトコンドリア置換法の安全性向上に関する研究
岡本 麻子	継続	若手研究	Lipocalin2 の子宮内免疫寛容における役割の解明

リハビリテーション科

Physical Medicine and Rehabilitation

所属教員等

リハビリテーション科

教 授 大田 哲生
助 教 及川 欧
助 教 伊達 歩
助 教 遠藤 寿子

研究業績紹介

リハビリテーション科ではリハビリテーション医療による運動機能の改善を中心に研究を進めたいと考えています。特に脳卒中などの中枢神経障害による片麻痺の上肢機能の改善を brain machine interface の技術を応用した治療法で行うことを目指しています。中枢神経障害による運動機能障害では筋緊張亢進による随意性の低下を来すこともあり、効果的なボツリヌス療法の実施方法についても検討を重ねるつもりです。また脳卒中、末梢動脈疾患や運動器疾患患者等の歩行分析を足底圧測定や 3 次元動作解析および AI を活用した画像解析を行い、歩容改善のための運動療法や装具療法を見出すことに生かしていくたいと考えています。

さらに超高齢社会における健康寿命の延伸を図るために、医師やセラピストの少ない地域でも適切なリハビリテーション治療を受けられるように遠隔リハビリテーションシステムの構築も目指しています。運動機能の改善には循環器の機能改善も欠かせません。心不全や心筋梗塞患者に対する効果的なリハビリテーション治療も併せて検討していきたいと思います。

当科ではスポーツにおけるパフォーマンスの向上やスポーツによる健康づくりにも興味を持っており、例えば車椅子フェンシングにおける効果的な運動方法の研究を行ったり、旭川の地域性を生かしてテトラスキーと呼ばれる障害者用のスキーを普及させる活動に参加することも考えています。

また、種々の疾患に対応すべく、バイオフィードバック技術を応用したリハビリテーション治療の研究も行っています。

総説・解説

1. 大田 哲生, 田中 伸吾, 塚田 鉄, 伊東 修一, 青木 沙優, 呂 隆徳 (2024 年 11 月)
【痙攣治療最前線】(第 1 章)痙攣に関する基礎的な知識 痙攣の臨床的な評価
Journal of Clinical Rehabilitation 33(13): 1254-1259
2. 及川 欧, 高橋 佑弥 (2024 年 4 月)
BF 講座【医学系】南極の Autogenic Biofeedback 変法から"スー・ハー"リラックス法と RSMT 変法まで
バイオフィードバック研究 51(1): 19-28

論文

1. Saito N., Nishikawa T., Ota T. (Mar 2025)
Effect of blood pressure on recovery outcomes in inpatients with atherothrombotic infarction: A retrospective cross-sectional study.
Medicine 104(11): e41796
2. 青木 沙優, 村岡 法彦, 呂 隆徳, 高山 拓也, 大田 哲生 (2024 年 12 月)
多職種連携により右上肢痛と健康関連 QOL が改善できた Pancoast 症候群を呈する右上葉肺腺癌の一症例
北海道理学療法 41. 48-56

3. 八木橋 史佳, 高橋 祐弥, 呂 隆徳, 林 圭輔, 木下 学, 大田 哲生 (2024年4月)
覚醒下腫瘍摘出術に関する言語聴覚士・作業療法士の取り組み
国立大学リハビリテーション 45. 7-10
4. 美馬 愛子, 呂 隆徳, 伊東 修一, 才田 良幸, 石見 千沙都, 大田 哲生 (2024年4月)
リハビリテーション中の転倒・転落, チューブトラブルと環境要因, 患者要因, 医療者要因の関係性と対策
国立大学リハビリテーション 45. 11-17
5. 呂 隆徳, 高橋 佑弥, 及川 欧 (2024年4月)
COVID-19 専従理学療法士におけるメンタルヘルスケア 心拍変動測定器および質問票を用いて
バイオフィードバック研究 51(1): 11-18
6. Muraoka N., Ro T., Ota T. (2025年1月)
Relationship between physical function and quality of life based on treatment timing in patients with advanced lung cancer.
J.Phys. Ther. Sci. 37(1)

症例報告

1. 高橋 佑弥, 及川 欧 (2024年4月)
Rhythmical Skeletal Muscle Tension(RSMT)変法の検討 ベーチェット病により上肢機能障害を呈した事例
バイオフィードバック研究 51(1): 3-10

研究発表

1. 甲谷 混康, 呂 隆徳, 村岡 法彦, 大田 哲生 (2024年6月)
リハビリテーション治療継続により ADL や精神機能改善に功を奏した高齢膠芽腫の 1 例
第 66 回 日本老年医学会 学術集会
2. 元井 晴奈, 千葉 伸一, 塚田 鉄平, 伊藤 秀行, 及川 欧 (2024年11月)
アスレティックトレーナーを志す生徒へのスポーツファーマシストが行うアンチ・ドーピング授業の効果
第 35 回 日本臨床スポーツ医学会 学術集会
3. 松田 康裕, 千葉 伸一, 元井 晴奈, 伊藤 秀行, 及川 欧 (2024年11月)
アイスホッケー部員を対象とした救命講習を開催して: 参加しやすい PUSH 講習会の課題と今後の展望
第 35 回 日本臨床スポーツ医学会 学術集会
4. 及川 欧 (2024年6月)
老年期の骨折後リハビリテーション治療中に生じた口渴と発汗異常に対する漢方使用の 1 例
第 66 回 日本老年医学会 学術集会
5. 上野 倫彦, 萩原 重俊, 及川 欧 (2024年6月)
「心臓突然死から救え! "みんなで PUSH"」一般市民向け救命講習会 "PUSH コース" 北海道 PUSH プロジェクトの活動について
第 71 回 日本小児保健協会 学術集会
6. 塩泡 優大, 徳野 翔太, 木谷 祐也, 青沼 達也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 斎藤 江里香, 篠島 晓帆, 坂本 央, 田邊 康子, 竹内 利治, 伊佐 秀貴, 國岡 信吾, 紙谷 寛之 (2024年9月)
Impella を使用した心原性ショック合併急性心筋梗塞症例の予後予測における乳酸値および乳酸クリアランスの有用性
第 72 回 日本心臓病学会 学術集会
7. 塩泡 優大, 徳野 翔太, 木谷 祐也, 青沼 達也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 斎藤 江里香, 篠島 晓帆, 坂本 央, 田邊 康子, 竹内 利治, 伊佐 秀貴, 國岡 信吾, 紙谷 寛之 (2024年7月)
心原性ショック合併急性心筋梗塞における Impella の初期成績と短期予後予測因子の検討 (英語)
第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会
8. 呂 隆徳, 高橋 佑弥, 及川 欧 (2024年11月)
心拍変動を用いた自律神経系評価の取り組み
第 11 回 日本予防理学療法学会 学術大会

9. 村岡 法彦, 甲谷 涼康, 呂 隆徳, 木下 学, 大田 哲生 (2024年9月)
高齢膠芽腫患者の退院時歩行自立度と全生存期間との関連
第2回 脳腫瘍支持療法研究会 学術集会
10. 伊東 修一, 西谷 健太郎, 呂 隆徳, 市川 花, 三田村 信雄, 紙谷 寛之, 大田 哲 (2024年11月)
心臓血管外科手術患者における術前の Phase Angle は術後合併症発症率に影響する
第8回 日本循環器理学療法学会 学術大会
11. 伊東 修一, 伊達 歩, 呂 隆徳, 市川 花, 大田 哲生 (2025年1月)
心臓血管外科手術患者のフレイル有症率の検討
第17回 リハビリテーション機能評価研究会
12. 伊東 修一, 伊達 歩, 呂 隆徳, 市川 花, 大田 哲生 (2024年11月)
心臓血管外科手術患者の1年後のフレイル有症率の検討
第9回 日本心臓リハビリテーション学会 北海道支部地方会
13. Tanaka A., Ito S., Ro T., Mitsutake R., Tanino H., Ito H., Ota T. (Nov 2024)
Factors that can affect wearing socks activity in patient of two weeks after Total Hip Arthroplasty.
8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 in Sapporo
14. 田中 団, 高橋 佑弥, 呂 隆徳, 大田 哲生 (2024年6月)
関節リウマチ治療におけるリハビリテーションの期待される働きと役割について
旭川リウマチ研究会 2024
15. 高山 拓也, 呂 隆徳, 村岡 法彦, 大谷 将秀, 横尾 英樹, 大田 哲生 (2024年11月)
胃がん患者術後1年の身体機能およびQOLにサルコペニアが与える影響
第11回 日本予防理学療法学会 学術大会
16. 三田村 信雄, 呂 隆徳, 伊達 歩, 大田 哲生 (2024年11月)
TAVI術前の安静時間は術後1か月の身体機能・QOLおよびその改善と相関する
第8回 日本循環器理学療法学会 学術大会
17. 三田村 信雄, 及川 欧, 大田 哲生 (2024年4月)
石川県能登半島地震 DMAT 活動～業務調整員・理学療法士として～
第49回 リハビリテーション医学会 北海道地方会
18. 八木橋 史佳, 高橋 佑弥, 呂 隆徳, 林 圭輔, 木下 学, 大田 哲生 (2024年8月)
当院の覚醒下手術における術中の取り組み - 左側頭葉に星細胞腫を呈した1症例 -
第68回 北海道リハビリテーション学会 学術集会
19. 西谷 健太郎, 伊東 修一, 呂 隆徳, 市川 花, 大田 哲生, 紙谷 寛之 (2024年11月)
心臓血管手術患者の術前の椅子立ち上がりテストは術後合併症の有無を予測する
第8回 日本循環器理学療法学会 学術集会
20. 美馬 愛子, 高山 拓也, 村岡 法彦, 細川 祐司, 甲谷 涼康, 吉田 雄太, 橋本 直宏, 呂 隆徳, 大田 哲生 (2024年11月)
急性期脳卒中患者に対して長下肢装具を使用した即時的な効果 - 座圧計を用いた効果検証 -
第15回 旭川地域脳卒中地域連携研究会
21. 甲谷 涼康, 村岡 法彦, 呂 隆徳, 木下 学, 及川 欧, 大田 哲生 (2024年9月)
体幹トレーニングによって ADL が改善した悪性リンパ腫による両麻痺患者の一症例
第2回 脳腫瘍支持療法研究会
22. 吉田 雄太, 村岡 法彦, 呂 隆徳, 大田 哲生 (2025年1月)
当院における医療安全の取り組み
第7回 道北理学療法士学術大会
23. 市川 花, 伊達 歩, 三田村 信雄, 呂 隆徳, 大田 哲生 (2024年11月)
末期心不全患者の終末期ケアに対する他職種介入 - 心リハに携わる理学療法士としての関わりを考える -
第9回 心臓リハビリテーション学会 北海道地方会
24. 市川 花, 伊東 修一, 呂 隆徳, 西谷 健太郎, 三田村 信雄, 石田 健一, 紙谷 寛之, 大田 哲生 (2024年11月)
心臓血管外科手術待機期間中に活動量が減少している患者はフレイルの有症率が高い
第8回 日本循環器理学療法学会 学術大会

腫瘍センター

Oncology Center

所属教員等

腫瘍センター

教授(病院) 田邊 裕貴
講 師 更科 岳大

論文

1. Takahashi K., Iwama T., Tanaka K., Miyazawa Y., Kuroda S., Horiuchi M., Saito S., Muto M., Ando K., Ueno N., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Fujiya M. (Mar 2025)
Comparison of traction vs. snare as rescue methods for challenging colorectal endoscopic submucosal dissection: Propensity score-matched study.
Endosc Int Open 13: a25443279.
2. Sugiyama Y., Konishi H., Dokoshi T., Tanaka H., Kobayashi Y., Sasaki T., Yamamoto K., Sakatani A., Takahashi K., Ando K., Ueno N., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Okumura T., Fujiya M. (Jan 2025)
hsa_circ_0015388 Reduces Macrophage Derived Reactive Oxygen Species in Crohn's Disease.
Inflamm Bowel Dis. Izae317
3. Takahashi K., Iwama T., Muto M., Tanaka K., Kobayashi Y., Ando K., Kashima S., Ueno N., Moriichi K., Tanabe H., Harada K., Teramoto T., Fujiya M. (Aug 2024)
Oral Breathing Facilitates Endoscopic Operability Compared With Nasal Breathing in Peroral Endoscopy: A Randomized Controlled Trial.
Am J Gastroenterol Online ahead of print.
4. Kobayashi Y., Ando K., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Yuzawa S., Fujiya M. (Aug 2024)
Comparison of diagnostic accuracy between linked color imaging and autofluorescence imaging in patients with ulcerative colitis: A prospective observational study.
J Gastroenterol Hepatol 39(8): 1606-1612
5. Takahashi K., Sasaki T., Ueno N., Maguchi H., Tachibana S., Hayashi R., Kobayashi Y., Sugiyama Y., Sakatani A., Ando K., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Harada K., Yuzawa S., Ichihara S., Okumura T., Fujiya M. (Jun 2024)
The white ring sign is useful for differentiating between fundic gland polyps and gastric adenocarcinoma of the fundic gland type.
Endosc Int Open 12(6): E723-E731
6. Takahashi K., Iwama T., Tanaka K., Miyazawa Y., Kuroda S., Horiuchi M., Saito S., Muto M., Sakatani A., Ando K., Ueno N., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Okumura T., Fujiya M. (May 2024)
Risk Factors for Post-Colorectal Endoscopic Submucosal Dissection Bleeding and Efficacy of Carbazochrome Sodium Sulfonate: A Multicenter Retrospective Cohort Study.
Digestion 105(4): 310-319

症例報告

1. Koyama K., Iwamoto H., Takahashi K., Okada T., Kawabata H., Kitano Y., Tanabe H., Fujiya M., Okumura T., Mizukami Y. (Feb 2025)
Cognitive and ataxic adverse events following entrectinib treatment in NTRK1 fusion gene-positive intrahepatic cholangiocarcinoma: a case report.
Clin J Gastroenterol 18(1): 183-187
2. Tanabe H., Koshizuka Y., Tanaka K., Takahashi K., Ijiri M., Takahashi K., Ando K., Ueno N., Kashima S., Sarashina T., Moriichi K., Mitsube K., Mizukami Y., Fujiya M., Makita Y. (Dec 2024)
High-resolution genetic analysis of whole APC gene deletions: a report of two cases and patient characteristics.
Hum Genome Var. 11(1): 46.
3. Hayashi R., Ueno N., Watanabe H., Kobayashi Y., Sakatani A., Takahashi K., Yuzawa S., Ando K., Tani C., Kashima S., Shonaka T., Moriichi K., Tanabe H., Tanino M., Fujiya M. (Oct 2024)
Unresectable Ulcerative Colitis Associated Colon Cancer in a Young Japanese Patient: A Case Report.
Intern Med Online ahead of print

研究発表

1. 田邊 裕貴 (2024 年 5 月)
当院の大腸癌症例におけるリンチ症候群の発見契機の検討
第 30 回 日本遺伝性腫瘍学会 学術集会
2. 田邊 裕貴 (2025 年 1 月)
進行大腸癌のがん遺伝子パネル検査では指摘されない APC 遺伝子全欠失を伴う家族性大腸腺腫症
第 11 回 消化管ポリポーラス研究会 学術集会
3. 更科 岳大 (2024 年 10 月)
分類不能型先天性白血病の 1 例
第 5 回 北海道小児血液・がん研究会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
更科 岳大	継続	基盤研究(C)	小児・AYA 世代がん白血病バイオバンクを活用した難治性白血病の治療開発

緩和ケア診療部

Department of Palliative Care

所属教員等

緩和ケア診療部

教 授 牧野 洋
講 師 小野寺 美子

麻酔科蘇生科

助 教 井上 真澄
助 教 高橋 裕香子

研究業績紹介

緩和ケア診療部として、日常的に多くの患者さんに使用しているオピオイドに関する臨床研究、さまざまな痛みに関する理論研究、治療方針や最期の過ごし方に対する意思決定に関する理論研究、地域連携に関する量的・質的研究などを行っている。特に近年は放射線治療中における疼痛緩和に対する検討を行い、治療中の苦痛をより軽減できるように Evidence の集積に努めている。また当院内で作成している特殊製剤であるケタミン軟膏の神経障害性疼痛への有効性についても検討を行っている。さらにがん拠点病院である旭川医科大学病院の緩和ケア診療部としては院内で使用されている医療用麻薬の量について把握する義務があり、今後はその集計方法を使用して当院での医療用麻薬の使用方法の特性、患者背景による効果の違い、より苦痛軽減をはかれるようなオピオイド使用などについて検討を重ねていきたい。診療科横断的にオピオイドについての質的研究や混合研究を行っていく予定であり具体的な内容を検討しているところである。診療科としての特性、対象患者さんの特性上、ランダム化した臨床研究は非常に困難であるがケーススタディの集積がより質の高い緩和ケアにつながると考えられるので研究活動が重要な分野である。

総説・解説

1. 小野寺 美子 (2024年10月)
「最期」の選択相談を. 旭川医大病院「人生会議」を学ぶ講座
北海道新聞 16

論文

1. 岩田 千広, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年9月)
低心機能患者の大腿切断術に対する神経ブロック施行後に高度低血圧をきたし鑑別に苦慮した1症例
臨床麻酔 48(9): 1028-1094
2. 岩田 千広, 菅原 亜美, 井上 真澄, 佐藤 泉, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2025年1月)
20年以上持続した歩行時痛に超音波ガイド下 fascia ハイドロリリースが著効した1例
日本ペインクリニック学会誌 32(1): 19-23
3. 山本 香緒里, 山本 謙, 飯田 慎也, 菅谷 香緒里, 山下 恭範, 小野 尚志, 黒澤 温, 小野寺 美子, 谷 祐児, 中馬 真幸, 田崎 嘉一 (2025年3月)
二次元コードを活用した手術部門システム等との連動を中心とする麻薬管理システムの再構築と評価
日本病院薬剤師会雑誌 61(3): 239-244

研究発表

1. 渡辺 麻由, 小野寺 美子, 山中 瑛里加, 黒田 早姫, 佐古 澄子, 牧野 洋 (2024年4月)
持続腕神経叢ブロックで用いたカテーテルが原因で術後 MRI 検査が延期になった一症例
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会
2. 黒田 早姫, 上坂 司, 渡辺 麻由, 竹光 美秀, 鷹架 健一, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年4月)
難治性心室頻拍を伴う高度心機能低下患者の麻酔導入に上喉頭神経ブロックが有用であった一例
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会

3. 鈴木 綾香, 鷹架 健一, 田畠 宏樹, 上坂 司, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年4月)
直接大動脈アプローチ経カテーテル大動脈弁留置術後の鎮痛に持続胸横筋膜面ブロックが有効であった一例
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会
4. 田畠 宏樹, 上坂 司, 鷹架 健一, 小野寺 美子, 鈴木 綾香, 牧野 洋 (2024年4月)
多数の重篤な併存疾患を有し、抗血栓症薬内服中患者の大腿切断術を末梢神経ブロックで管理した一例
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会
5. 竹光 美秀, 上坂 司, 黒田 早姫, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年4月)
血氣胸患者の鎖骨骨折に、浅頸神経叢ブロックと鎖骨胸筋筋膜面ブロックを施行し全身麻酔を回避した1例
日本区域麻酔学会 第11回 学術集会
6. 小野寺 美子 (2024年5月)
周術期のタイムアウトに関する安全を考える
令和5年度 第2回 日本手術医学会 教育セミナー
7. 神田 浩嗣, 佐藤 泉, 小野寺 美子, 神田 恵, 川股 知之 (2024年6月)
HIV関連神経障害性疼痛に関するアンケート調査 - 第2報 リスク因子検索
日本麻醉科学会 第71回 学術集会
8. 畑津 克弘, 永渕 りりこ, 上坂 司, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年9月)
背部軟部肉腫の多発骨転移によるがん疼痛のため術前に高用量オピオイドを使用し疼痛管理に難渋していた患者の経皮的椎弓根スクリュー固定術の術後鎮痛に脊柱起立筋面ブロックが有用であった一例
日本麻醉科学会 北海道・東北支部 第14回 学術集会
9. 佐藤 泉, 菅原 亜美, 渡辺 麻由, 井上 真澄, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年9月)
膠原病背景の重症虚血肢の術前に血管攣縮予防で腰部交感神経節ブロックを施行した一例
日本ペインクリニック学会 第5回 北海道支部 学術集会
10. 渡辺 麻由, 菅原 亜美, 井上 真澄, 佐藤 泉, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年9月)
強皮症患者のレイノー現象に対するキセノン光の効果と手温変化を観察した一症例
日本ペインクリニック学会 第5回 北海道支部 学術集会
11. 小野寺 美子 (2024年9月)
ACP知っていますか? 今日から知ろう APC
第15回 地域がん診療連携拠点病院 旭川医科大学病院主催 市民公開講座
12. 小野寺 美子 (2024年9月)
自分で決める生き方～それぞれの立場で考える人生会議～
第15回 地域がん診療連携拠点病院 旭川医科大学病院主催 市民公開講座
13. 山本 香緒里, 山本 謙, 飯田 慎也, 菅谷 香緒里, 山下 恭範, 小野 尚志, 黒澤 温, 小野寺 美子, 谷 祐児, 中馬 真幸, 田崎 嘉一 (2024年11月)
二次元コードの活用により手術部門システムとの連動を可能とした麻薬管理システムの構築と評価
第34回 日本医療薬学会 年会
14. 飯田 慎也, 岩田 達也, 中村 智美, 阿部 由希子, 小野寺 美子, 黒澤 温, 林 達哉, 田崎 嘉一, 松本 成史 (2024年11月)
ナトリウム・グルコース共輸送体2阻害薬による周術期正常血糖ケトアシドーシスのモニタリング
体制構築と運用効果の検証
第19回 医療の質・安全学会 学術集会
15. 田中 誠子, 林 達哉, 黒澤 温, 小野寺 美子, 橋場 哲也 (2024年12月)
手術室看護師における単回使用医療機器(SUD)収集の現状と課題
第46回 日本手術医学会 総会
16. 小野寺 美子 (2025年1月)
疼痛との関わり、慢性疼痛からがん性疼痛、基礎研究も含めて
第3回 慢性疼痛診療講演会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
小野寺 美子	継続	基盤研究(C)	神経障害性疼痛における妊娠が及ぼす GABA シグナル伝達機構の解明と治療薬への応用

乳腺疾患センター

Breast Diseases Center

所属教員等

乳腺疾患センター
教授(病院) 北田 正博

論文

1. Yoshino R., Nakatsubo M., Ujiie N., Ito A., Yoshida N., Kitada M. (Sep 2024)
Characteristics of Invasive Cribriform Carcinoma.
Cancer Invest 42(8): 690-696
2. Takahashi M., Kikawa Y., Kashiwabara K., Taira N., Iwatani T., Shimozuma K., Ohtani S., Yoshinami T., Watanabe J., Kashiwaba M., Watanabe K., Kitada M., Sakaguchi K., Tanabe Y., Aihara T., Mukai H. (Jul 2024)
Eribulin versus S-1 as first or second-line chemotherapy to assess health-related quality of life and overall survival in HER2-negative metastatic breast cancer (RESQ study): a non-inferiority, randomised, controlled, open-label, phase 3 trial.
EClinicalMedicine 74: 102715
3. Takahashi S., Sato N., Kaneko K., Masuda N., Kawai M., Hirakawa H., Nomizu T., Iwata H., Ueda A., Ishikawa T., Bando H., Inoue Y., Ueno T., Ohno S., Kubo M., Yamauchi H., Okamoto M., Tokunaga E., Kamigaki S., Aogi K., Komatsu H., Kitada M., Uemoto Y., Toyama T., Yamamoto Y., Yamashita T., Yanagawa T., Yamashita H., Matsumoto Y., Toi M., Miyashita M., Ishida T., Fujishima F., Sato S., Yamaguchi T., Takahashi F., Ishioka T. (Oct 2024)
TP53 signature predicts pathological complete response after neoadjuvant chemotherapy for breast cancer: Observational and confirmational study using prospective study cohorts.
Transl Oncol :48:102060
4. Yoshino R., Nakatsubo M., Ujiie N., Ito A., Yoshida N., Kitada M. (Aug 2024)
Study of Combined Small Cell Lung Cancer.
Kyobu Geka 77(8): 563-566
5. 吉野 流世, 中坪 正樹, 氏家 菜々美, 伊藤 茜, 吉田 奈七, 北田 正博 (2024 年 8 月)
混合型小細胞肺癌の治療経験
胸部外科学会雑誌 77 卷 8 号 Page563-566

症例報告

1. Yoshino R., Nakatsubo M., Ujiie N., Kitada M. (Jun 2024)
Breast cancer with biomarker reversal during the course of treatment: a case report.
J Surg Case Rep 2024(6): rjae432
2. Yoshino R., Ujiie N., Yasuda S., Kitada M. (Mar 2025)
Multiple Lung Metastases of Papillary Thyroid Carcinoma Detected by Detailed Pathological Examination: A Case Series.
Cureus 17(3): e80112
3. Yoshino R., Ujiie N., Yasuda S., Kitada M. (Feb 2025)
Adenosquamous Cell Carcinoma Associated With Giant Lung Cyst: A Case Report.
Cureus 17(2): e78340
4. Yoshino R., Nakatsubo M., Ujiie N., Yuzawa S., Ishida K., Kitada M. (May 2024)
Granulocyte colony-stimulating factor-producing lung cancer complicated with antiphospholipid antibody syndrome: a case report.
J Surg Case Rep 2024(5): rjae361
5. Ryusei Yoshino, Masaki Nakatsubo, Nanami Ujiie, Masahiro Kitada (Mar 2025)
Fistula Closure Using a Vastus Lateralis Skin Flap for Esophagobronchial Fistula Occurring During Preoperative Chemotherapy for Lung Cancer: A Case Report.
Cureus 16(5): e59666

6. Yoshino R., Ujiie N., Yasuda S., Kitada M. (Mar 2025)
Occult breast cancer discovered due to a large mass in the axilla: a case report.
J Surg Case Rep 2025(3): rjaf137
7. 氏家 菜々美, 中坪 正樹, 安田 俊輔, 北田 正博 (2024 年 12 月)
乳腺 Glycogen-rich clear cell carcinoma の一例
北海道外科雑誌 69 卷 2 号 Page170
8. 中坪 正樹, 吉野 流世, 伊藤 茜, 氏家 菜々美, 安田 俊輔, 北田 正博 (2024 年 11 月)
甲状腺乳頭癌の胸骨転移に対して胸骨切除,チタンプレート及びポリプロピレンメッシュを用いて胸骨再建を施行した一例
日本呼吸器外科学会雑誌 38 卷 7 号 Page640-646
9. 氏家 菜々美, 吉野 流世, 中坪 正樹, 吉田 奈七, 青木 直子, 北田 正博 (2024 年 10 月)
35 歳男性の左乳房に発生した神経鞘腫の 1 例
日本臨床外科学会雑誌 85 卷 10 号 Page1340-1345

研究発表

1. 吉野 流世, 中坪 正樹, 氏家 菜々美, 伊藤 茜, 吉田 奈七, 北田 正博 (2024 年 4 月)
HER2 陽性乳癌に対するフルオロウラシル・エピルビシル・シクロホスファミドによる術前化学療法の効果の検討
第 124 回 日本外科学会 学術集会
2. 吉野 流世, 中坪 正樹, 氏家 菜々美, 北田 正博 (2024 年 4 月)
抗臨脂質体症候群を誘発した G-CSF 産生肺がんの 1 例
第 41 回 日本呼吸器外科学会 学術集会
3. 中坪 正樹, 吉野 流世, 氏家 菜々美, 吉田 奈七, 北田 正博 (2024 年 4 月)
右下葉切除後の遅発性機関紙断端瘻に対し集学的治療を得た一例
第 41 回 日本呼吸器外科学会 学術集会
4. 氏家 菜々美, 中坪 正樹, 安田 俊輔, 林 真奈美, 北田 正博 (2024 年 6 月)
妊娠中に発生した肉芽腫性乳腺炎の 1 例
第 125 回 日本臨床外科学会 北海道支部 総会
5. 伊藤 茜, 中坪 正樹, 吉野 流世, 氏家 菜々美, 吉田 奈七, 北田 正博 (2024 年 6 月)
トリプルネガティブ乳癌に対する Pembrolizumab の使用経験
第 125 回 日本臨床外科学会 北海道支部 総会
6. 吉野 流世, 中坪 正樹, 氏家 菜々美, 安田 俊輔, 北田 正博 (2024 年 6 月)
抗臨脂質体症候群を誘発した G-CSF 産生肺がんの 1 例
第 125 回 日本臨床外科学会 北海道支部 総会
7. 中坪 正樹, 吉野 流世, 伊藤 茜, 氏家 菜々美, 安田 俊輔, 北田 正博 (2024 年 6 月)
肺分画症術後に細菌性肺炎を発症した精神疾患既往の若年男性の 1 症例
第 125 回 日本臨床外科学会 北海道支部 総会
8. 吉野 流世, 中坪 正樹, 伊藤 茜, 吉田 奈七, 北田 正博 (2024 年 7 月)
当院におけるトリプルネガティブ再発乳癌に対するペムブロリズマブの使用経験
第 32 回 日本乳癌学会 学術総会
9. 氏家 菜々美, 吉野 流世, 中坪 正樹, 吉田 奈七, 湯澤 明夏, 北田 正博 (2024 年 7 月)
当院における被包型乳頭癌 10 例の検討
第 32 回 日本乳癌学会 学術総会
10. 伊藤 茜, 吉野 流世, 中坪 正樹, 氏家 菜々美, 吉田 奈七, 北田 正博 (2024 年 7 月)
当院の HER2 低発現進行再発乳癌の臨床病理学的特徴
第 32 回 日本乳癌学会 学術総会
11. 佐治 重衝, 山下 年成, 高野 利実, 内藤 陽一, 常泉 道子, 吉村 章代, 高橋 將人, 鶴谷 純司, 岩谷 健生, 北田 正博, 多田 寛, 森 菜採子, 齊藤 純, 岩朝 勤, 荒木 和浩, 坂井 和子, 長谷川 広季, 内田 洋平, 森田 智視, 増田 慎三 (2024 年 7 月)
HER2 陽性進行・再発乳癌に対する HP 療法にタキサン併用とエリブリソマブ併用を比較する第 III 相 JBCRG-M06 試験
第 32 回 日本乳癌学会 学術総会

12. 岩本 高行, 新倉 直樹, 渡辺 健一, 竹下 卓志, 木川 健一郎, 小林 心, 岩熊 伸高, 岡村 卓穂, 小林 隆之, 片桐 佑里子, 北田 正博, 富岡 伸元, 三好 康雄, 重松 秀朗, 宮下 穂, 石黒 洋, 増田 慎三, 佐伯 重衡 (2024年7月)
進行再発乳癌におけるオンコタイプ DX 乳癌再発スコアの臨床的意識の検討: JBCRG-M07 より
第32回日本乳癌学会 学術総会
13. 中坪 正樹, 吉野 流世, 伊藤 茜, 氏家 菜々美, 安田 俊輔, 北田 正博 (2024年9月)
当院における胸壁試験症例の検討
第7回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会 胸部外科分科会
14. 高橋 賢吾, 中坪 正樹, 吉野 流世, 氏家 菜々美, 安田 俊輔, 北田 正博, 谷野 美智枝 (2024年9月)
小細胞癌と扁平上皮癌の同時性重複肺癌の1切除例
第7回 北海道外科関連学会機構 合同学術集会 胸部外科分科会
15. 安田 俊輔, 中坪 正樹, 氏家 菜々美, 北田 正博 (2024年9月)
乳腺微小石灰化病変を示す異型乳管過形成に対する造形MRIの診断能の検討
第126回 日本臨床外科学会 北海道支部例会
16. 氏家 菜々美, 中坪 正樹, 安田俊輔, 北田 正博 (2024年10月)
乳腺 Glycogen-rich clear cell carcinoma の一例
第22回 日本乳癌学会 北海道地方会
17. 氏家 菜々美, 大栗 敬幸, 小坂 朱, 長門 利純, 北田 正博, 小林 博也 (2024年10月)
トリプルネガティブ乳がんマウスモデルの肺転移におけるI型IFN応答分子の関与
第83回 日本癌学会 学術総会
18. 氏家 菜々美, 中坪 正樹, 吉野 流世, 伊藤 茜, 吉田 奈七, 北田 正博, 青木 直子 (2024年11月)
若年男性の左乳房に派生した神経鞘腫(Schwannoma)の一例
第85回 日本臨床外科学会 総会
19. 安田俊輔, 中坪 正樹, 吉野 流世, 伊藤 茜, 北田 正博 (2024年11月)
乳腺微細石灰化病変における異形乳管
第85回 日本臨床外科学会 総会
20. 氏家 菜々美, 中坪 正樹, 吉野 流世, 湯澤 明夏, 北田 正博 (2024年11月)
乳腺 Glycogen-rich clear cell carcinoma の一例
第85回 日本臨床外科学会 総会
21. 石橋 佳, 吉野 流世 (2024年11月)
排泄所に行ける予測術後呼吸機能と術後呼吸機能検査値に関する検討
第77回 日本胸部外科学会 定期学術集会
22. 吉野 流世, 中坪 正樹, 氏家 菜々美, 安田 俊輔, 北田 正博 (2024年11月)
隣接臓器浸潤肺がんの手術 肺癌術前化学療法中に発生した食道気管瘻に対する広背筋皮弁を用いた瘻孔閉鎖術の1例
第77回 日本胸部外科学会 定期学術集会
23. 伊藤 茜, 川見 弘之, 北田 正博 (2024年11月)
乳腺扁平上皮癌の超音波画像の特徴と病理学的検討
第52回 日本乳腺甲状腺超音波医学会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
北田 正博	継続	基盤研究(C)	肺癌胸膜播種性病変に対するアミノレブリン酸の蛍光特性を利用した高精度診断法の開発

臨床検査・輸血部

Department of Clinical Laboratory
and Transfusion

所属教員等

臨床検査・輸血部

准 教 授 坂本 央
助 教 齊藤 江里香

内科（循環器・腎臓）

助 教 河端 奈穂子

研究業績紹介

私たちは大学病院の臨床検査・輸血部として教育や研究にも力を注いでいます。臨床検査医学は基本 19 診療領域に含まれており、旭川医科大学病院は、日本臨床検査医学学会の認定研修施設です。坂本 央部長（准教授）、齊藤江里香副部長（助教）、河端奈穂子助教が医学部学生や検査技師養成機関の実習生の教育、医療スタッフや検査技師の院内研修を行い、研究では機器や試薬の性能評価はもちろん、各科の諸先生のご指導を仰ぎ、臨床検査・輸血に携わる者だからこそできる学術研究を発展させています。

2024 年度は、各分野で臨床研究を中心に学会発表等を行いました。生理機能検査分野では二次性心筋症の診断と治療について心エコー評価を行い、D-BCD 療法後の AL 心アミロイドーシスの両心室 GLS 評価や、Fabry 病に伴う重症心不全に対する経皮的僧帽弁接合不全修復術の治療効果について検討しています。心電図指標としては、潜因性脳梗塞の卵円孔開存診断における心電図 Crochetage pattern の有用性について報告。また、当部門は認定心電図専門士を中心とした技師が心電図所見から医師に緊急連絡する体制を構築していますが、チーム医療セッションにて緊急対応を可能とする技師による心電図診断と院内連絡体制構築の重要性について検討しています。血液・生化学検査分野では慢性腎臓病患者の血清カルニチン値と心腎連関因子および心血管疾患との関連性の解明の研究について科研費が採択されています。また、ウイルス輸送液検体を使用した新型コロナウイルス抗原定量検査の臨床的な有効活用法に関する検討を行い、尿沈渣標本作成時に上清へ残存する細菌についての検討では北海道医学検査学会にて学会奨励賞を受賞しました。微生物検査分野では血液培養から *H. equorum* が検出された症例や *Anaerobiospirillum succiniciproducens* による血流感染症の症例等について報告し、輸血・細胞療法分野では頻回輸血により複数抗体を保有した外来輸血対応について検討しています。

これからは疾患の予防、早期診断や鑑別診断、治療効果予測などの診療に役立つ新しい検査法の開発を目指していくことが使命と考えます。皆さんに深く信頼される臨床検査・輸血部を目指して、スタッフ一同努力を続けていきますので、ご指導とご支援を賜ります様お願い申し上げます。

論文

1. 森直人, 中川貞裕, 岩田邦弘, 坂本央, 沖崎貴琢 (2024 年 8 月)
心臓 T1 マッピングにおける脈波同期が T1 値に及ぼす影響について: 脈波同期法は心電同期法の代替となりうるか
日本放射線技術学会雑誌 80(10): 1026-1036

研究発表

1. 畑山緑一, 坂本央, 木谷祐也, 河端奈穂子, 伊達歩, 萩島暁帆, 田邊康子, 竹内利治, 中川直樹 (2024 年 4 月)
Fabry 病に伴う重症心不全に経皮的僧帽弁接合不全修復術が奏功した一例
第 121 回 日本国内科学会 講演会 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024 東京

2. 竹中 佑太, 佐藤 多嘉之, 小林 延行, 菊池 彩翔, 佐渡 正敏, 川幡 智樹, 坂本 央, 奥村 利勝 (2024 年 5 月)
血液培養から *H. equorum* が検出された一症例
第 73 回 日本医学検査学会
3. 坂本 央 (2024 年 6 月)
二次性心筋症の診断と治療
第 4 回 日本不整脈心電学会 北海道支部地方会
4. 西中 麻里奈, 坂本 央, 笹木 理恵, 小林 朝香, 二階堂 麻悠子, 伊藤 栄祐, 河端 奈穂子, 齊藤 江里香, 中川 直樹, 佐藤 伸之 (2024 年 7 月)
緊急対応を可能とする技師による心電図診断の重要性
第 70 回 日本不整脈心電学会 学術大会
5. 吉野 寛隆, 野澤 佳祐, 渡辺 愉美, 伊藤 敦巳, 佐渡 正敏, 齊藤 江里香, 坂本 央 (2024 年 8 月)
尿沈渣標本作成時に上清へ残存する細菌についての検討
第 96 回 北海道医学検査学会
6. 森田 海都, 大塚 浩平, 伊藤 敦巳, 安川 舞花, 佐渡 正敏, 坂本 央 (2024 年 8 月)
頻回輸血により複数抗体を保有した外来輸血対応の 1 例
第 96 回 北海道医学検査学会
7. 河端 奈穂子, 坂本 央, 佐藤 望有, 阿部 剛大, 鵜野 正和, 伊藤 栄祐, 小林 雅弘, 青沼 達也, 畑山 真弓, 齊藤 江里香, 中川 直樹 (2024 年 9 月)
重症心不全に D-BCD 療法が奏功し GLS の改善を認めた AL 心アミロイドーシスの 1 例
日本超音波医学会 第 54 回 北海道地方会 学術集会
8. 伊藤 栄祐, 齊藤 江里香, 佐藤 望有, 阿部 剛大, 鵜野 正和, 小林 雅弘, 栗山 直也, 青沼 達也, 河端 奈穂子, 佐渡 正敏, 坂本 央, 東 信良 (2024 年 9 月)
両下肢に多発動脈瘤を認めた 1 例
日本超音波医学会 第 54 回 北海道地方会 学術集会
9. 野澤 佳祐, 吉野 寛隆, 田丸 奈津子, 高橋 希, 八重樫 彩香, 渡辺 愉美, 伊藤 敦巳, 佐渡 正敏, 坂本 央 (2024 年 9 月)
全自动尿中有形成分分析装置 UF-5000 を用いた尿導電率は臨床的に有用か
第 15 回 日本臨床一般検査学会
10. 河端 奈穂子, 坂本 央, 青沼 達也, 齊藤 江里香, 竹内 利治, 佐藤 伸之, 中川 直樹 (2024 年 9 月)
潜因性脳梗塞の卵円孔開存診断における心電図 Crochetage pattern の有用性
第 58 回 日本臨床検査医学会 北海道支部総会
11. 伊藤 敦巳, 薗田 弥代, 吉野 寛隆, 野澤 佳祐, 渡辺 愉美, 佐藤 多嘉之, 佐渡 正敏, 坂本 央 (2024 年 11 月)
輸送液検体を使用した 2 種の SARS-CoV-2 抗原定量検査の活用法に関する検討
第 71 回 日本臨床検査医学会 学術集会
12. 河端 奈穂子, 坂本 央, 青沼 達也, 齊藤 江里香, 竹内 利治, 佐藤 伸之, 中川 直樹 (2024 年 11 月)
潜因性脳梗塞の卵円孔開存診断における心電図 Crochetage Pattern の有用性
第 71 回 日本臨床検査医学会 学術集会
13. 加藤 大暉, 坂本 央, 佐渡 正敏, 佐藤 多嘉之, 小林 延行, 米沢 太亨, 菊池 彩翔, 竹中 佑太 (2024 年 12 月)
Anaerobiospirillum succiniciproducens による血流感染症の 1 症例
令和 6 年度 日臨技北日本支部医学検査学会 (第 12 回)
14. Kawabata N., Sakamoto N., Kubo Y., Tokuno S., Aonuma T., Kitani Y., Date A., Saitoh E., Minoshima A., Tanabe Y., Takeuchi T., Satoh N., Nakagawa N. (Mar 2025)
A Case of Stage IIIb AL Amyloidosis in which Biventricular Global Longitudinal Strain was Significantly Improved by Dara-VCD Therapy.
第 89 回 日本循環器学会 学術集会
15. Hatayama R., Sakamoto N., Kitani Y., Kawabata N., Minoshima A., Tanabe Y., Takeuchi T., Sato N., Nakagawa N. (Mar 2025)
A Case of Severe Heart Failure Associated with Fabry Disease Successfully Treated with a Transcatheter Edge-to-Edge Mitral Valve Repair.
第 89 回 日本循環器学会 学術集会

16. 佐藤 有沙, 木谷 祐也, 田村 駿, 小尾 基記, 佐藤 朱夏, 樋口 隼太朗, 渡辺 柚, 徳野 翔太, 青沼 達也, 河端 奈穂子, 伊達 歩, 齊藤 江里香, 萩島 曜帆, 坂本 央, 田邊 康子, 竹内 利治, 中川 直樹, 國岡 信吾, 筒井 真博, 紙谷 寛之 (2025年3月)
Hybrid Medical and Surgical Approach for Severe Heart Failure with Multiple Heart Diseases: a Case Report.
第89回日本循環器学会 学術集会
17. 二階堂 麻悠子, 坂本 央, 笹木 理恵, 西中 麻里奈, 小林 朝香, 伊藤 栄祐, 河端 奈穂子, 齊藤 江里香, 中川 直樹, 佐藤 伸之 (2025年3月)
緊急対応を可能とする技師による心電図診断と院内連絡体制構築の重要性
第89回日本循環器学会 学術集会

手術部

Department of Surgical Center

所属教員等

手術部

准教授 林 達哉
准教授 黒澤 温

医療安全管理部

講師 小野寺 美子

総説・解説

1. 林 達哉 (2024年6月)
目で診る！口腔・咽頭病変
口腔咽頭科 37(2): 101-105
2. 林 達哉 (2024年12月)
病的所見と紛らわしい口腔内の病変
ENTONI MB Monthly Book ENTOMI (304) 1-4
3. 林 達哉 (2024年12月)
小児急性中耳炎診療ガイドライン 2024年版 改訂のポイント
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌 4(4): 197-200
4. 小野寺 美子 (2024年10月)
「最期」の選択相談を. 旭川医大病院「人生会議」を学ぶ講座
北海道新聞 16
5. 林 達哉 (2024年10月)
急性中耳炎
小児科診療 87(補冊2) 87-91

論文

1. 山本 香緒里, 山本 謙, 飯田 慎也, 菅谷 香緒里, 山下 恭範, 小野 尚志, 黒澤 温, 小野寺 美子, 谷 祐児, 中馬 真幸, 田崎 嘉一 (2025年3月)
二次元コードを活用した手術部門システム等との連動を中心とする麻薬管理システムの再構築と評価
日本病院薬剤師会雑誌 61(3): 239-244
2. 岩田 千広, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年9月)
低心機能患者の大腿切断術に対する神経ブロック施行後に高度低血圧をきたし鑑別に苦慮した1症例
臨床麻酔 48(9): 1028-1094
3. 江島 豊, 長瀬 清, 釈永 清志, 高階 雅紀, 黒澤 温 (2024年10月)
全国国立大学病院手術部における働き方改革取り組み状況調査報告
日本手術医学会誌 45(3): 332-342
4. 岩田千広, 菅原 亜美, 井上 真澄, 佐藤 泉, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2025年1月)
20年以上持続した歩行時痛に超音波ガイド下 fascia ハイドロリリースが著効した1例
日本ペインクリニック学会誌 32(1): 19
5. 宮越 薫, 熊井 琢美, 大原 賢三, 岸部 幹, 林 達哉, 高原 幹 (2024年6月)
Marine-Lenhart 症候群(MLS)の1例
頭頸部外科 34(1) 99-103
6. 井上 貴博, 熊井 琢美, 大原 賢三, 岸部 幹, 林 達哉, 高原 幹 (2024年12月)
歯性感染症を契機に膿瘍形成をきたした3例
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌 4(4) 189-195
7. 湯浅 謙太, 熊井 琢己, 久保田 瑛進, 佐藤 遼介, 石田 芳也, 和田 哲治, 高原 幹, 林 達哉, 片田 彰博 (2025年3月)
下咽頭に発生した顆粒細胞腫の2例
耳鼻咽喉科臨床 118(3) 221-227

著書

1. 林 達哉, 宇野 芳史, 河野 正充, 澤田 正一, 泰地 秀信, 保富 宗城, 丸山 裕美子, 矢野 寿一, 喜多村 健, 工藤 典代 (2024年5月)
小児急性中耳炎診療ガイドライン 2024年版
小児急性中耳炎診療ガイドライン 2024年版
2. 林 達哉 (2024年9月)
急性中耳炎
プラクティス耳鼻咽喉科の臨床 6, 耳鼻咽喉科医のための診療ガイドライン活用マニュアル 14-16

研究発表

1. 林 達哉 (2024年6月)
小児急性中耳炎診療ガイドライン 2024年版
第86回耳鼻咽喉科臨床学会
2. 林 達哉 (2025年1月)
徹底解説! 2024年版小児急性中耳炎診療ガイドライン
Meiji Seika ファルマ Web カンファレンス
3. 林 達哉 (2025年2月)
徹底解説! 2024年版小児急性中耳炎ガイドライン - 改訂の意味と応用 -
第131回富山県耳鼻咽喉科臨床研究会
4. 渡辺 麻由, 小野寺 美子, 山中 瑛里加, 黒田 早姫, 佐古 澄子, 牧野 洋 (2024年4月)
持続腕神経叢ブロックで用いたカテーテルが原因で術後MRI検査が延期になった一症例
日本区域麻酔学会 第11回学術集会
5. 黒田 早姫, 上坂 司, 渡辺 麻由, 竹光 美秀, 鷹架 健一, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年4月)
難治性心室頻拍を伴う高度心機能低下患者の麻酔導入に上喉頭神経ブロックが有用であった一例
日本区域麻酔学会 第11回学術集会
6. 鈴木 紗香, 鷹架 健一, 田畠 宏樹, 上坂 司, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年4月)
直接大動脈アプローチ経カテーテル大動脈弁留置術後の鎮痛に持続胸横筋膜面ブロックが有効であった一例
日本区域麻酔学会 第11回学術集会
7. 田畠 宏樹, 上坂 司, 鷹架 健一, 小野寺 美子, 鈴木 紗香, 牧野 洋 (2024年4月)
多数の重篤な併存疾患有し、抗血栓症薬内服中患者の大腿切断術を末梢神経ブロックで管理した一例
日本区域麻酔学会 第11回学術集会
8. 竹光 美秀, 上坂 司, 黒田 早姫, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年4月)
血氣胸患者の鎖骨骨折に、浅頸神経叢ブロックと鎖骨胸筋膜面ブロックを施行し全身麻酔を回避した1例
日本区域麻酔学会 第11回学術集会
9. 小野寺 美子 (2024年5月)
周術期のタイムアウトに関する安全を考える
令和5年度第2回日本手術医学会 教育セミナー
10. 神田 浩嗣, 佐藤 泉, 小野寺 美子, 神田 恵, 川股 知之 (2024年6月)
HIV関連神経障害性疼痛に関するアンケート調査 - 第2報リスク因子検索
日本麻酔科学会 第71回学術集会
11. 黒澤 温 (2024年6月)
周術期の呼吸に関するピットフォール、診るべきポイントの教育講演。呼吸のおはなし
第13回北海道手術医学研究会
12. 畑津 克弘, 永渕 りりこ, 上坂 司, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年7月)
背部軟部肉腫の多発骨転移によるがん疼痛のため術前に高用量オピオイドを使用し疼痛管理に難渋していた患者の経皮的椎弓根スクリュー固定術の術後鎮痛に脊柱起立筋面ブロックが有用であった一例
第21回日本血液学会 関東甲信越地方会

13. 須田 康裕, 上坂 司, 岩崎 肇, 黒澤 温, 牧野 洋 (2024年9月)
経食道心エコーで冠動脈バイパス術後の心タンポナーデの原因がグラフト吻合部の出血である事を特定した一例
日本心臓血管麻酔学会 第29回 学術大会
14. 高田 優, 須田 康裕, 岩崎 肇, 黒澤 温, 牧野 洋 (2024年9月)
心停止下冠動脈バイパス術の人工心肺離脱後に生じた急性機能性僧帽弁閉鎖不全症に対して IABP が著効した一例
日本心臓血管麻酔学会 第29回 学術大会
15. 岡島 愛美, 鈴木 綾香, 須田 康裕, 菅原 亜美, 岩崎 肇, 黒澤 温, 上坂 司, 牧野 洋 (2024年9月)
麻酔導入後執刀前に施行した経食道心エコーで可動性腫瘍の消失を確認したため手術を回避できた一例
日本心臓血管麻酔学会 第29回 学術大会
16. 佐藤 泉, 菅原 亜美, 渡辺 麻由, 井上 真澄, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年9月)
膠原病背景の重症虚血肢の術前に血管攣縮予防で腰部交感神経節ブロックを施行した一例
日本ペインクリニック学会 第5回 北海道支部学術集会
17. 渡辺 麻由, 菅原 亜美, 井上 真澄, 佐藤 泉, 小野寺 美子, 牧野 洋 (2024年9月)
強皮症患者のレイノー現象に対するキセノン光の効果と手温変化を観察した一症例
日本ペインクリニック学会 第5回 北海道支部学術集会
18. 小野寺 美子 (2024年9月)
ACP知っていますか? 今日から知ろう APC
第15回 地域がん診療連携拠点病院 旭川医科大学病院主催 市民公開講座
19. 小野寺 美子 (2024年9月)
自分で決める生き方～それぞれの立場で考える人生会議～
第15回 地域がん診療連携拠点病院 旭川医科大学病院主催 市民公開講座
20. 山本 香緒里, 山本 謙, 飯田 慎也, 菅谷 香緒里, 山下 恭範, 小野 尚志, 黒澤 温, 小野寺 美子, 谷 祐児, 中馬 真幸, 田崎 嘉一 (2024年11月)
二次元コードの活用により手術部門システムとの連動を可能とした麻薬管理システムの構築と評価
第34回 日本医療薬学会 年会
21. 飯田 慎也, 岩田 達也, 中村 智美, 阿部 由希子, 小野寺 美子, 黒澤 温, 林 達哉, 田崎 嘉一, 松本 成史 (2024年11月)
ナトリウム・グルコース共輸送体2阻害薬による周術期正常血糖ケトアシドーシスのモニタリング
体制構築と運用効果の検証
第19回 医療の質・安全学会 学術集会
22. 田中 誠子, 林 達哉, 黒澤 温, 小野寺 美子, 橋場 哲也 (2024年12月)
手術室看護師における単回使用医療機器(SUD)収集の現状と課題
第46回 日本手術医学会 総会
23. 長瀬 清, 江島 豊, 釈永 清志, 高階 雅紀, 黒澤 温 (2024年12月)
国立大学病院における特定行為に係る看護師(術中麻酔管理領域)の活動状況(続報)
第46回 日本手術医学会 総会
24. 小野寺 美子 (2025年1月)
疼痛との関わり、慢性疼痛からがん性疼痛、基礎研究も含めて
第3回 慢性疼痛診療講演会

病理部

Diagnostic Pathology

所属教員等

病 理 部

教 授 谷野 美智枝
講 師 湯澤 明夏
助 教 上小倉 佑機
助 教 林 真奈実

総説・解説

1. 湯澤 明夏 (2024年7月)
髓膜腫の病理診断と遺伝子異常
脳神経外科 52(4): 674-683

論文

1. Sugiyama Y., Takahashi K., Sasaki T., Ueno N., Watanabe H., Iribe K., Sekiguchi S., Tachibana S., Kobayashi Y., Ando K., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Yuzawa S., Fujiya M. (Jul 2024)
Comparison of diagnostic accuracy between linked color imaging and autofluorescence imaging in patients with ulcerative colitis: A prospective observational study.
J Gastroenterol Hepatol 39(8): 1606-1612
2. Kiyuna T., Cosatto E., Hatanaka K., Yokose T., Tsuta K., Motoi N., Makita K., Shimizu A., Shinohara T., Suzuki A., Takakuwa E., Takakuwa Y., Tsuji T., Tsujiwaki M., Yanai M., Yuzawa S., Ogura M., Hatanaka Y. (May 2024)
Evaluating Cellularity Estimation Methods: Comparing AI Counting with Pathologists' Visual Estimates.
Diagnostics (Basel) 14(11): 1115
3. Takahashi K., Sasaki T., Ueno N., Maguchi H., Tachibana S., Hayashi R., Kobayashi Y., Sugiyama Y., Sakatani A., Ando K., Kashima S., Moriichi K., Tanabe H., Harada K., Yuzawa S., Ichihara S., Okumura T., Fujiya M. (Jun 2024)
The white ring sign is useful for differentiating between fundic gland polyps and gastric adenocarcinoma of the fundic gland type.
Endosc Int Open 12(6): E723-E731
4. 河端 秀賢, 湯澤 明夏, 高橋 賢治, 谷野 美智枝, 水上 裕輔 (2024年10月)
EUS-FNA/B 検体を用いた分子・ゲノム診断の現状
膵臓 39(5): 316-324
5. Kato-Shinomiya M., Sugino H., Wang L., Saito Y., He J., Tanei Z., Oda Y., Tanikawa S., Tanino M., Gong JP, Tsuda M., Tanaka S. (Feb 2025)
SLC13A5 plays an essential role in the energy shift to oxidative phosphorylation in cisplatin-resistant mesothelioma stem cells.
Pathol Int. 2025 Mar; 75(3): 151-165
6. Kida R., Yoshida R., Nitanai K., Yagita A., Naraoka T., Yanada H., Shigaki R., Tenma T., Mori C., Umekage Y., Mitsumoto M., Tanino M., Minami Y., Sasaki T. (Nov 2024)
Viability and diagnostic potential of tissues obtained through cryobiopsy.
Respir Investig 2024 Nov; 62(6): 1220-1226

症例報告

1. Motiduki N., Ushioda R., Yuzawa S., Miyatani K., Isa H., Setogawa Y., Ishidou K., Narita M., Suzuki F., Hirofuji A., Okubo R., Kunioka S., Tsutsui M., Ishikawa N., Hiroyuki K. (Apr 2024)
A case of non-bacterial thrombotic endocarditis on the aortic valve following coronary angiography.
J Surg Case Rep 2024(4) rjae212
2. Yoshino R., Nakatsubo M., Ujiie N., Yuzawa S., Ishida K., Kitada M. (May 2024)
Granulocyte colony-stimulating factor-producing lung cancer complicated with antiphospholipid antibody syndrome: a case report.
J Surg Case Rep 2024(5) rjae361

3. Hayasaka T., Ono T., Takeuchi T., Sato A., Kikuchi Y., Kinebuchi T., Tanino M., Okada M., Nakagawa N. (Aug 2024)
Fulminant Streptococcus suis Infection Causing Myocardial Damage and Toxic Shock-Like Syndrome: A Case Report.
Cureus 16(8) e66625
4. Konno S., Yuzawa S., Kinouchi R. (Sep 2024)
A case of masquerade syndrome caused by metastatic iris tumor diagnosed by a high CEA level in the aqueous humor and iris biopsy.
Diagn Pathol 19(1) 128
5. Hayashi R., Ueno N., Watanabe H., Kobayashi Y., Sakatani A., Takahashi K., Yuzawa S., Ando K., Tani C., Kashima S., Shonaka T., Moriichi K., Tanabe H., Tanino M., Fujiya M. (Oct 2024)
Unresectable Ulcerative Colitis Associated Colon Cancer in a Young Japanese Patient: A Case Report.
Intern Med 未
6. Nagasue K., Kida R., Shigaki R., Nitanai K., Yagita A., Yanada H., Umekage Y., Mori C., Minami Y., Funayama T., Yamamoto M., Tanino M., Yoshida R., Sasaki T. (Oct 2024)
Treatment of lung adenocarcinoma with chemotherapy helps mitigate chronic myeloid leukaemia progression: A case report.
Oncol Lett 29(1) 31
7. Sato H., Fujii S., Okada T., Kawabata H., Kamikokura Y., Fujiya M. (Nov 2024)
Small Insulinoma Followed-up as an Indolent Pancreatic Tumor.
Intern Med 63(21) 2929-2937
8. Matsumoto K., Goto M., Kamikokura Y., Takasawa K., Kobayashi N., Aoyama T., Murakami T., Kamikokura M., Ikechi Y., Kawahata T., Tanaka K., Takatori S., Fujishiro D., Okamoto K., Makino Y., Nishikawa Y., Takasawa A. (Dec 2024)
Molecular and ultrastructural morphological analyses of highly metamorphosed *Aspergillus fumigatus* on human formalin-fixed paraffin-embedded tissue.
Med Mol Morphol 57(4) 326-332
9. Kashima S., Kamikokura Y., Moriichi K. (Jan 2025)
Persistent Severe Abdominal Pain in a 40-Year-Old Male Patient.
Gastroenterology 168(1) e5-e8
10. Tajima Y., Yuzawa S., Kanemura Y., Tanino M., Kinoshita M. (Jan 2025)
Diagnosis of Isocitrate Dehydrogenase-Mutant Astrocytoma in the Subcallosal Gyrus Using T2-Fluid-Attenuated Inversion Recovery Mismatch Sign and Quantitative Magnetic Resonance Relaxometry.
Cureus 17(1) e76963
11. Yoshida T., Yamamoto S., Yuzawa S., Takano T., Sanada T., Saito M., Tanino M., Kinoshita M. (Feb 2025)
Meningitis due to inflammatory reaction to Echinococcus antigen after the resection of cerebral alveolar hydatid cyst.
J Surg Case Rep 2025(2) rjaf072
12. Sato H., Takekawa M., Yuzawa S., Motohashi M., Matsuda S., Adachi M. (Mar 2025)
Tongue squamous cell carcinoma masked by herpes simplex virus infection: A case report.
Oncol Lett 29(5) 248
13. Kusumi Y., Hasebe T., Hayashi M., Kamikokura Y., Otake S., Hayashi H., Ota Y., Nakajima S., Aso K., Sawada K., Tanino M., Fujiya M. (Mar 2025)
Hepatocellular Carcinoma Arising Adjacent to Antiphospholipid Syndrome-associated Hepatic Infarction in a Non-cirrhotic Liver.
Intern Med 未
14. Nagasue K., Kida R., Shigaki R., Nitanai K., Yagita A., Yanada H., Umekage Y., Mori C., Minami Y., Funayama T., Yamamoto M., Tanino M., Yoshida R., Sasaki T. (Oct 2024)
Treatment of lung adenocarcinoma with chemotherapy helps mitigate chronic myeloid leukaemia progression: A case report.
Oncol Lett 2024 Oct 25; 29(1): 31

15. Hayasaka T., Ono T., Takeuchi T., Sato A., Kikuchi Y., Kinebuchi T., Tanino M., Okada M., Nakagawa N. (Aug 2024)
 Fulminant Streptococcus suis Infection Causing Myocardial Damage and Toxic Shock-Like Syndrome: A Case Report.
Cureus. 2024 Aug; 16(8): e66625

研究発表

1. 湯澤 明夏 (2024年5月)
 臨床病理検討会2
 第42回日本脳腫瘍病理学会
2. 谷野 美智枝 (2024年11月)
 Transbronchial lung cryobiopsy and Multidisciplinary discussion for diagnosis of Interstitial lung diseases.
 76th Annual Fall Meeting of the Korean Society of Pathologists / The 1st International Congress of KSP / 8th Asia-Australasia Pulmonary Pathology Society Annual conference

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
谷野 美智枝	継続	基盤研究(C)	肺がん背景肺に潜むゲノム・エピゲノム異常の徹底的マッピングによる発がん機序の解明

集中治療部

Intensive Care Medicine

所属教員等

集中治療部

准 教 授	小北 直宏
助 教	岩原 素子
助 教	國岡 信吾
助 教	竹吉 大輔

研究発表

1. 川口 哲, 小泉 明子, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 中川 直樹, 岡田 基 (2025年3月)
急性冠症候群に難治性心室細動を合併した患者の短期予後についての後方視的研究
第52回日本集中治療医学会 学術集会
2. 小泉 明子, 川口 哲, 三田村 昂亮, 滝口 僚也, 岩原 素子, 中嶋 駿介, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2025年3月)
ビタミンB1欠乏を背景とした乳酸アシドーシスにより心停止に至った1例
第52回日本集中治療医学会 学術集会
3. 丹保 亜希仁 (日本版敗血症診療ガイドライン 2024 特別委員会急性血液浄化班) (2025年3月)
CQ4: 急性血液浄化
第52回日本集中治療医学会 学術集会
4. 丹保 亜希仁 (2025年3月)
ポイントオブケア肺超音波～ICU編～
第52回日本集中治療医学会 学術集会
5. 丹保 亜希仁 (2025年3月)
私が考える論文作成のポイント
第52回日本集中治療医学会 学術集会
6. 國岡 信吾, 吉田 巧, 成瀬 大輔,瀬戸川 友紀, 筒井 真博, 菊池 悠太, 若林 尚宏, 小山 恒平, 紙谷 寛之 (2024年11月)
種々のナノファイバースキャフォールドの生体内分解挙動の解析
第77回日本胸部外科学会 定期学術集会
7. 川口 哲, 佐藤 寛起, 難波 亮, 國岡 信吾, 吉田 有里, 中嶋 駿介, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2024年10月)
当院の後ろ向き研究から見えてくるコーニス症候群の特徴と管理方法
第52回日本救急医学会 学術集会
8. 小泉 明子, 中嶋 駿介, 難波 亮, 佐藤 寛起, 黒嶋 健起, 川口 哲, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2024年10月)
非糖尿病患者における重症低血糖症例の検討
第52回日本救急医学会 学術集会
9. 中嶋 駿介, 難波 亮, 佐藤 寛起, 黒嶋 健起, 川口 哲, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2024年10月)
コロナ禍を経た夜間・休日時間外外来受診動向の変遷
第52回日本救急医学会 学術集会
10. 松村 美和, 丹保 亜希仁, 岩原 素子, 津田 淳希, 佐藤 雅之, 石羽澤 映美, 長森 恒久, 岡田 基 (2024年10月)
肺炎球菌性髄膜炎にTMAを合併した1例
第48回北海道救急医学会 学術集会
11. 小泉 明子, 中嶋 駿介, 佐藤 研斗, 山下 雅廣, 松村 美和, 千葉 凌, 滝口 僚也, 難波 亮, 佐藤 寛起, 岩原 素子, 川口 哲, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2024年10月)
ナファモスタットが主な誘因と思われる透析関連アレルギーを来たした1例
第48回北海道救急医学会 学術集会
12. 佐藤 寛起, 丹保 亜希仁, 小北 直宏, 岡田 基 (2024年10月)
長距離搬送を要する重症肝損傷症例に対するREBOAの使用経験
第48回北海道救急医学会 学術集会

周産母子センター

Center for Maternity and Infant Care

所属教員等

周産母子センター

教 授	長屋 建
講 師	岡本 年男
講師(学内)	金井 麻子
助 教	横浜 祐子
助 教	吉澤 明希子
助 教	二井 光磨

地域小児医療支援講座

特任助教 野原 史勝

研究業績紹介

周産母子センターは産婦人科の産科部門と小児科の新生児部門が共同して運営しているため、各部署で独立した研究活動をしている。また、大学診療部門として学会発表や論文は主に臨床研究に重点を置いている。

産科部門では2名の臨床遺伝専門医が周産期における遺伝診療に関する研究を継続しており、さらに金井講師は周産期救急にも力を入れて国内において精力的に活動している。

新生児部門では、岡本講師がダウントン症候群に見られる一過性骨髓異常増殖症に関して「乾燥臍帯を用いたGATA1遺伝子解析-TAMの診断スコアリングシステム構築」をテーマに文部科学省科学研究費を獲得し研究を継続している。新生児期に臨床的には一過性骨髓異常増殖症と診断が付けられなかった子ども達の将来的な巨核芽球性白血病の発症リスクを、乾燥臍帯のGATA1遺伝子バリエントを検出することで予測することを目標にしている。

二井助教による早産児における鉄代謝の研究が、旭川医科大学小児科学教室における優秀研究に与えられる吉岡賞を獲得した。今後、早産児の鉄利用がうまくいかない原因を探るべく研究を継続している。

長屋は母乳育児や医療的ケア児の視点から、周産期における様々な要因が母子に与える影響を調査報告している。

道北道東地区の高度周産期医療を提供する周産期母子医療センターとして、臨床的な研究論文や発表を継続的に行い、臨床面だけでなく研究面においても地域における役割を果たしている。

論文

1. Ohkuchi A., Suzuki H., Kanai A., Fukuda M., Takeda Y., Fuseya C., Nomiyama M., Ushida T., Watanabe K., Kono Y., Naruse K., Seki H., Saito S. (Oct 2024)
Early-onset preeclampsia/gestational hypertension may be associated with a low incidence of cerebral palsy at 3 years old in singleton very low-birth-weight infants born at 28–31 weeks of gestation (EOPE-DQ study): a multi-center retrospective cohort study in 2013–2016.
Hypertension Research 48(1): 88-101

症例報告

1. Nakajima E., Yokohama Y., Sugiyama S., Taketazu M., Mitsube K., Yamada T., Anna Hammarsjö, Giedre Grigelioniene, Gen Nishimura, Makita Y. (Dec 2024)
Unclassifiable short-rib thoracic dysplasia diagnosed using targeted gene panel sequencing.
Hum Genome Var. 3;11(1): 44

2. Yokohama Y., Makita Y., Oishi Y., Nagaya K., Suzuki S., Kato Y. (Mar 2025)
 Can fetal ultrasound predict adrenal hypoplasia congenita caused by Xp21 deletion?
Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 51(4): e16276

研究発表

1. 金井 麻子, 中西 研太郎 (2024年6月)
 特別企画: 鉗子分娩講習会
 第21回 北海道周産期談話会
2. 金井 麻子, 横浜 祐子, 吉澤 明希子, 中西 研太郎, 石川 雄大, 酒井 美穂, 土川 恵, 加藤 育民 (2024年7月)
 妊娠中期までアンジオテンシンII受容体拮抗薬を内服し、内服中止後に胎児水腫となったが生児を得た一例
 第60回 日本周産期・新生児学会 学術講演会
3. 金井 麻子 (2024年9月)
 シンポジウム① へき地離島における潜在的周産期医療危機を考える 迫り来る周産期医療危機 ～いま私たちに出来ることは? (北海道・道北地方編)
 第9回 ALSO-Japan 学術集会
4. 金井 麻子 (2024年10月)
 帝王切開創部の菲薄化予防の取り組み
 北海道産科婦人科 Master's Seminar '24
5. 金井 麻子, 影近 瑠唯, 津村 亜依, 石川 雄大, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 横浜 祐子, 加藤 育民 (2024年10月)
 当学の非侵襲性出生前遺伝学的検査再開後の出生前診断数の推移
 第26回 北海道出生前診断研究会
6. 吉澤 明希子, 石川 雄大, 中西 研太郎, 金井 麻子, 横浜 祐子, 加藤 育民 (2024年4月)
 一過性骨髓異常増殖症症例の胎盤病理所見と周産期経過の検討
 第76回 日本産科婦人科学会 学術講演会
7. 横浜 祐子, 酒井 美穂, 加藤 育民 (2024年8月)
 小中学校における子宮頸がん啓発活動の障壁 - 需要に関するアンケート調査から考える -
 第43回 日本思春期学会 総会・学術集会
8. Yokohama Y., Makita Y., Yuzawa S., Tanino M., Kato Y. (Oct 2024)
 Our approach to genetic diagnosis and management of Hereditary Leiomyomatosis and Renal Cell Cancer.
 日本人類遺伝学会 第69回 大会
9. 横浜 祐子, 湯澤 明夏, 影近 瑠唯, 石川 雄大, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 金井 麻子, 加藤 育民 (2024年10月)
 先天性上部消化管閉鎖症における臍帯潰瘍出血例でみられた Chorioamniotic membrane separation の報告
 第26回 北海道出生前診断研究会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
岡本 年男	継続	基盤研究(C)	乾燥臍帯を用いたGATA1遺伝子解析-TAMの診断スコアリングシステム構築

経営企画部

Management Planning

所属教員等

経営企画部

教 授 沖崎 貴琢
准 教 授 谷 祐児

研究業績紹介

経営企画部では、病院における病院情報システムの管理、企画、運営などのほか、病院管理及び病院経営に関する支援業務を行っております。研究においても、これらの業務に関連する情報セキュリティや医療情報リテラシー、医療情報システムの構築やそれらの利活用といった病院情報システムに関する研究をはじめ、病院情報システム内に蓄積される様々な診療データや業務データの利活用に関する研究、病院経営や病院管理に関する研究をおこなっております。また、これらの研究は、経営企画部単独での研究はもちろんのこと、本学他診療科や講座、他大学、企業との共同研究も積極的に進めており、それらの成果は関連学会での発表や講演、論文投稿等により公表しております。

総説・解説

1. 谷 祐児 (2024年9月)
病院セキュリティにおける最新技術の期待と課題
月刊新医療 51(9) 96-99
2. 谷 祐児 (2025年2月)
経営視点で考える 医用画像管理の在り方 - 運用管理や新技術の導入について
ITVIsion 53 20-21

論文

1. Matsuoka K., Hibiya S., Ando K., Tani Y., Torisu T., Ogin H., Yamashita T., Andoh A., Sugimoto Y., Matsumoto T., Iwanaga Y., Suda T., Kobayashi T. (Jun 2024)
A Continuous Registry of Medical Record, Patient Input, and Epidemiological Data of Patients With Ulcerative Colitis: a Multicentre, Prospective, Observational Clinical Registry Study in Japan.
Ann Clin Epidemiol 6(3) 65-72
2. 谷 祐児 (2024年10月)
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が病院経営に与えた影響
商学討究 75(2) 397-407

研究発表

1. 谷 祐児 (2024年8月)
指紋認証 IC カードを利用した二要素認証対応システムの有用性について
第 52 回 日本 M テクノロジー学会 大会
2. 谷 祐児 (2024年10月)
簡易外部接続型セキュリティデバイスの医療機器における効果検証
第 1 回 日本放射線医療技術学術大会
3. 谷 祐児 (2024年11月)
生体認証 IC カードを利用した二要素認証対応システムの実装検証
第 44 回 医療情報学連合 大会
4. 谷 祐児 (2024年11月)
既設アクセスポイントによる Wi-Fi を利用した位置検知システムの実用化に向けた実証検証
第 44 回 医療情報学連合 大会
5. 谷 祐児 (2024年11月)
医用画像管理における運用管理や新技術の導入における経営視点での考え方
第 44 回 医療情報学連合 大会
6. 谷 祐児 (2025年1月)
病院で働くスタッフにとっての個人情報とは
兵庫県立尼崎総合医療センター 個人情報保護セミナー

臨床研究支援センター

Clinical Research Support Center

所属教員等

臨床研究支援センター

教 授 松本 成史
教 授 田崎 嘉一
教 授 本間 大
講師(学内) 神山 直也
講師(学内) 眞鍋 貴行

著書

1. 神山 直也 (2024 年 9 月)
〔5〕研究計画の立案～フルプロトコル作成のプロセス
<ICH E6(R3)・E8(R1)/改正 GCP ガイダンス> 臨床試験/臨床研究における QMS 実装(Issue マネジメント・CAPA 策定)と 試験デザインへの QbD 活用 66-76

研究発表

1. 堀 康子, 眞鍋 貴行, 小川 真澄, 北川 美雪, 青木 菜月, 畑山 幸恵, 近藤 夕子, 神山 直也, 田崎 嘉一, 松本 成史 (2024 年 9 月)
被験者組み入れ促進を目指した地域フリーペーパーへの被験者募集広告の工夫
第 24 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 in Sapporo
2. 眞鍋 貴行 (2024 年 9 月)
ICF 共通テンプレートを導入して感じた温度感
第 24 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 in Sapporo
3. 松山 琴音, 菅野 仁士, 大塚 俊昭, 浅野 健人, 神山 直也, 筒井 直樹, 広田 沙織, 岡崎 愛, 吉田 幸恵, 上村 尚人 (2024 年 12 月)
Quality by Design を用いた研究計画立案及び実装を可能とする研究支援体制構築に向けたプロジェクト計画支援ツールの作成
第 45 回 日本臨床薬理学会 学術総会
4. 岡崎 愛, 神山 直也, 吉田 幸恵, 広田 沙織, 浅野 健人, 菅野 仁士, 大塚 俊昭, 筒井 直樹, 上村 尚人, 松山 琴音 (2024 年 12 月)
QbD におけるコミュニケーションと IQRMP の検討
第 45 回 日本臨床薬理学会 学術総会
5. 浅野 健人, 岡崎 愛, 神山 直也, 吉田 幸恵, 広田 沙織, 菅野 仁士, 大塚 俊昭, 筒井 直樹, 上村 尚人, 松山 琴音 (2025 年 2 月)
医師/研究者の臨床試験の品質に関する知識における環境要因の検討
日本臨床試験学会 第 16 回 学術集会 総会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
神山 直也	継続	基盤研究(C)	医療職経験のない臨床研究支援専門職がアカデミアで直面する困難さの分析

遺伝子診療カウンセリング室

Department of Genetic Counseling

所属教員等

遺伝子診療カウンセリング室

教 授 蒔田 芳男

外科（血管・呼吸・腫瘍）

教授(病院) 北田 正博

腫瘍センター

教授(病院) 田邊 裕貴

小児科

講 師 鈴木 滋

周産母子センター

講師(学内) 金井 麻子

助 教 横浜 祐子

研究業績紹介

遺伝子診療カウンセリング室では、①小児期発症遺伝性疾患、②出生前診断、③成人発症遺伝性疾患、④家族性がんなど主に4領域に関わる遺伝カウンセリングと遺伝学的検査の選択・提出業務を扱っています。臨床遺伝専門医制度における研修施設として認定されており、専攻医の養成も担っています。

この4領域に含まれない「希少・未診断疾患」に関しては、道北・道東地域の拠点病院として2015年からAMED主導の研究プロジェクト「Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases」（略称：IRUD）に参画しています。このプロジェクトでは、当初のエクソーム解析から現在は全ゲノム解析に移行しており、自前の解析技術がなくても日本最先端の技術を患者さんに提供可能です。当カウンセリング室の共同研究は、学内（小児科、腎臓内科、血管外科、眼科）および学外（道立旭川子ども総合療育センター、富良野協会病院、遠軽厚生病院、市立釧路総合病院、旭川厚生病院）に広がっており、その成果は2022年度末に学内講演会として公開されました。

また家族性がんに関わる患者さんやそのご家族、医療従事者への支援活動にも力を入れており、「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展の開催や、遺伝性乳がん卵巣がん当事者会である特定非営利活動法人クラヴィスアルクスの理事長・太宰牧子氏を迎えた公開講演会などを企画・開催しています。

論文

1. Okano S., Makita Y., Ueda Y., Miyamoto A., Tanaka H., Yanagi K., Kaname T. (Jun 2024) ATP1A3 potentially causes hereditary spastic paraparesis: A case report of a patient presenting with lower limb spasticity and intellectual disability. **Brain and Development Case Reports** 2(2) 100016
2. Nakajima E., Yokohama Y., Sugiyama S., Taketazu M., Mitsube K., Yamada T., Hammarskjö A., Giedre Grigelioniene, Nishimura G. & Makita Y. (Dec 2024) Unclassifiable short-rib thoracic dysplasia diagnosed using targeted gene panel sequencing. **Human Genome Variation** 11(2)
3. Tanabe H., Koshizuka Y., Tanaka K., Takahashi K., Ijiri M., Takahashi K., Ando K., Ueno N., Kashima S., Sarashina T., Moriuchi K., Mitsube K., Mizukami Y., Fujiya M., Makita Y. (Dec 2024) High-resolution genetic analysis of whole APC gene deletions: a report of two cases and patient characteristics. **Human Genome Variation** 11(2)

4. Saito S., Suzuki S., Izumi K., Kamiyama T., Saito K., Yamamura H., Kokumai T., Furuya A., Taketazu G., Makita Y., Niida Y., Takahashi S. (Feb 2025)
 Clinical and Molecular Genetic Analyses of a Girl With Isolated Nephrogenic Diabetes Insipidus due to Contiguous Gene Deletion Involving AVPR2 and L1CAM.
American journal of medical genetics. Part A e64024

著書

1. 蒔田 芳男 (2024年11月)
 医療者教育はどのように行われているか
全ゲノム・エクソーム解析時代の遺伝医療、ゲノム医療における倫理・法・社会
2. 井本 逸勢, 佐村 修, 清水 健司, 蒔田 芳男, 矢部 一郎, 山田 崇弘 (編集委員会) (2024年12月)
 コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート改訂第2版 - ゲノム医療に必要な考え方を身につける -
 コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート改訂第2版 - ゲノム医療に必要な考え方を身につける -

研究発表

1. 田丸 英樹, 佐々木 勇氣, 三好 雄大, 蒔田 芳男, 高橋 悟, 棚橋 祐典 (2024年4月)
 膀胱尿管逆流と低位鎖肛を合併した16番染色体関連 α サラセミア/精神遅滞(ATR-16)症候群の一例
 第127回日本小児科学会 学術集会
2. Shonaka T., Tani C., Takeda T., Shimazaki R., Shimazaki S., Ohara M., Hasegawa K., Taninno M., Makita Y., Yokoo H. (2024年7月)
 Clinicopathologic features of MSI-H colorectal cancer and meaning as a biomarker.
 第79回日本消化器外科学会 総会
3. 蒔田芳男,岡田哲弘,高橋賢治,梅津真祐子,鎌仲知美,水上裕輔,田邊裕貴 (2024年8月)
 がん遺伝子パネル検査での二次的所見の開示に苦慮したmosaic findingの一例
 第48回日本遺伝カウンセリング学会
4. Yokohama Y., Makita Y., Katou Y., Tanino M., Yuzawa S. (Oct 2024)
 Our approach to genetic diagnosis and management of hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer (HLRCC).
 日本人類遺伝学会 第69回大会
5. Okano S., Makita Y., Ueta Y., Mitamoto A., Tanaka H., Yanagi K., Kaname T. (Oct 2024)
 ATP1A3 potentially causes hereditary spastic paraparesis: a rare case of pediatric patient.
 日本人類遺伝学会 第69回大会
6. Igarashi A., Makita Y., Kobayashi N., Abe Y., Fujii Y., Aoki T., Iida T., Yamamori M., Hidai T., Omata M., Sultana S., Sato K., Yanagi K., Matsubara Y., Kaname T. (Oct 2024)
 Evaluation of novel ADAMT3 abnormalities found in patients with Hennekam lymphangiomatosis-lymphedema syndromes.
 日本人類遺伝学会 第69回大会
7. 金井 麻子, 影近 瑠唯, 津村 亜依, 石川 雄大, 中西 研太郎, 吉澤 明希子, 横浜 祐子, 加藤 育民, 蒔田 芳男 (2024年10月)
 当学の非侵襲性出生前遺伝学的検査再開後の出生前診断数の推移
 第26回北海道出生前診断研究会
8. 蒔田 芳男 (2025年3月)
 カムラティ・エンゲルマン症候群 (Camurati-Engelmann disease) の全国調査結果
 第47回日本小児遺伝学会 学術集会
9. 竹口 謙, 蒔田 芳男, 芳賀 俊介, 福田 郁江, 宮本 晶恵, 田中 肇, 柳 久美子, 要 匡, 高橋 悟 (2025年3月)
 睡眠障害と癰瘍により育児負担が大きかったPACS1症候群の2例
 第44回日本小児神経学会 北海道地方会
10. 蒔田 芳男 (2025年3月)
 大学教員は生成AIとどのように向き合えばいいのか? ~いまさら聞けないAIの進歩~
 令和6年度 日本看護研究学会 北海道地方会 特別講演会

透析センター

Dialysis Center

所属教員等

透析センター

教 授 中川 直樹
講 師 松木 孝樹
助 教 松元 慈

総説・解説

1. 松木 孝樹, 田邊 康子, 中川 直樹 (2024年5月)
特集: 透析患者の心不全パンデミックに立ち向かう, 7 心房細動に対する薬物療法
臨床透析 40(5) 505-511

研究発表

1. 中川 直樹 (2024年6月)
移行医療(保存期～透析期)の問題点 Transition 時の就労支援
第69回日本透析医学会 学術集会・総会
2. 中川 直樹 (2024年6月)
私の透析管理(老若男女)
第69回日本透析医学会 学術集会・総会
3. 中川 直樹, 佐久間 寛史, 石沢 令奈, 松木 孝樹, 和田 篤志 (2024年6月)
北海道における新規透析導入患者数と原疾患の経年変化
第69回日本透析医学会 学術集会・総会
4. 中川 直樹 (2024年6月)
高血圧症治療の再評価
第69回日本透析医学会 学術集会・総会
5. 成田 孝行, 中川 直樹, 松木 孝樹 (2024年6月)
個人用透析装置 リンスポート部汚染によるカビ発生の経験
第69回日本透析医学会 学術集会・総会
6. 松元 慈, 佐久間 寛史, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年6月)
地域別・原疾患別にみた新規透析導入者数の推移
第69回日本透析医学会 学術集会・総会
7. 山田 一紀, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年6月)
Mycobacterium chelonae による出口部感染症に対して局所温熱療法が有効であった一例
第69回日本透析医学会 学術集会・総会
8. 松木 孝樹, 石沢 令奈, 佐久間 寛史, 中川 直樹 (2024年6月)
都道府県別・原疾患別にみた新規透析導入者数の動向
第67回日本腎臓学会 学術総会
9. 佐久間 寛史, 石沢 令奈, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年6月)
北海道における新規透析導入患者の経年変化に関する検討
第67回日本腎臓学会 学術総会
10. 酒井 謙, 祖父江 理, 濱崎 祐子, 中井 真一, 中川 直樹 (2024年6月)
ライフスタイルに着目した慢性腎臓病(腎移植患者)対策に資する研究
第67回日本腎臓学会 学術総会
11. Sakuma H., Kanno Y., Miura S., Ishizawa R., Hayashi N., Matsumoto M., Matsuki M., Nakagawa N. (Sep 2024)
Demographic and time-trend analysis of Japanese octogenarians undergoing dialysis using a web-based database.
The Kidney Health In Aging and Aged Societies: JSN/ERA Symposium Collaboration with JSDT
12. Sakuma H., Kanno Y., Miura S., Ishizawa R., Hayashi N., Matsumoto M., Matsuki M., Nakagawa N. (Sep 2024)
Trends in the underlying diseases of new dialysis patients in Hokkaido.
The Kidney Health In Aging and Aged Societies: JSN/ERA Symposium Collaboration with JSDT

13. 武田 紗季, 中尾 汐里, 鈴木 彩菜, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年9月)
レボフロキサシン(LVFX)によるアキレス腱炎・断裂が疑われた透析患者の2例
第54回日本腎臓学会東部学術大会
14. 中尾 汐里, 武田 紗季, 鈴木 彩菜, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年9月)
門脈大循環シャントによる意識障害を呈した維持透析患者の2例
第54回日本腎臓学会東部学術大会
15. 石沢 令奈, 菅野 有佑, 内田 紗瑛子, 林 望美, 松元 慶, 佐久間 寛史, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年9月)
旭川医科大学病院における腹膜透析診療開始のための取り組み
第101回北海道透析療法学会
16. 中尾 汐里, 武田 紗季, 鈴木 彩菜, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年9月)
Roseomonas mucosa による腹膜透析関連腹膜炎の一例
第101回北海道透析療法学会
17. 下斗米 史恵, 土田 裕樹, 平野 瑞歩, 成田 孝行, 宗万 孝次, 工藤 紘子, 田中 理佳, 太田 一美, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年9月)
急性期病院における透析室での避難訓練と災害対策マニュアルの見直し
第101回北海道透析療法学会
18. 成田 孝行, 松本 紗季, 高橋 理乃, 宗万 孝次, 松木 孝樹, 中川 直樹 (2024年9月)
個人用透析装置リソスポート部汚染によるカビ発生の経験と対策
第101回北海道透析療法学会
19. 中尾 汐里, 武田 紗季, 鈴木 彩菜, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年11月)
Kocuria marina による腹膜透析関連腹膜炎の一例
第30回日本腹膜透析医学会 学術集会・総会
20. 武田 紗季, 中尾 汐里, 鈴木 彩菜, 和田 篤志, 平山 智也, 石田 裕則, 中川 直樹 (2024年11月)
Achromobacter xylosoxidans によるPD関連腹膜炎の1例
第30回日本腹膜透析医学会 学術集会・総会
21. 松元 慶, 神 英里, 五十嵐 謙人, 入宇田 智子 (2024年11月)
肝硬変合併の末期腎不全に対して腹膜透析を導入した一例
第30回日本腹膜透析医学会 学術集会・総会

医療安全管理部

Department of Patient Safety

所属教員等（専従）

医療安全管理部
教 授 林 達哉

研究業績紹介

医療安全管理部では、日々発生するインシデント、医療事故に対して、原因究明の調査とそれに基づく改善策の立案やその評価を行っており、その調査手法、改善策の評価、実績について、他施設の参考と思われる内容の発表活動を国内外の学会にて行っております。

また毎年行っている病院全部署を挙げての「各部門における安全への取り組み」は、2001年よりコロナ禍でも中止することなく継続して行っておりますが、これは厚生労働省の医療安全文化ベストプラクティス賞受賞を始め、数々の受賞歴があり、厚生局の医療監視や特定機能病院における相互のピアレビューにおいても毎年高い評価をいただいており、病院内における医療安全文化の醸成と医療の質向上に貢献する研究活動となっています。

安全への取り組みの特に優れた演題については、毎年3演題程度を医療の質・安全学会にて発表を行っていただき、当院での取り組み実績を学外へ発信するとともに、部署においては医療安全に対するモチベーションの向上に寄与しています。

また当院で企業と共に新規開発した重要診断情報伝達漏れ防止システム (AiR: AMU Information Rescue) は、稼働開始後も細かなアップデートを重ねており、国立大学病院を含む他病院より問い合わせが相次いでおり、各病院間でそれぞれ異なる運用を行っている画像・病理の未読未説明防止システムの標準化に寄与するものとなっております。

原著論文

1. Sato R, Komatsuda H, Inoue T, Wakisaka R, Kono M, Yamaki H, Ohara K, Kumai T, Kishibe K, Hayashi T, Takahara M.
Combined approach for predicting the efficacy of nivolumab in head and neck carcinoma by tissue and soluble expressions of PD-L1 and PD-L2.
Head Neck. 2024 Sep;46(9):2233-2243. doi: 10.1002/hed.27787. Epub 2024 Apr 26. PMID: 38665131
2. Sato R, Wakisaka R, Komatsuda H, Yamaki H, Ohara K, Kumai T, Kishibe K, Nakagawa N, Hayashi T, Takahara M.
A comparison of the clinical efficacy of tonsillectomy with steroid pulse therapy and tonsillectomy therapy alone for patients with immunoglobulin A nephropathy: a retrospective observational study.
M.Clin Exp Nephrol. 2024 Jun 18. doi: 10.1007/s10157-024-02527-1. Online ahead of print. PMID: 38888720
3. Kudoh R, Komiya K, Kaku N, Shindo Y, Hayashi T, Kasahara K, Oishi T, Ishiwada N, Ito M, Yotsuyanagi H, Hasegawa N, Tateda K, Hotomi M, Yanagihara K.
Impact of Education on Inappropriate Antibiotic Prescription for Respiratory Tract Infection Based on Physicians' Justifications: A Web-Based Survey in Japan.
Antibiotics (Basel) 2024 Oct 30;13(11):1022. doi: 10.3390/antibiotics13111022.
4. 宮越 薫, 熊井 琢美, 大原 賢三, 岸部 幹, 林 達哉, 高原 幹 (2024年6月)
Marine-Lenhart症候群(MLS)の1例
頭頸部外科 2024; 34(1), 99-103.
5. 井上 貴博(旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科), 熊井 琢美, 大原 賢三, 岸部 幹, 林 達哉, 高原 幹 (2024年12月)
歯性感染症を契機に膿瘍形成をきたした3例.
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌 2024; 4(4), 189-195.

総説・解説

1. 林 達哉 (2024年6月)
目で診る！口腔・咽頭病変.
口腔・咽頭科 2024; 37(2), 101-105.
2. 林 達哉 (2024年10月)
臓器別に斬る小児の感染症 最適な抗菌薬の選択と期間とは? 急性中耳炎.
小児科診療 2024; 87, 87-91.
3. 林 達哉 (2024年12月)
病的所見と紛らわしい口腔内の正常構造.
ENTONI 2024; (304), Page1-4.
4. 林 達哉 (2024年12月)
小児急性中耳炎診療ガイドライン 2024年版 改訂のポイント
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌 2024; 4 (4), 197-200.
5. 林 達哉 (2025年3月)
口腔・咽頭疾患の視診上のポイント
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会誌 2025; 128(3), 235-239

研究発表

1. 飯田 慎也, 岩田 達也, 中村 智美, 阿部 由希子, 小野寺 美子, 黒澤 温, 林 達哉, 田崎 嘉一, 松本 成史 (2024年11月)
ナトリウム・グルコース共輸送体2阻害薬による周術期正常血糖ケトアシドーシスのモニタリング
体制構築と運用効果の検証
第19回 医療の質・安全学会

教育講演等

1. 林 達哉 (2024年9月6日)
What's New: 2024年版小児急性中耳炎診療ガイドライン.
第37回日本口腔・咽頭科学会 (和歌山市)
2. 林 達哉 (2024年9月7日)
徹底解説！ 2024年版小児急性中耳炎診療ガイドライン.
第57回信耳会 (松本市)
3. 林 達哉 (2024年11月7日)
失敗から学ぶ・考える 重要情報伝達エラー～「画像・病理診断レポート」から「生体情報モニターアラーム」まで～.
札幌東徳洲会病院医療安全対策委員会 (札幌市)
4. 林 達哉 (2025年2月20日)
2024年版小児急性中耳炎ガイドライン一改訂の意味と応用ー
第131回富山県耳鼻咽喉科臨床研究会 (富山市)

薬剤部

Pharmacy Department

所属教員等

薬剤部

教 授	田崎 嘉一
准 教 授	中馬 真幸
客員教授	栗屋 敏雄
客員講師	田原 克寿

看護学講座

准 教 授	眞鍋 貴行
-------	-------

臨床研究支援センター

講師(学内)	神山 直也
--------	-------

研究業績紹介

薬剤部では、様々な疾患に対する治療薬の「有効性と安全性を評価する」研究を展開しており、医薬品の適正使用を推進するエビデンスの創出を目指している。特に、①難治性神経変性疾患(パーキンソン病)に対する治療薬開発、②感染症治療薬に対する安全で効果的な治療法の確立、③薬剤師業務に対する評価などのテーマに注力している。研究には、疾患モデル動物や培養細胞を用いた基礎研究、臨床検体や医療情報を活用した臨床研究と様々な手法を用いており、テーマや特性に応じて複数の手法を組み合わせて研究を展開している。

2024年度は、論文発表4回(国際誌1報、国内誌3報)、学会発表11回(国内学会11回)を行った。①のパーキンソン病に対する研究では、慶應義塾大学との共同研究により、モデル動物の病態の進行を抑制する新規化合物を取得した。申請していた特許が承認され、治療薬としての開発を継続している。②の感染症治療に関する研究では、進展著しい「医療ビッグデータ解析」を積極的に活用している。フルオロキノロンと大動脈疾患との関連について(Miyata K, Chuma M et al, Biomed Pharmacother)について、徳島大学、岡山大学との共同研究に参画し、論文発表した。③の薬剤師業務に関する研究では、導入した新規システムの薬剤師業務への影響を検討した。調剤システムおよび麻薬管理システムを一新し、それぞれのシステム導入による薬剤師業務の安全性の向上、業務の効率化について報告した(吉田光一, 田崎嘉一ら. 医療の質・安全学会誌; 山本香緒里, 田崎嘉一ら. 日病薬誌)。

今後も、医薬品に関する諸問題を解決する研究を精力的に展開し、他機関との共同研究も積極的に取り入れながら、継続的に成果を発信していく予定である。

総説・解説

1. 野原宗一郎, 山本譲, 岩井里紗, 菅谷香緒里, 折橋晃子, 吉田光一, 中馬真幸, 田崎嘉一, 岩山訓典(2024年11月)
調剤過誤に対する調剤・鑑査支援システム導入の有効性の検討
北海道病院薬剤師会誌(107) 3-6

論文

1. 吉田光一, 山本譲, 飯田慎也, 中馬真幸, 田崎嘉一(2024年7月)
調剤・鑑査をサポートするITシステムの導入は調剤過誤を減少させ患者安全の向上に寄与する
医療の質・安全学会誌 19(3): 290-295
2. 野崎尋意, 岸部麻里, 菅野恭子, 井川哲子, 本間大, 中馬真幸, 田崎嘉一, 山本明美(2024年4月)
旭川医科大学皮膚科でエリテマトーデスに対してヒドロキシクロロキンを導入した30症例のまとめ
日本皮膚科学会雑誌 134(4) 733-741

3. 山本香緒里, 山本譲, 飯田慎也, 菅谷香緒里, 山下恭範, 小野尚志, 黒澤温, 小野寺美子, 谷祐児, 中馬真幸, 田崎嘉一 (2025年3月)
二次元コードを活用した手術部門システム等との連動を中心とする麻薬管理システムの再構築と評価
日本病院薬剤師会雑誌 61(3): 239-244
4. Miyata K., Izawa-Ishizawa Y., Tsujinaka K., Nishi H., Itokazu S., Miyata T., Kondo M., Yoshioka T., Niimura T., Aizawa F., Yagi K., Sato M., Hyodo M., Hamano H., Kawada K., Chuma M., Zamami Y., Tsuneyama K., Goda M., Ishizawa K. (Oct 2024)
Unveiling the association between fluoroquinolones and aortic diseases using real-world database analysis and pharmacological experiments.
Biomedicine & Pharmacotherapy Oct: 179: 117418

研究発表

1. 菅谷 香緒里, 神山 直也, 貞鍋 貴行, 山本 香緒里, 山本 譲, 小野 尚志, 中馬 真幸, 小野寺 美子, 田崎 嘉一 (2024年5月)
ヒドロモルファン塩酸塩注導入直後の用量変更の発生状況
第17回日本緩和医療薬学会年会
2. 野原 宗一郎, 山本 譲, 岩井 里紗, 折橋 晃子, 吉田 光一, 菅谷 香緒里, 岩山 訓典, 中馬 真幸, 田崎 嘉一 (2024年7月)
調剤過誤に対する調剤・鑑査支援システム導入の有効性の検討
第71回北海道薬学会大会
3. 山田 峻史, 磯部 太志, 中馬 真幸, 田崎 嘉一 (2024年7月)
救急医療における薬剤師の薬学的介入のポイント～一步踏み込んだ提案の実践～4.体液管理
第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会
4. 堀 康子, 貞鍋 貴行, 小川 真澄, 北川 美雪, 青木 菜月, 畑山 幸恵, 近藤 夕子, 神山 直也, 田崎 嘉一, 松本成史 (2024年9月)
被験者組入れ促進を目指した地域フリーペーパーへの被験者募集広告の工夫
第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議
5. 坂東 寛, 合田 光寛, 小川 敦, 川田 敬, 新田 侑生, 櫻田 巧, 桐野 靖, 平井 啓太, 中瀧 理仁, 中馬 真幸, 内藤 隆文, 沼田 周助, 田崎 嘉一, 石澤 啓介 (2024年11月)
医療ビッグデータ解析を基盤としたラモトリギンによる皮膚障害発症リスクに影響する薬剤の探索
第34回日本医療薬学会年会
6. 山本 香緒里, 山本 譲, 飯田 慎也, 菅谷 香緒里, 山下 恭範, 小野 尚志, 黒澤 温, 小野寺 美子, 谷 祐児, 中馬 真幸, 田崎 嘉一 (2024年11月)
二次元コードの活用により手術部門システムとの連動を可能とした麻薬管理システムの構築と評価
第34回日本医療薬学会年会
7. 八倉巻 真衣, 小野 尚志, 寺川 央一, 武田 恵, 猪俣 茉耶, 太田 麻美, 山本 香緒里, 伊藤 亜耶, 木立 康太, 砂田 貴志, 橋場 哲也, 佐藤 竜二, 三辻 史明, 山本 譲, 中馬 真幸, 田崎 嘉一 (2024年11月)
一般名処方普及に向けた取り組みとその効果の検討
第34回日本医療薬学会年会
8. 飯田 慎也, 岩田 達也, 中村 智美, 阿部 由希子, 小野寺 美子, 黒澤 温, 林 達哉, 田崎 嘉一, 松本 成史 (2024年11月)
ナトリウム・グルコース共輸送体2阻害薬による周術期正常血糖ケトアシドーシスのモニタリング
体制構築と運用効果の検証
第19回医療の質・安全学会学術集会
9. 中馬 真幸, 合田 光寛, 座間味 義人, 濱野 裕章, 武智 研志, 新村 貴博, 石澤 有紀, 石澤 啓介, 田崎 嘉一 (2024年11月)
バイオインフォマティクス分野のデータベース解析を用いた研究 -他のデータベース解析と併用した研究の事例紹介-
第34回日本医療薬学会年会
10. 合田 光寛, 坂東 寛, 小川 敦, 川田 敬, 新田 侑生, 平井 啓太, 中瀧 理仁, 中馬 真幸, 内藤 隆文, 沼田 周助, 田崎 嘉一, 石澤 啓介 (2024年12月)
医療ビッグデータ解析を基盤としたラモトリギン誘発皮膚障害発症リスクに影響する薬剤の探索
第45回日本臨床薬理学会学術集会

11. 坂東 寛, 合田 光寛, 小川 敦, 川田 敬, 新田 侑生, 櫻田 巧, 桐野 靖, 平井 啓太, 中瀧 理仁, 中馬 真幸, 内藤 隆文, 沼田 周助, 田崎 嘉一, 石澤 啓介 (2024 年 7 月)
医療ビッグデータ解析を基盤としたラモトリギン誘発皮膚障害発症リスクに影響する薬剤の探索
第 8 回 日本臨床薬理学会 中国・四国地方会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
田崎 嘉一	継続	基盤研究(C)	新規パーキンソン病進行抑制薬の臨床開発候補化合物取得
中馬 真幸	継続	基盤研究(C)	ビッグデータの融合解析を基盤にした尿細管保護薬の開発

国際交流推進センター

Center for Promotion of
International Exchange

所属教員等

国際交流推進センター

教 授 東 信良
教 授 本間 大

総説・解説

1. 本間 大 (2024 年 11 月)

【壊疽性膿皮症の最新知見と実践的アプローチ】壊疽性膿皮症の鑑別診断 ストーマ周囲型の鑑別・特徴
皮膚科の臨床 66 卷 12 号 Page1578-1583

論文

1. Nozaki H., Honma M., Ishida-Yamamoto A. (May 2024)
Clinical Characteristics of Psoriasis Cases Treated by Biologics With an Extended Administration Interval: A Single-Center, Retrospective Observational Study.
Cureus. 16(5): e59969.

症例報告

1. Honma M., Nozaki H. (Nov 2024)
Cheilitis granulomatosa successfully treated by ustekinumab.
J Dermatol. Online ahead of print.
2. 本間 大, 小林 友紀, 本間 美穂, 谷 誓良 (2024 年 12 月)
傍ストーマヘルニアに伴ったストーマ周囲皮膚裂傷の 1 例
皮膚科の臨床 66 卷 13 号 Page1866-1867

※東信良教授の研究業績については、外科学講座（血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野）のページにて掲載。

地域共生医育センター

Center for Medical Education
and Regional Symbiosis

所属教員等

地域共生医育センター

教 授 牧野 雄一
教 授 山根 由起子
講 師 山崎 尚二郎
助 教 民谷 健太郎

研究業績紹介

地域共生医育センター（設立時の名称は医育統合センター）は、平成31年4月10日、社会の急速で多様な変化に対応して質の高い医療を提供できる人材を養成するため、入学センター、教育センター、卒後臨床研修センター、専門医育成・管理センターの連携を強化し、入学から専門医育成に至る一貫した教育指導体制を一層充実させることを目指して設立されました。

特に、北海道の急激な人口減少、高齢化、地理的気候的特性、社会インフラの衰退などに伴い、刻々と変化する医療・介護のニーズに対応可能な、医療人の育成と供給は本学が解決に寄与すべき喫緊の課題となっています。広大な北海道においては、医師・医療機関の偏在が著しく、住民の生活の安定と福祉の向上を支える医療を確保するためには、単に医師数の増加を図るだけでなく、病院総合診療、家庭・在宅医療、離島僻地医療、救急災害医療に広く精通するマルチタスク型地域医療医の育成が必要不可欠です。このため大学の新たなミッションとして地域共生医育センターに「地域医療ニーズ調査研究部門」「地域医療医育成部門」「地域医療医キャリア支援部門」の3部門を設置し、それぞれ、①各自治体や公的病院を含めたステークホルダーとの連携・協働による北海道特有の地域医療の課題の発掘と地域医療支援体制の自己点検評価と継続的改良、②課題解決に向けた新たな教育体制構築、③持続可能な地域医療課題解決のための地域医療医支援、の実践を通じて本学の機能強化およびミッション実現の更なる加速と、地域の医療提供体制改革を推進する医療基盤を社会と共に創ることを目指しています。

論文

1. Kawahata T., Tanaka K., Oyama K., Ueda J., Okamoto K., Makino Y. (May 2024) HIF3A gene disruption causes abnormal alveoli structure and early neonatal death. *PLoS One* 19(5) e0300751

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
牧野 雄一	継続	基盤研究(C)	低酸素応答性転写因子が関わる肺高血圧症と肺血管リモデリング異常の分子病態の解明

インスティテューションナル・リサーチ室

Institutional Research Office

所属教員等

インスティテューションナル・リサーチ室

教 授 松本 成史 (兼務)
講 師 井上 裕靖

研究業績紹介

本室のインスティテューションナル・リサーチ(IR: Institutional Research)とは、大学等の教学を中心とした「"機関"研究」と定義される。現在、最も広く使われている定義としては"Institutional research is research conducted within an institution of higher education to provide information which supports institutional planning, policy formation and decision making. (Joe L. Saupe 1990)"があり、"機関"の計画選定、政策形成、意思決定の支援のための情報提供を目的として、高等教育"機関"内で実施される調査研究を指す。このようにIR室では本学"機関"に関する情報を取り扱い、執行部への報告目的の分析・研究を行っている。一方、本学のIR室では、日頃のIR業務に係る調査研究のみならず、全教員が各自の専門分野を持っており、研究者でもある各教員自身のテーマに関する研究活動も尊重している。

本年度受理された査読誌では、データ収集から可視化までの一連のデータ業務の流れを自動化することで、作業の効率化を図ることができた活用事例を報告した。

IR室では本学における教育、研究・社会貢献に関し、国内外からの情報や議論を広く収集、把握した上で研究発表、論文投稿を積極的に行い、本学における"機関"研究の推進に寄与している。

論文

1. 大関智史, 松本成史 (2024年11月)

データ活用技術の応用による業務改善の取り組み～DXを推進する荷物データシステムの開発～
学術情報処理研究 28(1) 218-223

研究技術支援センター

Research Technology Support Center

所属教員等

研究技術支援センター

教 授 川辺 淳一
教 授 松本 成史
教 授 高澤 啓
准 教 授 伊藤 拓哉
講 師 笹島 仁
講師(学内) 宮園 貞治

総説・解説

1. 笹島 仁, 高草木 薫 (2025 年 3 月)
ドパミン神経様細胞におけるミトコンドリアストレス誘導性細胞死
BIO Clinica 40(3) 60-65
2. Osada K., Akiyama N., Hosono A., Ohata M., Yokoyama I., Miyazono S., Komai M. (Feb 2025)
Oregano leaf odor regulates sodium chloride consumption in mice.
Biosci Biotechnol Biochem zbab014

研究発表

1. 伊藤 拓哉 (2024 年 7 月)
マウス胎子心拍変動に対する MMB 麻酔の影響
第 20 回 北海道実験動物研究会 学術集会
2. 伊藤 拓哉 (2024 年 9 月)
妊娠マウスを対象にした MMB 麻酔投与条件の検討
第 167 回 日本獣医学会 学術集会
3. 伊藤 拓哉 (2025 年 3 月)
アカデミアの視点から観た遺伝子組み換え動物の人道的エンドポイント
日本実験動物協会 教育セミナーフォーラム 2025

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
宮園 貞治	再延長	基盤研究(C)	幼少期ストレスによる精神・身体変容の性差を生み出す脳内神経基盤の包括的理
伊藤 拓哉	継続	基盤研究(C)	胎子自律神経活性に着目した三種混合薬による妊娠マウス麻酔の最適化
笹島 仁	継続	基盤研究(C)	ミトコンドリアストレスが誘導する鉄依存的ドパミン神経変性の克服

先進医工学研究センター

Advanced Medical Engineering
Research Center

所属教員等

先進医工学研究センター

教 授 武輪 能明
准 教 授 井上 雄介
講 師 寺澤 武
助 教 佐藤 康史

研究業績紹介

先進医工学研究センターは、2020年1月に医工学の知識を基に最先端の医療機器の開発や革新的な治療技術の発案を行う拠点として設立されました。

主要研究の一つは、組織工学的手法によって作製する心臓弁の開発です。現在使われている2種類の人工心臓弁（機械弁と異種生体弁）以外の第3の人工弁として自己組織由来の生体弁を開発していますが、他の研究とは違い、皮膚の下などの患者さん本人の体の中で弁を形作る鋳型を入れて体が異物を包み込むカプセル化反応を用いて弁組織を作製し、鋳型のみを取り除いて傷害された心臓弁の部位に移し替える方法を考案し開発しています。今年度は、「官民による若手研究者発掘支援事業（社会実装目的型の医療機器創出支援プロジェクト）」および「同プロジェクトの「調整費」ならびに、「科研（基盤B）」の研究費を獲得し、小児の先天性心疾患の根治術後の肺動脈弁疾患に対する経カテーテル的留置用金属ステント付き自己組織心臓弁について、企業と共同で形状記憶合金による自己拡張型ステントを試作改良しさらに発展させ、鋳型と共に大動物の皮下に埋め込んで自己組織弁を作製し、肺動脈弁位に留置し6ヶ月以上生存させたほか、仔ヤギにも留置し成長を観察するなど開発を進めました。

もう一つの主要研究は、体外式膜型人工肺（ECMO）を用いた新規呼吸不全治療法の開発です。最近問題となった新型コロナ肺炎の患者が重症化しECMO装置を用いて治療している場合に、懸案となった生存率と重症ベッドの不足を減らすために患者の気道から薬剤を注入して積極的に治療する方法を開発するという画期的な研究です。一昨年度に確立した、大動物（成ヤギ）による重症呼吸不全モデルに、今年度は昨年度から使用している、全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害の治療薬であるシベレstattナトリウムを投与した際の効果についてさらに研究を進め、肺の障害を組織学的に低減することを明らかにし、国内外の学会で発表しました。

2つの主要研究の他に、新たな医療機器の開発や、革新的な治療技術の発案および人工心臓や人工肺を用いた特殊循環の病態生理の研究等を行っています。

旭川発世界的レベルの医療イノベーションを目指しています。より質の高い移植医療を提供するために研究開発を進めています。

論文

1. Kaneko E., Tsujisaki H., Fujiwara M., Ando H., Sato Y., Ishida T., Tani H., Tajima K. (Jul 2024)
Application of bacterial-derived long cellulose nanofiber to suspension culture of mammalian cells as a shear protectant.
International Journal of Biological Macromolecules 280(3) 135938
2. Sato Y., Inoue Y., Terazawa T., Nagayoshi T., Fujimoto K., Shiraishi I., Takamatsu K., Ohta K., Takewa Y. (Sep 2024)
Development of minimally invasive implantable autologous tissue-engineered heart valve for congenital heart disease.
The International Journal of Artificial Organs 47(7) 58

3. Inoue Y., Sato Y., Terazawa T., Nagayoshi T., Takewa Y. (Sep 2024)
Development of aggressive treatment to administer drugs directly into the trachea of patients on ecmo.
The International Journal of Artificial Organs 47(7)
4. Hijikata W., Hatakenaka K., Fujiwara T., Sakurai H., Fujita T., Ohuchi K., Inoue Y. (Sep 2024)
Prevention of pump thrombus using circular vibration of maglev impeller - optimization of vibration condition -
The International Journal of Artificial Organs 47(7)
5. Takewa Y., Inoue Y., Terazawa T., Sato Y., Nagayoshi T., Fujimoto K., Shiraishi I., Takamatsu K., Ohta K. (Sep 2024)
Application of a two-stage stent for the development of transcatheter autologous tissue-derived pulmonary valve implantation.
The International Journal of Artificial Organs 47(7)
6. Inoue Y., Yamada A., Yurimoto T., Seki F., Takewa Y., Okajima J. (Nov 2024)
Advection-diffusion Solution of the Internal MRI Environment for Analysis of Brain Function with Olfactory Stimulation.
Proceedings of the Twenty-fourth International Symposium on Advanced Fluid Information
ISSN: 1344-2236, p98-100
7. Yurimoto T., Seki F., Yamada A., Okajima J., Yambe T., Takewa Y., Kamioka M., Inoue T., Inoue Y., Sasaki E. (Aug 2024)
Development of a noninvasive olfactory stimulation fMRI system in marmosets.
Scientific Reports volume 14, Article number: 17830

研究発表

1. 佐藤 康史, 井上 雄介, 寺澤 武, 武輪 能明 (2024 年 4 月)
ウイルス等感染症による重症肺炎に対する ECMO 下での経気道積極的肺治療法の開発
第 52 回 人工心臓と補助循環懇話会 学術集会
2. 寺澤 武, 佐藤 康史, 井上 雄介, 永吉 智紀, 武輪 能明 (2024 年 7 月)
生体内での自己組織心臓弁グラフトの形成と至適形状設計
日本生物工学会 2024 年度 生物工学若手研究者の集い夏のセミナー
3. 佐藤 康史 (2024 年 7 月)
自己組織でできた成長する小児用人工心臓弁の研究開発
AMED 医療機器・ヘルスケアプロジェクト 令和 6 年度 成果報告会
4. 古瀬 吏玖, 金子 瑛一郎, 藤原 政司, 谷 博文, 田島 健次, 佐藤 康史, 安藤 英紀, 石田 竜弘 (2024 年 7 月)
アニオノン性ナノフィブリル化バクテリアセルロースの浮遊細胞培養への応用
第 31 回 セルロース学会
5. 酒井 昇馬, 寺澤 武, 荒川 俊也 (2024 年 9 月)
病理画像中の組織種分類に資するインタラクティブ機械学習ツールの開発とその評価
第 40 回 ファジィシステム シンポジウム
6. Takewa Y., Inoue Y., Terazawa T., Sato Y., Nagayoshi T., Fujimoto K., Shiraishi I., Takamatsu K., Ohta K. (Sep 2024)
Application of a two-stage stent for the development of transcatheter autologous tissue-derived pulmonary valve implantation.
50th ESAO Congress
7. Sato Y., Inoue Y., Terazawa T., Nagayoshi T., Fujimoto K., Shiraishi I., Takamatsu K., Ohta K., Takewa Y. (Sep 2024)
Development of minimally invasive implantable autologous tissue-engineered heart valve for congenital heart disease.
50th ESAO Congress
8. Sato Y., Terazawa T., Inoue Y., Takewa Y. (Oct 2024)
Development of Autologous Tissue-Engineered Artificial Heart Valve for Transcatheter Pulmonary Valve Implantation.
19th Biennial Meeting of the ISACB

9. 寺澤 武, 佐藤 康史, 井上 雄介, 武輪 能明 (2024 年 11 月)
生体内で形成された自己組織心臓弁グラフトの構造解析による至適形状探索
第 62 回 日本人工臓器学会 大会
10. 佐藤 康史, 井上 雄介, 寺澤 武, 藤本 一途, 白石 公, 高松 賢介, 太田 邦博, 武輪 能明 (2024 年 11 月)
経カテーテル的肺動脈弁置換への応用を目指した自己拡張ステント一体型自己組織生体弁の大動物における移植評価
第 62 回 日本人工臓器学会 大会
11. Terazawa T., Sato Y., Inoue Y., Takewa Y. (Dec 2024)
Optimal Shape Exploration of Autologous Tissue-Engineered Artificial Heart Valve Through Structural Analysis.
The Asia-Pacific Society for Artificial Organs (APSAO) 2024 Congress
12. Sato Y., Terazawa T., Inoue Y., Takewa Y. (Dec 2024)
Development of Transcatheter Implantable Autologous Tissue-Engineered Artificial Heart Valve for Congenital Heart Disease.
The Asia-Pacific Society for Artificial Organs 2024 Congress
13. Takewa Y., Inoue Y., Terazawa T., Sato Y. (Dec 2024)
Development of Endotracheal Liquid Perfusion Therapy with ECMO to Treat Multiple Patients with Severe Respiratory Failure in a Pandemic.
The Asia-Pacific Society for Artificial Organs 2024 Congress
14. 佐藤 康史 (2025 年 3 月)
生体内組織形成術による成長する小児用人工弁の研究開発
Tokyo Biodesign Healthtech Innovation day 2025
15. Inoue Y., Sato Y., Terazawa T., Nagayoshi T., Takewa Y. (Sep 2024)
Development of aggressive treatment to administer drugs directly into the trachea of patients on ecmo.
50th ESAO Congress
16. Hijikata W., Hatakenaka K., Fujiwara T., Sakurai H., Fujita T., Ohuchi K., Inoue Y. (Sep 2024)
Prevention of pump thrombus using circular vibration of maglev impeller - optimization of vibration condition -
50th ESAO Congress
17. Inoue Y., Yamada A., Yurimoto T., Seki F., Takewa Y., Okajima J. (Nov 2024)
Advection-diffusion Solution of the Internal MRI Environment for Analysis of Brain Function with Olfactory Stimulation.
Twenty-first International Conference on Flow Dynamics
18. 井上 雄介, 佐藤 康史, 寺澤 武, 米田 有希, 武輪 能明 (2024 年 11 月)
重症肺炎に対する ECMO 装着下での経気道的薬剤投与による治療法の開発
第 62 回 日本人工臓器学会 大会

科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
武輪 能明	継続	基盤研究(B)	成長する自家組織由来経カテーテル心臓弁の開発研究
佐藤 康史	継続	若手研究	生体反応を利用した活性型高機能幹細胞回収技術の開発と細胞治療への応用